富士見遺跡群

田中田遺跡
窪谷戸遺跡
見眼遺跡

県営圃場整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

序

富士見村は、赤城山の南西麓に開けた緑豊かな住み良い村であります。ここに、古代から先人たちの文化が営まれてきたことは、一昨年、県立歴史博物館で試掘調査を行った、後期旧石器時代の竜之口遺跡を筆頭に、連綿とした祖先の足跡をたどれることで証明されると思います。しかし、富士見村の古代史の全容は、いまだ厚い歴史のベールに包まれているのが現状です。

一方、現在の富士見村は、県都前橋の衛星都市たるべく、農、商、工業一体となって、更に充実した村づくりに躍進しているところであります。特に農業においては、大規模、省力経営の近代的農業のための基盤づくりであるほ場整備事業が全村下に計画、実施されており、つぎつぎに新しい農地に生まれ変わっています．それに伴い、埋蔵文化財の保護と開発との調整上、多くの問題を抱えています。村教育委員会においても、貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えるべく、公共事業と文化財保護との調和に取り組んでいるところであります。

200万年、300万年ともいわれる長い人類の歴史のなかで、記録に残されたことは、海辺で砂粒を拾うに等しく、微々たるものに過ぎません。これからの私たちの生活を考えるため、明日のすばらしい村づくりのために過去の歴史をひもとくことは、必要不可欠のことであると信じています。幾百万かの尊い啓示が、私たちを明るい未来へ導いてくれることでしょう。

ここに概要を報告いたしますのは、昭和58年度、59年度に実施された県営ほ場整備事業に伴う緊急発掘調査として行った、横室の田中田遺跡、米野の窪谷戸遺跡、見眼遺跡Ａ地区、Ｂ地区の３遺跡の調査結果です。縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の貴重な資料を得ることができました。

この３遺跡の発掘調査は、富士見村の古代史解明の大きな先駆けになるものと思いますが、厚い歴史の空白を埋めるためには、今後更に長い期日と労力がかかることでしょう。今後とも、みなさまの深い理解と協力のもとに、この遠大な仕事に取り組むつもりでおります。
なお、本報告書が多方面の方々に活用していただけたら幸いです。

最後になりましたが、この発掘調査にあたり、ご協力をいただきました関係機関をはじめ地元地権者の方々、発掘調査に従事された各位に対して深甚なる感謝の念を表して序にかえさせていただきます。

昭 和 61 年 3 月

富士見村教育委員会
教育長　林　己未治

10．出土遺物、資料は一括して富士見村教育委員会に保管してある。

11．発掘調査にあたって発掘調査に協力していただいた地元の方々および関係諸機関の方々に感謝いたします。

凡　　例

1．遺構図の方位記号は磁北をあらわしている。

2．挿図縮尺は特に指定のない限り以下の通りである。

遺構	竪穴住居址、掘立柱建物址	約1/80
	溝	約1/160
	土坑、住居カマド、火葬墓	約1/40
遺物	土器	約1/4、1/5
	縄文、弥生土器拓影	1/3
	石器	約1/4

3．巻末の遺物写真の縮尺は統一されていない。

4．田中田遺跡の遺構番号及び見眼遺跡の縄文土坑番号は調査時点での呼称と異なる。他の遺構番号は基本的に調査時点の呼称を使用したが、整理検討の結果呼称変更を行なったものもある。

5．見眼遺跡については概報では別の遺跡として扱ったが、本書では見眼遺跡Ａ地区、Ｂ地区とした。

6．遺構図のうち、出土遺物および出土位置ドットに付けられた数字は遺物実測図の番号と一致する。

7．第２図は建設省国土地理院発行の２万５千分の１地形図（渋川）を一部加筆して使用した。

例　　言

1．本書は県営圃場整備事業に伴い事前調査を行なった田中田遺跡（昭和58年度）、窪谷戸遺跡、見眼遺跡（昭和59年度）の発掘調査報告書である。

2．遺跡の所在地は以下のとおりである。

田中田遺跡　　群馬県勢多郡富士見村横室字田中田
窪谷戸遺跡　　〃　　富士見村米野字窪谷戸
見 眼 遺 跡　　〃　　富士見村米野字見眼

3．発掘調査は前橋土地改良事務所の委託により、群馬県教育委員会文化財保護課の指導を得て、富士見村教育委員会が行なった。

4．本調査の調査期間は次のとおりである。

田中田遺跡　　昭和58年12月15日～昭和59年３月16日
窪谷戸・見眼遺跡　　昭和59年７月15日～同年12月26日（試掘期間含む）

なお、整理・報告書作成作業は昭和60年度事業として発掘調査と併せて行なった。

5．調査組織は次のとおりである。

事務担当　　富士見村教育委員会　教育長　林　己未治
〃　　社会教育課長　船津　幸弘
〃　　課長補佐　関上　　博（昭和59年度～）
〃　　係長　阿佐美健一　（58年度）
〃　　〃　狩野　　透　（59年度～）
〃　　係　小暮　　賢　（58、59年度）
〃　　〃　樺沢　元治　（59年度～）
〃　　〃　下田　正志　（60年度～）

調査担当　　西田健彦　（群馬県教育委員会文化財保護課）
調 査 員　　羽鳥政彦　（富士見村教育委員会臨時職員）
樺沢元治　（59年度～、事務兼任）

6．本書の編集・作成は羽鳥が行ない樺沢が補佐した。

7．発掘調査および本書の作成にあたり下記の方々より御指導、御協力を得た。記して感謝の意を表したい。

（敬称略　順不同）

井上唯雄、西田健彦、柿沼恵介、右島和夫、小島純一、山下歳信、中束彰子、辻口敏子、青木静江、鈴木紀子、北橘村教育委員会、㈱品川工業

8．発掘作業参加者は以下のとおりである。

荒井弘子、石関三代治、石黒コト、大川悦子、大友み江子、大友春子、大友満雄、大友ゆきゐ、金沢すみえ、金沢とみ子、金子君代、狩野輝子、狩野光江、栗原秋江、栗原梅三郎、小林たく、佐藤利房、佐藤満子、高橋秋子、田中春代、田中よし、田村うめ、田村節子、田村つる子、塚田米吉、富沢和子、永井きよ、中島なか、中島ヤマ、信沢栄子、蛭川君江、蛭川英実、藤井ふみ江、森田まき江
学生　大川晃、狩野和彦、小暮文博

9．整理作業参加者は以下のとおりである。

大友み江子、佐藤満子、田村節子、富沢和子、綿貫さつき

目　　次

Ⅰ　富士見村の遺跡……1

Ⅱ　田中田遺跡

1　発掘調査に至る経過……7
2　遺跡の立地……7
3　発掘調査の方法と経過……8
4　基本層庁……8
5　検出された遺構と遺物
(1)　概要……9
(2)　縄文時代
前期……9
中期……14
(3)　古墳時代
前期……16
後期……39
(4)　その他……(57)
(5)　弥生時代中期前半の遺物……96

Ⅲ　窪谷戸遺跡……97

1　発掘調査に至る経過……99
2　遺跡の立地……99
3　発掘調査の方法と経過……100
4　基本土層……100
5　検出された遺構と遺物
(1)　概要……101
(2)　縄文時代……101
(3)　古墳時代……102
(4)　奈良時代……103
(5)　平安時代……124
(6)　中近世その他……141

Ⅳ　見眼遺跡

1　基本土層……151
2　概要……151
3　検出された遺構と遺物（Ａ地区）
(1)　縄文時代
竪穴住居址……152
土坑……159
(2)　奈良・平安時代……172
(3)　その他
4．検出された遺構と遺物（Ｂ地区）
(1)　竪穴住居址……178
(2)　掘立柱建物址……188
(3)　溝……190
(4)　火葬墓……190

挿　図　目　次

第　1図　富士見村の位置……3
第　2図　周辺の遺跡……3
第　3図
〈田中田遺跡〉
第　4図　田中田遺跡の地形……7
第　5図　基本土層……8
第　6図　J 1号住居址……9
第　7図　〃　出土遺物……10
第　8図
第　9図　〃　〃　……11
第　10図　J 2号住居址……12
第　11図　〃　出土遺物……12
第　12図　J 1号土坑……12
第　13図　〃　出土遺物……13
第　14図　J 2～7号土坑……14
第　15図　〃　出土遺物……15
第　16図　1号住居址……16
第　17図　2号住居址……16
第　18図　3号住居址……17
第　19図　4号住居址……17
第　20図　5号住居址……18
第　21図　6号住居址……18
第　22図　7号住居址……19
第　23図　8号住居址……19
第　24図　9号住居址……20
第　25図　10号住居址……20
第　26図　11号住居址……21
第　27図　12号住居址……21
第　28図　13号住居址……22
第　29図　〃　遺物出土状態……23
第　30図　14号住居址……24
第　31図　15号住居址……25
第　32図　16号住居址……26
第　33図　17号住居址……26
第　34図　18号住居址……27
第　35図　19～21号住居址……27
第　36図　22号住居址……28
第　37図　23号住居址……28
第　38図　24号住居址……29
第　39図　25号住居址……29
第　40図　26号住居址……30
第　41図　〃　……31
第　42図　27号住居址……32
第　43図　28号住居址……32
第　44図　29号住居址……33
第　45図　30号住居址……33
第　46図　31号住居址……34
第　47図　〃　遺物出土状態……35
第　48図　32号住居址……36
第　49図　33号住居址……36
第　50図　34号住居址……37
第　51図　35～37号住居址……38
第　52図　38号住居址……39
第　53図　39号住居址……39
第　54図　40号住居址……40
第　55図　41号住居址……40
第　56図　42号住居址……41
第　57図　〃　カマド……41
第　58図　43号住居址……42
第　59図　44号住居址……42
第　60図　45号住居址……43
第　61図　46号住居址……43
第　62図　47号住居址……44
第　63図　〃　カマド……44
第　64図　48号住居址……45
第　65図　49・50号住居址……46
第　66図　51号住居址……47
第　67図　52号住居址……48
第　68図　〃　カマド……48
第　69図　53A・B号住居址……49
第　70図　53A号住居址カマド……50
第　71図　54号住居址……51
第　72図　55号住居址……52
第　73図　〃　カマド……52
第　74図　56A・B号住居址……53
第　75図　56A号住居址カマド……53
第　76図　57号住居址……54
第　77図　〃　カマド……55
第　78図　58号住居址……55
第　79図　溝……56
第　80図　土坑墓……57
第　81図　1～3、7～11号住居址出土遺物……58
第　82図　4～6号住居址出土遺物……59
第　83図　6．14号住居址出土遺物……60
第　84図　13号住居址出土遺物……61
第　85図　〃　……62
第　86図　16～25号住居址出土遺物……63
第　87図　26号住居址出土遺物……64
第　88図　27～29、30、32、33号住居址出土遺物……65
第　89図　31号住居址出土遺物……66
第　90図　34、36号住居址出土遺物……67
第　91図　35、37号住居址出土遺物……68
第　92図　38～41号住居址出土遺物……82
第　93図　42～44号住居址出土遺物……83
第　94図　45～51号住居址出土遺物……84
第　95図　52～54号住居址出土遺物……85
第　96図　55、56A・B号住居址出土遺物……86
第　97図　57、58号住居址、大溝出土遺物……87
第　98図　弥生時代中期前半遺物実測図……96
〈窪谷戸遺跡〉
第　99図　窪谷戸、見眼遺跡周辺の地形……99
第　100図　窪谷戸遺跡の基本土層……100
第　101図　J 1号住居址……101
第　102図　〃　出土遺物……102
第　103図　5号住居址……102
第　104図　〃　出土遺物……102
第　105図　1号住居址……102
第　106図　7号住居址……103
第　107図　12b号住居址……104
第　108図　15号住居址……104
第　109図　17号住居址……105
第　110図　22号住居址……105
第　111図　25号住居址……106
第　112図　26号住居址……107
第　113図　31号住居址……107
第　114図　32号住居址……108
第　115図　34号住居址……108
第　116図　33b、35号住居址……109
第　117図　36号住居址……110
第　118図　37号住居址……110
第　119図　40号住居址……111
第　120図　42号住居址……111

第 121図　1、7、12b、15号住居址出土遺物……112
第 122図　17、22、23、25号住居址出土遺物……113
第 123図　26、29、31、32、33b、34号住居址出土遺物……114
第 124図　35～38号住居址出土遺物……115
第 125図　39、40、42号住居址出土遺物……116
第 126図　2号住居址……124
第 127図　3号住居址……124
第 128図　8号住居址……124
第 129図　9、10、11号住居址……125
第 130図　10号住居址カマド……125
第 131図　12a、13号住居址……126
第 132図　14号住居址……127
第 133図　16号住居址……127
第 134図　21号住居址……128
第 135図　24号住居址……128
第 136図　30号住居址……129
第 137図　33a号住居址……129
第 138図　8、9、10号溝……130
第 139図　2、3、8、12a、13号住居址出土遺物……131
第 140図　10、11、14号住居址出土遺物……132
第 141図　16、18、21、24、27号住居址出土遺物……133
第 142図　30b、33a号住居址出土遺物……134
第 143図　45号住居址実測図……142
第 144図　49、50号住居址実測図……143
第 145図　2号溝……144
第 146図　14号溝……144
第 147図　5号溝……145
第 148図　6、11、12、13号溝……147
第 149図　7号溝……147
第 150図　土坑……148
第 151図　井戸址……148
〈見眼遺跡A地区〉
第 152図　見眼遺跡基本土層……151
第 153図　J1号住居址……152
第 154図　〃　出土土器……153
第 155図　〃　〃……155
第 156図　〃　〃……156
第 157図　J1号住居址出土土器実測、拓影図……157
第 158図　〃　出土石器……158
第 159図　J2号住居址……159
第 160図　〃　出土遺物……160
第 161図　縄文土坑実測図……162
第 162図　〃　……163
第 163図　〃　……164
第 164図　〃　出土遺物……165
第 165図　〃　〃……166
第 166図　〃　〃……167
第 167図　〃　〃……168
第 168図　〃　〃……169
第 169図　〃　〃……170
第 170図　〃　〃……171
第 171図　1号住居址……172
第 172図　2号住居址……173
第 173図　4、5号住居址……173
第 174図　6号住居址……174
第 175図　8、9号住居址……174
第 176図　奈良・平安時代遺物……175
第 177図　1号溝……177
第 178図　2号溝……177
〈見眼遺跡B地区〉
第 179図　1号住居址……178
第 180図　3号住居址……179
第 181図　4号住居址……179
第 182図　5号住居址……190
第 183図　11号住居址……190
第 184図　13号住居址……191
第 185図　15号住居址……191
第 186図　1号住居址出土遺物……192
第 187図　3、6、11、12、14、15号住居址出土遺物……193
第 188図　4、5号住居址出土遺物……194
第 189図　1号掘立柱建物址……188
第 190図　2、3号掘立柱建物址……189
第 191図　火葬墓……190

表　目　次

富士見村の遺跡一覧表
〈田中田遺跡〉
—古墳時代前期の出土遺物観察表—
1～4号住居址……69
4～6号住居址……70
6～8号住居址……71
9A～13号住居址……72
13、14号住居址……73
14～21号住居址……74
22～26号住居址……75
26号住居址……76
26～30号住居址……77
31号住居址……78
31～34号住居址……79
34～36号住居址……80
37号住居址……81
—古墳時代後期の出土遺物観察表—
38～41号住居址……88
41～43号住居址……89
44～48号住居址……90
49～53A号住居址……91
53A号住居址……92
53A～56A号住居址……93
56A～57号住居址……94
58号住居址、大溝……95
〈窪谷戸遺跡〉
1、7号住居址出土遺物観察表……116
7、12b、12b床下、15号住居址　〃……117
15、17、22号住居址　〃……118
23、25、26号住居址　〃……119
29、31、32、33b、34号住居址　〃……120
34、35、36号住居址　〃……121
37、38号住居址　〃……122
39、40、42号住居址　〃……123
2号住居址　〃……134
2、3、8号住居址　〃……135
8、10、11、12a号住居址　〃……136
12a、13、14号住居址　〃……137
14、16号住居址　〃……138
16、18、21、27号住居址　〃……139
24、30a、33a号住居址　〃……140
〈見眼遺跡A地区〉
縄文土坑一覧表
奈良・平安時代出土遺物観察表……176
〈見眼遺跡B地区〉
1号住居址出土遺物観察表……182
1、3号住居址　〃……185
4、5号住居址　〃……186
6、10～15号住居址　〃……187

写　真　目　次

〈田中田遺跡〉

ＰＬ１　1　田中田遺跡遠景
　　2　田中田遺跡Ｃ区全景
ＰＬ２　1　田中田遺跡Ａ区全景・溝
　　2　Ｃ区南半部遺構重複状況
　　3　調査区雪景色
　　4　Ｊ１号住居址全景
　　5　Ｊ１号住居址炉
ＰＬ３　1　Ｊ２号住居址全景
　　2　Ｊ２号住居址埋甕
　　3　Ｊ１号土坑
　　4　Ｊ１号土坑遺物出土状態
　　5　Ｊ２～Ｊ７号土坑
　　6　Ｊ３・４号土坑遺物出土状態
　　7　Ｊ５号土坑遺物出土状態
　　8　Ｊ５号土坑石器出土状態
ＰＬ４　1　１号住居址
　　2　２号住居址
　　3　３号住居址
　　4　３号住居址遺物出土状態
　　5　４号住居址
　　6　４号住居址炉
　　7　５号住居址
　　8　５号住居址貯蔵穴遺物出土状態
ＰＬ５　1　６号住居址
　　2　６号住居址遺物出土状態
　　3　７号住居址
　　4　８号住居址
　　5　９号住居址
　　6　10・40号住居址
　　7　11号住居址
　　8　12号住居址
ＰＬ６　1　13号住居址
　　2　13号住居址セクション
　　3　13号住居址遺物出土状態
　　4　13号住居址遺物出土状態
　　5　14号住居址
　　6　14号住居址炉
　　7　16号住居址
　　8　17号住居址
ＰＬ７　1　18号住居址
　　2　19～21号住居址
　　3　23号住居址
　　4　23号住居址炉
　　5　24、25号住居址
　　6　27号住居址
　　7　28号住居址
　　8　28号住居址遺物出土状態
ＰＬ８　1　26号住居址
　　2　26号住居址遺物出土状態
　　3　26号住居址炉
　　4　29号住居址
　　5　30号住居址
ＰＬ９　1　31号住居址
　　2　31号住居址遺物出土状態
　　3　31号住居址遺物出土状態
　　4　32号住居址
　　5　33・34号住居址
　　6　35・36・58号住居址
　　7　37号住居址
ＰＬ９　8　37号住居址遺物出土状態
ＰＬ10　1　38号住居址
　　2　43号住居址
　　3　39号住居址
　　4　39号住居址カマド
　　5　41号住居址
　　6　41号住居址カマド
　　7　42号住居址
　　8　42号住居址カマド
ＰＬ11　1　44号住居址
　　2　44号住居址カマド
　　3　45号住居址
　　4　46号住居址
　　5　47号住居址
　　6　47号住居址カマド
　　7　48号住居址
　　8　48号住居址カマド
ＰＬ12　1　49・50号住居址
　　2　49・50号住居址遺物出土状態
　　3　49号住居址カマド
　　4　50号住居址カマド
　　5　52号住居址
　　6　52号住居址礫出土状態
　　7　54号住居址
　　8　54号住居址カマド
ＰＬ13　1　53Ａ・Ｂ、22号住居址
　　2　53Ａ号住居址カマド
　　3　53Ａ号住居址カマド
　　4　53Ａ号住居址カマド
　　5　53Ａ号住居址カマド
　　6　〃
　　7　〃
ＰＬ14　1　55号住居址
　　2　55号住居址カマド
　　3　56Ａ・Ｂ号住居址
　　4　56Ａ号住居址カマド周辺遺物出土状態
　　5　57号住居址
　　6　57号住居址カマド
　　7　土坑墓
　　8　調査風景
ＰＬ15　縄文時代遺構出土遺物
　　16　38～42号住居址出土遺物
　　17　１～４・６号住居址出土遺物
　　18　5・8～10・16・17・19・21～25・27号住居址出土遺物
　　19　13号住居址出土遺物
　　20　13・26・32・34号住居址出土遺物
　　21　31号住居址出土遺物
　　22　35～37号住居址出土遺物
　　23　44～47・49・50・52・58号住居址出土遺物
　　24　53Ａ・54号住居址出土遺物
　　25　56Ａ・57号住居址出土遺物

〈窪谷戸遺跡〉

ＰＬ26　1　窪谷戸遺跡遠景
　　2　窪谷戸遺跡Ａ区全景
ＰＬ27　1　窪谷戸遺跡Ｂ区全景
　　2　Ｊ１号住居址
　　3　Ｊ１号住居址遺物近接
　　4　Ｊ１・２号土坑
　　5　Ｊ１号土坑遺物近接

ＰＬ28　1　５号住居址
　　2　１号住居址
　　3　７号住居址
　　4　７号住居址カマド
　　5　12ｂ号住居址
　　6　12ｂ号住居址遺物出土状態
　　7　15号住居址
　　8　15号住居址カマド
ＰＬ29　1　17号住居址
　　2　17号住居址遺物出土状態
　　3　19号住居址
　　4　20号住居址
　　5　22号住居址
　　6　23号住居址
　　7　25号住居址
　　8　25号住居址
ＰＬ30　1　26号住居址
　　2　26号住居址
　　3　28号住居址
　　4　29号住居址
　　5　31号住居址
　　6　32号住居址
　　7　33ｂ号住居址
　　8　33ｂ号住居址遺物出土状態
ＰＬ31　1　34号住居址
　　2　35号住居址
　　3　36号住居址
　　4　36号住居址
　　5　37・38号住居址
　　6　37号住居址
　　7　39号住居址
　　8　40号住居址
ＰＬ32　1　42号住居址
　　2　41号住居址
　　3　43号住居址
　　4　44号住居址
　　5　46号住居址
　　6　２号住居址
　　7　３号住居址
　　8　３号住居址
ＰＬ33　1　４号住居址
　　2　６号住居址
　　3　８号住居址
　　4　９号住居址
　　5　９～11号住居址
　　6　10号住居址
　　7　11号住居址
　　8　11号住居址
ＰＬ34　1　12ａ号住居址
　　2　12ａ・ｂ・13号住居址
　　3　13号住居址
　　4　13号住居址
　　5　14号住居址
　　6　14号住居址
　　7　16号住居址
　　8　16号住居址
ＰＬ35　1　21号住居址
　　2　21号住居址
　　3　24号住居址
　　4　27号住居址
　　5　30号住居址
　　6　30号住居址
　　7　33ａ号住居址
　　8　33ａ号住居址
ＰＬ36　1　47号住居址
　　2　48号住居址
　　3　45号住居址
　　4　45号住居址
　　5　49・50号住居址
　　6　49号住居址
　　7　50号住居址
　　8　２号溝
ＰＬ37　1　５号溝
　　2　５号溝北側落ち込み
　　3　６号溝
　　4　７号溝
　　5　８号溝
　　6　９号溝
　　7　10号溝
　　8　14号溝
ＰＬ38　1　３・４号溝
　　2　３・４号溝
　　3　11・12・13号溝
　　4　井戸址
　　5　土坑
　　6　土坑
　　7　土坑
　　8　土坑
ＰＬ39　　窪谷戸遺跡出土遺物
ＰＬ40　　〃
ＰＬ41　　〃

〈見眼遺跡Ａ地区〉

ＰＬ42　1　見眼遺跡Ａ地区全景
　　2　見眼遺跡Ａ地区東半部縄文時代遺構出土状況
　　3　見眼遺跡Ａ地区東半部奈良・平安時代遺構出土状況
ＰＬ43　1　Ｊ１号住居址
　　2　Ｊ１号住居址遺物出土状態
　　3　Ｊ２号住居址
　　4　Ｊ２号住居址炉
　　5　１号土坑
　　6　３号土坑
　　7　07グリッド土坑郡
　　8　13号土坑
ＰＬ44　1　19号土坑
　　2　19号土坑遺物出土状態
　　3　20号土坑
　　4　21号土坑
　　5　24号土坑
　　6　21号土坑遺物出土状態
　　7　24号土坑遺物出土状態
　　8　24号土坑遺物近接
ＰＬ45　1　25号土坑セクション
　　2　29号土坑
　　3　28号土坑
　　4　28号土坑遺物出土状態
　　5　30号土坑
　　6　31号土坑
　　7　33号土坑
　　8　34号土坑
ＰＬ46　1　35～42号土坑
　　2　46～49号土坑
　　3　50号土坑
　　4　縄文ピット
　　5　１号住居址
　　6　２号住居址
　　7　３号住居址

ＰＬ46　8
ＰＬ47　1
　　2
　　3
　　4
　　5
　　6
　　7
　　8
ＰＬ48　Ｊ１号住居址出土遺物
ＰＬ49　縄文時代住居、土坑出土遺物
ＰＬ50　縄文時代土坑出土石器、奈良時代出土遺物

〈見限遺跡Ｂ地区〉

ＰＬ51　1　見限遺跡Ｂ地区全景
　　2　２号住居址
　　3　１号住居址
　　4　１号住居址カマド
　　5　３号住居址
ＰＬ51　6　３号住居址遺物出土状態
　　7　４号住居址
　　8　４号住居址カマド
ＰＬ52　1　５号住居址
　　2　５号住居址遺物近接
　　3　６号住居址
　　4　７号住居址
　　5　10号住居址
　　6　11号住居址
　　7　12号住居址
　　8　13号住居址
ＰＬ53　1　14号住居址
　　2　15号住居址
　　3　掘立群と２号溝
　　4　１号掘立
　　5　２・３号掘立
　　6　２・３号掘立竪穴状部分
　　7　火葬墓
　　8　集石土坑
ＰＬ54　見限遺跡Ｂ地区出土遺物

Ⅰ　富士見村の遺跡

1　富士見村の遺跡

富士見村で本格的な遺跡の発掘調査が行なわれたのは、本書所収の田中田遺跡が初めてである。しかし、これまでにも個人的な遺物収集は各所で行なわれており、又、富士見村誌作成の際には群大史学研究室による遺物の散布調査、古墳調査が行なわれた。さらに、群馬県遺跡台帳作成の時にも遺物の散布調査等が行なわれている。そこで、主に村誌と群馬県遺跡台帳をもとにして富士見村を概観してみたい。

〈旧石器時代〉

現在までに調査された遺跡は、昭和59年に県立歴史博物館によって試掘調査の行われた龍の口遺跡だけであり、遺物の性格から採集報告もされていない。しかし、隣接する北橘村、宮城村、前橋市などでも調査例が報告されており、富士見村にもさらに多くの遺跡の存在する可能性がある。

〈縄文時代〉

富士見村で最も多くの遺跡の存在が予想される時代であり、居住可能と思われる地域ではほとんどの場所から石器、土器等の採集が行なわれている。富士見村の東半部を流れる白川流域を除いて、前橋市と接する横室、原之郷、時沢など標高150m前後の地域から傾斜変換点である標高400～450mの地域まで濃密に分布している。特に赤城山大洞でも早期の土器が採集されている点は着目される。

時期的にみると、赤城山南麓の一般的な傾向と同様に、前期と中期に遺跡数の最大値をもち、早期、後期晩期には極端に減少するようである。

〈弥生時代〉

縄文時代の後・晩期と同様に遺跡数の少ない時代で、3ヵ所に遺物の散布がみられただけである。しかし58年度調査の田中田遺跡では、調査以前には全く予想されていなかったにもかかわらず、中期前半及び後期後半の遺物が多数出土しており、未発見の遺跡が他にもある可能性が多い。

〈古墳時代〉

古墳は上毛古墳総覧には29基と少ないが、村誌によると約90基程の存在が報告されている。現在ではこれらのうちの多くが既に平夷されてしまっているが、横室地区では比較的数多く残っており、約10基程が数えられる。

古墳の分布は白川沿いの時沢、小沢、西南に位置する横室、原之郷、北橘村に接する米野、山口の各地区に集中してみられる。標高は150～250mの範囲に多いが、米野から山口にかけては約400m近辺にまで分布していたようである。

遺物の散布状況は、村誌によると時沢清水、引田高橋、横室沢口の3ヵ所だけであり、時期不明の土師器出土とされる地域を含めても余り多くない。しかし、古墳の分布状況から考えると、さらに多くの遺跡があると思われる。

なお、田中田遺跡では、一時的に途切れる時期はあるものの前期から後期までの集落跡が調査されている。

Ⅰ　富士見村の遺跡

〈奈良・平安時代〉

村誌によると土師器の新式を出土する包蔵地として11ヵ所が記載されており、又、時期不明の土師器出土地の多くも該期に属すると思われる。両者併せると25ヵ所になり縄文時代に次いで多い。

遺物の散布は標高150m～450mまで比較的密に分布しており、縄文時代に近い状況を呈している。又、赤城山の地蔵岳南面（標高1330m）にも散布が認められており、興味深い。

本村の南端に位置する時沢は、「和名抄」にみる時沢郷の名残りとされており、周辺地域も含めて広くこの時代に農村集落が形成されていたとみられる。

これまでの調査では、本書所収の窪谷戸遺跡、見眼遺跡で集落跡が検出されており、約70軒の竪穴住居址および遺跡等が調査された。

〈中・近世〉

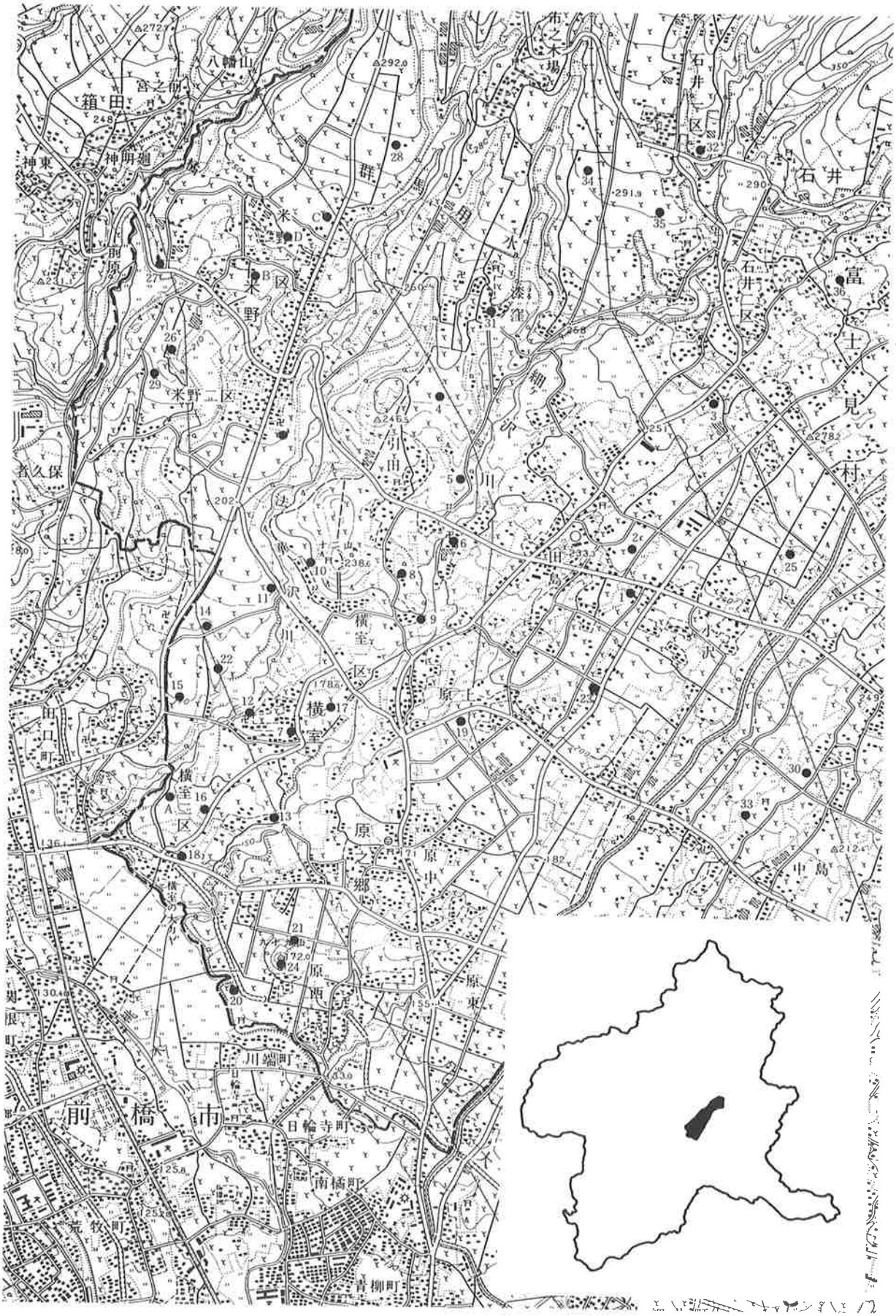
群馬県遺跡台帳に記載された城館跡は田島、金山、丸山、漆窪、岡の５ヵ所であるが、村内にはその他にも何ヵ所かの言い伝えがあり、明瞭な遺物散布がないため定かではないが、他にも該期の遺跡が多数存在すると思われる。

窪谷戸遺跡では窪地に面した台地突端部に周囲に溝を巡らした竪穴住居状遺構群が調査されており、南西に位置する丸山城跡に関連した遺跡の可能性も考えられる。

近世では、沼田街道の宿場町である米野宿があるが、見眼遺跡の調査では、伝えられる街道よりもさらに古い道路状遺構が検出されている。

周辺の遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種　別	備　考	群馬県遺跡台帳No.
A	田中田遺跡	富士見村横室字田中田	縄文～古墳	集落跡など	本報告書	(2139)
B	窪谷戸遺跡	米野字窪谷戸	縄文（古墳）奈良、平安、中世	集落跡など	〃	2156
C	見眼遺跡Ａ地区	米野字見眼	縄文、中近世奈良、平安	集落跡など	〃	2155
D	見眼遺跡Ｂ地区	米野字見眼	奈良、平安	集落跡など	〃	2155
1	（鉄砲林）	田島字鉄砲林	古墳	包蔵地		2118
2	（十二）	田島字十二	縄文	包蔵地	散布多量	2119
3	（切蓋）	田島字切蓋	縄文、古墳	包蔵地	散布やや多量　縄文中期、土師一新	2122
4	（宿原）	引田字宿原その他	縄文、古墳	包蔵地	広範囲に散布多量　縄文前、中、後期 土師一新	2123
5	（三反田）	引田字三反田	古墳	包蔵地		2124
6	（高橋）	引田字高橋	古墳	包蔵地	縄文中期、土師一古	2126
7	横室古墳	横室字中	古墳	墳　墓	上毛古墳綜覧13号	2127
8	森山古墳	横室字道上	古墳	墳　墓	〃　6号	2128
9	道上古墳	横室字道上	古墳	墳　墓		2129



第1・2図　富士見村の位置、周辺の遺跡

Ⅰ　富士見村の遺跡

番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考	群馬県遺跡台帳No.
10	初室古墳	富士見村横室字初室	古墳	墳墓	上毛古墳綜覧７号、群大調査　円墳	2130
11	庄司原古墳	横室字上庄司原	古墳	墳墓	〃　９号　円墳	2131
12	陣場古墳	横室字陣場	古墳	墳墓	〃　12号　円墳	2133
13	荒井古墳	横室字寄居	古墳	墳墓	〃　14号　円墳	2134
14	（庄司原）	横室字上庄司原 下庄司原	縄文、弥生、古墳	包蔵地	広範囲に散布多量　縄文中期 古墳群	2136
15	（陣場）	横室字陣場	縄文	包蔵地	広範囲に散布多量　縄文前、中、後期	2137
16	（田中田）	横室字田中田	古墳	包蔵地	小範囲に散布少量	2139
17	（田中）	横室字田中	縄文	包蔵地	小範囲に散布少量	2141
18	（東沢口）	横室字東沢口	古墳	包蔵地	散布少量　縄文前、中期 土師―古	2142
19	（鎌塚）	原之郷字鎌塚	古墳	包蔵地	散布少量	2143
20	（善養寺）	原之郷字善養寺	弥生	包蔵地	散布少量　土師―新	2146
21	（山ノ後）	原之郷字山ノ後	弥生	包蔵地	小範囲に散布やや多量、土師―新	2147
22	金山城跡	原之郷字岡	室町	城館跡	（縄文前期）	2149
23	鎌塚古墳	原之郷字塚之上	古墳	墳墓	上毛古墳綜覧15号	2150
24	九十九山古墳	原之郷	古墳	墳墓	〃　16号　群大調査、前方後円墳	2151
25	八幡古墳	小沢字八幡	古墳	墳墓	円墳	2152
26	丸山城跡	米野字丸山	室町	城館跡	散布やや多量　縄文後期？、弥生	2153
27	（尺神）	米野字尺神	縄文	包蔵地	広範囲に散布	2154
28	（東上原）	米野字東上原	縄文、古墳	包蔵地	広範囲散布少量　縄文前・中期、土師	2157
29	（丸山）	米野字丸山	縄文、古墳	包蔵地	少範囲散布多量　縄文中期	2158
30	（甚太夫）	時沢字甚太夫	縄文	包蔵地	小範囲散布多量　縄文中期	2170
31	漆窪城跡	漆窪字上城	戦国	城館跡		2181
32	岡城跡	石井字岡	室町	城館跡		2184
33	（諏訪）	時沢字諏訪	縄文	包蔵地	散布少量	2188
34	（上小原目）	石井字上小原目	縄文	包蔵地	散布少量　土師	2193
35	（下小原目）	石井字下小原目	縄文	包蔵地	散布少量　縄文中期	2196
36	（神田）	石井字神田	縄文	包蔵地	小範囲散布少量　縄文前期	2197

註：群馬県遺跡台帳Ⅰ（東毛編）及び富士見村誌をもとに作成した。
　　備考欄の時代細別は村誌による。
　　包蔵地の遺跡名は便宜的に小字名をあてた。

II 田中田遺跡

1．発掘調査に至る経過

ここに報告する田中田遺跡は群馬県前橋市の北方、赤城山の南西に位置する勢多郡富士見村で実施された県営圃場整備事業の実施に伴って発掘調査が行なわれたものである。

富士見村及び隣接する北橘村にまたがる588 haに及ぶ県営圃場整備事業は、富士見地区において計画面積480ha、事業期間７年の予定で、昭和58年度から開始された。

圃場整備事業の初年度である昭和58年度当初において、埋蔵文化財の発掘調査は予定されていなかったが事業計画の具体化に伴って、整備事業の対象地区の遺跡包蔵地の処遇が懸案事項となった。

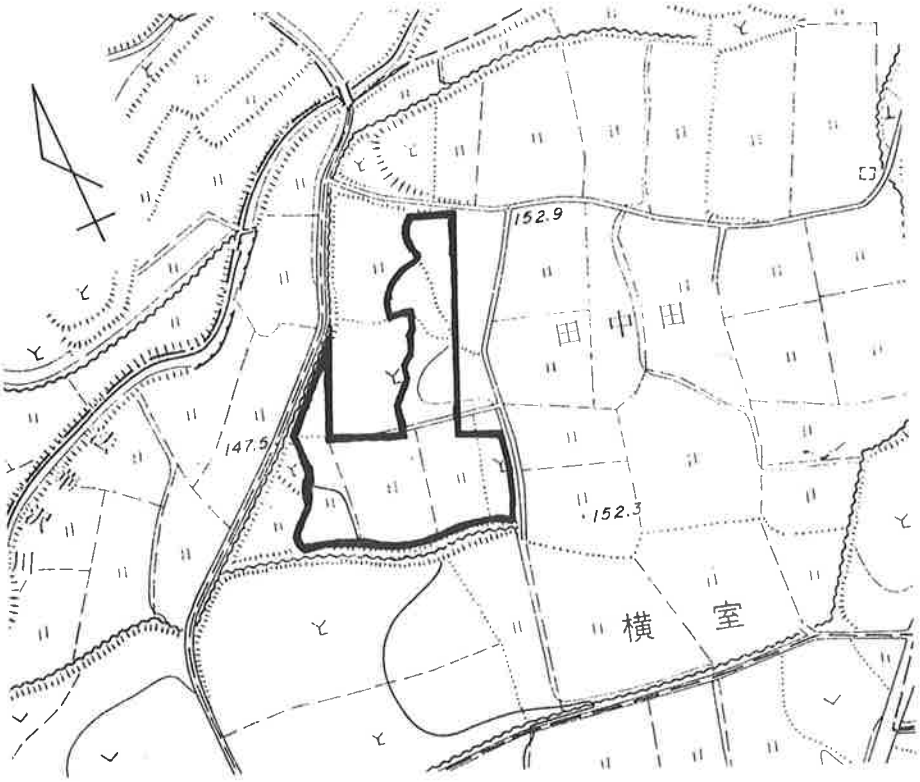
富士見村教育委員会では、群馬県教育委員会文化財保護課の指導のもとに、前橋土地改良事務所との三者協議を経て、対象地区内の遺物散布調査及び試掘を行なった。その結果を携えて再度協議を行ない、事業計画の変更によっても破壊を免れない横室地区の田中田遺跡について発掘調査を行なうこととなった。

村教育委員会の調査体制を整え、県教委保護課の助力を得て発掘調査を開始したのは、昭和58年も終わりに近い、12月中旬になってからである。

2．遺跡の立地

田中田遺跡は、西の法華沢川と東の細ヶ沢川との侵食によって形成された台地上にある。この台地は、南西方向へゆるやかに傾斜しており、又、台地中央から両河川へ向かっても緩傾斜をなしている。

本遺跡は、法華沢川へ向かうこの西向きの斜面上に位置する。遺跡部分での台地巾は約500 mであり、法



第４図　田中田遺跡の地形

II　田中田遺跡

華沢からは100m前後の距離にある。

調査地は台地の突端部にあり、西側は川への落ち込みが急なことから限界を示すと思われるが、他の三方向へは遺跡が広がっていると思われる。

本遺跡は、調査以前には、水田、桑園として土地利用されていた。

3．発掘調査の方法と経過

圃場整備事業によって調査区の南側に南北に新設される支線を北へ延長すると調査区域を縦断するため、この支線の中心杭を延長して南北軸を設定した。この南北軸から東と西に10mごとに区切り、遺跡の西外側直近の軸線を0として東へ1～8までの数字を割り付けた。また、東西軸は南北軸に直交させ、支線北端の中心杭を0として以下北へ向かって10mごとに算用数字を付けていった。この割り付けによって区画された10m四方の範囲を小区画として、東南杭の呼称で呼んだ。また、便宜上溝の南側をA区、溝の北側で西の部分をB区、東の部分をC区として調査を進めた。

調査は重機による表土剝ぎに合わせて先ずA区から開始し、順次B、C区へと進んでいった。当初、各中調査区ごとに区切りをつけて行く予定であったが、遺構の重複が多いことや、実測の遅れなどにより、時には3区同時に調査を進行させるという効率の悪い調査となった。2月中旬にはB・C区を工事業者に明け渡し、C区に専念したが、重複遺構の多いことや、度重なる降雪の為に調査が終了したのは3月下旬になってからである。

4．基本土層

本遺跡地は調査前に段々畑(水田)であったため、保存状態の良好な部分と削平の進んだ所があったが、全体的には比較的良好な土層の堆積状態を示している。

基本土層は、そのうちでも最も残りの良いと思われるC区北端の断面で観察できたものを掲示しておく。

I層　耕作によると思われる赤錆を含む層

I*a*層　黒褐色土、全体に赤錆粒がみられる。さらに3層に細分され、各層の境に赤錆の沈澱がみられる。

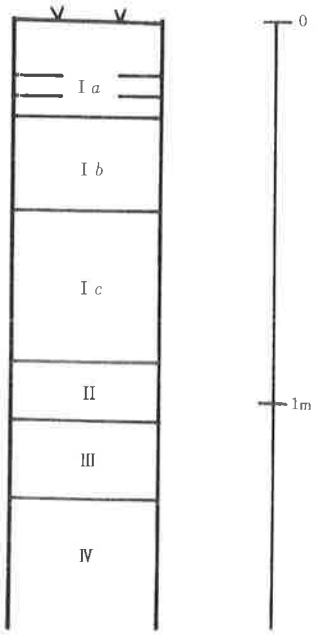
I*b*層　黒褐色土、I*a*層よりも黒味が強い。III層との境は段をなしている。

I*c*層　灰黒色土、赤錆を最も多く含み非常に良くしまっている。IV層との境は平坦である。

II層　黒褐色土、軽石を多量に含む。特に榛名山二ツ岳給源の軽石は1～2cmあるいはそれ以上のものも多量に含む。

III層　黒色土、C軽石を含む。

IV層　黄褐色ローム層



第5図　基本土層

5．検出された遺構と遺物

(1)概要

田中田遺跡では縄文時代前期から古墳時代後期までの遺構、及び縄文時代早期から平安時代までの遺物が出土している。

縄文時代の遺構は、竪穴住居址が前期前半と後半のもの各１軒、土坑が前期後半１基と中期後半のもの６基が検出され、それぞれ深鉢、打製石斧、凹石等が出土している。遺構に伴わない遺物としては早期と思われる尖底深鉢の底部が古墳時代の溝中から、中期前半の阿玉台式土器がＢ区から、後期後半の加曽利Ｂ式土器がＣ区から出土している。

弥生時代の遺構は検出されなかったが、Ｃ区北端に集中して中期前半の須和田式に比定されると思われる土器片が多数出土している。又、後期後半の樽式土器が主に古墳時代前半の遺構内外から出土している。

古墳時代の竪穴住居址は61軒が検出された。時期的な内訳は前期37軒（石田川期23軒、和泉期14軒）、後期（鬼高期）24軒である。（推定含む）　住居址以外では古墳時代後期に埋没したと思われる溝が一条検出されている。竪穴住居址の占地状況は、石田川期が調査区域のほぼ全域に同様な密度で検出されているが、和泉期は溝の北側だけに検出され、鬼高期は２軒を除くほとんどの遺構が溝の北側に占地している。

古墳時代の遺物は各遺構から多量に出土しているが、和泉期の遺物の多さが特筆される。

時期は不明であるが、Ｃ区から馬歯を出土した土坑墓が検出されている。

(2)　縄文時代の遺構と遺物

－前期前半－

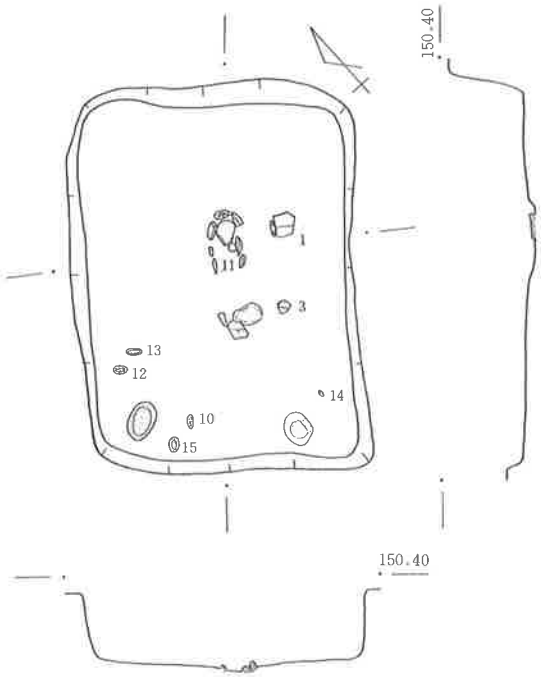
Ｊ１号住居址

７－６グリッドに位置し、東西約３ｍ、南北約４ｍの規模を測る小型の長方形住居である。検出面からの壁高は70cmを測る。

南半部の覆土上層を古墳時代の44号住居址に削平され、北端部も13号住居址によって切られている。

炉は床面中央の北壁寄りに付設されていた。中央に扁平な河原石を据え、東と西に小ぶりの角礫を３個づつ配していたが、北側の礫は抜き取られていた。

遺物は南壁沿いの床面上に台石状の扁平な円礫が２個据えられており、その周辺から磨石、凹石が５個出土している。また、炉の周辺から深鉢の大型破片等が出土した。なお、覆土中位から床面近くまでは多量の小礫、焼石によって埋められていた。



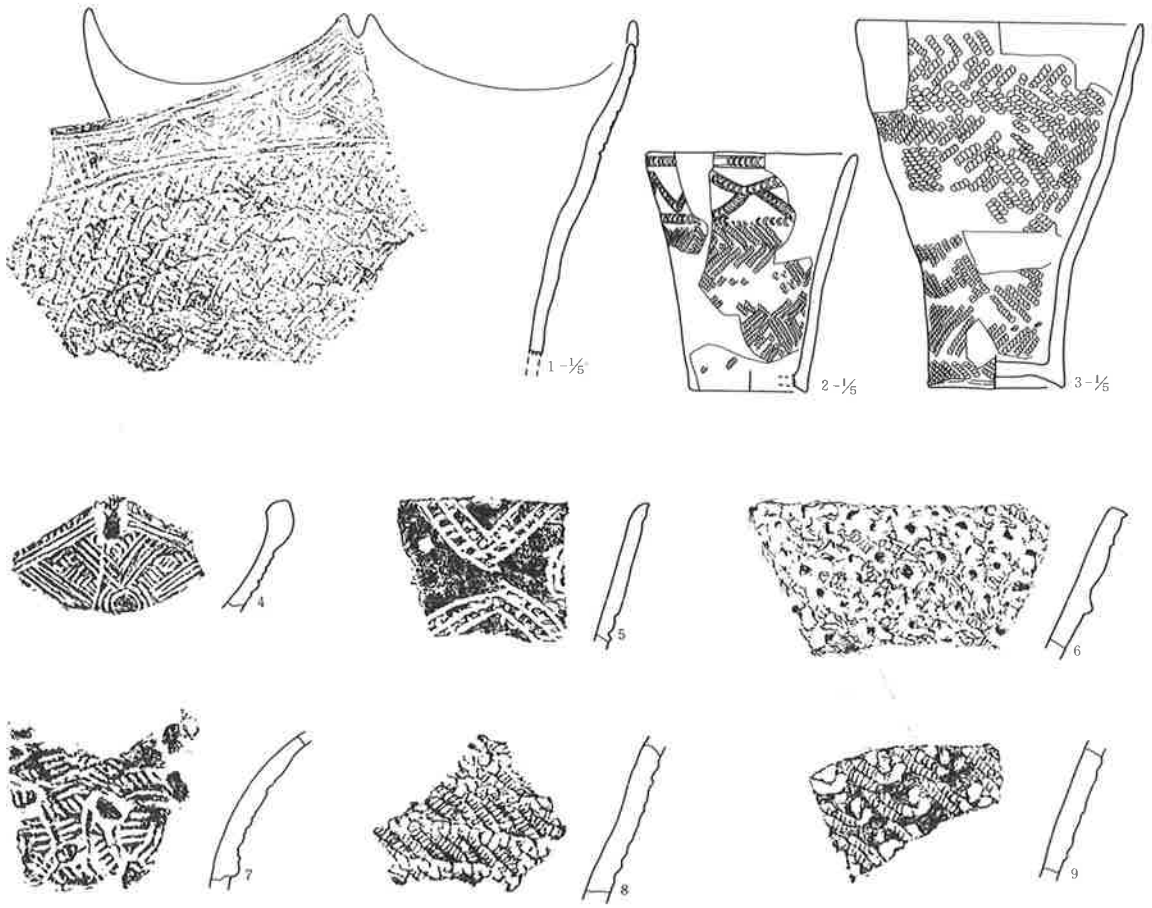
第６図　Ｊ１号住居址実測図

II　田中田遺跡

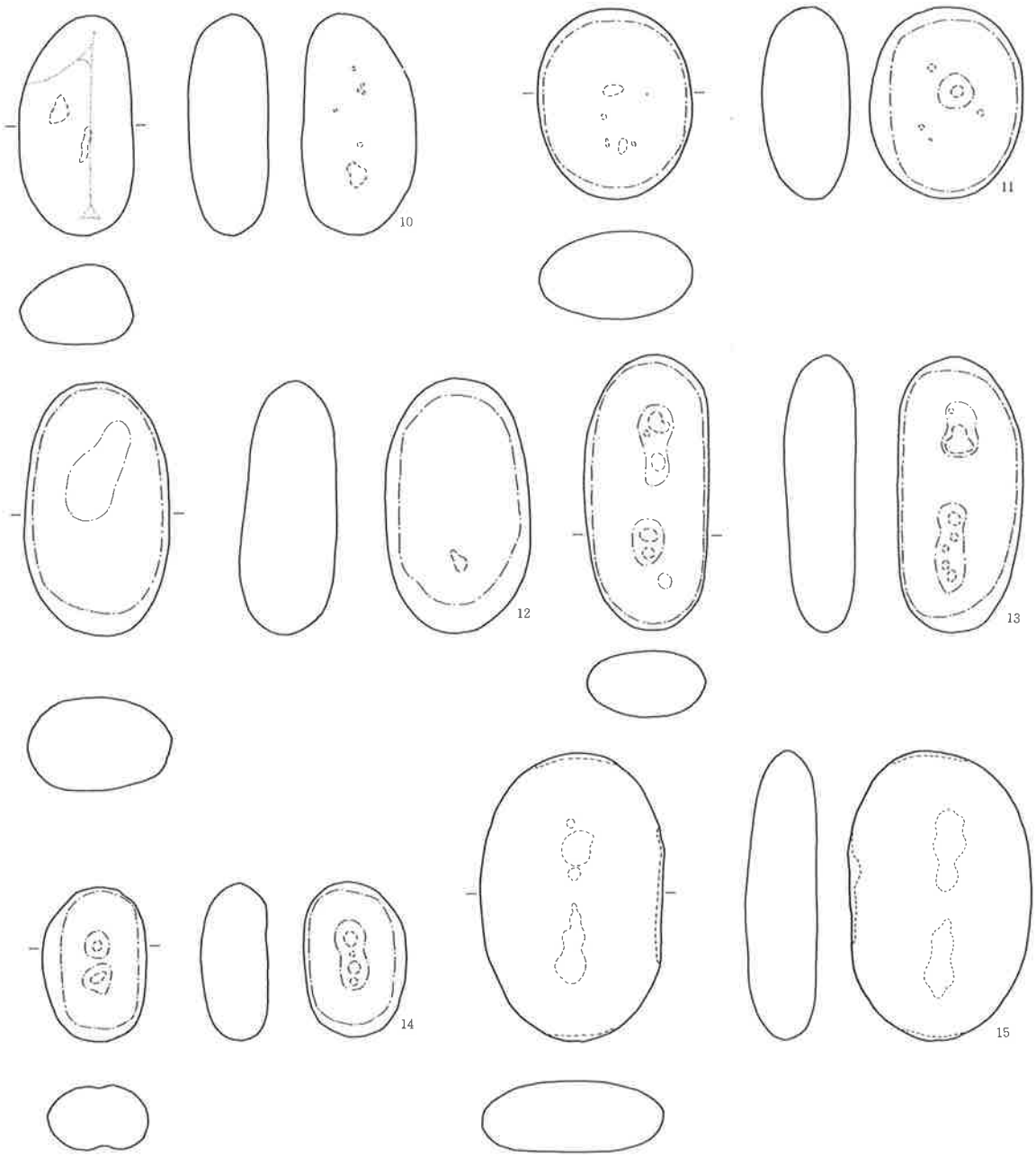
Ｊ１号住居址出土遺物

１．は波状口縁を呈する深鉢の大型破片である。波頂部は二又に分かれ、口縁に沿って竹管状工具による平行線文が施されている。地文は、結束部を重畳施文している。２．は平口縁の小型深鉢でやはり口縁部に竹管状工具により、平行線文と爪形文が施されている。地文は、ＲＬ－ＬＲの羽状縄文である。底部は上げ底を呈する。３．も上げ底を呈する平口縁の深鉢であるが、口縁部に文様が施されず、羽状縄文の地文だけである。但し、胴部上半と下半で原体の太さを変えていると思われる。４～６は口縁部破片で、4.は薄手の小型土器と思われ、波状口縁である。波頂部外面に耳たぶ状隆帯が付されている。文様は竹管状工具による平行線文の間に棒状工具を用いて刺突もしくは平行線を施文している。5.は無文上に平行沈線で施文し、平行線間を棒状工具によって列点刺突している。6.は縄文地文上に密に貼付文を施している。地文は、０段多条ＲＬとＬＲの結束第一種か。7.は口辺部片で半截竹管と棒状工具を用いて4.と類似した施文を行なっているが、貼付文を施す。8.はループ文を重畳施文している。原体はＲＬ。9.は結節縄文か？

10～15はすり石、凹石で、11は炉の底面から出土した。他の５個は、何れも南半部床面上からの出土である。13～15は両面に敲打痕があり、磨耗痕もよく残している。



第7･8図　Ｊ1号住居址出土遺物(1)



第９図　Ｊ１号住居址出土遺物実測図(2)　Ｓ＝¼

－前期後半－

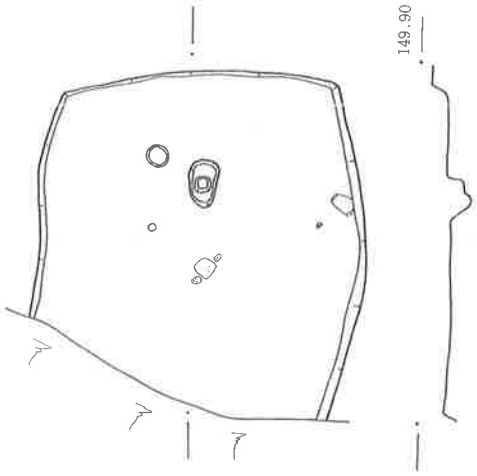
Ｊ２号住居址

６－２グリッドに位置する。古墳時代の10・40号住居址によって覆土上部を削平されている。又、南端部を溝によって切られている。北方約２ｍの所にＪ１号土坑が近接している。東西約3.5ｍを測り、南北は3.7ｍ程残存する。東・西壁が曲折しているが、長方形状を呈すると思われる。施設は北壁寄りに２段に掘り込まれたピットが検出され、脇に埋甕が据えられていたが、焼土は検出されなかった。遺物は埋甕の他に、打製石斧、すり石等が少量出土した。

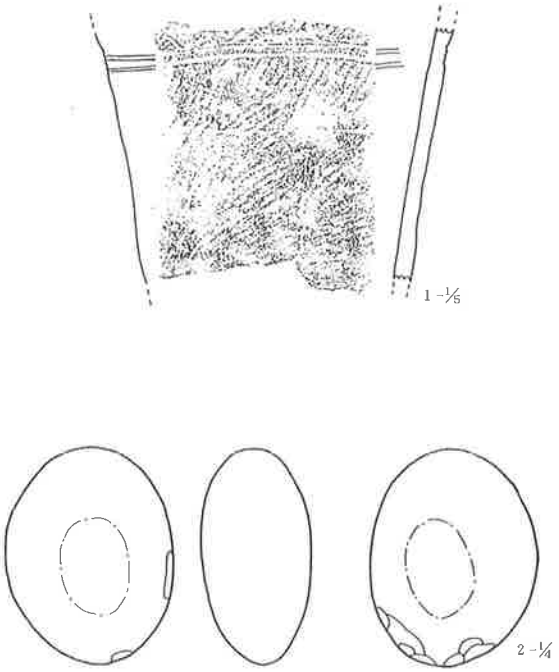
II　田中田遺跡

Ｊ２号住居址出土遺物

１．は埋甕で、口縁部と底部を欠失している。胴部上半は半截竹管状工具により施文されてる。下半部には、Ｌの斜縄文が施されている。2.は磨石で、長軸先端に敲打痕を残している。



第10図　Ｊ２号住居址実測図



第11図　Ｊ２号住居址出土遺物

Ｊ１号土坑

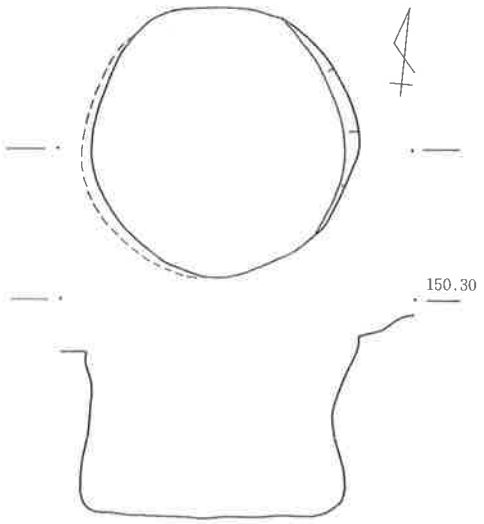
Ｊ２号住居址の北２ｍに位置する。古墳時代の40号住居址に南半上部を削平されている。径約1.4mでほぼ円形を呈し、検出面からの深さ約１ｍを測る。遺物は、覆土上層から深鉢が、又、覆土中～下層にかけて流れ込みの状態で獣面把手付深鉢が出土している。

Ｊ１号土坑出土遺物

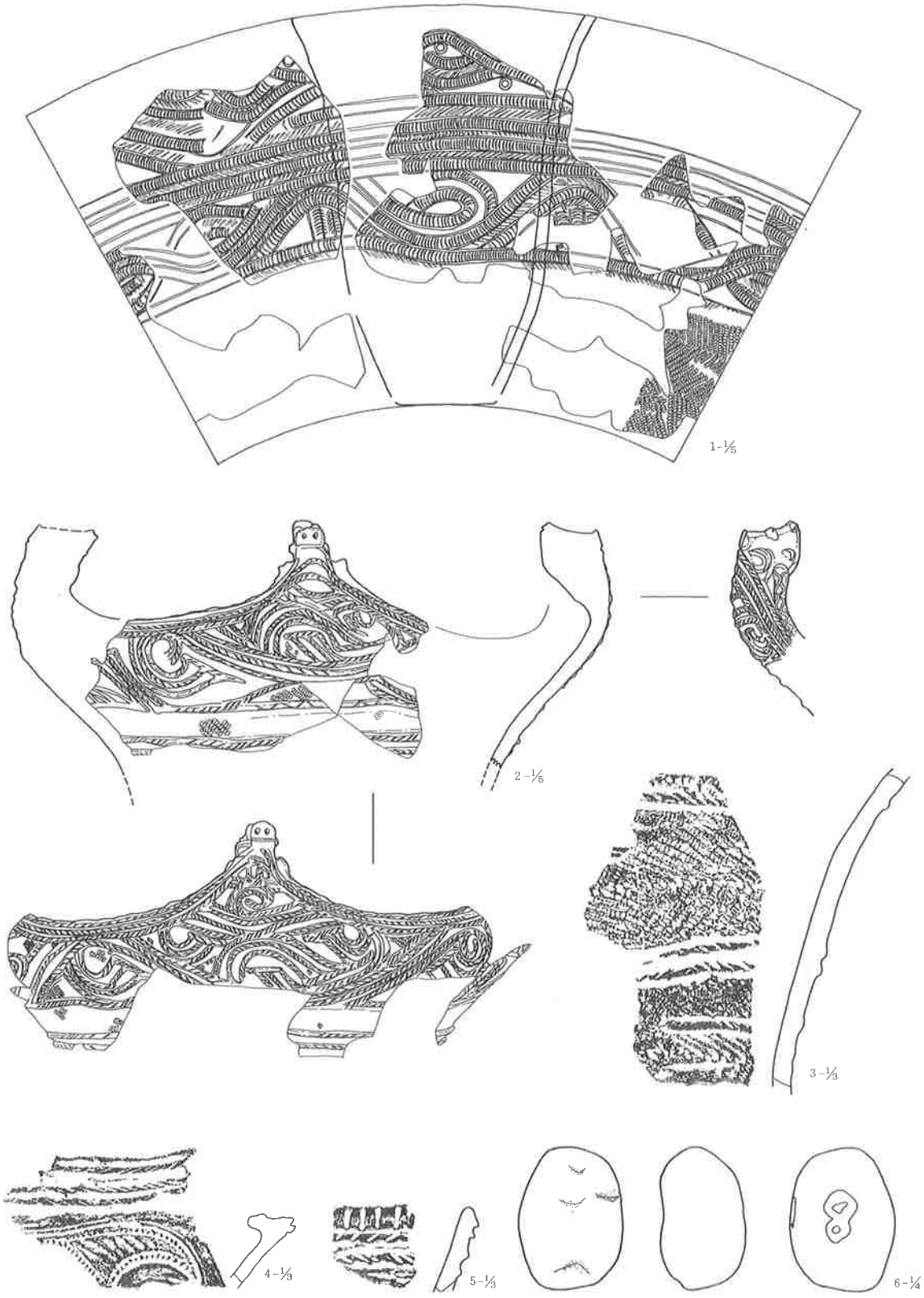
１．深鉢　口縁部と底部を欠失する。胴上半部は竹管状工具により、平行線文、爪型文、円文が施される。下半部は羽状縄文が施されている。

２．(獣面把手付)深鉢　４単位の波状口縁を呈する深鉢で、波頂部に猪を模したと思われる把手が付けられている。この把手は内側上部から見ると別の（犬？）動物も模しているように見える丁寧な作りの把手である。胴上半部には浮線文が施されている。

3.は深鉢の胴部片で羽状縄文の地文上に浮線文が施されている。胎土や文様が類似することから、２と同一個体の可能性もある。4.は浅鉢の口縁部破片と思われる。外面は平行沈線と瓜形文が、口唇部には浮線文が施されている。



第12図　Ｊ１号土坑実測図



第13図　Ｊ１号土坑出土遺物実測図

II　田中田遺跡

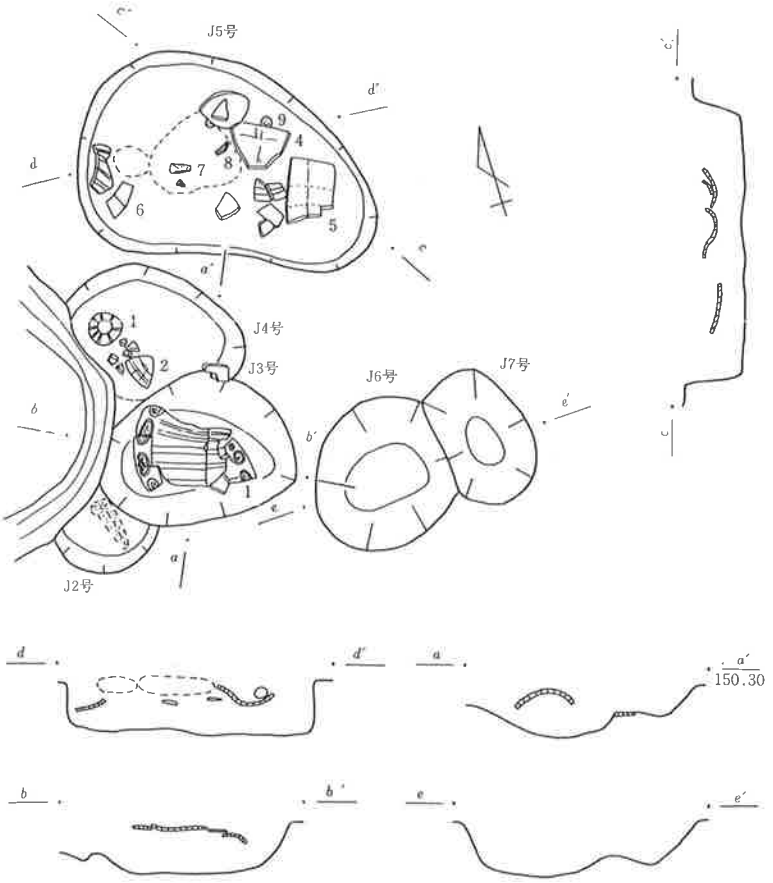
ー中期後半ー

J2～J7号土坑

7－5グリッドに集中し6基の土坑が検出されたので一括して報告したい。

J2～J4号土坑は重複して検出されたが、遺物の接合関係から全く同時期のものである。

遺物はＪ３号土坑から底部を打ち欠かれた大型深鉢の胴部を半截したものが伏せられ、残りの¼程でその下端を塞さぐ状態で出土した。この深鉢の底部はＪ４号土坑の底面に伏せた状態で、又Ｊ２号土坑から残片が出土している。Ｊ２号土坑の中央部には扁平な角礫が立位の状態で据えられ、Ｊ４号土坑からは別に一個体の深鉢も出土している。



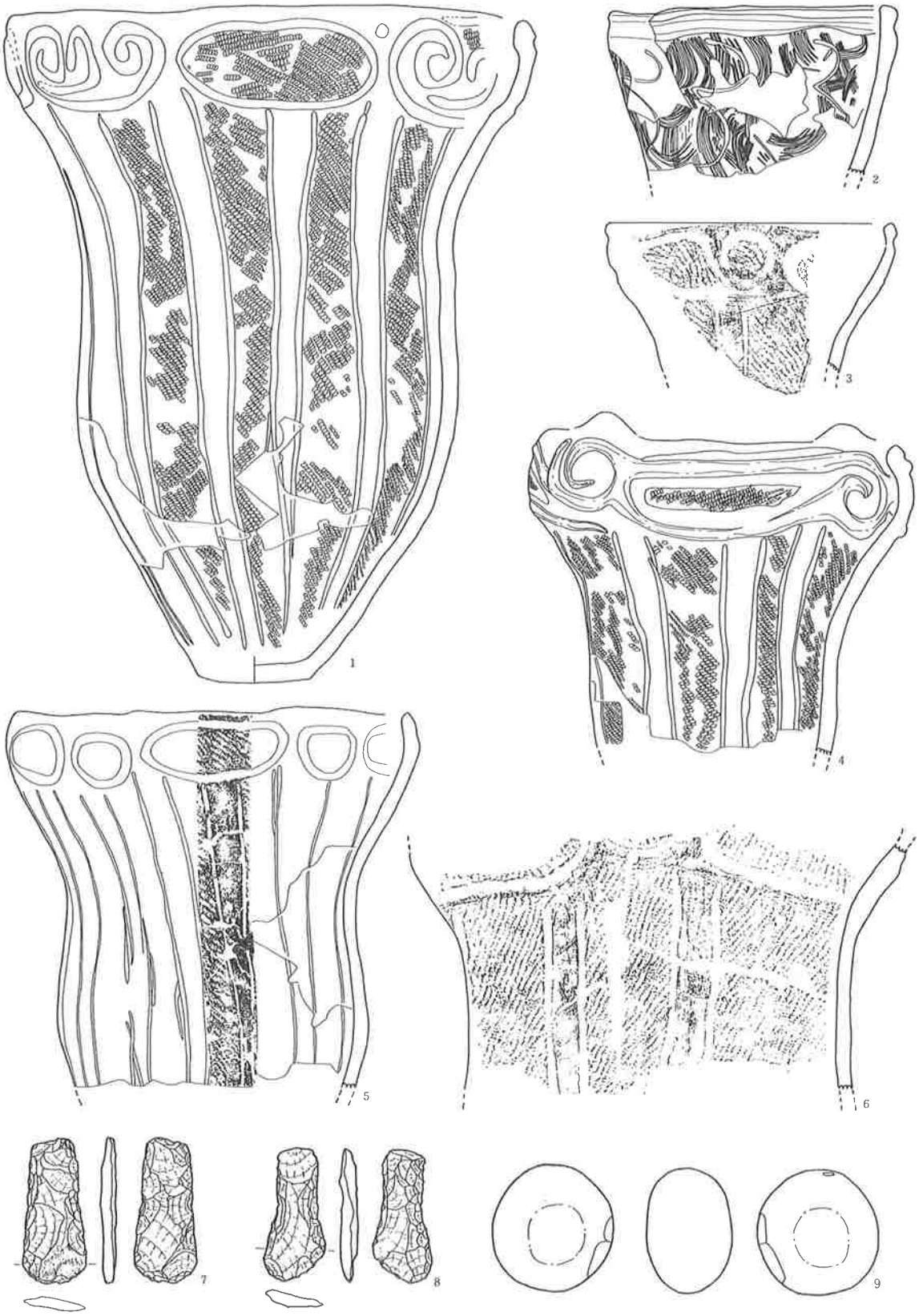
第14図　Ｊ２～７号土坑実測図　S＝1/80

Ｊ５号土坑は掘り方が明確でなく、遺物の出土範囲から平面形を追ったが、Ｊ４号土坑と重複している可能性もある。遺物は底部を欠失する深鉢２個体が大型破片となって潰れた状態で出土し、他に数点の大型破片が出土した。又打製石斧が２点深鉢の下から出土した。

Ｊ6、7号土坑はＪ2～4号土坑の東に接して検出されたが、一点の遺物も出土していない。

Ｊ２～５号土坑出土遺物

1.はＪ2～4号土坑出土の深鉢である。口縁部に巾広の沈線で楕円区画文、渦巻文が施され、胴部は沈線による懸垂文間を交互に磨消している。地文はＬＲの縦位施文である。2.はＪ４号土坑出土の深鉢で下半部を欠失する。口縁部に巾広の沈線を一条巡らせ、胴部は櫛歯状工具によって文様を描いている。３～９はＪ５号土坑出土の遺物である。3.は深鉢の大型破片で、口縁部に沈線による円、楕円区画文が施されている。胴部は1.と同様に交互に懸垂帯間を磨消していると思われるが、磨消帯の巾が狭い。4.は口縁部文様帯が隆帯によって施され、楕円区画文と渦巻文が４単位に配される。渦巻文上の口縁部は小波状をしていたと思われるが、何れも打ち欠かれている。5.もキャリパー型を呈する深鉢で沈線による円文、楕円区画文が配されているが、胴部の磨消帯と地文帯の巾がほぼ等しくなっている。6.も4.に類似した文様構成をとると思われるが、縄文はＲＬの縦位施文である。7・8は小型の打製石斧であるが、何れも丁寧に打ち欠かれている。９は磨石で、稜部に敲打痕を残している。



第15図　Ｊ２～５号土坑出土遺物実測図（Ｓ：土器1/6、石器1/4）

(3)　古墳時代の遺構と遺物

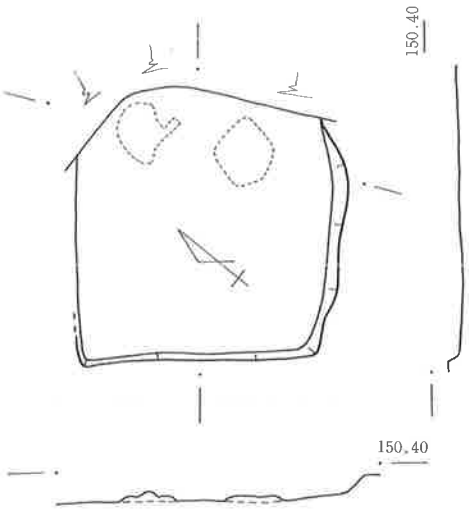
―古墳時代前期の遺構―

1号住居址（遺物P59，P69）

5－7グリッドに位置する。北西3mに2号住居址が近接する。北側を大溝によって削平されているため、規模、形状等は不明である。

3m四方の床面と南東、南西壁が遺存している。壁高は15cmと浅い。床面は平坦だが軟弱である。床面上の2ヵ所に径70～80cmの不整円形を呈する焼土の盛り上がりがあり、炉址と思われる。焼土の厚さは約5cmを測る。

遺物は東南壁寄りの炉の脇から土製紡錘車が出土した他は、台付甕の破片が少量出土しただけである。



第16図　1号住居址実測図

2号住居址（遺物P58，P69）

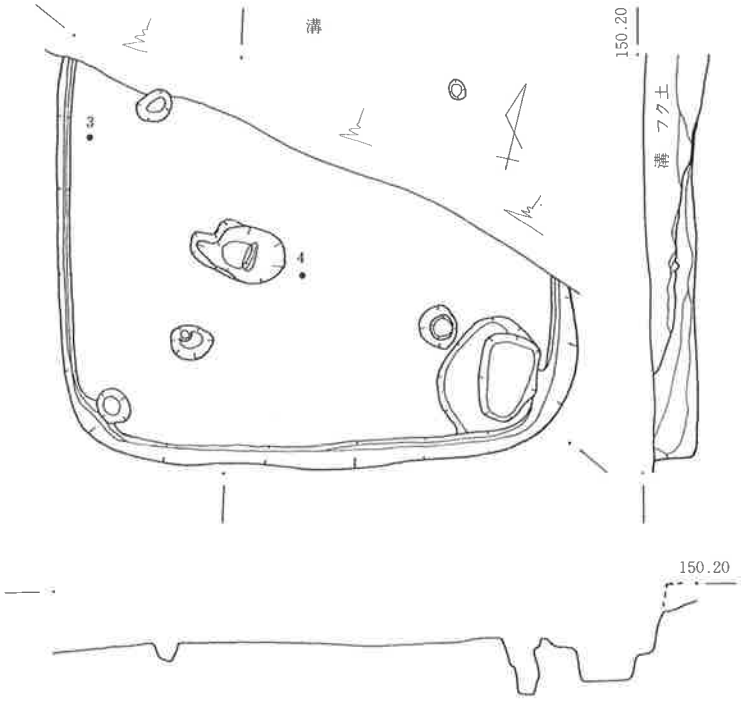
5－7グリッドに位置する。西約3mに4号住居址が近接する。北側を大溝によって削平されている。

東西5.2mを測り、南北は西壁で4.1m、東壁で1.6mが残存する。形状は、柱穴の位置から判断すると、東西に若干長い隅丸方形を呈すると思われる。壁高は40cmを測る。

ピットは6ヵ所に検出され、4本が主柱穴と思われる。北東の1本は大溝によって上部を削平されている。南壁寄りの2本は床面から約60cmを測るが、北側の2本は約20cmで浅い。南東隅のものは貯蔵穴と考えられる。周囲を浅く不整円形に掘り、さらに隅丸長方形に深く掘っている。径92×56cm、深さ42cmを測る。南西隅のピットは性格不明である。

炉は西壁寄りに位置し、径75×54cm、深さ10cmに床を掘り窪め、底面の東隅に棒状の河原石を配している。

遺物は炉の東脇床面に壺が、北西主柱穴の西側から坏が出土している。



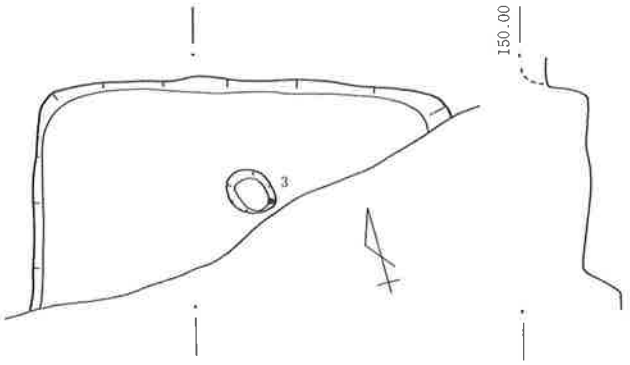
第17図　2号住居址実測図

3号住居址（遺物P58，P69）

4－6グリッドに位置する。東から北の方向に1号、2号、4号住居址が近接する。古墳時代後期の38号住居址によって覆土上部を削平されている。又、現代の耕作に伴うと思われる堀によって、南側過半部を削平されている。

東西長 4.0mで、南北は約2m程が残存する。壁高は西壁で55cmを測る。

炉は径48×40cm、深さ9cmに浅く床を掘り窪め、円形に近い形状を呈している。



第18図　3号住居址実測図

床から覆土中位にかけて、多量の炭化物、焼土、灰が堆積しており、焼失家屋と思われる。

遺物は炉から甕が、覆土中から埦、S字状口縁台付甕の口縁部が出土している。

4号住居址（遺物P58，P69）

5－6グリッドに位置する。2号、3号住居址が近接する。覆土上部を大溝によって削平されている。

東西 5.2m×南北 4.2mの東西に長い長方形プランを呈し、壁高は南壁で42cmを測る。

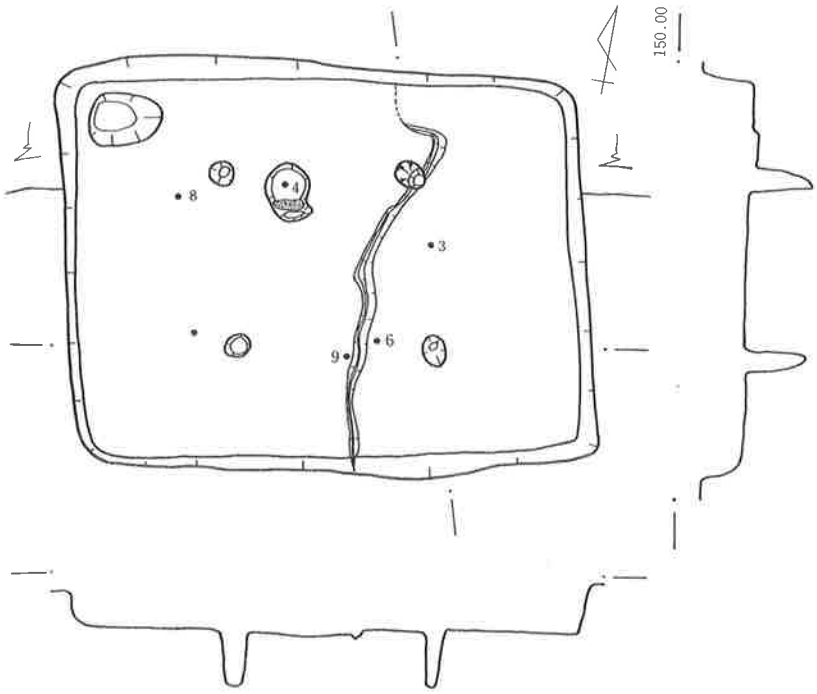
床面は良く踏み固められているが、西壁沿いの幅1m程は軟弱で攪乱を受けている可能性もある。住居中央の床面を南北に亀裂が走り、南壁の中位にまで裂け目が伸びている。この亀裂を境として比高差約5cmを測る段差があり、東の床面が高くなっている。位置、形状等から、人為的な施設とは考えられない。

主柱穴は4本確認されたが、住居の平面形と相似ではなく、正方形に近い配置になっている。4本とも径は約30cm、深さ55cm前後を測り揃っている。

炉は北側の柱穴間に西に偏して位置する。径約50cm、深さ5cmに浅く掘り込み、南端に棒状の河原石を配している。又、その南にも石の抜き跡と思われる細長いピットがあり造り替えの可能性がある。

貯蔵穴は、北西隅に検出され、径70×50cm、深さ40cmで東西に長い楕円形を呈する。覆土中位から棒状の河原石が1個出土している。

遺物は、ほぼ主柱穴に囲まれた範囲の床面からS字状口縁台付甕、広口甕、小型壺、高坏などが出土している。



第19図　4号住居址実測図

II　田中田遺跡

5号住居址（遺物P59，P70）

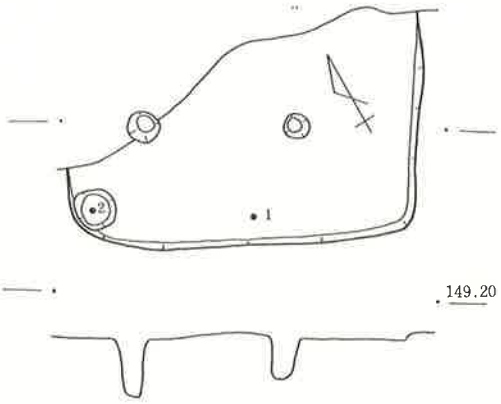
4－4グリッドに位置する。南5mに6号住、西8mに7号住、北西8mに8号住が近接する。北側の半分以上を大溝によって削平されている。

東西 3.5m、南北は東壁で約 2.4mが残存する。

主柱穴は2本検出され、径33cm、深さ57cm、径25cm、深さ40cmをそれぞれ測る。

貯蔵穴は西南隅に位置する。径44cmを測り円形を呈している。深さは44cmを測る。

遺物は、貯蔵穴の中に伏せられた状態で瓶が、南壁に寄った床面上から高坏が出土している。



第20図　5号住居址実測図

6号住居址（遺物P60，P70）

3－4グリッドに位置する。南壁⅓と西壁端部を堀によって削平されているが、遺構の残りは比較的良好である。

東西約5m×南北約 4.9mの正方形プランを呈し、壁高は50cmを測る。幅10cm前後、深さ約20cmの壁周溝が全周している。床面は周縁を除いて良く踏み固められているが、凹凸が多い。

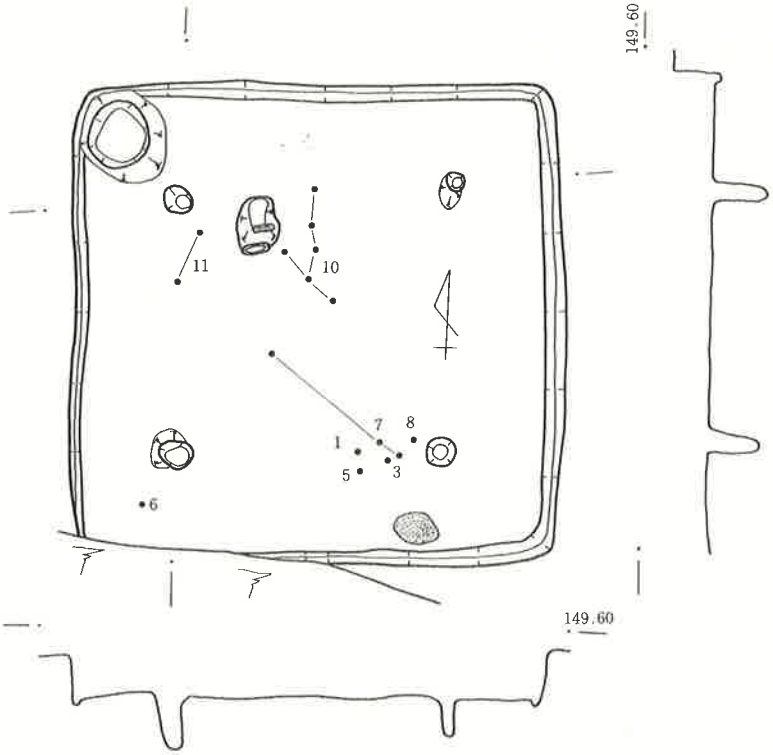
主柱穴は住居プランの対角線上に4本確認されている。北東の1本が若干細いが、他は何れも径約35cm、測さ約60cmで同様の規模を有する。

炉は北壁側の柱穴間に西に偏して位置している。65×50cmの南北に長い円形状を呈し、底面の南端に小型の棒状河原石を置いている。又掘り込みの南縁には石の抜き取り跡とみられる小ピットがある。

貯蔵穴は北西端に位置する。径 106×84cmの楕円形に一旦掘り、さらに60cmの円形に約30cm掘っている。

遺物は、炉の周辺の床面に密着して、2個体分の壺の破片が出土している。又、覆土中からはS字状口縁台付甕、高坏、器台小型甕、弥生時代後期樽式土器に比定されると思われる甕などが出土している。南壁直下には台石状の河原石が置かれていた。

本住居址の床面上には多量の焼土、灰、炭化物が堆積しており、焼失家屋の可能性がある。



第21図　6号住居址実測図

7号住居址（遺物P58，P71）

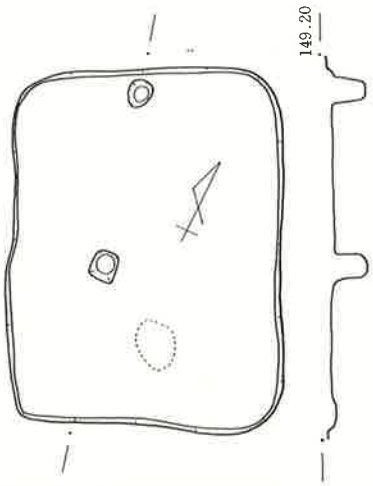
3－3グリッドに位置する。6号、8号住居址が近接する。

長辺 3.6m×短辺 2.8mの南北に長い隅丸長方形住居である。壁高は約5cmと浅く、床面は軟弱で、一部後世の攪覧をうけているところもあり、遺構の残存状態は良くない。

南壁寄りの床面に、径60cmの円形に焼土化している所があり、掘り込みはないが炉址と思われる。

ピットは2カ所に検出されており、柱穴の可能性がある。何れも径30cm、深さ約35cmを測る。

遺物はS字状口縁台付甕、弥生時代後期樽式に比定される甕が大型破片で出土している。



第22図　7号住居址実測図

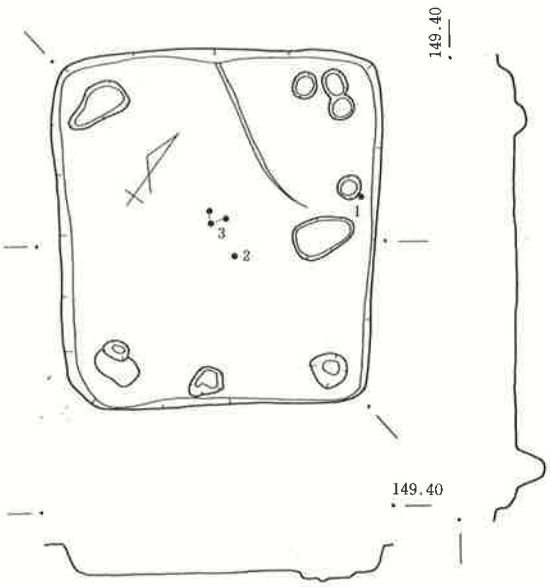
8号住居址（遺物P58，P71）

4－3グリッドに位置する。

東西 3.2m×南北 3.6mを測るが、北壁が南壁よりも若干長く、弱い台形状を呈する方形住居である。壁は比較的ゆるやかに立ち上がっており、壁高は30cmを測る。床面は非常に良く踏み固められているが北壁中央から東壁中央に向かって段差が生じている。亀裂は見られないが、形状、方向などから判断すると4号住居址の亀裂に類似するもので、人為的な施設ではないと思われる。

炉は東壁寄りにかなり偏して位置し、径70×40cmの楕円形を呈している。深さは6cmと浅く、底面には石の抜き取り痕と思われる細長いピットがある。

ピットは6ヶ所に8本検出された。4隅のピットは位置的には主柱穴の可能性もあるが、他のピットを含めて深さ10cmと浅く疑問が残る。南東隅のピットは、他に比べて掘り方もしっかりしていて、深さも23cmを測り、貯蔵穴の可能性も考えられる。



第23図　8号住居址実測図

遺物は、手捏ね土器が炉の北側床密着で、坏が南壁下の床面から出土している。又、覆土中からは、小型甕、S字状口縁台付甕、単口縁甕が出土している。

9A・9B号住居址（遺物P58，P72）

調査区域の南西端、4－1グリッドに位置する。南西（長軸方向を東西とする。）隅の¼は堀によって削平されている。検出面から浅く、判然としない点も多いが、拡張住居址と思われる。

9B号住居址は、東西 5.0m×南北 4.6mの若干東西に長い長方形プランを呈している。

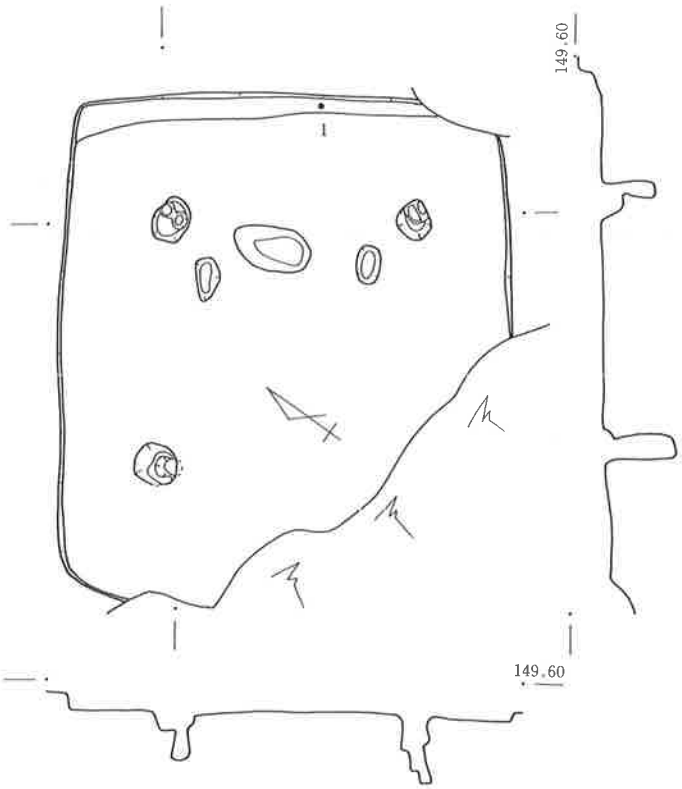
床はほぼ全面にわたって良く踏み固められているが、凹凸が多い。

炉は東壁側の主柱穴間にあり、径80×40cm、深さ８cmの南北に長い楕円形に浅く掘り込まれている。

ピットは主柱穴以外に炉の両脇に深さ７cmのものが２本検出されたが、性格は不明である。

９Ａ号住居址は、９Ｂ号住居址の床面上に約８cmの厚さに土を入れ床を貼り替えたもので、西に行くに従って薄くなり、９Ｂ号住居址の床との差が無くなる部分もある。さらに床面のレベルで東壁を約20cm拡張しているが、南壁と北壁は９Ｂ号住居址の壁をそのまま使用している。西壁側は壁がほとんど残存せず不明である。床面は良くしまって硬く、拡張後の使用期間も長かったと思われる。

主柱穴は３ヵ所に検出され、何れも建て替えられている。９Ａ号住の主柱穴の方が若干浅くなる傾向を示している。



第24図　９号住居址実測図

10号住（遺物Ｐ58，Ｐ72）

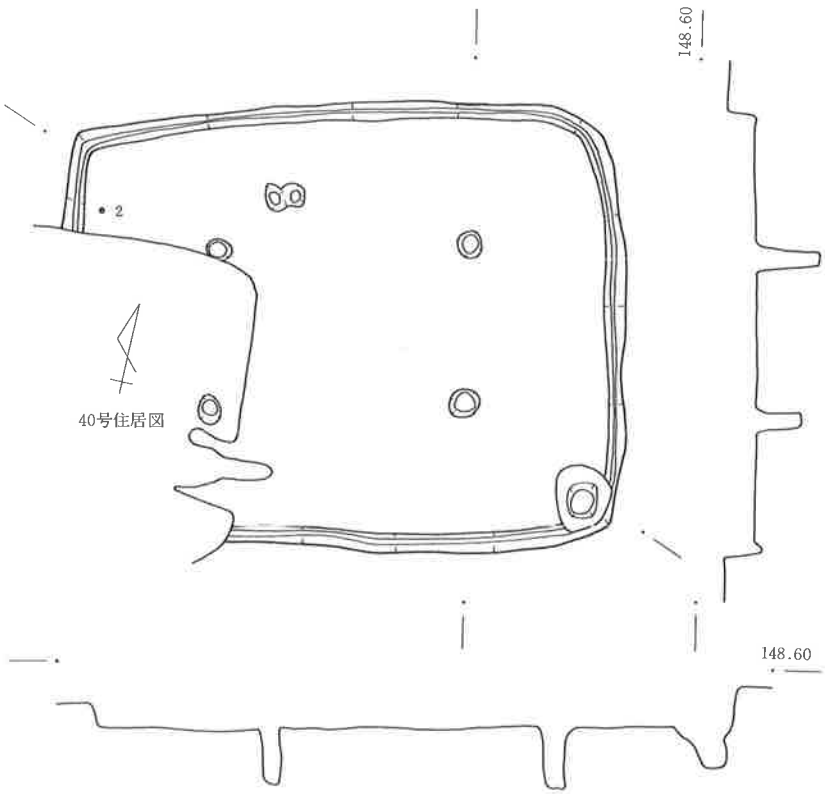
６－２グリッドに位置する。40号住に西隅を切られている。

東西に長い隅丸長方形プランを呈し、5.6×4.5m、深さ40cmを測る。

床面は平坦で、北西隅を除いて硬いが、炉は検出されていない。

主柱穴は住居の平面形に合わせて対角線上に位置している。径約30cm、深さ約50cmでほぼ同様の規模をもつ。なお、南西の１本は、40号住床面下から検出された。

貯蔵穴は南東隅に壁に接して掘られている。径60cm



第25図　10号住居址実測図

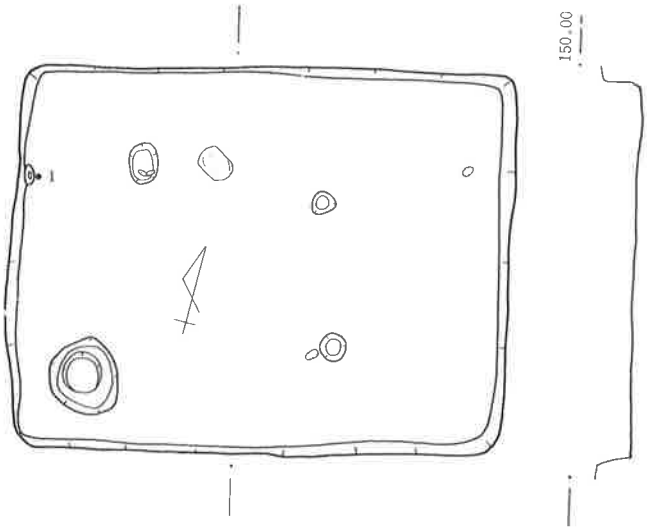
深さ41cmを測る。

遺物は北西隅の床面からＳ字状口縁台付甕が出土し、覆土中からは高坏が出土している。

11号住居址（遺物Ｐ58，Ｐ72）

７－５グリッドに位置する。12号住居址と重複すると思われるが、12号住居址の西側が床下まで削平されているため、切り合い関係は不明である。東６ｍに13号住居址が近接する。

東西方向に長軸をもつ長方形住居で5.0×3.9ｍを測る。壁高は26～61cmで東壁が高く良好に残っている。覆土下層は、多量にロームブロックを含み、人為的に埋められた可能性がある。



第26図　11号住居址実測図

炉は北西隅に寄った位置に検出されている。径42×31cmの楕円形を呈し、南北に長い。底面の南に長さ10cmの棒状河原石が２個置かれていた。炉の50cm東の床面には台石状の扁平な河原石が置かれていた。

主柱穴は検出されていない。中央東寄りに２個の小ピットがあるが浅く、掘り方もしっかりしておらず、主柱穴ではないと思われる。

貯蔵穴は南西隅に壁から若干離れて位置する。径78×68cm、深さ73cmを測りほぼ円形状を呈している。

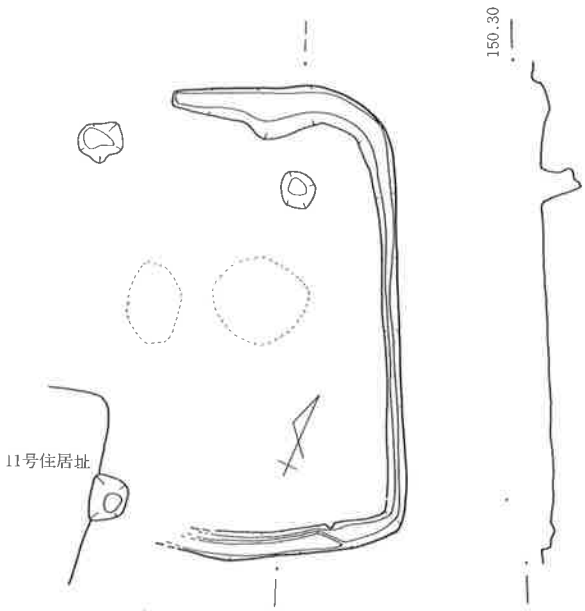
遺物は、西壁から落ちるような状態で壁に接して、覆土中位に高坏の坏部が出土しただけで、覆土中からもほとんど出土していない。

12号住居址

７－５グリッドに位置する。北東５ｍに14号住居址が近接する。西側は削平されている。

南北 4.7ｍを測り、東西は３ｍ弱の床が残存する。床は平坦で、中央部は硬い。床面の中央部２ヵ所に焼土化している所があり、炉址と思われる。東側の炉が径 1.0ｍの円形、西側が径 100×60cmの楕円形をしている。残存する床の周縁を壁周溝が巡っている。

ピットは３ヵ所に検出されたが、規模、形状が様々で、位置的にも主柱穴であるかどうか疑問が残る。11号住の壁にかかるピットは深さ57cmを測るが、どちらの遺構につくか判然としない。



第27図　12号住居址実測図

II　田中田遺跡

13号住居址（遺物Ｐ61、62，Ｐ72、73）

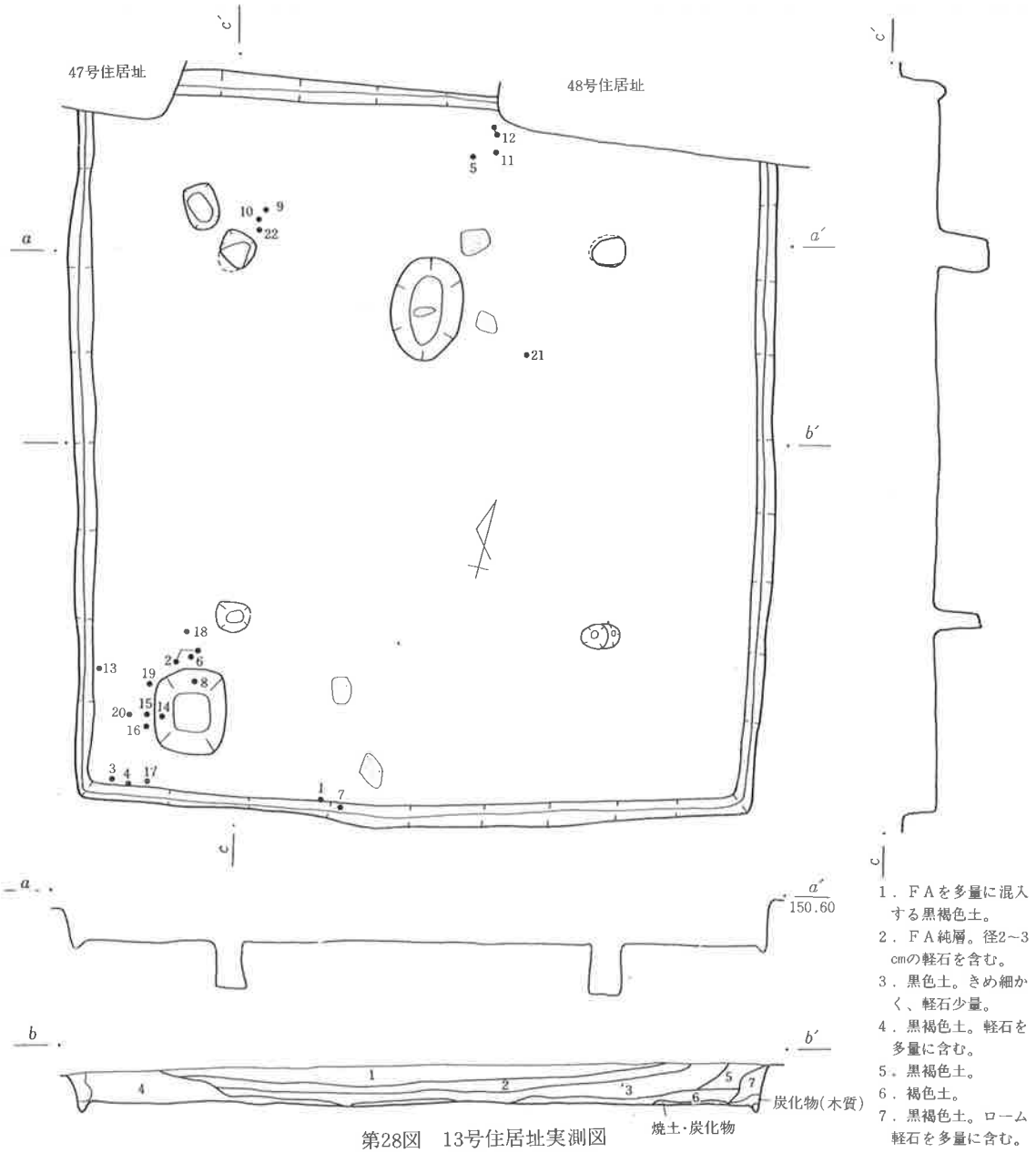
８－６グリッドに位置する。Ｊ１号住居址の北隅を切り、北西隅を46号住居址、北壁の東側半分弱を47号住居址に切られている。

覆土中位に榛名山二ツ岳噴出の火山灰層（ＦＡ）がレンズ状に堆積している。径２cm前後の白色軽石を混ぜ厚さ約10cmを測る。住居址の中央部で床面上20cmに間層を挟んで堆積している。

規模は、東西 7.9ｍ×南北 8.1ｍを測り、ほぼ正方形を呈する大型住居である。壁高は32～46cmを測る。

床面は非常に良く踏み固められており、深さ、幅ともに10cm程の壁周溝が重複部分を除いて全周している。

炉は北壁寄りの主柱穴間に位置している。径 114×79cm、深さ６cmに浅く掘り込み、南北に長い楕円形を呈している。底面の中央に棒状の河原石が浅く埋め込まれている。



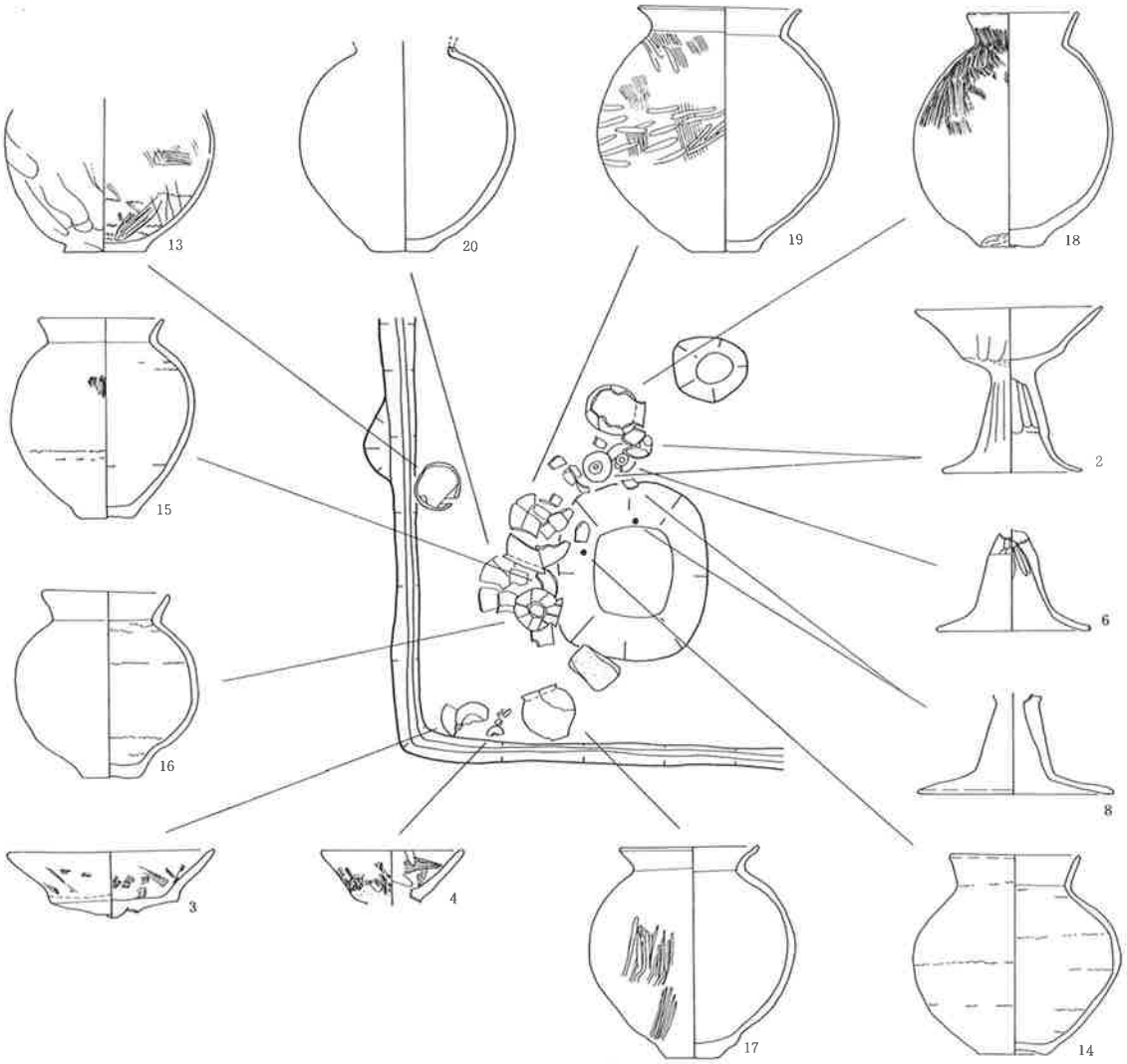
第28図　13号住居址実測図

主柱穴は４本検出されている。住居の平面形に相似して対角線上に位置している。南東の１本は他に比べて細いが、３本は径約40cm、深さ約60cmを測り、同様の規模である。北西主柱穴の外側に対角線上に柱穴が検出されており、補助柱穴の可能性もある。

貯蔵穴は南西隅に壁から離れて位置している。径94×80cmの南北に長い隅丸方形を呈している。深さ60cmを測る。貯蔵穴の周囲、特に西壁側と南壁側の床面は他よりも若干高く盛り上げられている。

遺物は床面、覆土中ともに多量に出土している。床面出土のものは３ヵ所に集中して出土しているが、特に貯蔵穴周辺に多く、出土状態も良好である。出土状態は挿図を参照していただきたいが、壺・甕類が８個体、高坏が完形は１個体であるが計５個体と器種的に片寄りをみせている。北西主柱穴のすぐ東側には大小２個体の甜型土器、石製紡錘車が出土している。又、炉と北壁の間に壺の上半部が大型破片となった状態で小型甕と大型高坏の坏部が伏せられた状態でまとまって出土した。その他、南壁中央の壁周溝中に高坏が、覆土中からではあるが、甑、砥石等が出土している。本遺跡で最も多量の遺物を出土した住居址である。

特に南壁寄りの床面、覆土下層に多量の炭火物、焼土、灰が堆積し、床面出土遺物の多くが２次的に火熱を受けていることから焼失家屋と思われ、全てではないにしても、床面出土遺物の多くは家屋焼失時点の原位置を止めていると思われる。



第29図　13号住居址遺物出土状態

II　田中田遺跡

14号住居址（遺物P60，P73）

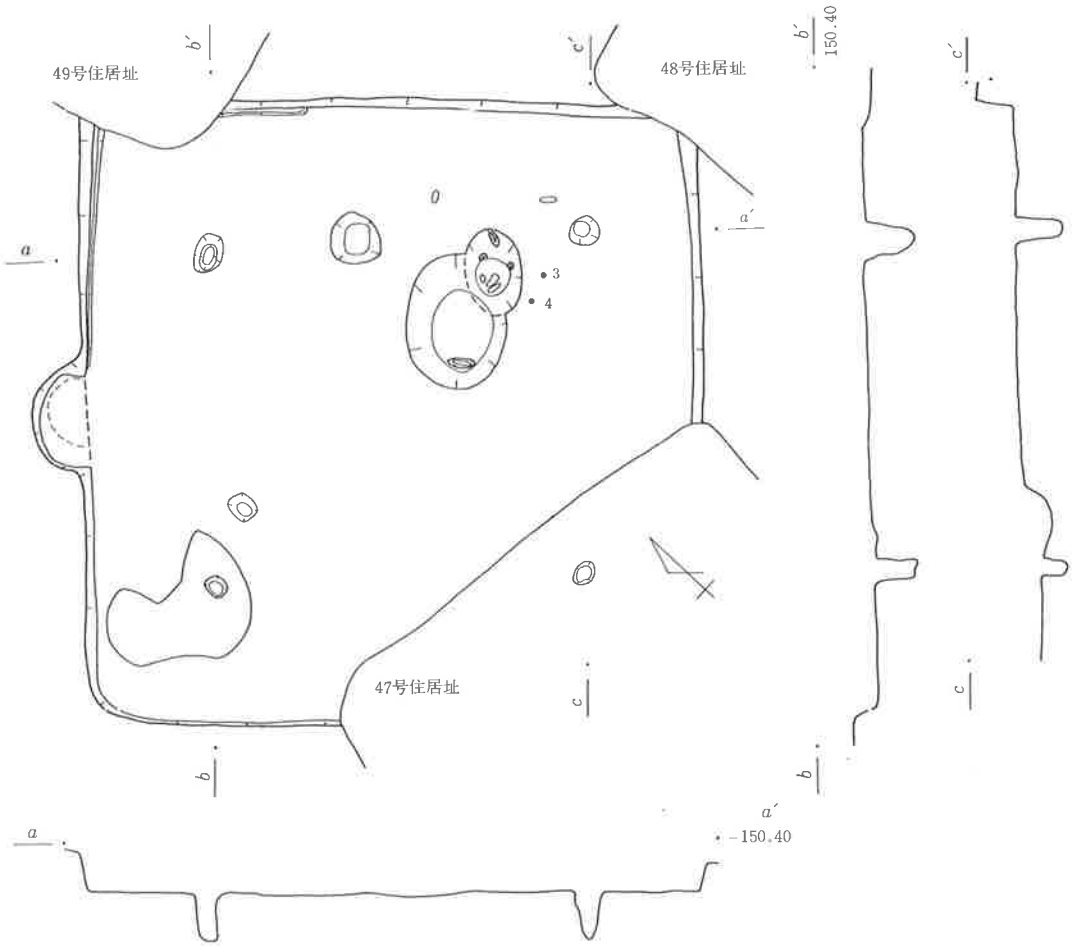
８－５グリッドに位置する。47号、48号、49号住居址にそれぞれ南、東、北隅を切られている。12号、15号、16号、17号住居址が近接する。

規模は一辺が約 6.4mの正方形住居で、対角線がほぼ磁北に向く。壁高は約20～40cmを測り東側が高い。北西壁の中央部に半円型の張り出しがある。径約 1.2mを測り、底面は床面と同レベルであるが軟弱である。

炉は３ヵ所に検出されている。そのうちの２つは重複し、東主柱穴の西側に位置している。１つは 128×100cmで深さ11cmを測り、底面中央に石の抜き痕と思われる細長く浅いピットが検出されている。この炉の東肩部に重複して径84×56cm、深さ７cmのより小型の炉があり、底面上に棒状の河原石が３個並べて置かれていた。出土状態から判断すると、小型の炉の方が新しいと考えられる。他の１つは東、北主柱穴間に若干北に偏して検出された。径約50cmの円形状を呈し、深さ３cmとごく浅い。底面の焼土化も他の炉に比べて少ないことから、使用期間が短かかったと思われるが、他の炉との新旧関係は不明である。

ピットは５本検出されているが、ほぼ対角線上に乗る４本が主柱穴と思われる。形状は異なるが、深さは何れも約45cmを測る。南主柱穴は47号住居址の床面下に検出された。

遺物は炉の南側に床から若干浮いた状態で台部を欠くＳ字状口縁台付甕が２個体、覆土中から小型甕、器代、壺、坩等が出土している。（壺、坩の実測図は掲載していない。）

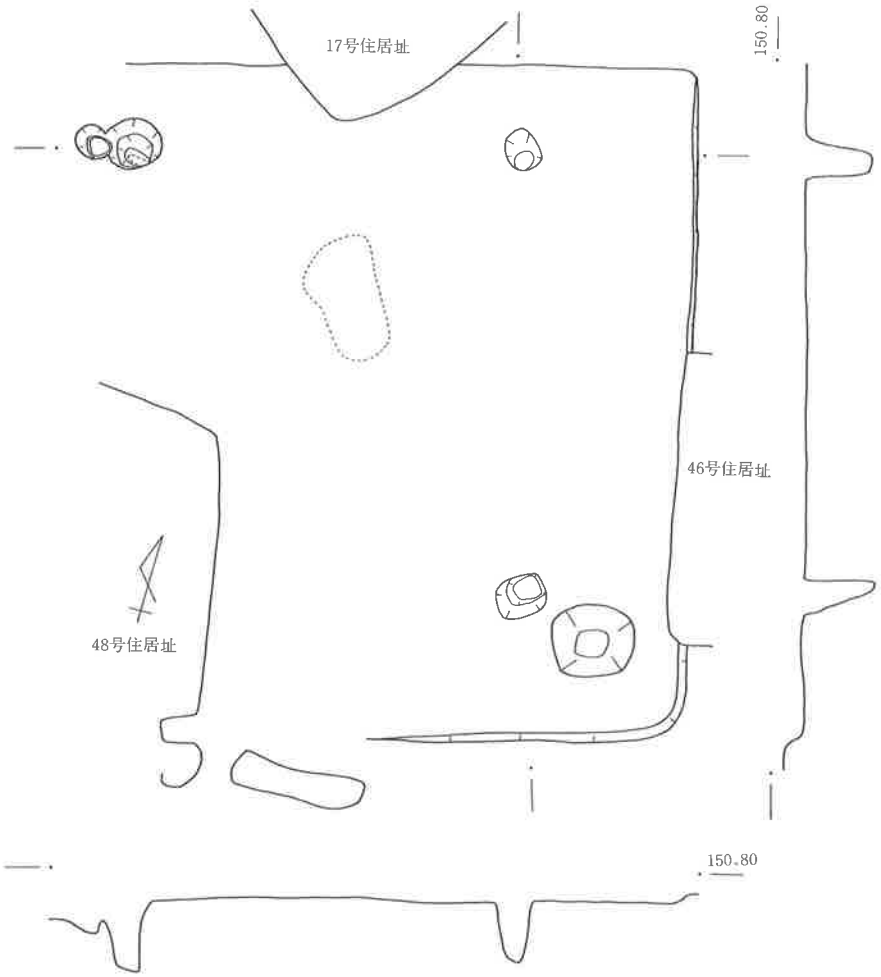


第30図　14号住居址実測図

15号住居址

9－6グリッドに位置する。50号住居址に東壁の一部を切られ、17号、48号住居址とも重複すると思われるが、本遺構は浅く、特に西側は床面下まで削平されている為切り合いの新旧は不明である。

壁は、東壁と南壁の一部が遺存しているだけで規模、形状とも判然としないが、床がさらに西まで残っており柱穴の位置などから判断すると、一辺約 6.8 mの若干南北に長い方形住居になると思われる。



第31図　15号住居址実測図

床面は平坦で非常に良く踏み固められている。中央から若干北に寄った所の床面が 130×80cmの楕円形に焼土化しており、掘り込みはないが炉址と思われる。

住居と推定される範囲内の4ヵ所にピットが検出されている。そのうち3本は位置、規模、形状から主柱穴と思われる。径42～60cm、深さ65～74cmを測る。北西主柱穴西側のピットは、性格不明である。南東隅に壁から離れて位置するピットは貯蔵穴と考えられる。径83×72cm、深さ58cmを測る。

遺物は少量の土器片が出土しただけで、住居につくと思われるものはない。

16号住居址（遺物 P63, P74）

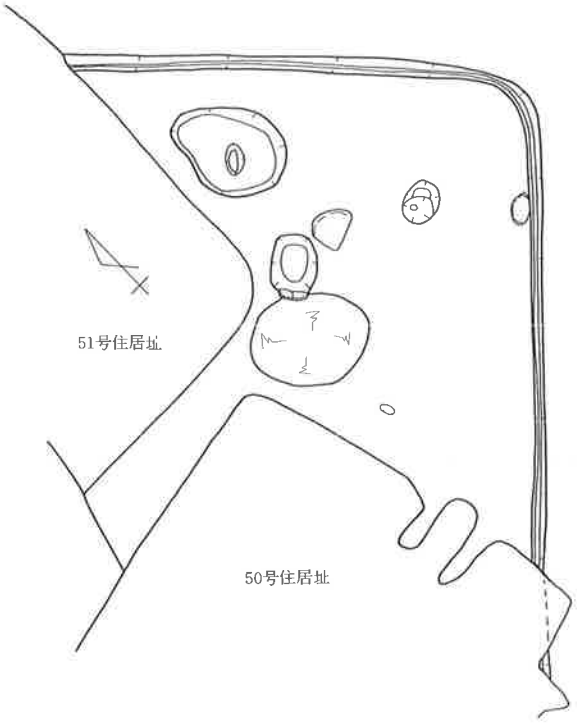
10－5グリッドに位置する。50号、51号住居址に西側を切られている。17号住居址が南東1mに壁の走向を平行させて近接する。東北壁と南東壁の一部分が残存するだけであり、規模、形状等は判然としないが、一辺が約6m以上の正方形住居であると考えられる。

炉は住居の中央北東寄りに径65×47cm、深さ8cmの楕円形に掘られている。掘り込みの南西縁には棒状の河原石が浅く埋め込まれている。さらに炉の東に接した床面に台石状の扁平な河原石が置かれている。この炉址に接して南側には径 118×92cm, 深さ7cmの浅い掘り込みがあり、底面から東側床面にかけて焼土化し

ていることから、炉の造り替えを行なったと思われる。なお、小型の炉に石が残っていることなどから、こちらが新しい炉であると思われる。

ピットは２ヵ所に検出され、東隅に寄ったピットが主柱穴と思われる。径約35cm、深さ80cmを測る。炉の北側のピットは性格が判然としないが、径120×90cm、深さ24cmを測り、貯蔵穴の可能性がある。

遺物は覆土中から土器破片が少量出土しただけで、住居につくと思われるものは少ない。



第32図　16号住居址実測図

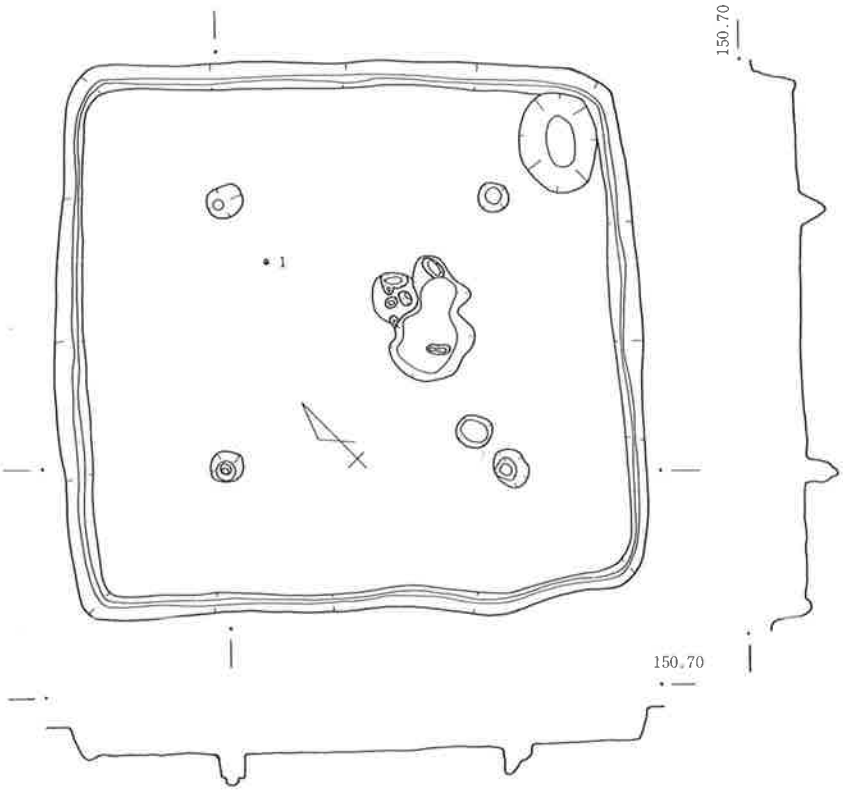
17号住居址（遺物Ｐ63，Ｐ74）

10－６グリッドに位置する。15号住居址と重複する。

規模は約 6.0m× 5.5mを測り、北西－南東方向が若干長いが、ほぼ正方形状を呈する住居である。方位は、ほぼ対角線上に磁北がきている。

炉は中央よりも若干南東に偏した位置に付設されている。径50～70cmの円形状を呈する３基の炉が重複していると思われるが、新旧関係は不明である。炉の底面、あるいは掘り込みの縁に、浅く細長いピットが３基ともに検出されており、石の抜き跡の可能性がある。

主柱穴は住居址の平面形と相似する位置に検出されている。規模は、径30～40cm、深さ24～39cmと一定していない。



第33図　17号住居址実測図

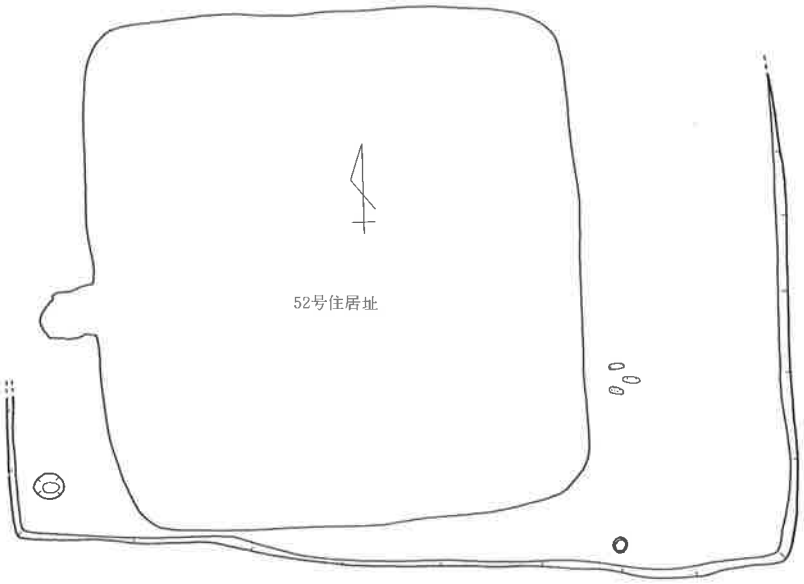
南主柱穴の北側にもピットがあるが、深さ10cmと浅く、性格不明である。
貯蔵穴は、東隅に壁に接して位置している。径100×80cm、深さ50cmを測り、楕円形を呈している。
遺物は北主柱穴の南側床面から単口縁甕が出土したが、覆土中も含めて極めて少量である。

18号住居址

（遺物P63，P74）

10－6グリッドに位置する。後期の52号住居址が重複しており、又、表土剝ぎの際に北側を床面下まで削平した為に判然としない点が多い。

南壁が西から約2mの所で曲折しているが、後出する52号住居址に影響されたとは考えられず、17号住居址が南方約20cmに近接していることから、18号住居址の構築途中で17号住居址を意識して壁の方向を変えた可能性がある。



第34図　18号住居址

南壁の長さ約7.9mを測り、東壁は約5m残存する。一辺8m程の大型方形住居址になると思われる。
遺物は少なく、南壁直下から出土した壺の口縁部、覆土中から出土した坏以外は全て小破片である。

19号、20号、21号住居址

（遺物P63，P74）

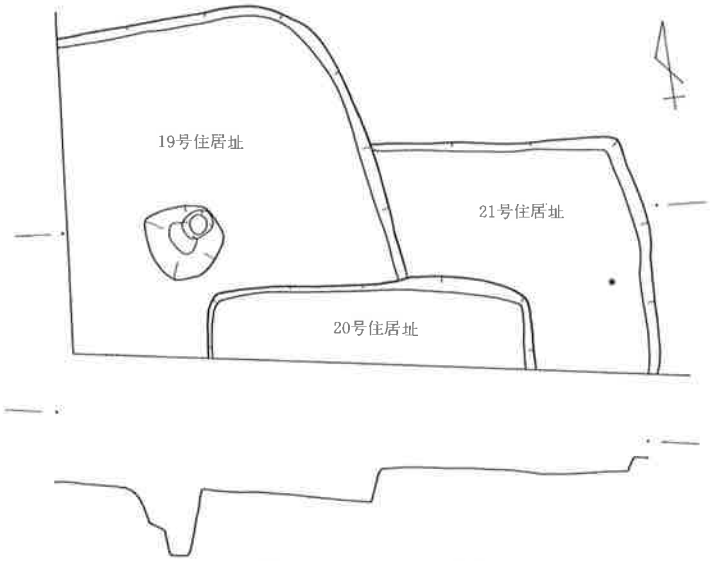
11－4グリッドに3軒が重複した状態で検出された。

21号住→19号住→20号住居址の順で新しくなると思われる。

19号住居址は西側と南側が調査区域外であり、規模、形状等は不明であるが、遺構の深さ、方位、柱穴の規模、形状等が後述する26号住居址に類似しており、出土遺物からも同時期、同規模の住居で、あると推察できる。

壁高は50cmを測る。

主柱穴は壁から約170cm離れて



第35図　19～21号住居址

位置し、掘り方は径80cmの円形で深さ70cmを測る。

遺物は覆土の最上層からほぼ完形の大小２個体の壺が並んで出土している。

覆土の上層にはＦＡ火山灰を混入する土層が堆積しているが、純層は確認されていない。

20号住居址は南側の半分以上が調査区域外で、北壁側の南北約１ｍの範囲を調査しただけであり、規模、形状等は不明である。北壁は長さ3.2ｍを測り、壁高は検出面から約50cmを測る。

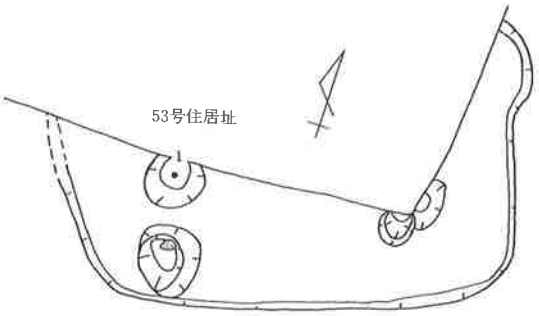
遺物が出土していない為に明確には判断し難く、記述の都合もあり前半に入れたが、遺跡内での他の住居の重複関係などから考えると、後期に属する遺構である可能性が大きいと思われる。

21号住居址も北東の一部が調査できただけで詳細は不明である。壁高は約15cmと浅く、床も軟弱である。床に多量の炭化材が出土しており、焼失家屋と思われる。遺物は完形の坩が倒立した状態で出土した。

22号住居址（遺物Ｐ63，Ｐ75）

11－５グリッドに位置する。53号住居址によって北側の半分以上を削平されている為、全体の規模、形状等は不明である。

東西 4.6ｍを測り、南北は 2.9ｍ以上の規模を有する。西壁が外側へ開き、東壁には張り出し部分がある。壁高は15cmを測る。



第36図　22号住居址実測図

ピットは３ヵ所に検出されている。53号住居址に一部を切られて重複する２基のピットは、何れも深さ約20cmと浅いが、位置的には主柱穴の可能性もある。西壁寄りに南北に並んで位置するピットはそれぞれ径75×65cm、深さ40cm、径約60cm、深さ45cmを測るが、規模や形状から何れも貯蔵穴の可能性がある。なお、北側のピットの上面に床が貼られており、造り替えが行なわれたと思われる。

遺物は、小型甕が北側貯蔵穴上の床面から出土している。

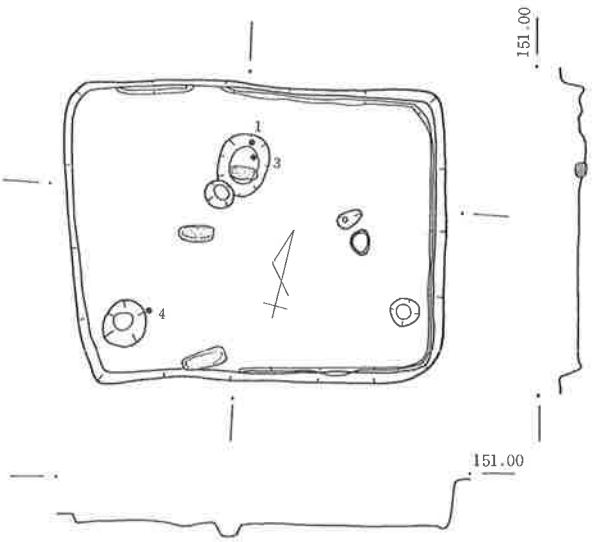
23号住居址（遺物P63，Ｐ75）

11－６グリッドに位置する。25号住居址が東４ｍに近接する。

東西 3.8ｍ、南北 2.9ｍを測り、東西に長い小型長方形住居址である。

炉は北壁寄りに付設されている。径55×52cm深さ９cmを測り、若干南北に長い円形を呈している。底面の南端に該期の他の住居址例に比較して大振りな河原石を置いている。掘り込みの縁に接して内側に高坏と小型鉢型土器が伏せられた状態で出土している。

ピットは５ヵ所に検出されている。南西隅のピットは貯蔵穴と思われ、径47×41cm、深さ60cmを測る。北西縁にかかって床面上に台付甕が



第37図　23号住居址実測図

出土している。他のピットは深さ８～20cmを測るが性格は判然としない。

炉の南西の床面と南壁に接する位置に台石状の細長い河原石が出土しているが、用途は不明である。

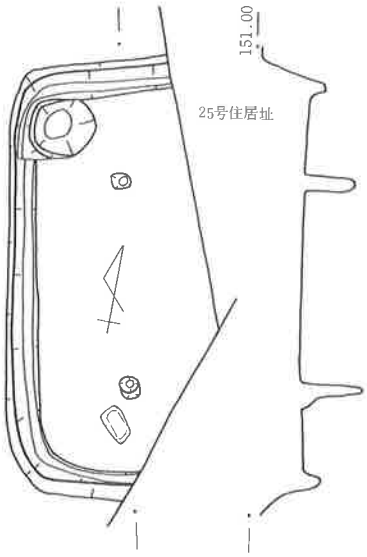
24号住居址（遺物Ｐ63，Ｐ75）

11－６グリッドに位置する。東側が25号住居址に切られ、調査区域外にかかっているために全体の規模、形状は不明である。

南北 4.4ｍを測り、東西は約 2.1ｍの範囲が調査できた。壁高は約45cmを測る。床は浅く貼り床がなされ、幅10cm、深さ15cmのしっかりした壁周溝が巡っている。

主柱穴は西壁寄りの２本が検出され、径約20cm、深さ50～60cmを測る。貯蔵穴は北西隅に壁に接して位置している。径60cm、深さ42cmを測り、円形を呈する。

遺物は床面に多量のＳ字状口縁台付甕の破片が出土したが接合できなかった。覆土中から台付甕の台部、西壁から流れ込んだ状態で甑が出土している。



第38図　24号住居址実測図

25号住居址（遺物Ｐ63，Ｐ75）

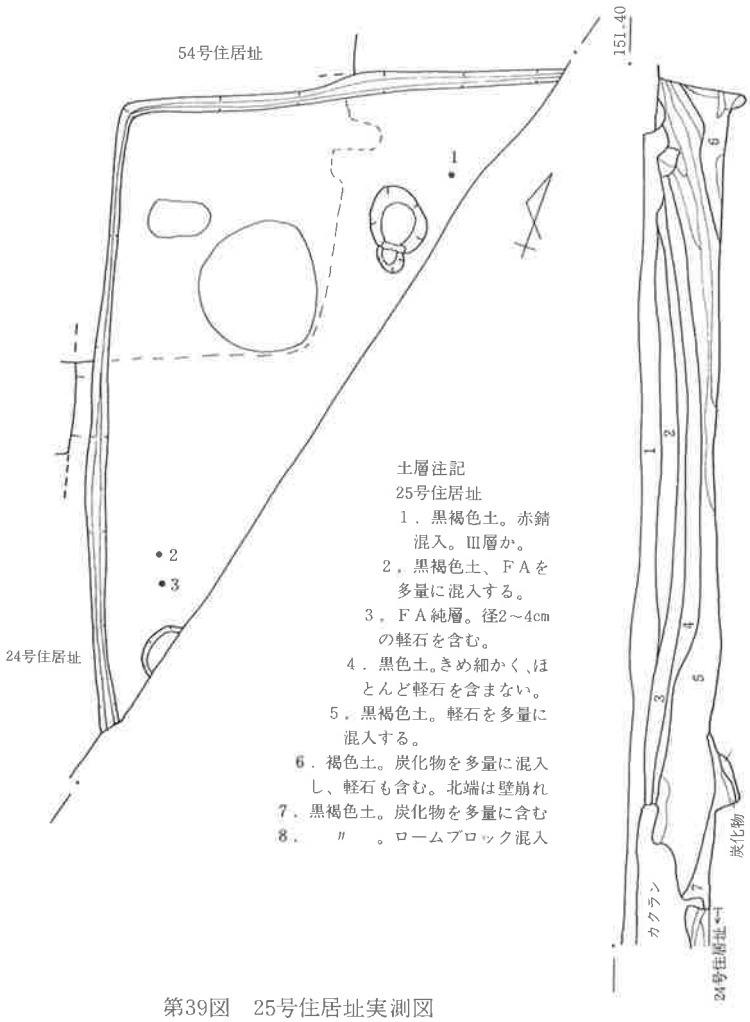
24号住居址の東側に位置している。24号住居址を切り、後期の54号住居址に北西部を切られている。東側の半分以上が調査区域外である。

残存部分の床に沿って幅10cm、深さ15cmの壁周溝が巡っている。西壁のほとんどが調査区域内にあり、該期の類似住居址例から判断すると、一辺の長さ 6.4ｍ以上の正方形状を呈する大型住居になると思われる。

炉は北壁寄りに位置し、径60×55cm、深さ６cmを測る。南西の縁に棒状の河原石を浅く埋め込み、この石を挟んで径経30cmの浅い掘り込みが続いている。

貯蔵穴は南西隅に位置し、西側の半分弱が調査区内にある。径60cm以上、深さ30cm以上の規模を有すると思われる。

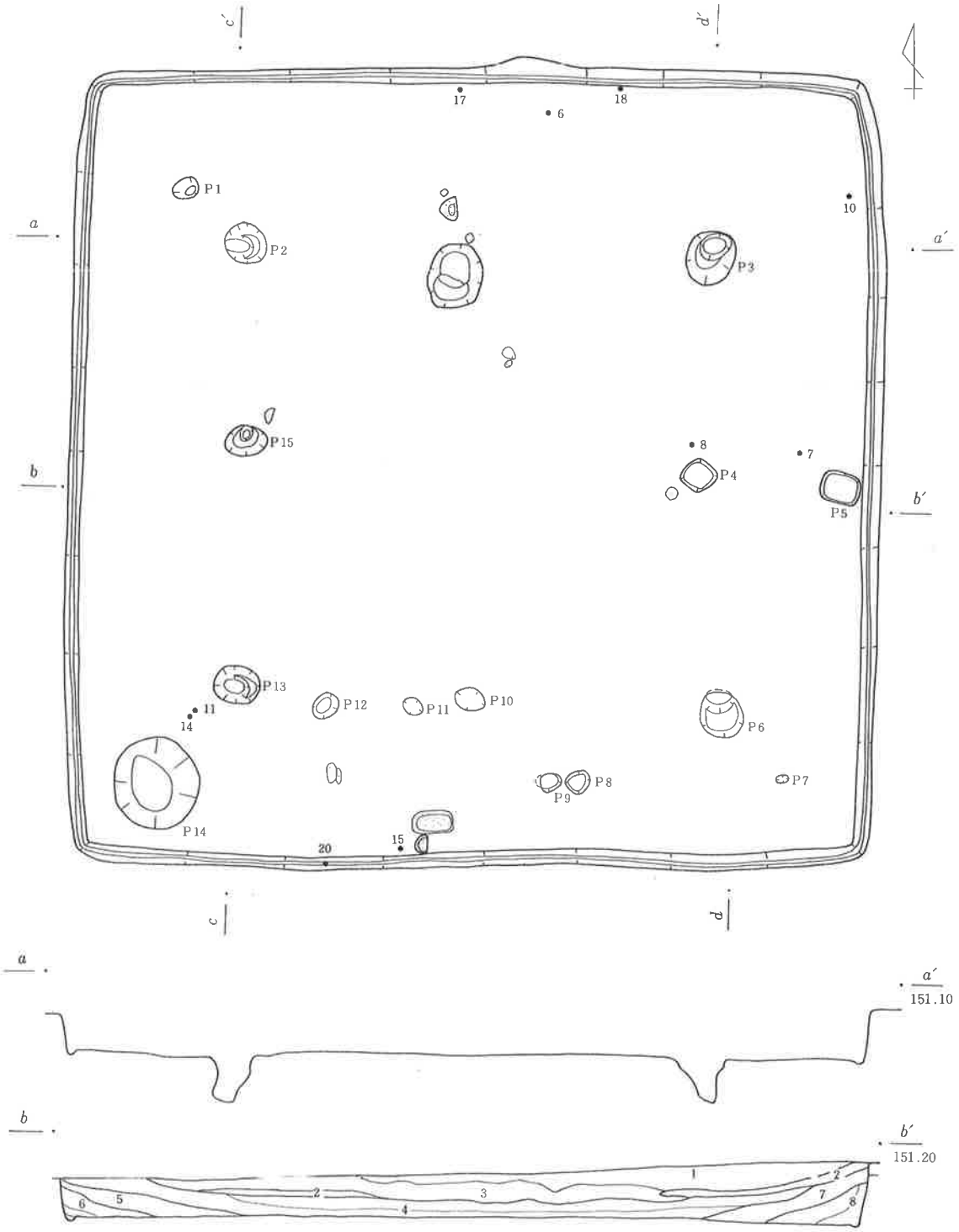
遺物は貯蔵穴の北に高坏と坩が、炉の北東に高坏が出土している。



第39図　25号住居址実測図

II　田中田遺跡

26号住居址（遺物P64，P75～77）



土　層　注　記

26号住居址

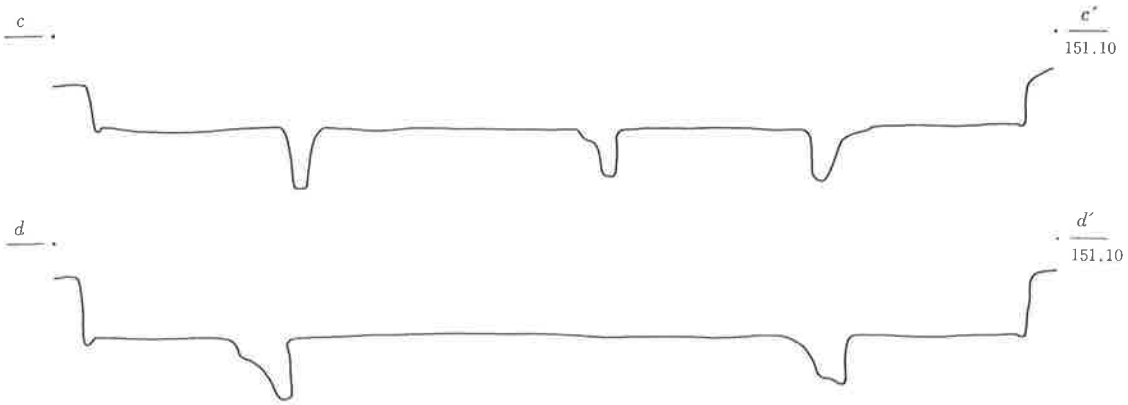
1．ＦＡを多量に含む黒褐色土。全体的にはにぶい黄褐色を呈する。径2～4cmの軽石を含む。　2．ＦＡ純層。径2～3cmの軽石を含む。

3．ＦＡを多量に含む黒褐色土。1.と同様であるが、軽石はほとんど含まない。　4．黒色土。きめが細かく、軽石を含まない。下層は黒褐色土と混じり合い、西方に行くに従って黒褐色土の量が多くなる。　5．黒褐色土。ロームブロック（径2～3cm）を混入する。

6．褐色土。ロームブロックを混入する。軽石は極少量。　7．黒褐色土。軽石を多量に含む。　8．黒褐色土。軽石は少量。ローム

ロームブロックを混入し、特に下層では斑状に混じり合う。

第40図　26号住居址実測図



第41図　26号住居址実測図(2)

12－５グリッドに位置する。27号、28号住居址を切っている。南西３ｍに19号住、東４ｍに29号住、北西５ｍに31号住、南東10ｍに25号住居址が近接する。

東西約 9.8ｍ、南北約 9.5ｍを測る大型の正方形住居で、壁高は40～70cmを測る。覆土の壁際の中位に、ＦＡ火山灰層が純粋堆積する。住居の中央では純層ではなく、黒褐色土との混土層となっている。ＦＡ層の上にも多量のＦＡ火山灰、軽石を混入する黒かっ色土が堆積している。ＦＡ層の直下には軽石をほとんど含まない黒色土が堆積している。

床面は非常に硬く踏み固められ、浅い壁周溝が全周している。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

炉は北壁寄りの主柱穴間に付設されている。径73×63cm、深さ12cmの若干南北に長い楕円形に床を浅く掘り込んでいる。底面のほぼ中央に、長さ約20cmの棒状の河原石が浅く埋められている。

ピットは15ヵ所に検出されている。住居平面形の対角線上に位置するP_2、P_3、P_6、P_{13}が主柱穴と思われる。主柱穴の形状は楕円形を呈し、規模はP_2が径55×43cm、深さ50cm、P_3が径68×58cm、深さ49cm、P_6が径55×50cm、深さ61cm、P_{13}が径60×45cm、深さ64cmを測る。P_2とP_{13}のほぼ中間に位置するP_{15}は深さ47cm と主柱穴に近い規模をもつが、補助柱穴の可能性がある。又、平面形の対角線上には主柱穴の外側にもピットがあり、$P_1$11cm、$P_7$9cmと深さは浅いが補助柱穴の可能性がある。なお、P_{13}の外側にもP_{14}と一部重複して浅いピッがあったが、実測漏れしている。径約20cm、深さ10cm程である。東壁寄りに位置するP_4とP_5は深さは浅いが床からほぼ直角に掘り込まれ、底面は平坦である。P_8、P_9は何れも深さ約20cmで、入口施設と関連する可能性がある。P_{10}～P_{12}は深さ3～5cmと浅く性格不明である。P_{14}は径112×103cm、深さ60cmで貯蔵穴と思われる。

遺物は多量に出土したが、遺存状態は余り良好ではない。床面密着の遺物はほとんど破片の状態で出土しており、接合できたものでも全形を推定できるまでに復元できたものは少ない。覆土中の遺物も小破片が多い。器種は甕、壺、高坏、坩等である。特筆すべき遺物として、やはり破片が多いが多量の手捏ね土器、ミニチュア土器が出土している。又、北壁直下の床面に砥石が、南壁の下端に接して線刻された石製品が出土している。

南壁のほぼ中央直下に、長さ約50cmの台石状をした扁平な河原石が壁面に並行するように置かれており、そのすぐ北側の床面には土器が潰れた状態でまとまって出土している。上記した出土遺物や、P_4周辺の２ヶ所の床面上に赤色顔料が出土していることとも併せて考えると、本遺構の性格を判断する上で多くの示唆を与えてくれるものと思う。

II　田中田遺跡

27号住居址（遺物P65，P77）

12－4グリッドに位置する。26号住居址に東側を切られている。

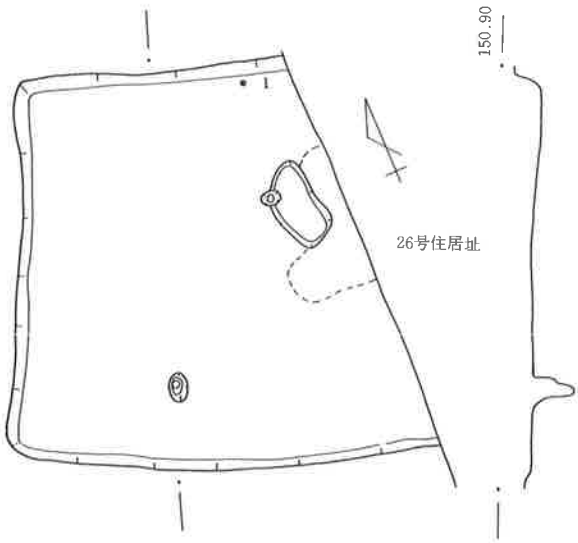
南北 4.1mを測り、東西は 4.4mの範囲が残存する。東西に長い長方形を呈すると思われる。壁高は北壁で17cmと浅い。

床面は平坦であるが、中央部を除いて軟弱で、耕作による攪乱を受けている部分もある。

26号住居址の壁寄りに浅い掘り込みがあり、周囲一面が焼土化しているので炉址と思われる。

住居につくと思われるピットは1本だけ検出され、深さ42cmを測る。

遺物は、ほぼ完形の脚付坩型土器が出土している。



第42図　27号住居址実測図

28号住居址（遺物P65，P77）

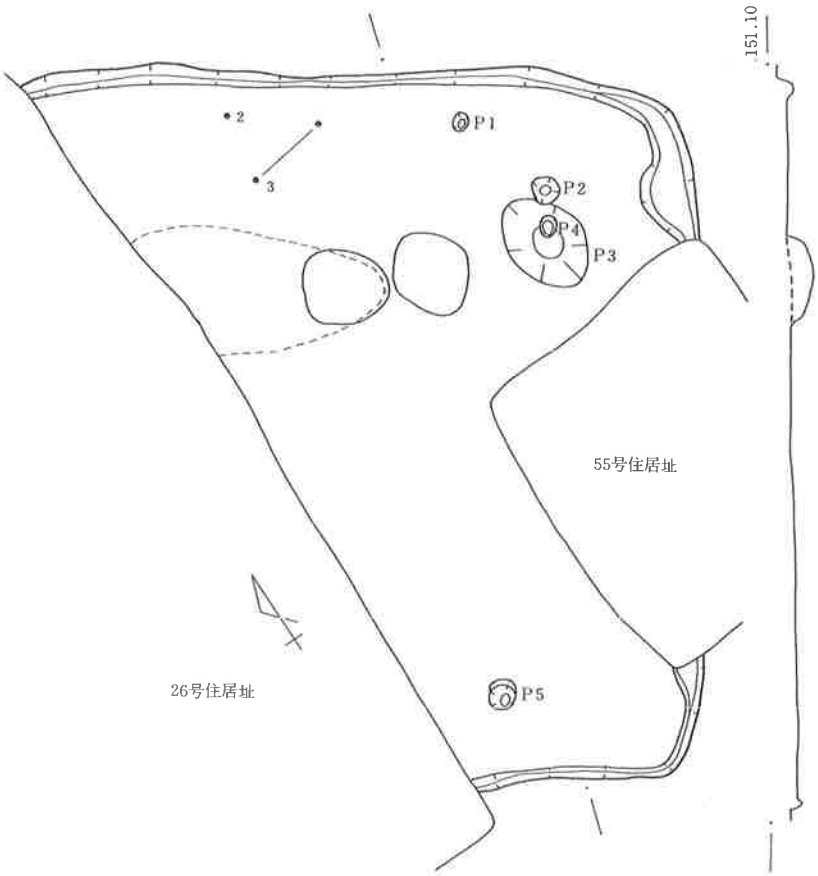
12－5グリッドに位置する。南東壁の中央を55号住居址に切られ、西側を26号住居址に切られている。

一辺約7mの正方形を呈する大型住居になると思われる。

床は平坦で比較的硬い。特に住居北壁寄りの中央部は良く踏み固められており広い範囲が焼土化している。掘り込みはないが炉址と思われる。

ピットは5本検出され、P_2、P_5は深さ31～45cmで主柱穴の可能性がある。P_3は規模・形状から貯蔵穴の可能性がある。

遺物は、炉と北壁の間の床面からS字状口縁台付甕単口縁甕が出土している。



第43図　28号住居址実測図

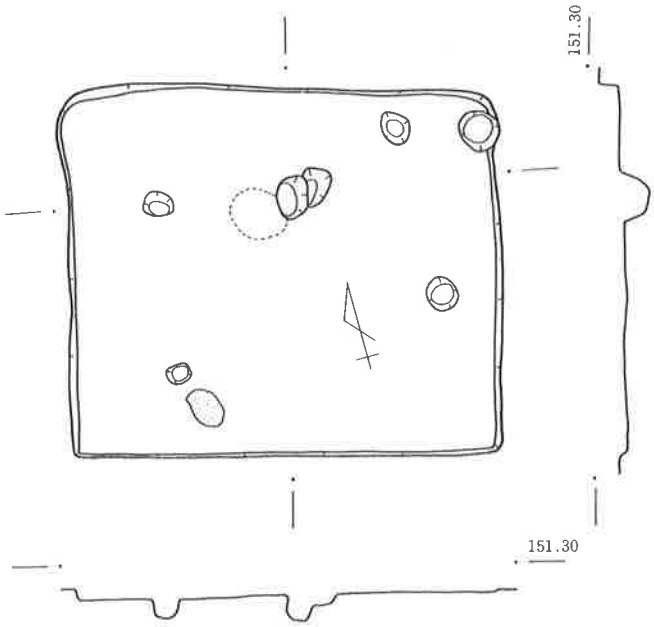
29号住居址（遺物Ｐ65，Ｐ77）

13－６グリッドに位置する。東１ｍに30号住居址、北に31号住、北東に34号住、西に26号住居址がそれぞれ約４ｍの距離で近接している。

東西 4.4ｍ、南北 3.7ｍの長方形住居で、壁高９～20cmと浅い。

床は軟弱である。住居中央の若干北壁に寄った所の床面が円形に焼土化しており、掘り込みは無いが炉址と思われる。

ピットは６ヵ所に検出されているが、何れも浅く、位置的にみても主柱穴と思われるものは無い。炉の東側のピットは炉に関連した施設の可能性もある。北東隅に壁から若干はみ出して位置するピットは貯蔵穴の可能性がある。径40cm、深さ21cmを測る。



第44図　29号住居址実測図

遺物は、覆土中から坏の破片が数点出土しただけである。

30号住居址（遺物Ｐ65，Ｐ77）

13－６グリッドに29号住居址に近接して位置する。

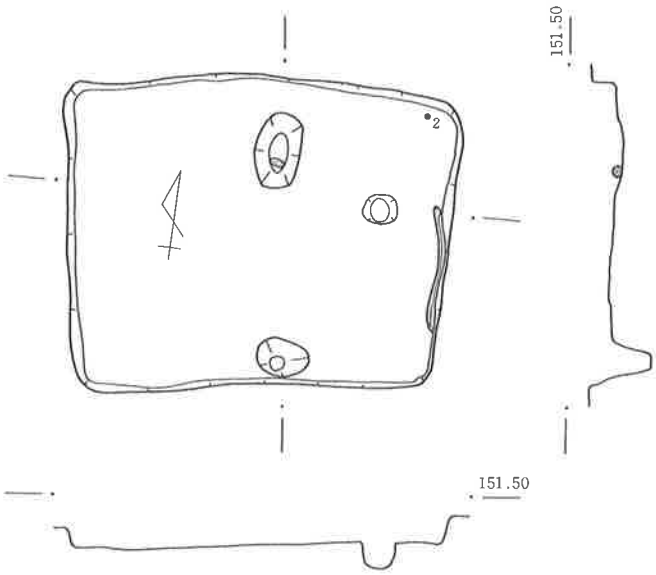
東西 3.9ｍ、南北 3.1ｍの東西に長い長方形を呈している。北壁が外側へ張り出し、南壁が内側に若干入り込んでいる為に、全体が北へ反っているような形状を呈している。

床は平坦で周縁を除いて良く踏み固められている。

炉は北壁寄りに付設されている。南北に細長く、径60×42cm、深さ４cmとごく浅く楕円形に掘られている。底面は良く焼けており、南端に長さ約12cmの棒状河原石が置かれていた。

ピットは２ヵ所に検出され、東壁寄りのピットが径約32cm、深さ26cmで円形を呈し、南壁沿いのピットが径53×38cm、深さ41cmで楕円形を呈している。

遺物は少量で、北東隅から甕が出土し覆土中から出土した高坏は、31号住居址覆土出土の破片と接合している。



第45図　30号住居址実測図

II　田中田遺跡

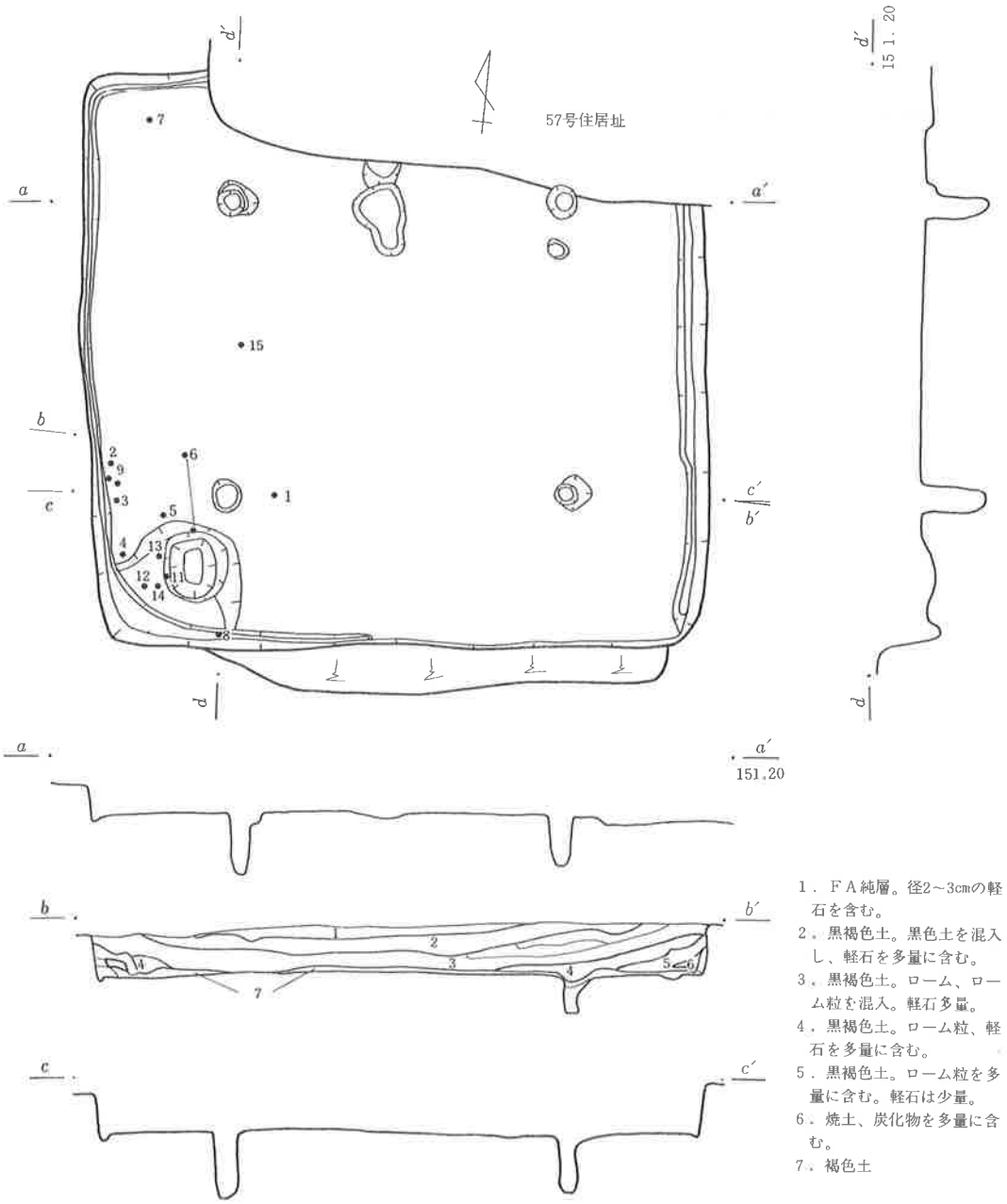
31号住居址（遺物Ｐ66，Ｐ78･79）

13－５グリッドに位置する。32号、33号住居址を切り、北端部を57号住居址に切られている。

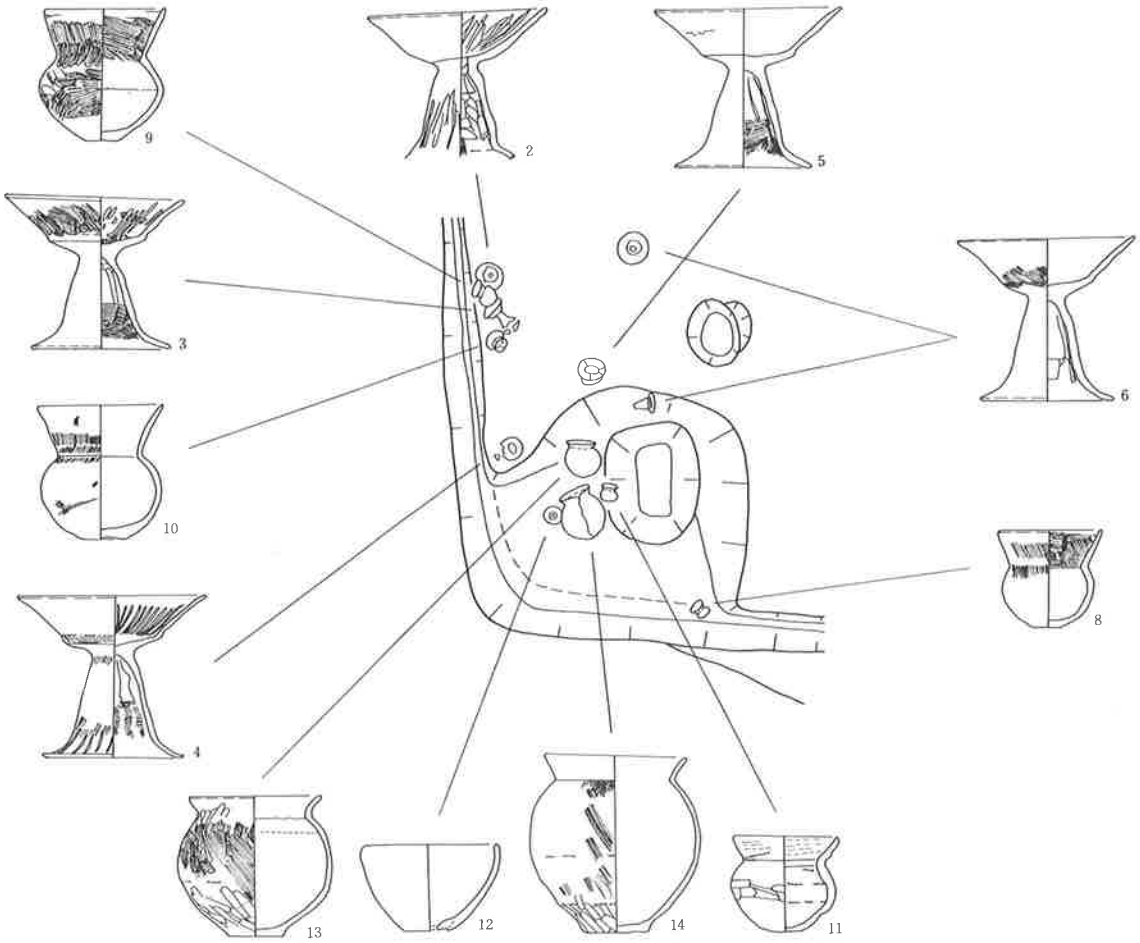
覆土の最上層にＦＡ火山灰層が確認されており、住居中央部では２層の間層を挟んで床面上約35cmに堆積している。

東西 6.7m、南北 6.2mの若干東西に長い正方形状を呈している。壁高は約50cmを測る。南壁の東から⅔程の範囲は、壁の中段から壁外へ斜めに掘られている。覆土の観察では遺構と同時に埋没しており、床面に壁の崩れた様子もみられず、壁周溝もこの部分で途切れることから、入口に関連した施設の可能性もある。

床面は平坦で、周縁を除いて良く踏み固められている。南壁に沿った東半分を除いて壁周溝が巡っている。



第46図　31号住居址実測図



第47図　31号住居址遺物出土状態図

炉は北壁側の主柱穴間に位置している。径70×50cm、深さ８cmを測り、南北に長い瓢箪型を呈している。くびれの部分には細長く浅いピットがあり、石の抜き跡と思われる。57号住居址に半分壊されているが、この炉の北側にも円形の浅い掘り込みがあり、底面が焼土化していることから、炉の造り替えを行なったと推察できる。

主柱穴は住居平面形の対角線上に４本が検出され、径約35cm、深さ60～70cmを測る。

貯蔵穴は南西隅に壁から若干離れて位置している。貯蔵穴と壁との間は床より20cm程深くロームを掘り込んでいる。余りしまりのない、住居覆土と類似の土相であったためにローム面まで掘り下げたが、ロームブロックを少量ではあるが含んでいることや、遺物の出土状態から判断すると、貼り床の可能性がある。貯蔵穴の規模は、径60×50cm、深さは床面から50cmを測り、南北に長い隅丸方形状を呈している。

遺物は貯蔵穴周辺にまとまって出土している。出土状態は挿図を参照していただきたいが、甕２個体、高坏５個体、坩４個体、甑１個体が、ほとんど完形のまま出土している。多くの土器が、南側から力を受けたように傾いて出土していることが注目される。貯蔵穴周辺以外では、流れ込みと思われる高坏の坏部が、南西主柱穴の東脇から、横倒しの状態で西側主柱穴間に甕が、住居北西隅の壁直下に坩が出土している。覆土中では、南壁中央のすぐ内側覆土中位に小型壺、壺の胴下半部が出土している。

住居址の南側、特に南西隅には多量の炭化物、焼土、灰が出土しており、壁面が焼けている場所もあるので、焼失家屋の可能性がある。

II　田中田遺跡

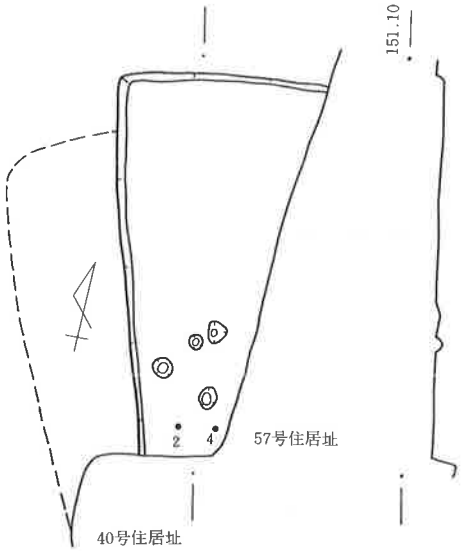
32号住居址（遺物P65，P79）

14－5グリッドに位置する。東側を57号住居址、南端部分を31号住居址に切られているため、規模、形状等は不明である。又、西壁外側に浅い掘り込みの方形をした区画があり、32号住の付帯施設、もしくは前代の遺構と重複している可能性が考えられる。

南北方向の4ｍ程が残存する。壁高は7cmとごく浅い。床は平坦であるが軟弱で、南端には後世の攪乱とみられる小ピットが点在する。

炉、貯蔵突等の施設は検出されていない。

遺物は、南端部床面上に、壺の胴下半部と打製石斧が出土した。又、小破片ではあるが、弥生時代中期・後期の土器片が出土している。



第48図　32号住居址実測図

33号住居址（遺物P65，P79）

13－6グリッドに位置する。31号住居址に北西隅を切られ、34号住居址が東壁上に乗る。

一辺約 5.5mの隅丸正方形住居である。各壁はわずかではあるが外側へ張り出している。床面のほぼ中央部が長円形に焼土化しており、炉址と思われる。浅い壁周溝が一部を除き巡っている。

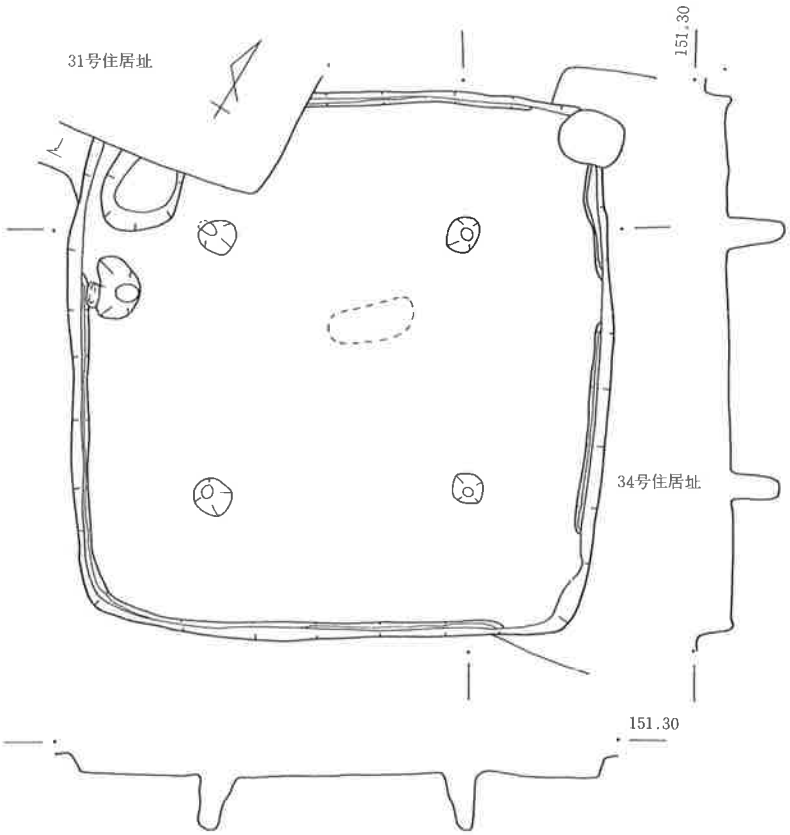
ピットは6ヵ所に検出されたが、住居の平面形に合わせてほぼ対角線上に位置する4本が主柱穴と思われる。径22～42cm、深さ50～60cmと同様の規模を有する。

北西隅に31号住に北側を壊されて位置するピットは貯蔵穴と思われる。長径80cm以上、短径80cm、深さ40cmを測り、楕円形を呈すと思われる。

貯蔵穴の南にあるピットは、深さ40cmで不整形を呈すが、性格不明である。

北東隅のピットは、34号住の貯蔵穴と思われる。

遺物は器台が出土しただけで、覆土中も含めてごく少量出土しただけである。



第49図　33号住居址実測図

34号住居址（遺物Ｐ67，Ｐ79･80）

14－６グリッドに位置する。33号住居址と重複し、29号、30号、31号、35号、37号住居址が何れも３ｍ程の距離で近接している。地表面下20cm以上が凍る厳冬期に調査を行なった為、不明な点が多い。

東西に長い長方形プランを呈し、東西 6.8ｍ、南北 5.8ｍ、壁高18～25cmを測る。東壁側が高くなっている。床面は軟弱であり、部分的に浅い壁周溝が巡っている。床面全体が東から西へゆるやかに傾いている。

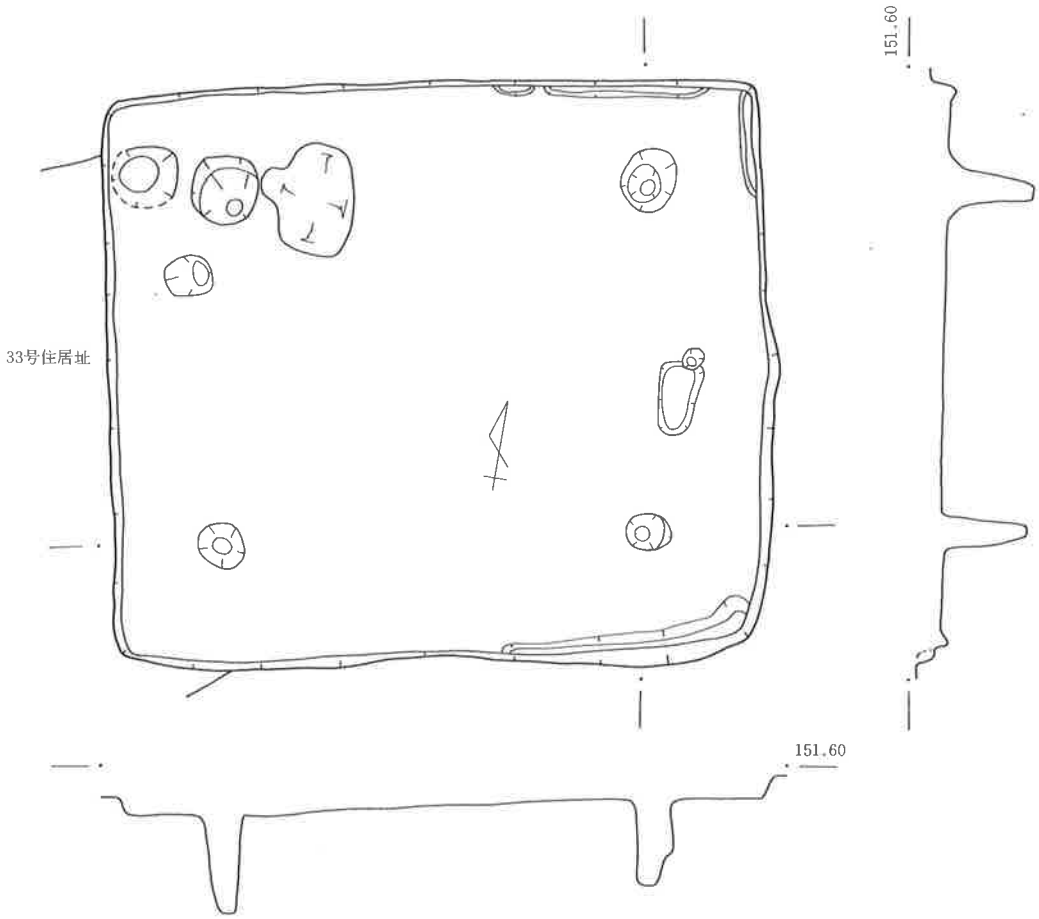
炉は検出されていない。北西主柱穴の東脇に、深さ７cmの浅い掘り込みがあるが、焼土、灰等が検出されておらず、炉であるかどうか判然としない。

主柱穴は４本がほぼ対角線上に検出されているが、他の住居例に比して四隅に偏して位置している。径50～70cm、深さ85～100cmを測り、しっかりした掘り方を有する。

貯蔵穴は、本遺構調査時には検出できなかったが、33号住居址の調査の際に、本遺構との重複部分に検出されたピットが、位置、形状、遺物の時期から判断して、本遺構の貯蔵穴と考えられる。

遺物は多量に出土したが、凍土を剝ぎながら遺物とり上げを行うような状況であり、出土位置や出土状態を十分には記録できなかった。また、取り上げの際に新たに割れた遺物も多く、復元、実測できたものは少ない。但し、調査時の所見では、該期の同様な規模を持つ遺構のような良好な遺存状況ではなかったと思える。器種は破片も含めてほとんど壺、甕、高坏に限られる。

覆土最上層に、間層を挟んでＦＡ火山灰層が堆積している。住居中央で床面から約10cm上に位置する。



第50図　34号住居址実測図

II　田中田遺跡

35号、36号、37号住居址（遺物，35住Ｐ68，Ｐ80，36住Ｐ67，Ｐ80，37住Ｐ68，Ｐ81）

調査地の最北端、14－６グリッドに位置する。31号、33号、34号住居址が近接する。36号住居址が35号、37号住居址に切られている。35号住居址と37号住居址の新旧関係は不明である。

35号住居址は後期の58号住居址に北側の一部を切られている。東西 4.3ｍ、南北 2.7ｍの長方形住居で、壁高は約10cmと浅い。

浅い掘り込みをもつ炉が、住居の中央北寄りに検出されたが、北側の半分程が58号住居址に壊されている。炉の南床面に多量の焼土、炭化物が出土している。住居の南西隅にあるピットは貯蔵穴と思われるが、径60×40cmを測り、中から坏が出土している。深さ10cmと浅い。遺物は炉の南から壺、甕が出土している。

36号住居址は後世の遺構によって削平されており、北側は調査区域外となっているので、規模、形状等は不明であるが、残存する部分から推察すると、一辺５ｍ以上の方形住居になると思われる。

ピットは２ヵ所に検出されている。南隅に位置するピットは貯蔵穴と思われるが、径67×47cmの楕円形を呈し、深さ37cmを測る。残存部分の中央に位置するピットは主柱穴の可能性もあるが、深さ10cmと浅く、掘り方も明確でない。

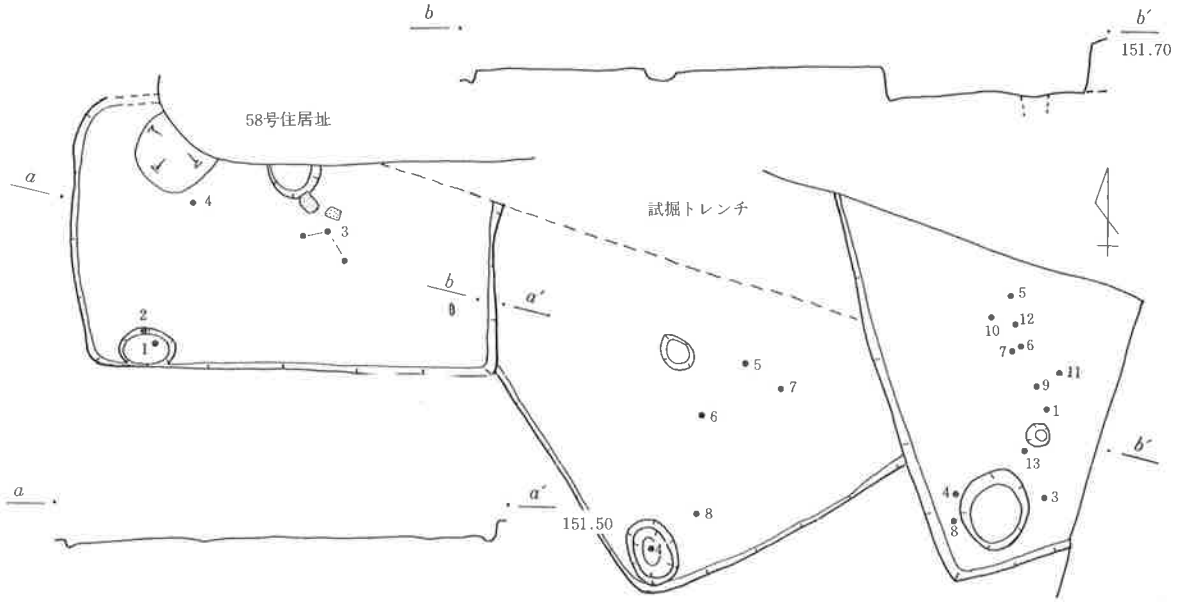
住居の壁高は10cmと浅いが、遺物は比較的良好に残存していた。台部は欠損するがＳ字状口縁台付甕が床に伏せられた状態で２個体出土し、単口縁甕、壺も床面密着で出土している。

床一面に炭化物、焼土、灰が堆積していることから、焼失家屋と思われる。

37号住居址は半分以上が調査区域外であり、南西隅の一部を調査しただけであるが、壁高50cmと深く、多量の遺物が出土している。また、ＦＡ火山灰の純層が認められている。

主柱穴は調査区域のほぼ中央に位置している。径26cm、深さ50cmを測る。貯蔵穴は南西隅に位置しており径80×68cm、深さ48cmを測る。

遺物は貯蔵穴の周縁部と主柱穴の周囲に多量に出土している。何れも床面直上、あるいは床密着の状態で出土しているが、ほとんどが潰れた状態での出土であり、出土位置から考えても、住居廃絶時点に投棄された可能性が強いと思われる。器種は壺、甕、高坏、甑、坩が出土している。



第51図　35･36･37号住居址実測図

―古墳時代後期の遺構―

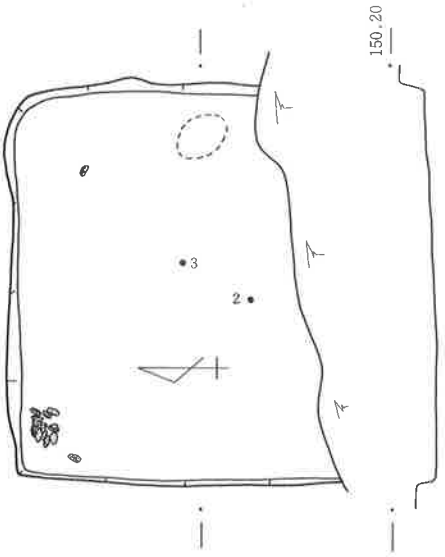
38号住居址（遺物Ｐ82，Ｐ88）

５－７グリッドに位置する。前期の３号住居址の上に乗る。南側を現代の耕作に伴う堀によって削平されている。同時期の遺構は、Ａ区内では約30ｍ西に位置する39号住居址だけであり、最も近い45号住居址でも大溝を挟んで北側約20ｍに位置している。

規模は東西約 4.0ｍを測り、南北は約3.3ｍが残存する。壁高は約30cmを測り、床面は北壁寄りを除いて堅い。３号住居址との床面の比高差は約25cmを測る。

主柱穴、カマド等の施設は検出されていないが、東壁直下の床面が焼土化しており、攪乱によって削平された部分にカマドがあったと思われる。

遺物は中央部の床面に、甕が潰れた状態で出土している。又、土器以外では、長さ10～15cmの河原石がまとまって出土している。



第52図　38号住居址実測図

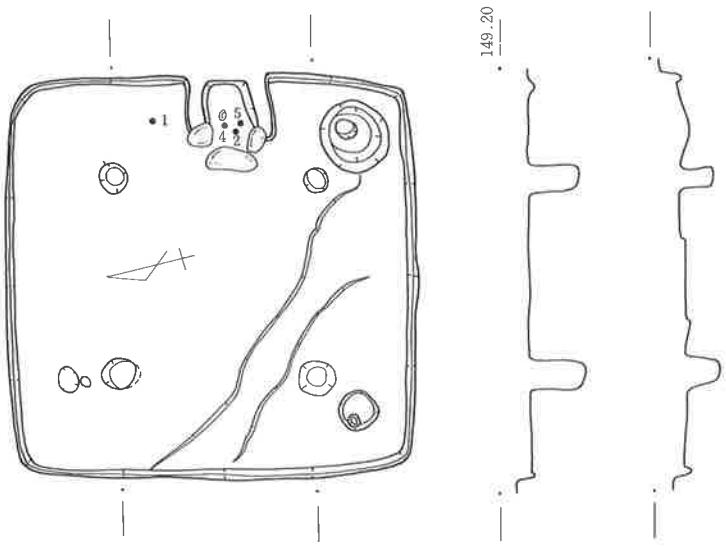
39号住居址（遺物Ｐ82，Ｐ88）

４－３グリッドに位置する。大溝の掘り込みの緩斜面に北東部がかかり、覆土上部は削平されているものの、明確な切り合いがみられず、新旧関係は判然としない。

一辺約 4.1ｍの隅丸方形住居である。壁高は南壁で23cmを測る。床面は硬いが、西壁直下から南壁にかけて２条の皺があり、最大約５cmの段差ができている。位置、形状等から判断して、前述した４号、８号住居址の皺、亀裂に類似するもので、人為的な構築物ではないと考えられる。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。袖の先端に河原石を立て、さらにその上にも石を横架させて粘土の補強材としたいわゆる鳥居状の石組みカマドである。天井石はカマド前面に崩落していたが、燃焼部の中央左寄りに支脚石が立てられ、甕と坏が架けられた状態で出土している。

主柱穴は対角線上に４本検出され、径27～38cm、深さ31～56cmを測る。南西主柱穴の脇にもピットがあるが、深さ11cmと浅



第53図　39号住居址実測図

く性格不明である。貯蔵穴は南東隅に付設され、径、深さ、ともに約70cmの円形で、２段に掘られている。

遺物はカマド内出土の甕、坏の外に、カマド周辺から坏が２個体出土している。

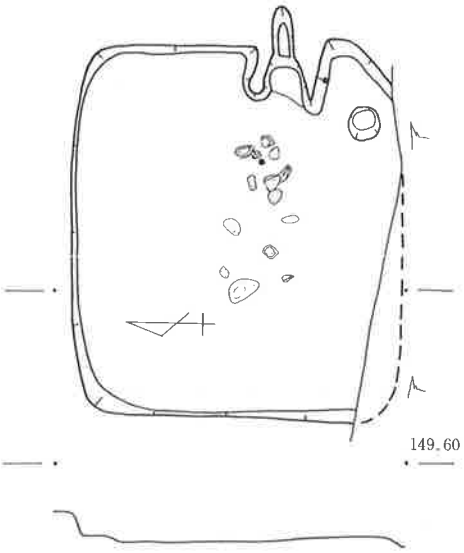
40号住居址（遺物Ｐ82，Ｐ88）

６－２グリッドに位置する。10号住居址を切り、東５ｍに41号住居址、北５ｍに42号住居址が近接する。大溝の北縁に位置しているが、南壁を表土剝ぎの際に削平したため、新旧関係は不明である。

東西 3.7ｍを測り、南北は約 3.4ｍが現存する。壁高は約30cmを測る。床面は軟弱で、薄く貼り床されている。

カマドは東壁に付設されている。残存状態は良くないが、粘土袖がかろうじて残っている。焚口幅約40cm、袖は右袖で60cmを測る。燃焼部は壁外へ出ないが、煙道部が約40cm壁外へ伸びている。カマド前面から住居の中央部にかけて多量の礫石が出土しており、カマドの補強材の可能性がある。

遺物は少量で、カマドの右袖の南から出土した甕の口縁部以外は全て小破片である。



第54図　40号住居址実測図

41号住居址（遺物Ｐ82，Ｐ88･89）

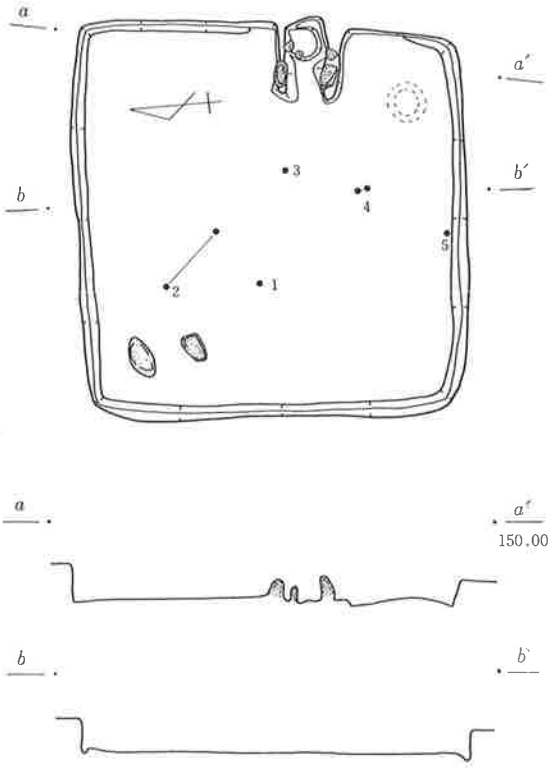
６－３グリッドに位置する。

東西 4.1ｍ、南北 4.0ｍのほぼ正方形を呈する住居であるが、北壁と東壁が若干長く歪んでいる。床は地山をそのまま床面としており、平坦で硬い。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。袖は左右２個ずつの礫を芯材として立て、粘土の補強をしている。住居の北西隅から細長く、扁平な軽石質の石が出土しており、形状、材質が他の住居址のカマドの天井石と同様であることから、これを天井石とした鳥居状の石組みカマドであったと思われる。燃焼部はわずかに壁外へ張り出し、底面に浅い掘り込みがある。中央部の若干左に寄って支脚石が立っている。焚口幅40cm程で袖は約90cmを測る。

貯蔵穴はカマドの南に位置している。実測漏れの為詳細は不明であるが、径、深さともに約50cmでほぼ直角に掘り込まれていた。

遺物は南東から北西方向の対角線に沿う床面から出土している。量的には多くないが、坏、甕がほぼ完形に近い状態で出土している。



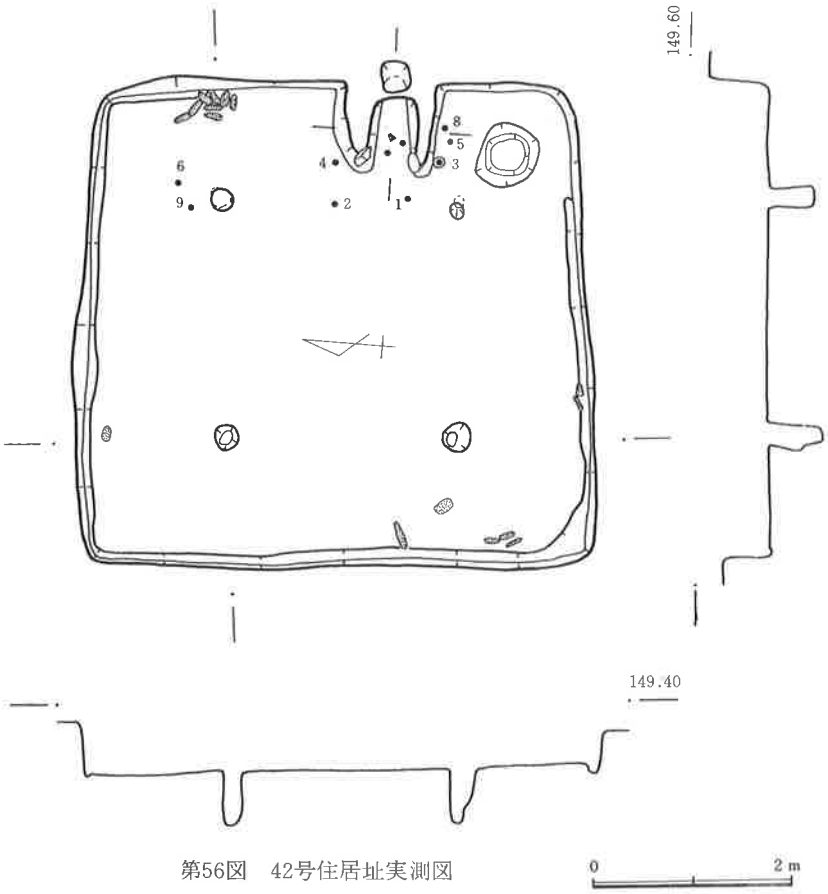
第55図　41号住居址実測図

42号住居址（遺物P83，P89）

7－2グリッドに位置する。40号、41号、43号住居址が近接する。

東西 4.9m、南北 5.2mを測る南北に若干長い方形住居である。床面は平坦で良く踏み固められており、壁はほぼ直角に立ち上がる。壁高は40～60cmを測り、東側が高くなっている。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。焚口に鳥居状の石組みを施したカマドであるが、天井石は崩落していた。燃焼部は浅く掘り窪められ、ほぼ中央に支脚石を立てていた。燃焼部から煙道が急角度で立ち上がり、壁外へわずかに張り出し煙出しへ至る。焚口幅40cm、袖の長さ約90cm、煙出し孔の径約30cmを測る。

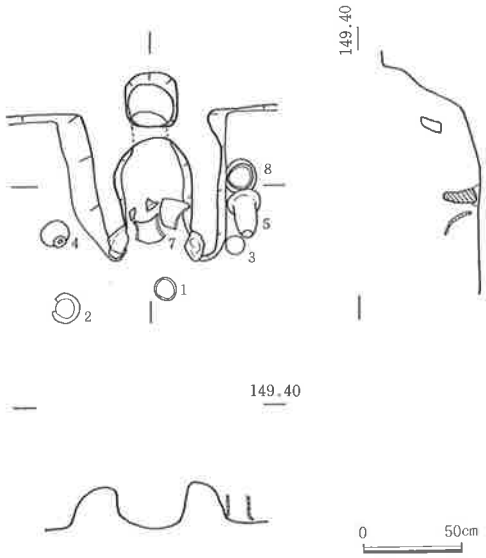


第56図　42号住居址実測図

主柱穴は対角線上に4本検出されているが、住居の平面形が弱い台形状を呈すのと異なり、ほぼ正方形に配置されている。南東主柱穴の径が細く、北東主柱穴がわずかに浅いが、他は同様の規模を有している。径20～30cm、深さ46～56cmを測る。

貯蔵穴は南東隅に壁から離れて位置している。径約60cmの円形を呈し、深さ77cmを測る。

遺物はカマド周辺を中心に、比較的良好な状態で出土している。カマド焚口には、甕の上半部が縦に半截され、焚口を閉ぐように並べられていた。右袖に接して南側には甑、甕、椀が置かれ、カマド前には坏と小型甑が出土している。北東ピットの北側には、覆土中であるが壺と小型甕が出土している。土器以外では棒状の河原石が何れも壁直下の床面に出土している。東壁直下には8個がまとまっていた。



第57図　42号住居址カマド実測図

II　田中田遺跡

43号住居址（遺物P83，P89）

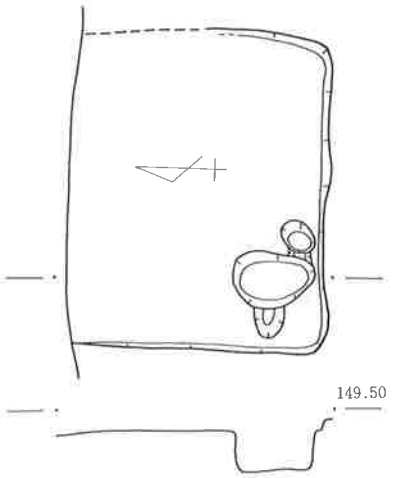
７－２グリッドに位置する。西４ｍに42号住居址が近接する。

北側を後世の攪乱により削平されており、全体の規模、形状等は不明である。東西 3.2ｍを測り、南北 2.6ｍが残存する。床面は平坦であるが軟弱で、壁高は約10cmと浅い。

南西隅にピットが検出されている。中央のピットは径82×70cm深さ41cmを測り貯蔵穴の可能性がある。両脇のピットはそれぞれ深さ21cmと40cmで性格は判然としない。

遺物はピット上に坏が１点出土しただけである。

東壁直下の床面に焼土が検出され、東壁にカマドが付設されていたと推察される。



第58図　43号住居址実測図

44号住居址（遺物P83，P90）

７－６グリッドに位置する。縄文時代のＪ１号住居址と重複している。東２ｍに45号住居址が近接する。

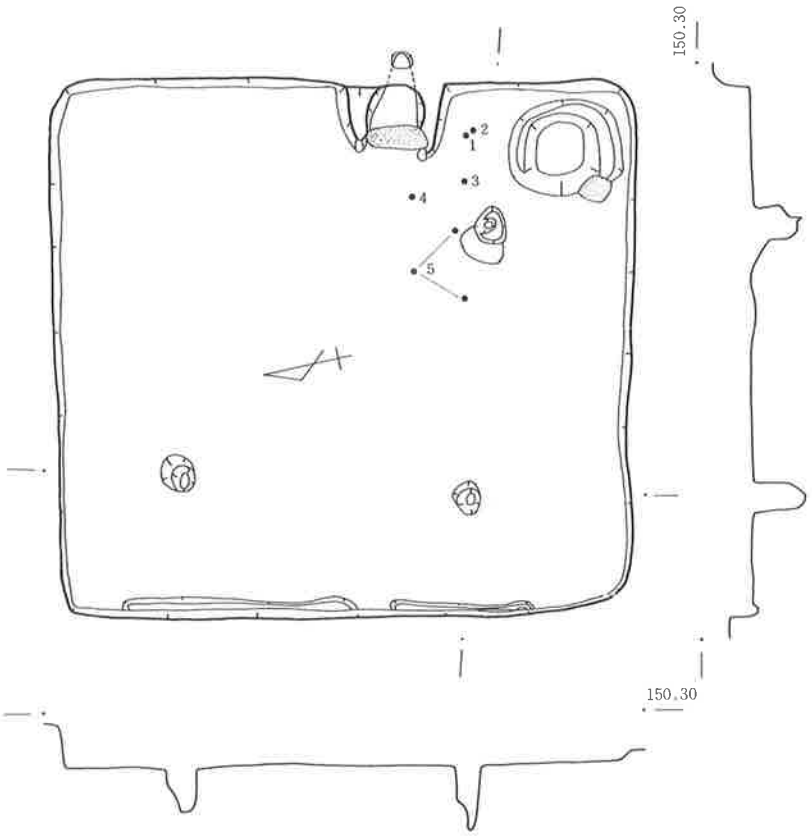
東西約 5.5ｍ、南北 5.9ｍの南北に長い長方形住居である。壁高は北壁で50cmを測る。床面は南半分は硬いが、北半分、特にＪ１号住居址との重複部分は軟弱である。西壁の一部分に壁周溝が検出されている。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。鳥居状の石組みカマドであるが、天井石は崩落していた。焚口幅40cm、袖の長さ約70cmを測る。煙道は壁外へ40cm張り出し、天井部の粘土が残存していた。煙出し孔は径25cmで円形を呈している。

主柱穴は３本検出された。径35cm前後、深さ48～63cmを測る。北東の１本はＪ１号住居址との重複部分にあると思われるが検出できなかった。

貯蔵穴は南東隅に位置し、２段に掘り込まれている。内側の掘り込みは径70cm、深さ60cmで正方形状を呈する。南西の縁に台石状の河原石が出土している。

遺物はカマド周辺に出土している。南東主柱穴



第59図　44号住居址実測図

の北西の床面から甕が２個体、覆土中～下位には東から流れ込むような状態で内黒の坏２個体と須恵器の坏が出土している。量は比較的多かったが、残存状態は余り良好でない。

住居の床面上には多量の炭化物、焼土、灰等が堆積しており、焼失家屋の可能性もある。

45号住居址（遺物Ｐ84，Ｐ90）

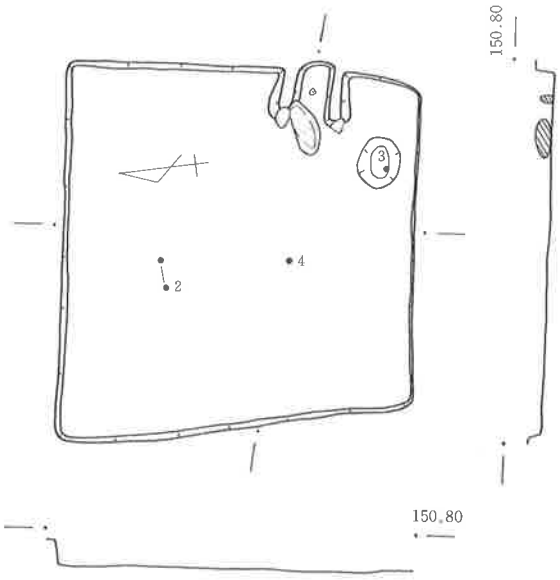
７－６グリッドに位置する。

中軸で東西 3.5ｍ、南北 3.5ｍを測るが、北壁が南壁よりも約80cm長い為に台形状を呈している。壁高は北壁で20cmを測る。

カマドは東壁南寄りに付設されている。鳥居状の石組みカマドであるが天井石は崩落している。燃焼部は平坦でわずかに壁外へ張り出し、中央に支脚石を立てている。焚口幅30cm、袖の長さ55cmを測る。

カマド焚口の南に貯蔵穴が付設されている。径51×42cmの楕円形を呈し、深さ49cmを測る。底位から甕の口縁部が出土している。

遺物は他に、中央北寄りの床面に甑が潰れた状態で出土している。



第60図　45号住居址実測図

46号住居址（遺物Ｐ84，Ｐ90）

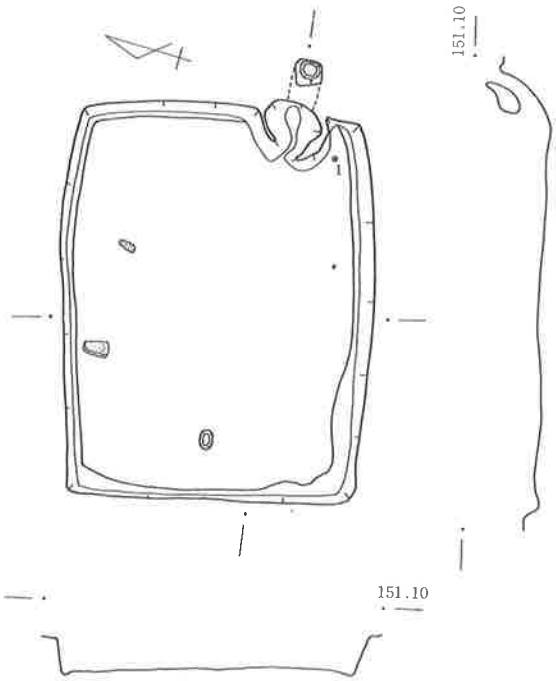
９－６グリッドに位置する。15号住居址と重複する。48号住居址が西５ｍに近接する。

東西 4.0ｍ、南北 3.2ｍの小型長方形住居で、本遺跡の後期住居址中、唯一軒だけ東西方向に長軸を有する住居址である。

カマドは東壁の南隅に偏して付設され、粘土だけを使って構築されている。天井部が遺存しており、焚口幅40cm、袖の長さ30cmを測る。又、煙出し孔は径16cmの円形で、壁外へ60cm張り出している。煙出し孔を補強していたと思われる粘土の一部が、カマド上部から住居中央部床面まで流れ出していく様子が、土層断面に観察できた。

西壁近くにピットが検出されたが浅く、柱穴かどうか判然としない。

遺物は小型甕と坏、流れ込みと思われる器台が出土しただけで量は多くない。



第61図　46号住居址実測図

II　田中田遺跡

47号住居址（遺物P84，P90）

８－５グリッドに位置する。

13号、14号住居址を切り、東２ｍに48号住居址、北５ｍに49号住居址が近接する。

東西 5.1ｍ、南北 4.8ｍを測る隅丸方形住居である。壁高は東壁で66cmを測る。

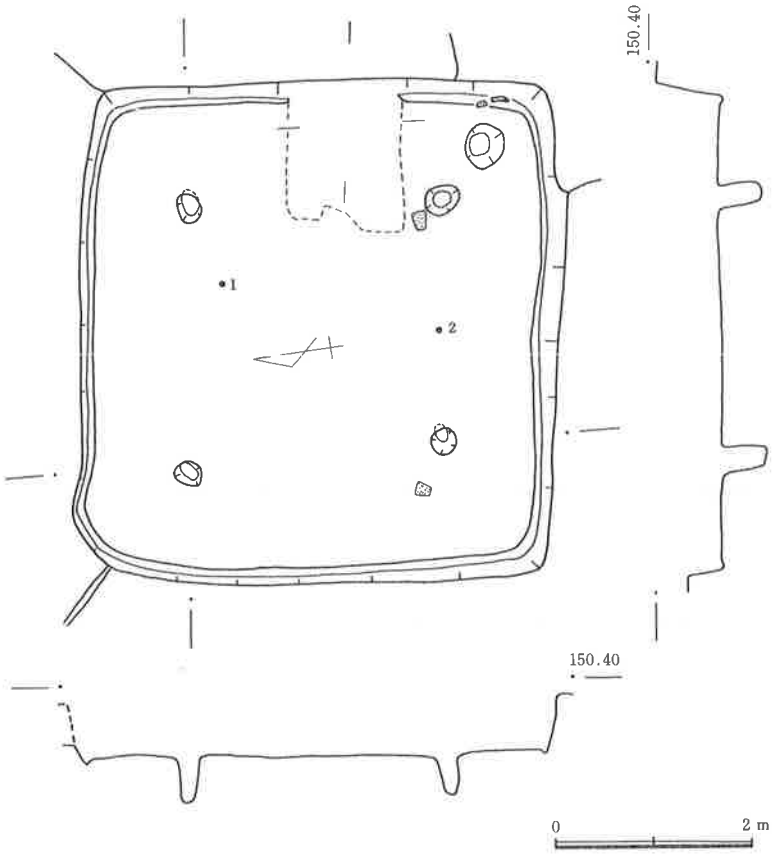
床一面を多量の炭化物、焼土灰が覆っており、焼失家屋と思われる。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。鳥居状の石組みカマドと思われるが、天井石は崩落していた。焚口幅30cm、袖の長さ80cmを測る。燃焼部は平坦で、中央左寄りに支脚石が立てられている。煙道部は急角度で立ち上がり、煙出し孔の先端で約30cm壁外へ張り出している。

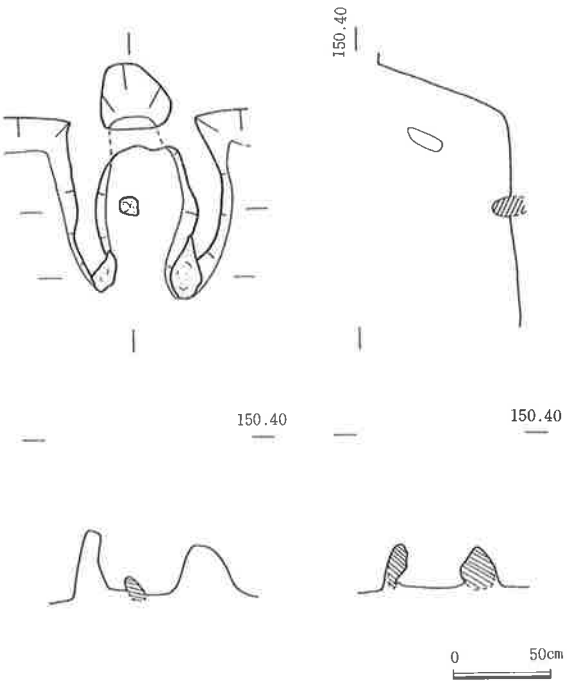
主柱穴は４本検出されたが、南西主柱穴は対角線上から若干東へずれて位置している。径30cm前後、深さは37～46cmを測る。

貯蔵穴は南東隅に壁から離れて位置し、径41×46cm、深さ76cmでほぼ円形を呈している。

遺物は少なく、高坏の脚部が覆土下層から出土した以外は、全て小破片であった。



第62図　47号住居址実測図



第63図　47号住居址カマド実測図

48号住居址（遺物P84，P90）

８－６グリッドに位置する。13号、14号15号住居址と重複し、何れよりも新しいと思われる。西２ｍに47号、北３ｍに49号、東５ｍに46号住居址が近接している。

中心軸では両方向とも約 6.8ｍを測るが北壁と西壁が長く、対角線の北西方向に張り出す為に歪んだ台形状を呈している。壁高は約50cmを測り、浅い壁周溝がほぼ全周

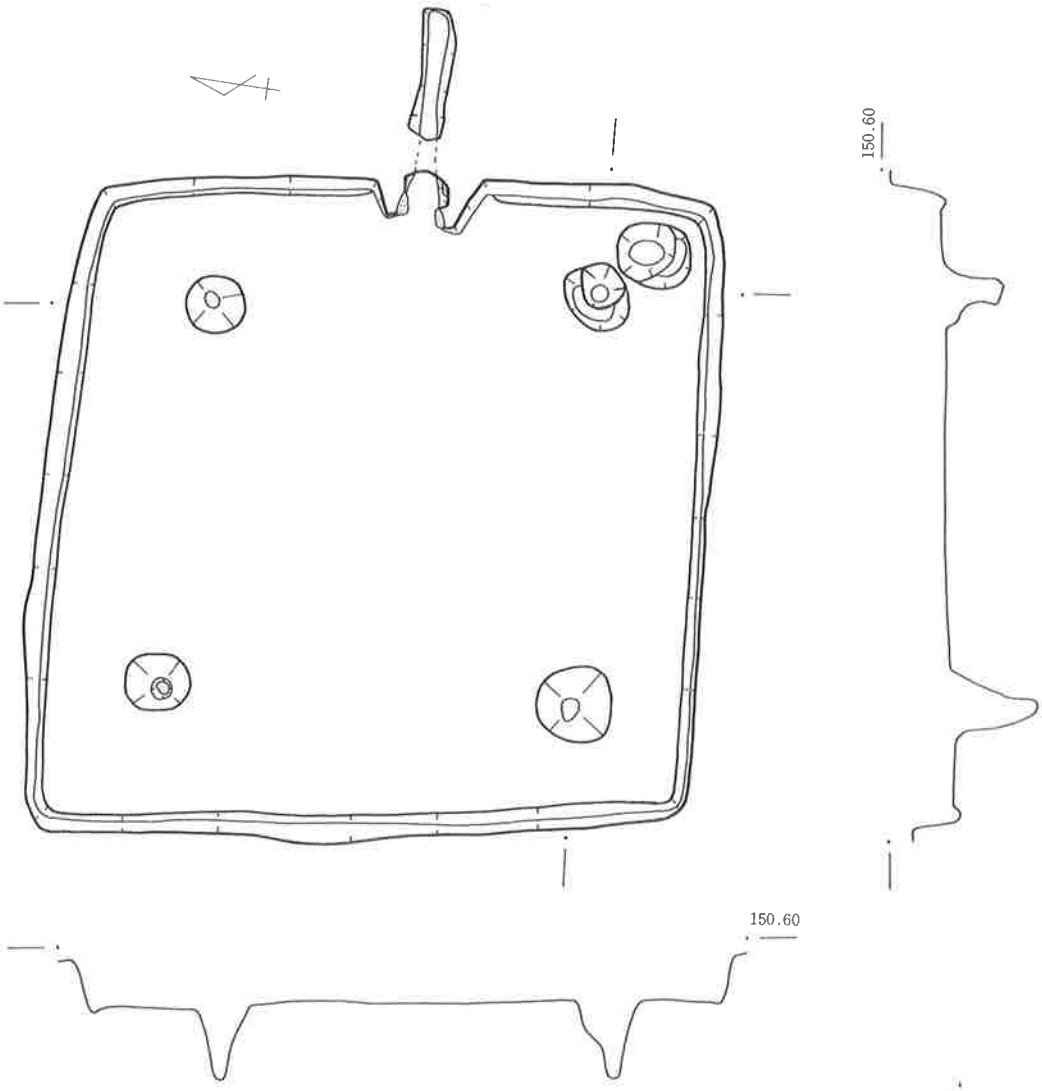
している。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。鳥居状の石組みカマドであるが、天井石は崩落していた。袖端に大きな河原石を立て、さらに袖内部にも左右１個ずつの河原石を用いて補強材としていた。天井石は長さ50cmで軽石質の石を用いていた。右袖の長さ56cm、焚口幅38cmを測る。燃焼部はわずかに壁外へ掘り込まれ、そこからさらに煙道部がゆるやかに立ち上がる。壁から煙道端までの長さ約 1.8mを測る。

主柱穴は住居平面形の対角線上に４本検出された。径60～80cmの円形の大きな掘り方を有するもので、深さ72～84cmを測る。

貯蔵穴は南東隅に位置しており、径76×68cm、深さ84cmを測る。

遺物は、カマド燃焼部から甕の大破片が出土した他は何れも小破片で、実測できたものは少ない。但し、須恵器の量が比較的多いことが特筆される。器種は、高坏、坏、大甕などである。



第64図　48号住居址実測図

II　田中田遺跡

49号、50号住居址（遺物Ｐ84，Ｐ91）

９－５グリッドに位置している。14号、16号住居址を切っている。

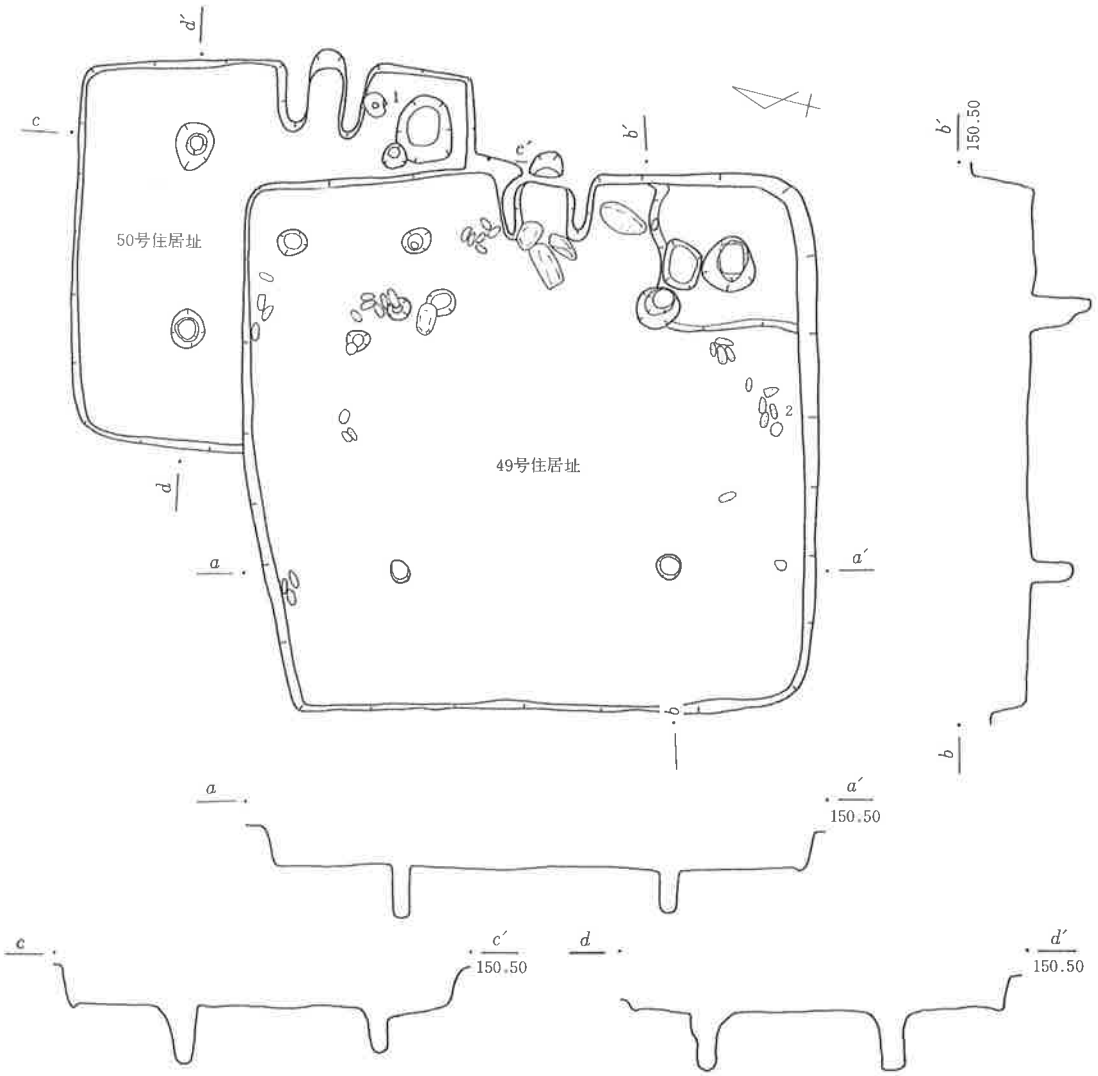
49号住居址は東西 5.4ｍ、南北 5.8ｍを測る南北に若干長い長方形住居址であるが、北壁が50号住居址の西壁との重複部分で曲折している。曲がり方には不自然さはあるが、明らかに50号住居址を意識して構築したものと思われる。壁高は東壁で約60cmを測る。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。鳥居状の石組みカマドと思われるが、石材は全て崩落していた。焚口幅45cm、袖の長さ約65cmを測る。燃焼部から急角度で煙道が立ち上がり、壁外へ15cm張り出す。天井部が遺存しており、煙出し孔の径35cmで半円形を呈している。

主柱穴はほぼ対角線上に４本検出されている。何れも柱痕部の径約20cm、深さは41～61cmを測る。

東南隅に一辺 1.5ｍ程の浅い方形の掘り込みがあり、その中央に貯蔵穴が掘られている。径55cmの円形で深さ50cmを測る。貯蔵穴の北にも浅いピットがあるが、性格不明である。なお、方形の掘り込みの底面は床状に硬くなっている。他に数個のピットが検出されているが、何れも性格不明である。

遺物は少量出土したが床面につくものはなく、覆土中から小型甕、甑、椀が出土している。土器以外では



第65図　49・50号住居址実測図

棒状の小型河原石が数個ずつまとまって出土している。またカマドの南床面に大型の台石状河原石が出土している。

50号住居址は一辺約４ｍの正方形住居と思われる。49号住居址との床面の比高差は15cmである。

カマドは東壁南寄りに付設されている。粘土だけを用いて構築されており、焚口幅30cm、袖の長さは約70cmを測る。燃焼部は壁外に出ず、煙道部が急角度で立ち上がり、わずかに壁外へ張り出している。

主柱穴は３本検出され、径25cm前後、深さ約50cmを測る。他の１本は49号住居址との重複部分に有ると思われるが、予想される位置には検出されていない。位置的には合わないが、深さ、規模等から判断して最も可能性が高いのは49号住居址の北東主柱穴である。

貯蔵穴は南東隅に壁から離れて位置する。径70×56cm、深さ40cmで隅丸長方形を呈している。

遺物はカマドの右袖に接して甑が出土しただけである。

床一面を焼土、炭化物、灰が厚く覆っており焼失家屋と思われる。

覆土下位には、Ｆ.Ａブロックを多量に混入する土層が堆積していた。

51号住居址（遺物Ｐ84，Ｐ91）

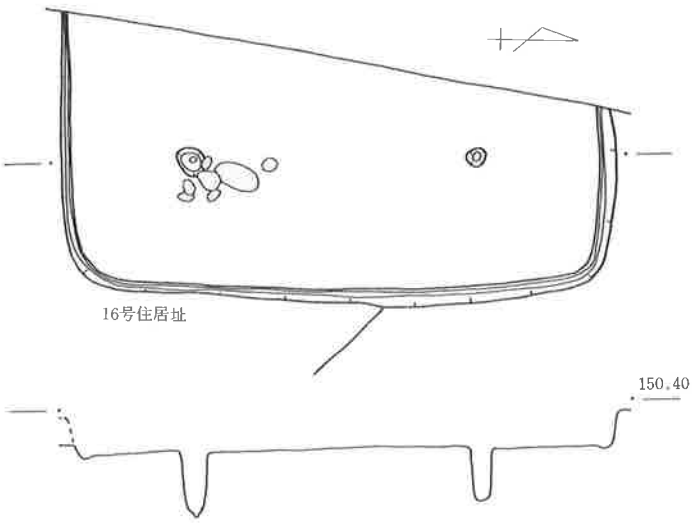
10－５グリッドに位置する。西側半分は調査区域外の為調査できなかった。16号住居址を切り、50号、52号、53号住居址が近接する。

規模は南北 4.6ｍを測り、東西は３ｍ程の範囲を調査した。壁高は43cmを測る。

カマドは検出されていないが、西カマドの可能性がある。

主柱穴は東壁寄りの２本が検出された。深さはそれぞれ54、65cmを測る。

遺物は床につくものがなく、覆土中から内黒坏、高坏等が出土した。



第66図　51号住居址実測図

52号住居址（遺物Ｐ85，Ｐ91）

10－６グリッドに位置する。18号住居址を切り、53号住居址が北５ｍに近接する。

東西 4.9ｍ、南北 5.2ｍを測り、南北に長い方形住居である。壁高は約30cmを測る。

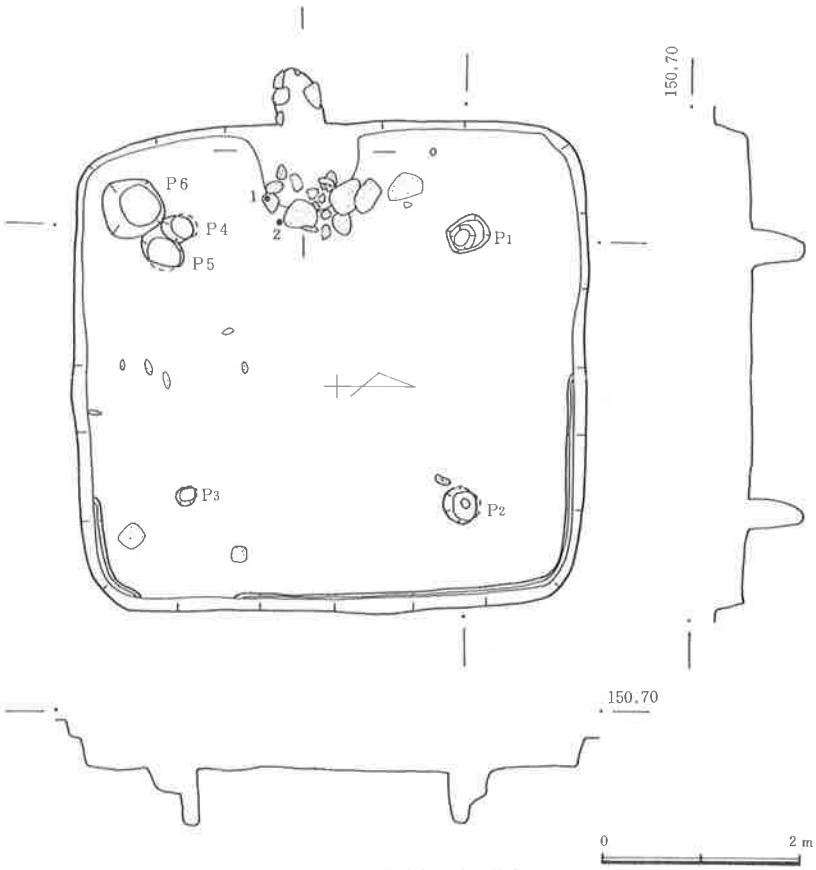
カマドは西壁の南寄りに付設されている。袖の遺存状況は悪く、粘土がほとんど崩れている。左袖の端に河原石が立てられており、補強材と思われる。右袖の端には補強材はないが、芯材と思われる小ぶりの礫が床に埋め込まれていた。焚口幅40cm、袖の長さは左袖の石までで70cmを測る。燃焼部の底面に小ピットがあり、支脚の抜けた跡と考えられる。燃焼部の奥から段を経て、煙道部が緩傾斜で立ち上がる。煙道部には両側に礫が立てられている。現状で右側２個、左側３個を数える。カマド前面に多量の礫が出土しており、煙道部側壁の補強材と同様の偏平な礫も多数みられることから、住居埋没以前の段階で住居内に崩落したことが推察できる。また、表土剥ぎの際に動いてしまった為に図示はしていないが、天井石も壁石の上に架けられた状態で数個が遺存していた。煙道部の内法20cm、長さ80cmを測る。遺存状態が悪い為に詳細は不明であ

るが、後述する53号住居址のカマドに類似した構造を有していたと思われる。

ピットは６ヵ所に検出された。そのうちでほぼ対角線上に位置するP_1～P_4の４本が主柱穴と思われる。規模は径20～40cm深さ50～76cmと一定していない。P_6は径約60cm、深さ20cmと浅いが貯蔵穴の可能性がある。P_5は深さ24cmと浅く、性格不明である。

遺物はカマド前面に潰れた状態で１個体、カマド左袖の石を覆うような状態で１個体の計２個体の長胴甕が出土した。

本住居址の床一面が焼土、灰、炭化物に覆れており、特に南壁から１ｍ程の範囲には厚く堆積し、床面、壁面ともに焼けていたことから焼失家屋と思われる。



第67図　52号住居址実測図

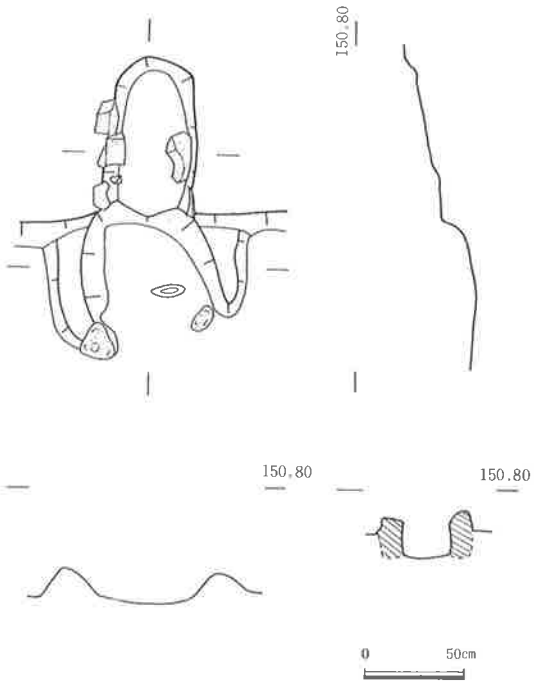
53Ａ・Ｂ号住居址（遺物Ｐ85，Ｐ91～93）

11－５グリッドに位置する。前期の22号住居址を切っている。52号住居址が南４ｍ、54号住居址が東３ｍに近接する。

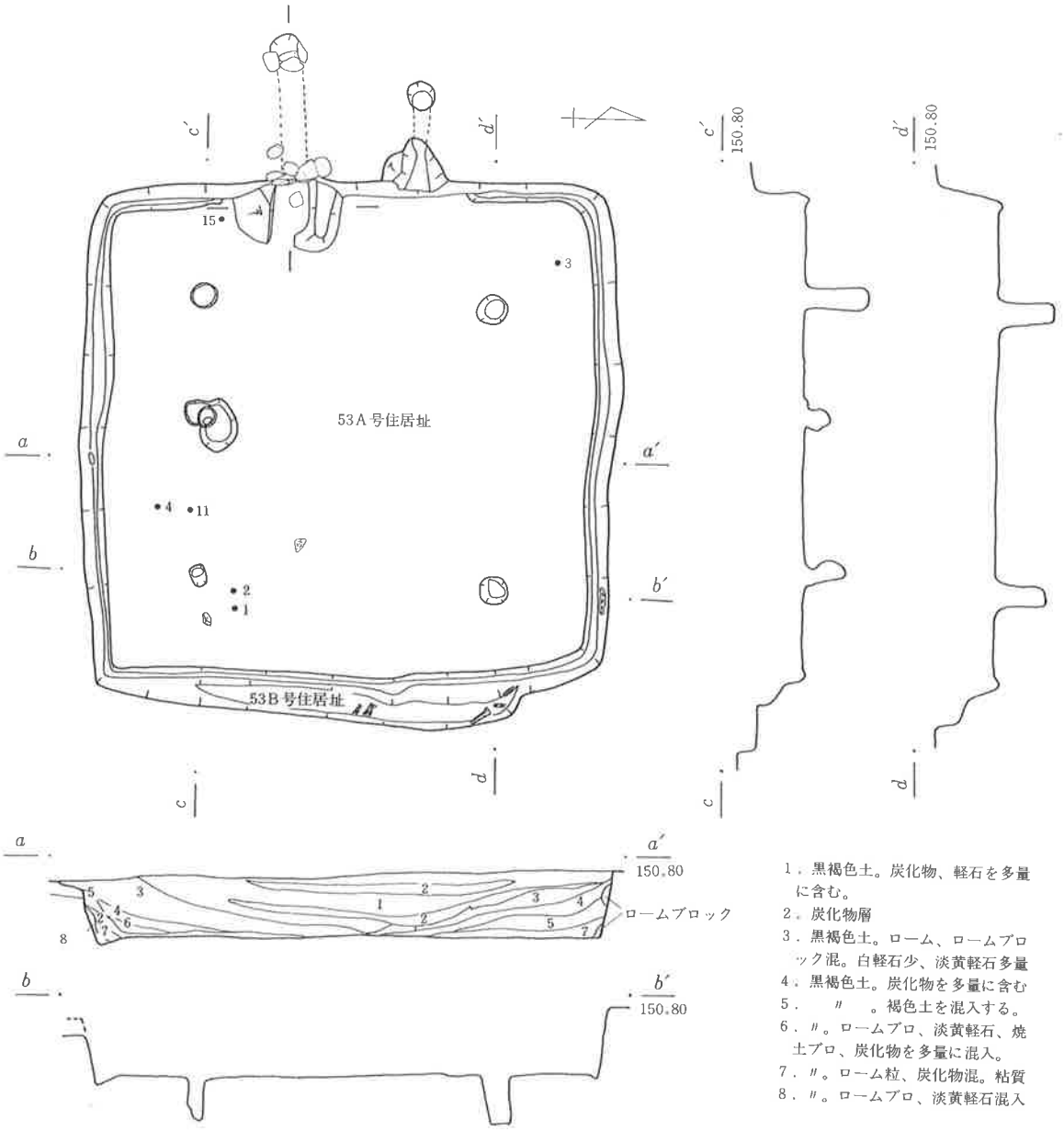
53Ａ号住居址の東壁の中段から上に張り出し部分があり、付帯施設の可能性も考えたが、以下の諸点により重複住居と判断した。

①張り出し部分は53Ａ号住居址の東壁から北側で20cm程張り出すが、南側では無くなってしまう。

②53Ａ号住居址の形状が南北の中心軸を境として西側全体が北へずれる為に歪んでいる。つまり、53Ａ号住居構築時点で53Ｂ号住居址を意識して掘り方を変更した可能性がある。



第68図　52号住居址カマド実測図



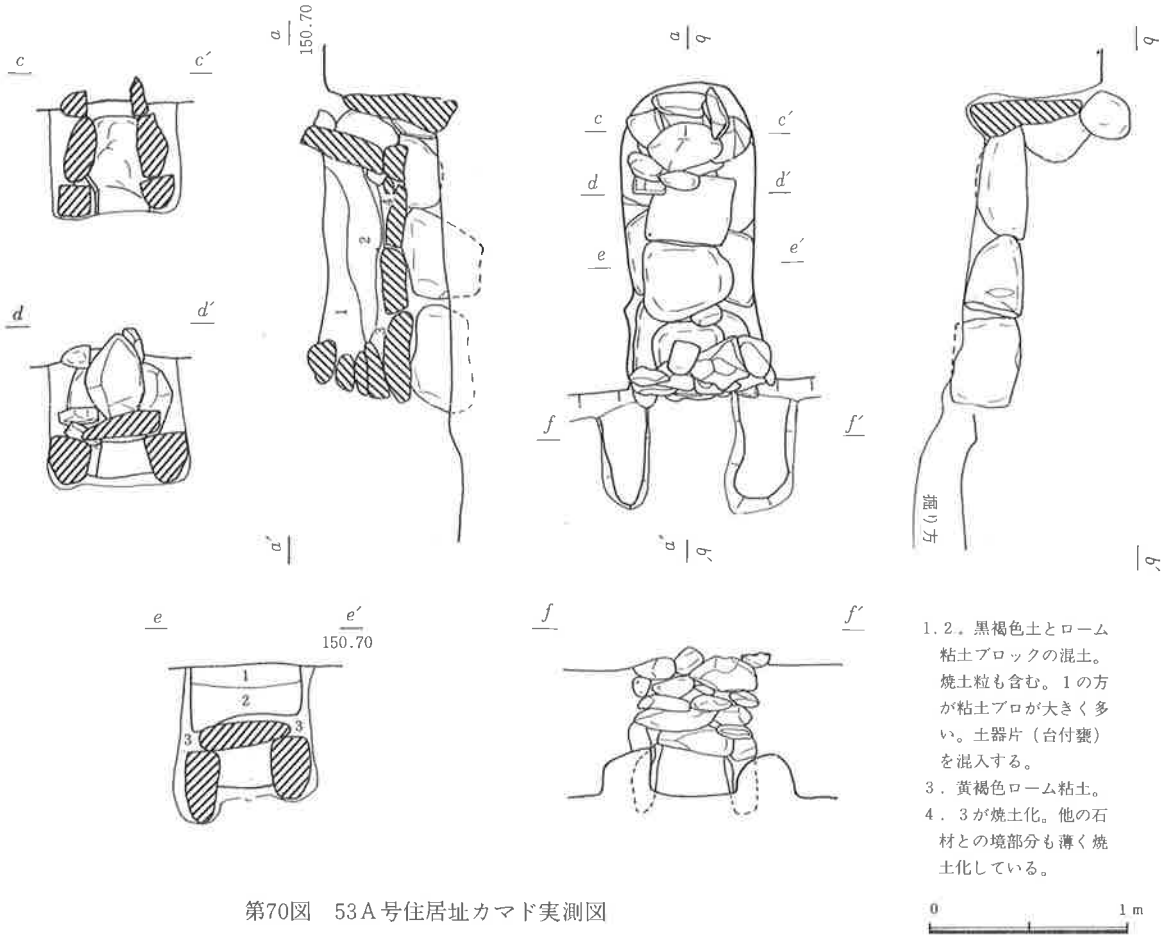
第69図　53A・B号住居址実測図

③53A号住の西壁にカマドが2基付設されており、南側のカマドの主軸は住居の主軸とほぼ一致するが、北側のカマドは北側へずれている。さらに、北カマドの主軸と張り出し部の壁の方向はほぼ直交する。

④53A号住居址の覆土中位に多量の炭化物が流れ込んでおり、53B号住居址の壁面、床面にも多量の炭化材が密着している。つまり、53A号住の構築時に排出した土（53B号住の覆土が含まれる）を住居の周囲に積んでおいたものが、住居廃棄後に埋積したと推察できる。

調査時点では単一遺構としてとらえ、又、時間的な制約もあって53A号住の床下調査が行なえず、53B号住の主柱穴の検出ができなかった点が悔やまれるが、以上の4点をもって本遺構は重複住居であり、53A号住が新しいと判断した。

53A号住居址は東西 5.6m、南北 5.9mを測り、ほぼ正方形状を呈する。壁高は東壁で73cm、西壁で62cm



第70図　53A号住居址カマド実測図

を測る。床は厚く貼り床され良く踏み固められている。浅い壁周溝が西壁の一部を除いて巡っている。

カマドは西壁の南寄りに付設されている。袖は粘土だけを用いて構築され、焚口幅約40cm、袖の長さは右袖で60cmを測る。燃焼部からわずかな段を経て煙道部が壁外へ伸びている。煙道部は壁から 1.4m程は緩傾斜が続き、そこから急傾斜で立ち上がって煙出しへと至る。煙道部は石材を用いて構築されている。側壁の補強に長さ40～60cmの石材を左右3個ずつ並べ、この上に偏平な石材を4個並べて天井部の補強を行なっている。さらに、奥壁の補強に長さ60cm程の偏平な石材を立てかけ、大小の礫を積んで煙出し部分を構築している。住居側の天井石の上にも大小の礫が積まれており、天井部の埋土の崩落を防ぐ為と思われる。なお、各石材、礫の間には粘土が間詰めされていた。煙道部の内法は40cmを測る。

表土剝ぎの際に、最上位の石材を削平した可能性があるが、カマド使用時の原形をほぼそのまま止めていると思われる。

主柱穴は対角線上に4本検出されている。南東主柱穴の規模が若干小さいが、他の主柱穴は径約30cm、深さ約60cmを測る。南側主柱穴間に位置するピットは、入口施設に関連する可能性がある。

遺物は多量に出土したが、床面につくものは少ない。南東主柱穴の周囲に6個体の坏が出土し、カマド左袖の南から甕の胴上部が出土しただけである。覆土中からは石製紡錘車と多量の坏が出土している。

53B号住居址は、東壁とカマドの位置から推定すると、規模は東西5m前後、南北4m強の東西に長い長方形住居と思われる。壁高は約40cmを測る。

カマドは煙道部が約 1.2m残り、天井部も遺存している。煙出し孔は径30cmを測る。

54号住居址（遺物Ｐ85，Ｐ93）

12－６グリッドに位置する。25号住居址の北西を切り、北１ｍに55号住居址が、北東２ｍに56Ｂ号住居址が近接する。

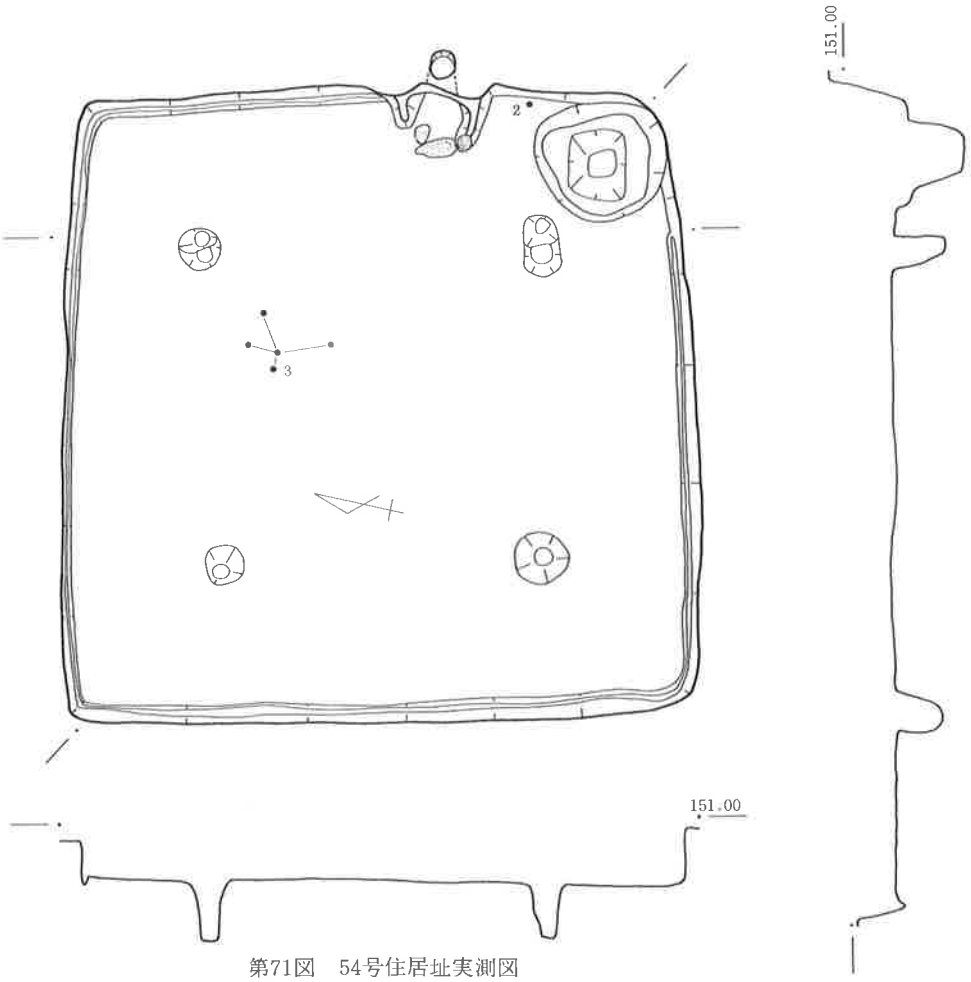
東西 6.4ｍ、南北 6.5ｍを測るが、西壁が東壁よりも長く、わずかに台形状を呈する方形住居である。壁高は東壁で50cmを測り、西へ行くに従い浅くなる。

床面はカマド前面から主柱穴に囲まれた範囲は硬いが、周縁部では軟弱である。浅い壁周溝が巡る。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。鳥居状の石組みカマドであるが、天井石は崩落している。また左袖の粘土の先端が半分程崩壊しており、補強材の石だけが床面に埋め込まれて立っている。袖先端の補強材には円礫を、天井石には軽石質で長い石材を用いている。焚口幅約30cm、袖は右袖で約70cmを測る。燃焼部から急角度で煙道が立ち上がり、煙出し孔へと続いている。煙道の張り出しは壁から40cm、煙出し孔は径25cmの円形である。カマド構築材の枯土が流れ出し、住居址中央部の床面を覆っている。

主柱穴は４ヵ所に検出されたが、東側の２本に重複がみられ、建て替えの可能性もある。深さ47～65cmを測る。貯蔵穴は南東隅に位置する。周囲を円形に浅く掘り、そこからさらに長方形に深く掘り込んでいる。長径70cm、短径60cm、深さ71cmを測る。なお、北東隅の貼床を貯蔵穴と間違って掘り過ぎた。

遺物は少なく、カマドの南側の壁直下に壺が、北東主柱穴脇に甕が潰れた状態で出土しただけである。



第71図　54号住居址実測図

II　田中田遺跡

55号住居址（遺物P86，P93）

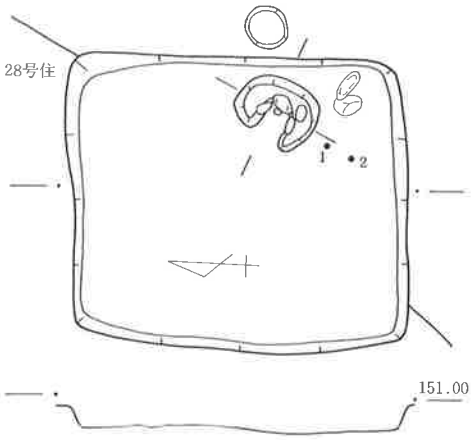
12－6グリッドに位置する。28号住居址を切っている。54号、56号住居址が近接する。

東西約 3.0m、南北約 3.4mの小型長方形住居である。壁高は南壁で28cmを測る。

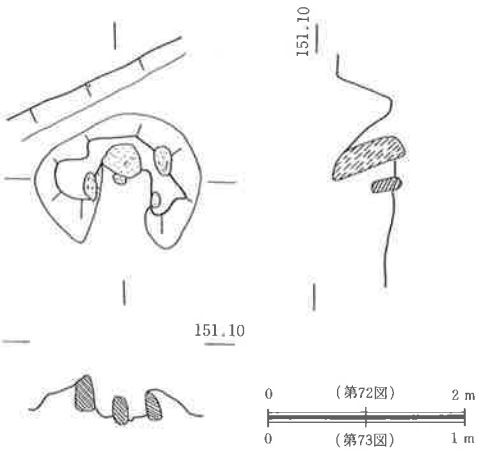
カマドは東壁沿いの南寄りの床面に、壁から離れて付設されている。燃焼部だけが構築されており、煙道部は検出されていない。円礫を立てて馬蹄形に並べ、そこに粘土を盛っている。焚口は住居の中央方向を向いて開いている。燃焼部には支脚石が立てられているが、奥寄りに偏している為に、平面的には粘土の補強石材と重なり合っている。構築後に石材が内側へ傾いた可能性がある。焚口幅30cm、燃焼部の長さ40cmを測る。

カマド以外の施設ではピットが検出されている。径、深さともに12cmを測るが、柱穴であるか不明である。東壁の外にもピットが検出されている。径45cm、深さ60cmを測るが、住居址の規模に合わず、帰属は不明である。

遺物はカマドの南西に甕と、壺の下半部が出土している。この甕は、底部が中心よりもかなり偏した不自然な位置に付けられており、断定は出来ないが、カマドの構造に合わせて作られたことも考えられる。



第72図　55号住居址実測図



第73図　55号住居址カマド実測図

56A・B号住居址（遺物P86，P93･94）

12－6グリッドに位置する。切り合い関係では56A号住居址の方が新しいが、柱穴の配列に不自然な点があり、単純に56A号住居址が新しいと判断することはできないと思われる。

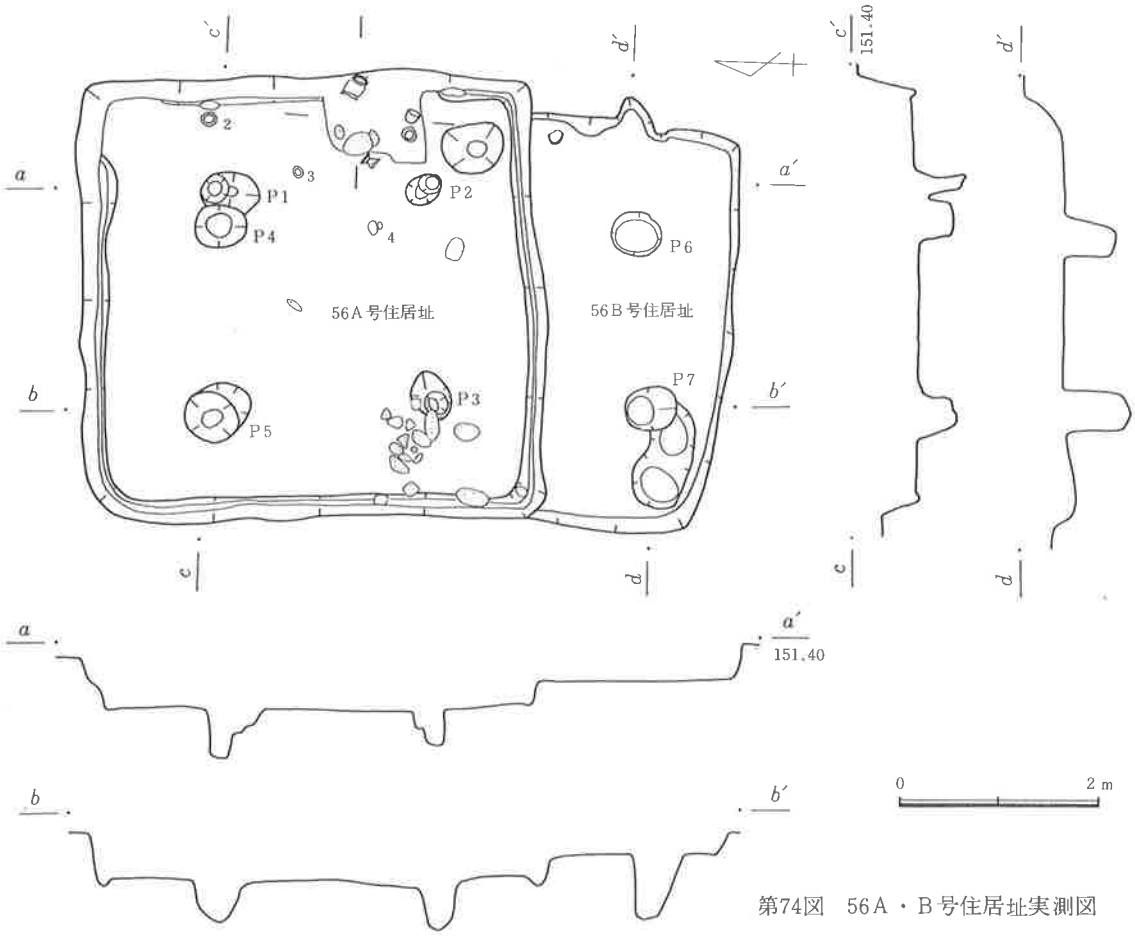
56A号住居址は東西 4.4m、南北 4.7mの南北に若干長い方形住居址で、壁高は東壁で約50cmを測る。

床は良く踏み固められており、浅い壁周溝が巡っている。

カマドは東壁の南寄りに付設されており、遺物が多数出土した。鳥居状の石組みカマドと思われるが、焚口の天井石は崩落していた。袖あるいは天井部の粘土は、他の住居址にみられる黄褐色ローム粘土ではなく褐色粘質土が使われている。焚口幅30cm、袖の長さは右袖で約70cmを測る。燃焼部の中央に小さな礫が浅く埋め込まれており、支脚と思われる。平坦な燃焼部から煙道が急角度で立ち上がり、検出面で壁外へ約30cm張り出している。煙道の住居側壁面に大小2個体の甕が出土している。口を住居内に向け横倒しの状態で上下に重なり合っており、底部が煙道内に出ている。不自然な出土状態ではあるが、壁の補強材とも考えられる。カマドの右袖に接して台状施設が設けられている。長さ70cm、幅25cm、高さ約10cmを測り、短頸壺と甑が上に乗っていた。カマドと異なり、黄褐色ローム粘土で構築されていた。

貯蔵穴は東南隅に壁から離れて位置している。径70×50cm、深さ40cmで楕円形を呈する。

遺物は前記したもの以外に、カマド燃焼部に坏、石斧、円礫が、カマド焚口に高坏が、カマド周辺に坏、椀が出土している。



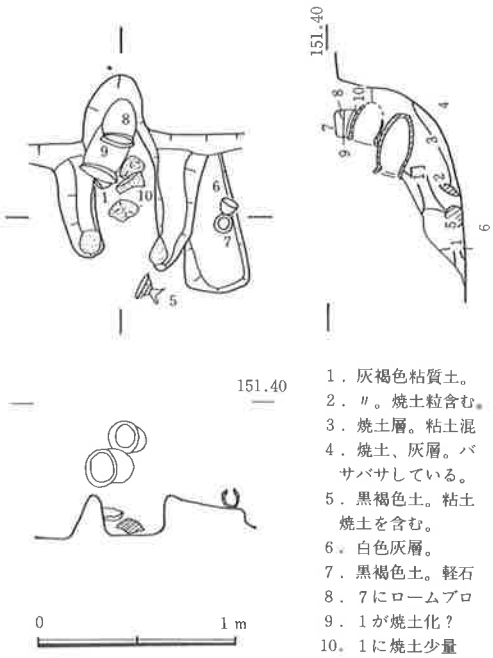
第74図　56A・B号住居址実測図

56B号住居址は56A号住居址に北側を切られた状態で検出された。住居址の主軸は、56A号住居址よりも約10°南に傾いている。

東西は 4.1mを測り、南北は 2.2m程残存する。壁高は東壁で32cmを測る。床は西端が軟弱であるが、カマド周辺は平坦で硬くなっている。56A号住居址の床面との比高差は約20cmである。

カマドは東壁の残存部分のほぼ中央に付設されている。袖はほとんど崩壊しているが、床面に粘土の袖痕が残っている。煙道部が壁外へ20cm程掘り込まれている。カマド前面の床が径約30cmの円形に焼土化しており燃焼部と思われるが、この燃焼部と煙道部の間約30cmの範囲の床面は焼土化しておらず、灰と炭化物が検出されただけである。東側のピットの北東床面も焼土化していた。

遺物は少なく、坏と甕の破片だけであるが、カマド前面から北にかけて多量の炭化物が厚く堆積し、その一部は56



第75図　56A号住居址カマド実測図

A号住居址に流れ込んでいた。

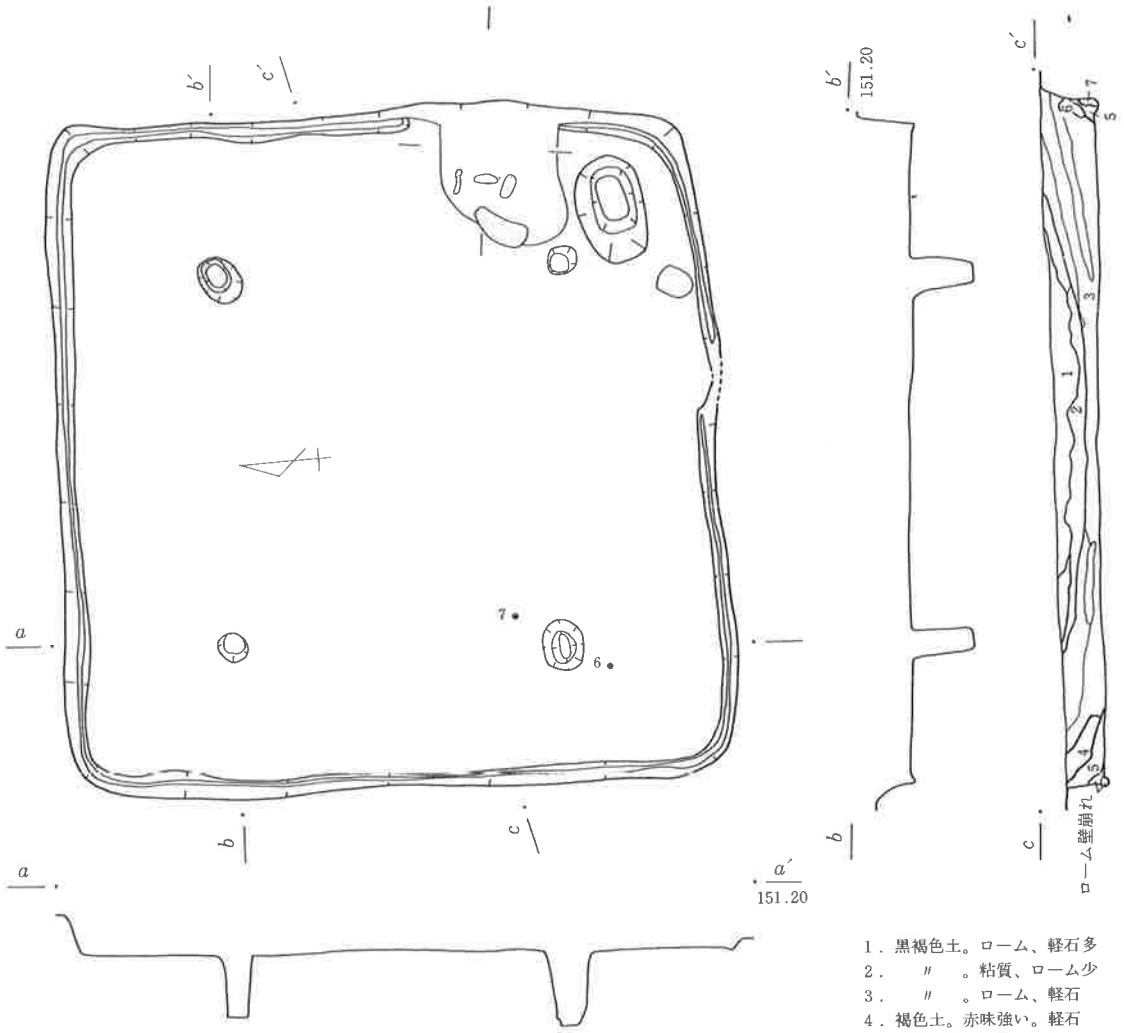
56A号、56B号住居址内には多数のピットが検出されている。56B号住居址の南西隅のピットは浅く、性格が不明である為除外するが、他の6ヵ所に検出されたピットは柱穴と思われる。各柱穴の規模、形状、深さから判断すると、P_1、P_2、P_3は56A号住居址の主柱穴と思われる。56B号住居址に検出された2本の柱穴は南壁と並行せず、逆に56A号住居址の南壁の走向と並行している。又、P_4、P_5と同様の規模、形状を有しており、この4本が関連を持つと考えられる。さらに、P_1、P_4、(P_5)が重複していることから、56A号住居址の主柱穴と、P_4～P_7が同時に存在したとは考えられない。

P_1、P_4の切り合い関係の調査を行わなかったので、各主柱穴群間の新旧は不明であるが、56A号住居址に関連すると思われるP_6、P_7が壁外である56B号住居址内にあることから、単純に56B号住居址廃絶後、56A号住居址が構築されたのではないと思われる。

57号住居址（遺物P87，P94）

14－5グリッドに位置する。前期の31号、34号住居址を切っている。東3mに58号住居址が近接する。

東西 6.8m、南北 6.6mを測る、若干東西に長い隅丸方形住居である。壁高は東壁で約55cmを測る。床面は

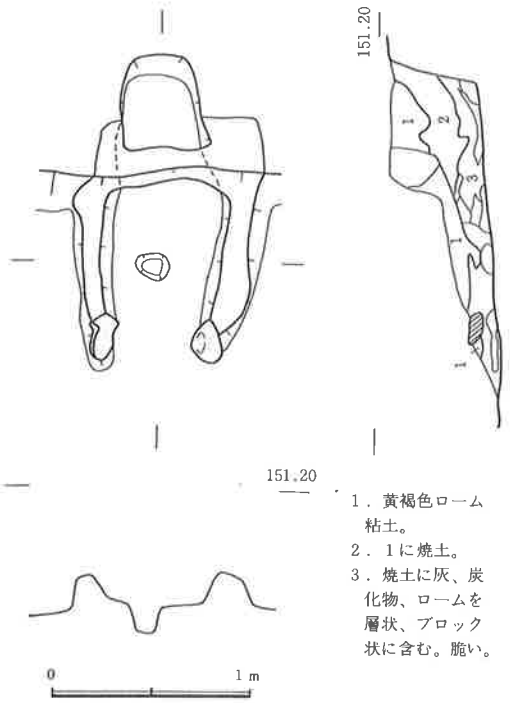


1．黒褐色土。ローム、軽石多
2．　〃　。粘質、ローム少
3．　〃　。ローム、軽石
4．褐色土。赤味強い。軽石
5．黒褐色土。炭化物を含む。
6．5に焼土粒、ロームブロ
7．黒褐色土。炭化物、ローム

第76図　57号住居址実測図

平坦で、ほぼ全面が良く踏み固められている。幅約15cm、深さ約７cmの壁周溝がカマド部分を除いて全周しているが、31号住居址の北東主柱穴の部分で一旦切れ掘り替えている。

カマドは東壁に付設されているが、かなり南に偏している。鳥居状の石組みカマドであるが、天井石は崩落している。多量の炭化物、焼土、灰がカマドの焚口から南へ流れ出し、床面を厚く覆っている。カマドの構築材である粘土はほとんど流れ出しておらず、架け口は遺存していなかったが、ほぼ使用時の形を止めていると思われる。焚口幅約40cm、袖の長さは約１ｍを測る。燃焼部は平坦でほぼ中央にピットがあり、支脚石の抜き跡と思われる。燃焼部と煙道部の境は明確でないが、煙道は壁外へ60cm程張り出し、焚口から1.6mの所で急角度で立ち上がっている。煙出し孔は現状で径60×40cmを測る。袖の内側から煙出し孔まで粘土の壁面が良く焼けていた。



第77図　57号住居址カマド実測図

主柱穴は対角線上に４本検出されている。径は多少異なるが、深さは63～78cmでほぼ同様の規模である。

貯蔵穴はカマドの南に位置している。周囲を浅く掘り、そこからさらに径80×40cm、深さ 115cmの隅丸長方形に深く掘り込んでいる。中から遺物は出土していないが、灰褐色粘質土が厚く堆積していた。

遺物は多量に出土しているものの遺存状況は余り良好ではない。床面直上にはほとんど出土していない。カマド内底面から甕の破片が数点、覆土下層から何れも潰れた状態で甕が２個体出土している。覆土中から出土した遺物の方が良く残っており、住居の南西隅に完形の甕が、貯蔵穴近くの南壁直下から内黒の坏が２個体、北壁の中央部直下から内黒の高坏が出土している。なお、時代は異なるが、弥生時代中期と思われる土器片が多量に出土している。

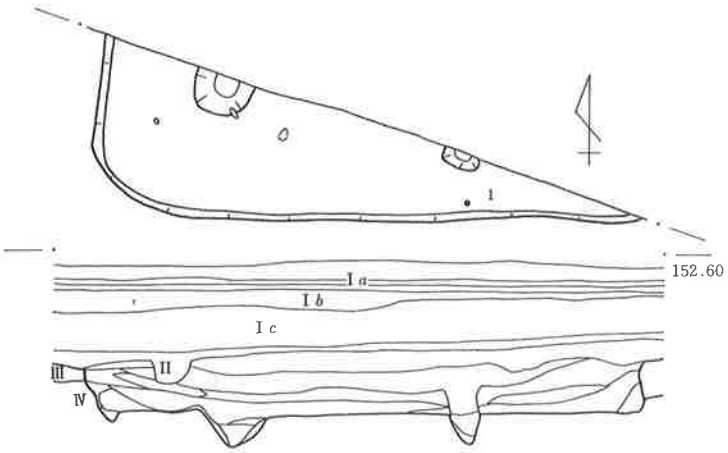
58号住居址（遺物Ｐ87，Ｐ95）

調査区域の最北端、14－６グリッドに位置する。北側のほとんどが調査区域外である。35号、36号住居址を切っている。

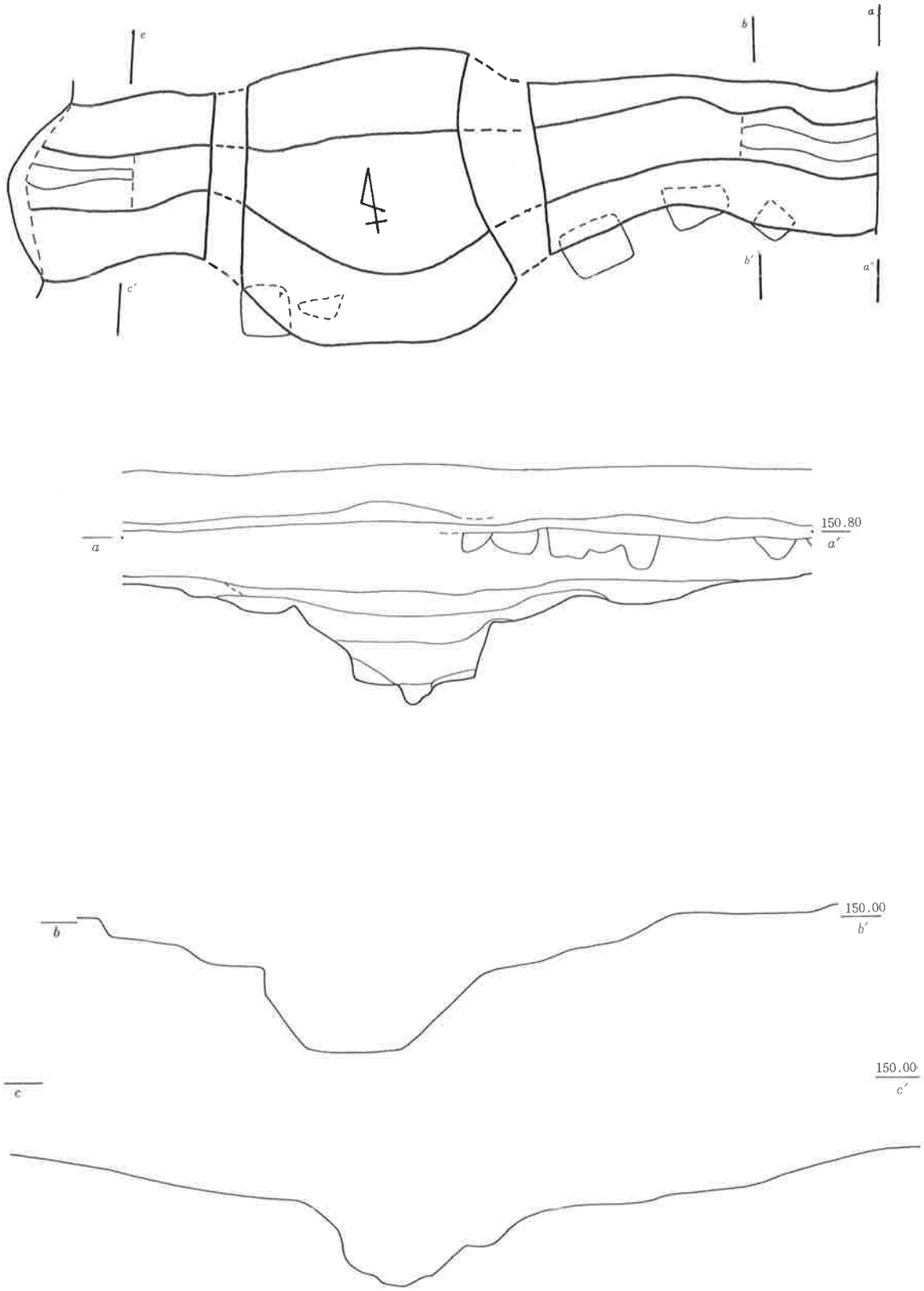
南壁は現状で約 5.7ｍを測り、壁高は土層断面で40cmを測る。

ピットが２本検出されたが、東側のピットは攪乱であり、西側のピットが主柱穴と思われる。

遺物は南壁直下に坏が１点出土しただけである。



第78図　58号住居址実測図



第79図　溝　実　測　図

溝

調査区域の南寄り中央部をわずかに蛇行しながら東西方向の走行を示す溝が検出されている。調査部分の中程で幅が広くなっているが、調査期間の関係もあり、全掘はしていない。重機を用いて中段までの掘削を行ない、東・西両端は底面までの調査を行なった。

長さは現状で約70m、幅は東端部の検出面では約10m、中段で約５mを測る。中央の拡幅部分は検出面で約25m、中段で約８mである。深さは、東端部では検出面から2.5m、中段から1.7mを測る。

覆土は上層に軽石を多量に含む黒褐色土が厚く堆積し、中段からロームの流れ込みがみられる。中～下層には砂層、粘質土層が幾重にも互層をなしており、比較的長期間に亘って機能していたことが推察される。又、最下層には多量の遺物とともに砂礫が厚く堆積しており、かなりの水量があったと思われる。

遺物は底部の砂層中から多量の土器、石器等が出土し、覆土中からも比較的多くの遺物が出土している。遺物の時期は、縄文時代早期から平安時代までのものが出土しているが、平安時代の遺物は覆土の最上層から出土した高台付椀の一点だけであり、奈良時代の遺物は出土していない。また、底部砂利層中の遺物は、古墳時代後期（鬼高II期）のものまでであり、中段直下から古墳時代終末期の杯が多数、ほぼ原形のまま出土していることを併せて考えると、鬼高II期に徐々に埋没していき、III期にはほとんど中段までが埋まって溝としての機能を失っていったことが推察される。

(4)時期不明の遺構と遺物

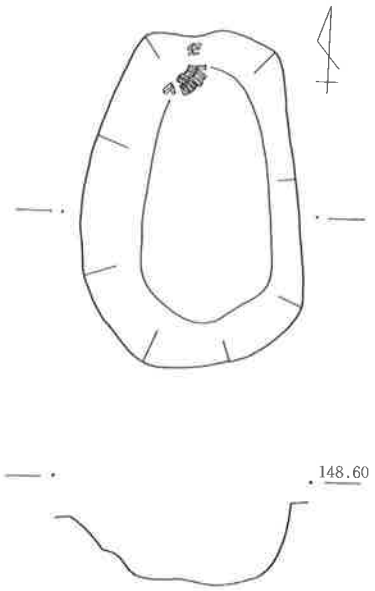
土坑墓

４－２グリッドに位置する。古墳時代の９号住居址のすぐ東側に近接して検出された小型の土坑墓である。

長径1.8m×短径1.2m、深さ40cm程の楕円形を呈する。

覆土はロームブロックを多量に含む黒褐色土で、特に西側は固くしまっていた。

遺物は北端部の覆土中位に馬の歯がまとまって出土したが、他の骨等は出土していない。又、土器片等の出土もない為、時期は不明である。ただ、土坑墓掘削時と思われる土の移動によって９号住居址の東隅が攪乱を受けているので、古墳時代前期前半以降の土坑墓である。

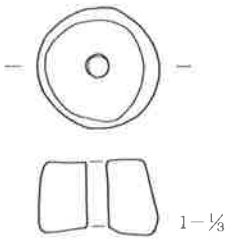


第80図　土坑墓実測図

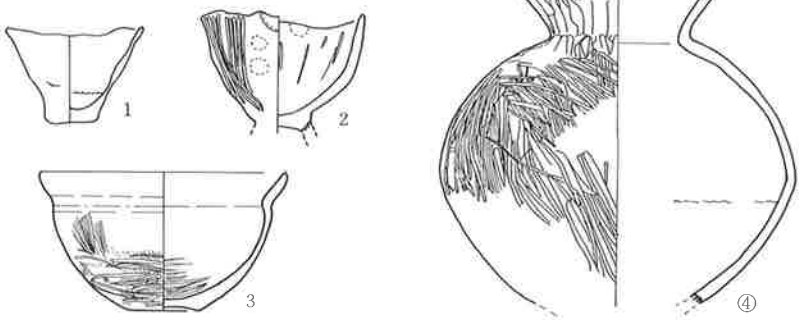
II　田中田遺跡

―古墳時代前期の出土遺物―

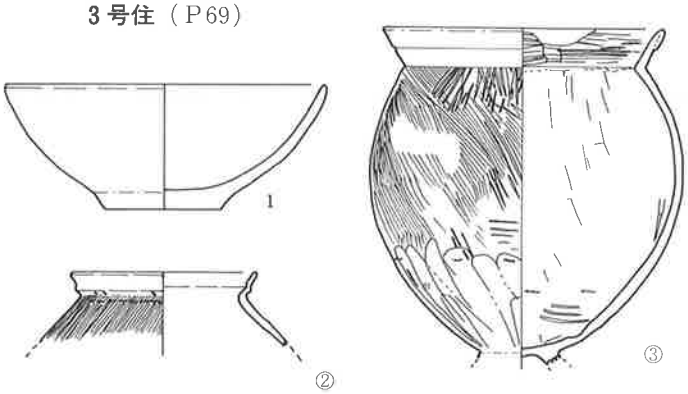
1号住（観察表　P69）



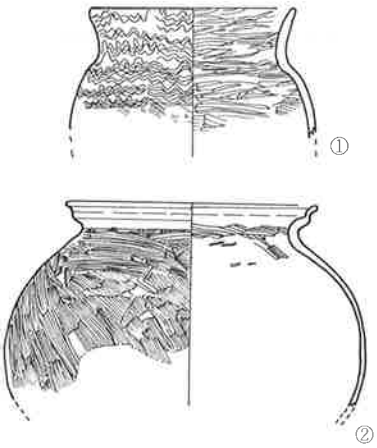
2号住（P69）



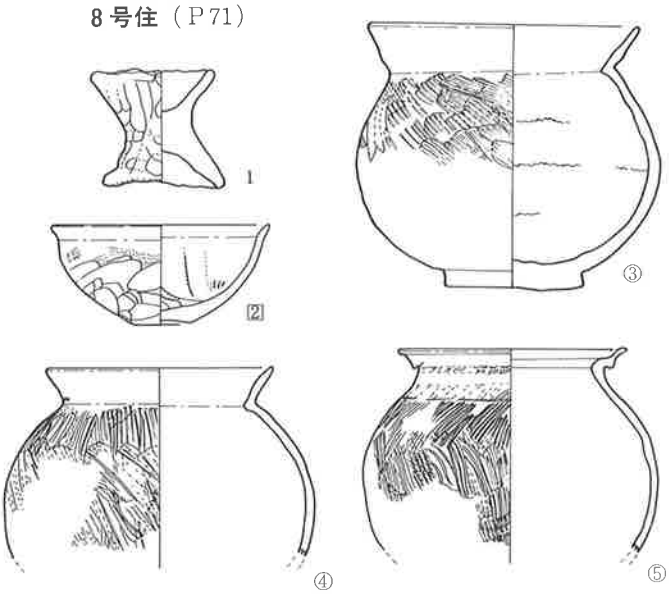
3号住（P69）



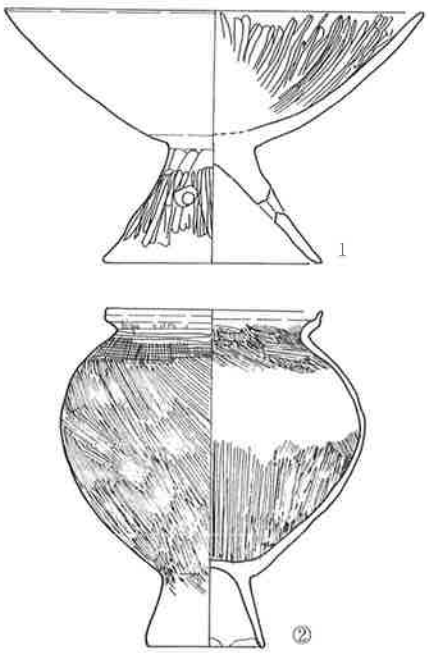
7号住（P71）



8号住（P71）

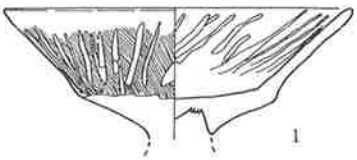


10号住（P72）



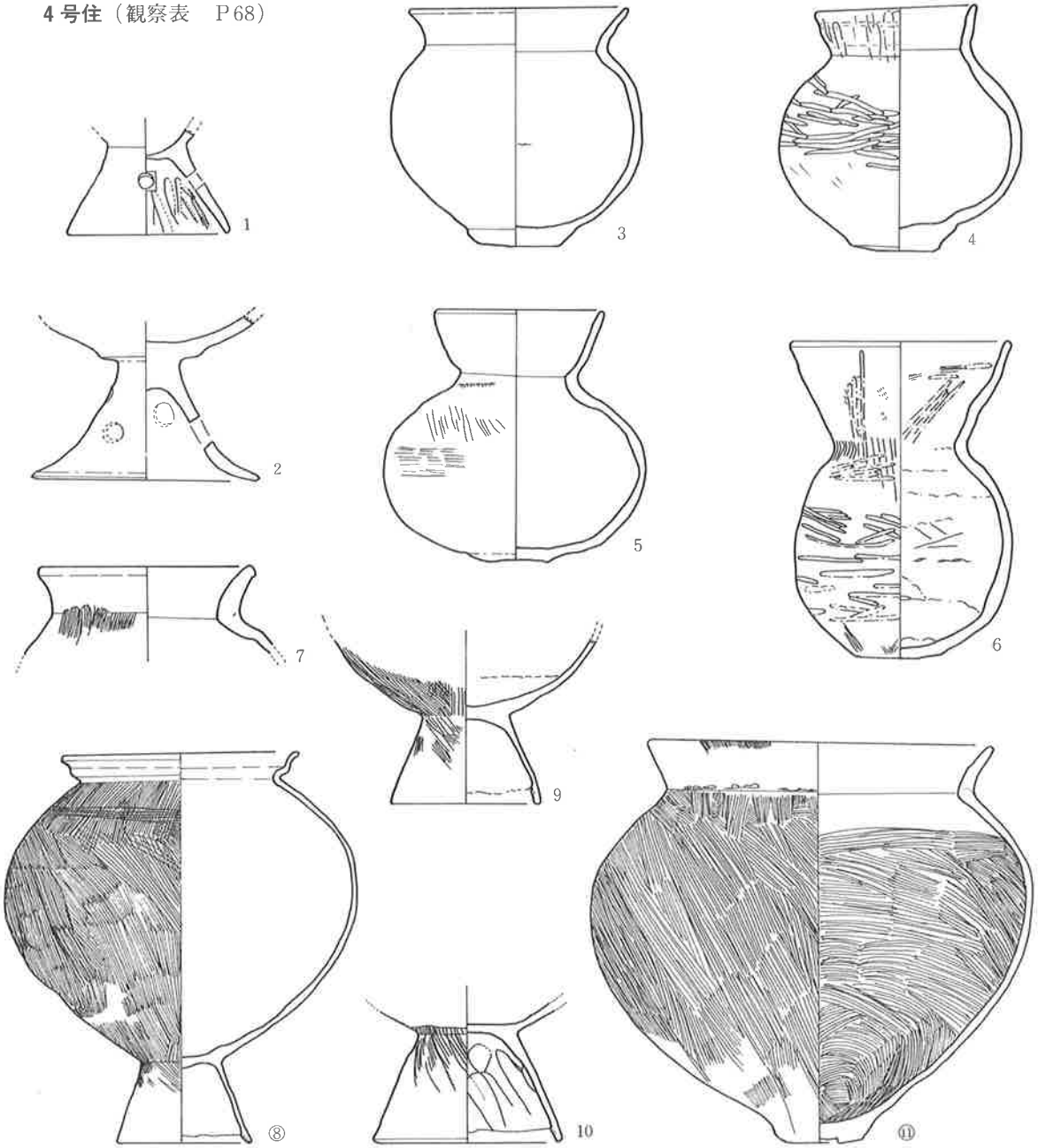
9号住（P72）

11号住（P72）

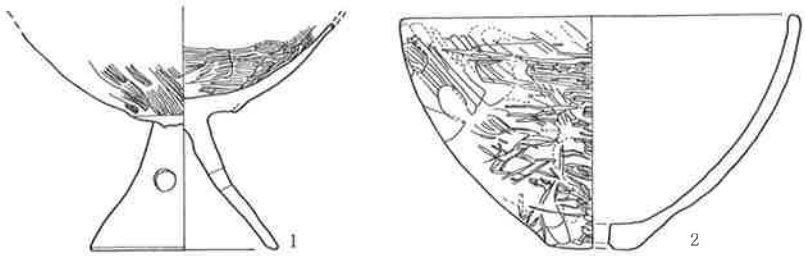


第81図　1～3、7～11号住居址出土遺物実測図

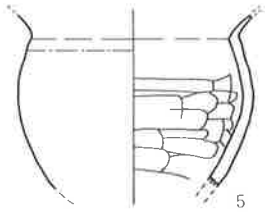
4号住（観察表　P68）

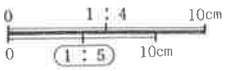


5号住（P70）



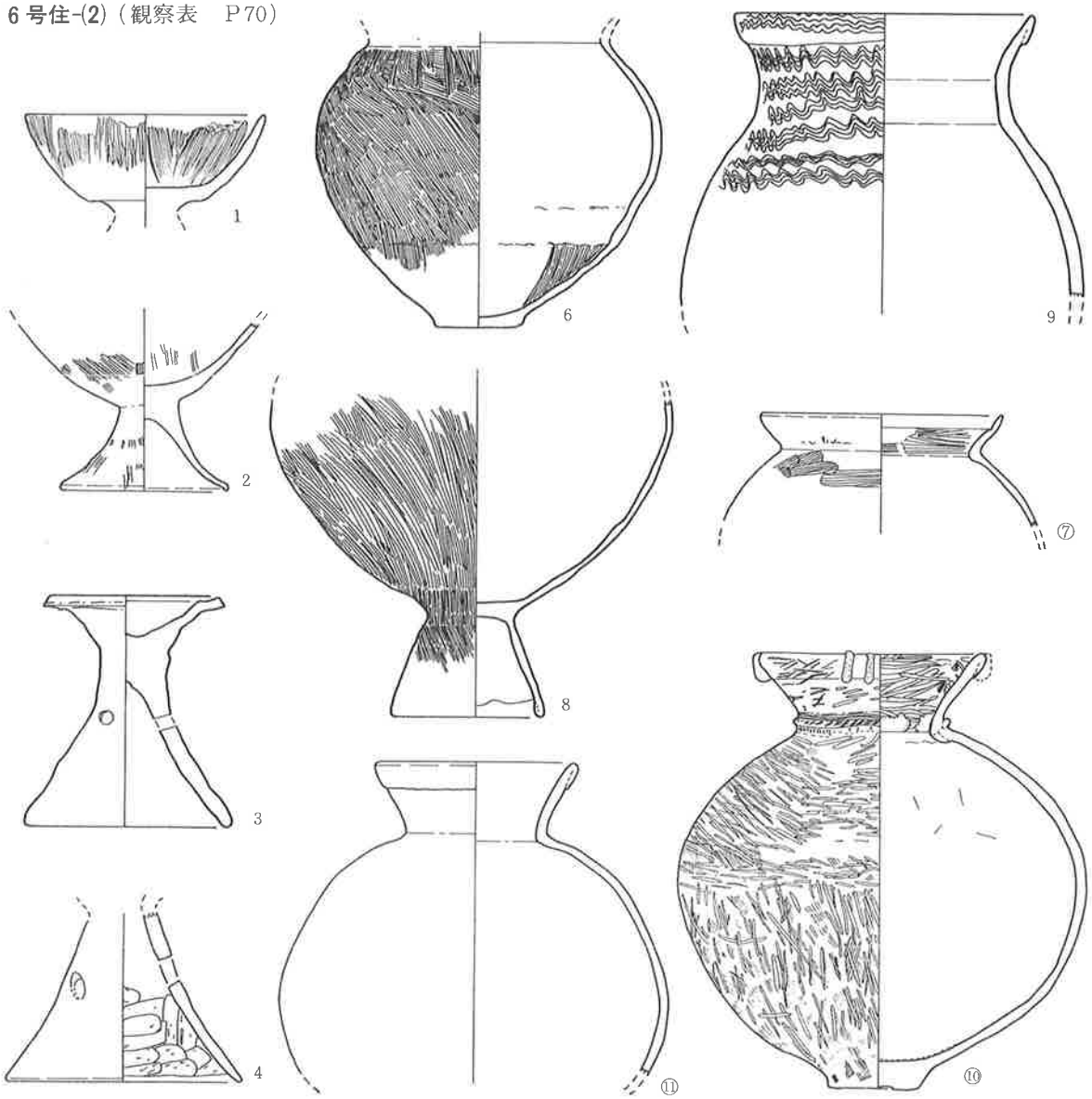
6号住-(1)（P70）



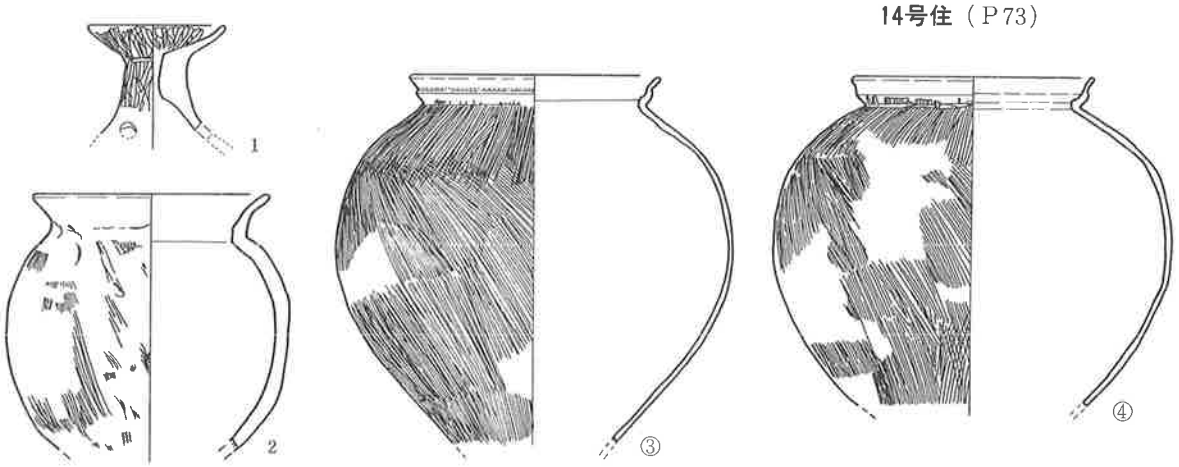


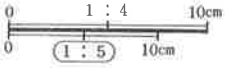
第82図　4、5、6(1)号　住居址出土遺物実測図

6号住-(2)（観察表　P70）



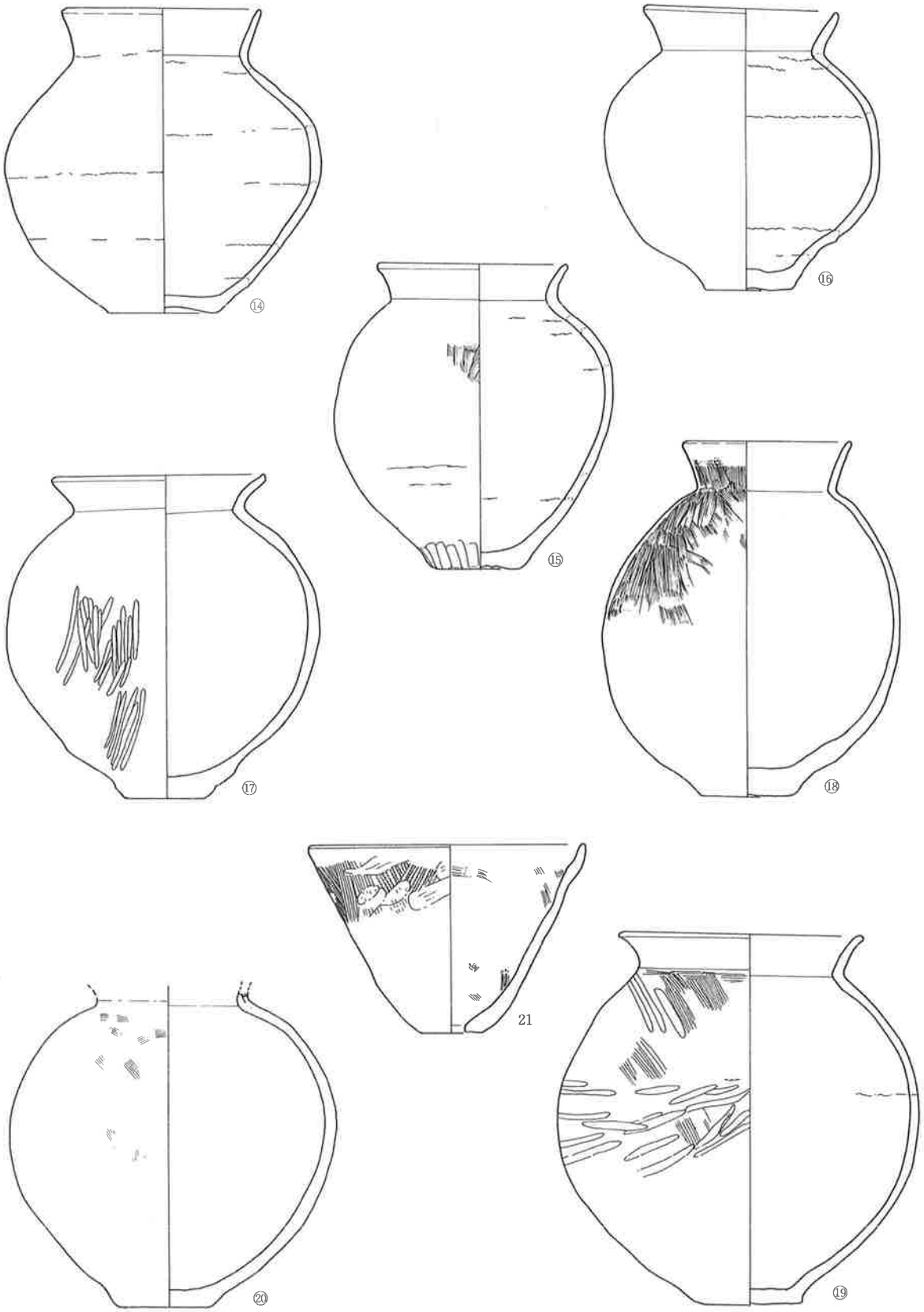
14号住（P73）





第83図　6(2)、14号住居址出土遺物実測図

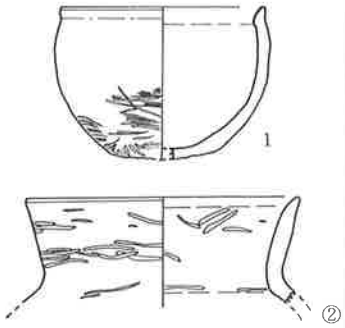
第84図　13号住居址出土遺物実測図-(1)（観察表　P72）



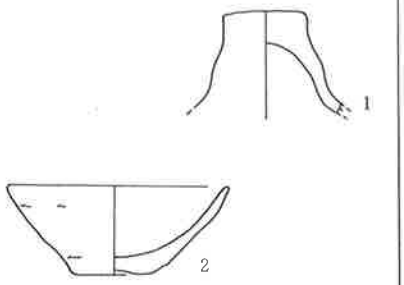
第85図　13号住居址出土遺物実測図-(2)（観察表　P73）

0　1：4　10cm
0　1：5　10cm

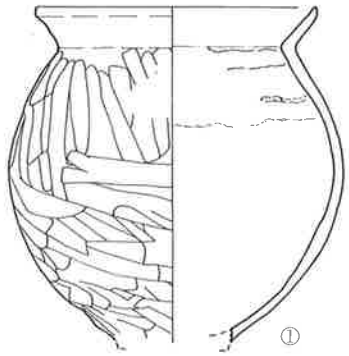
18号住（観察表　P 74）



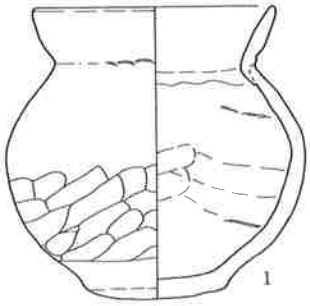
16号住（P 74）

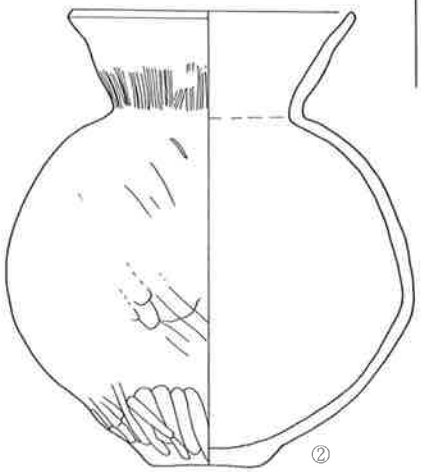


17号住（P 74）



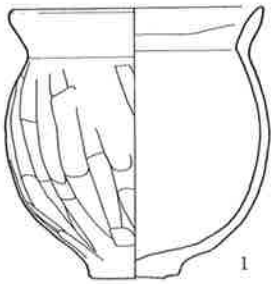
19号住（P 74）



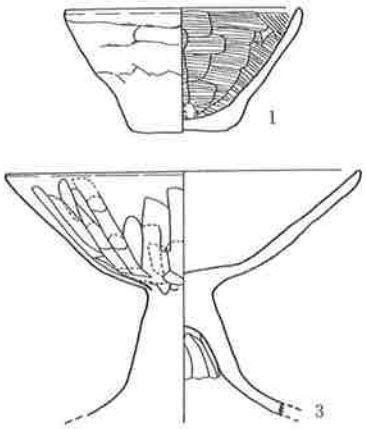


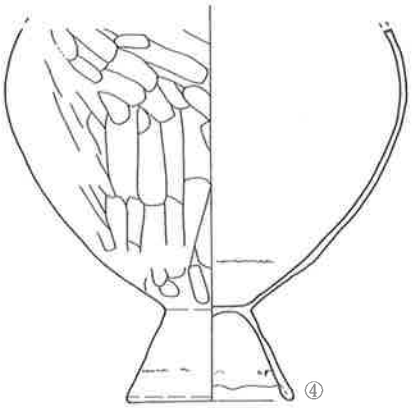
21号住（P 74）

22号住（P 75）

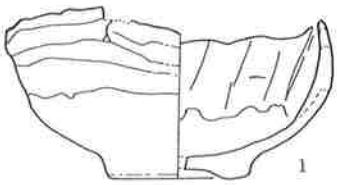


23号住（P 75）

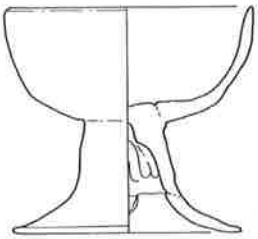


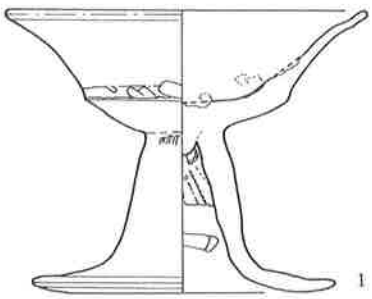


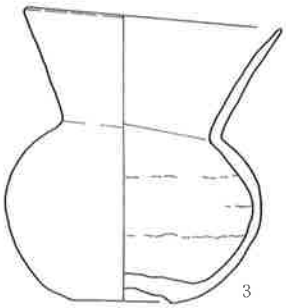
24号住（P 75）

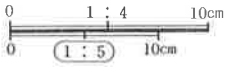


25号住（P 75）

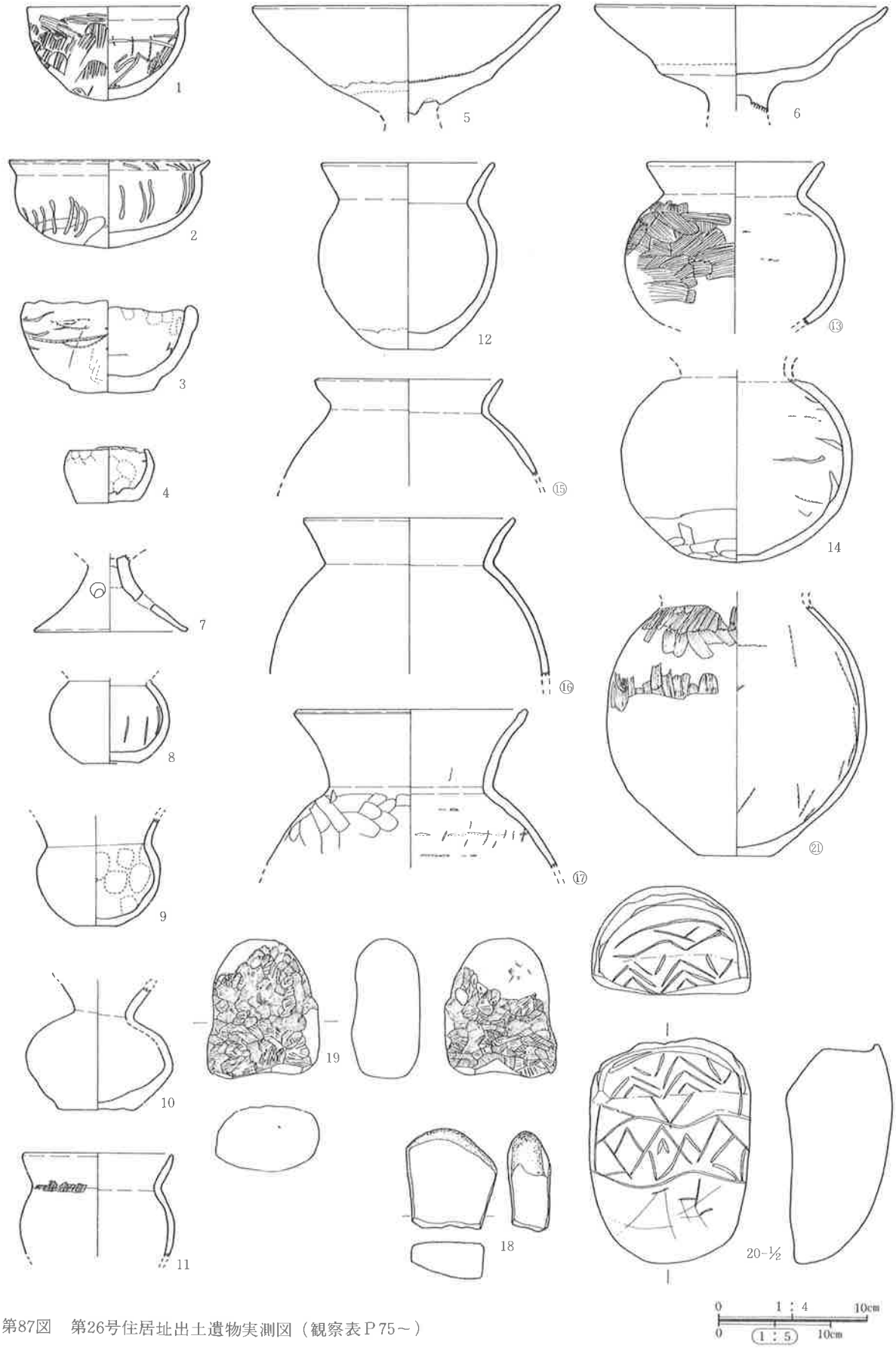






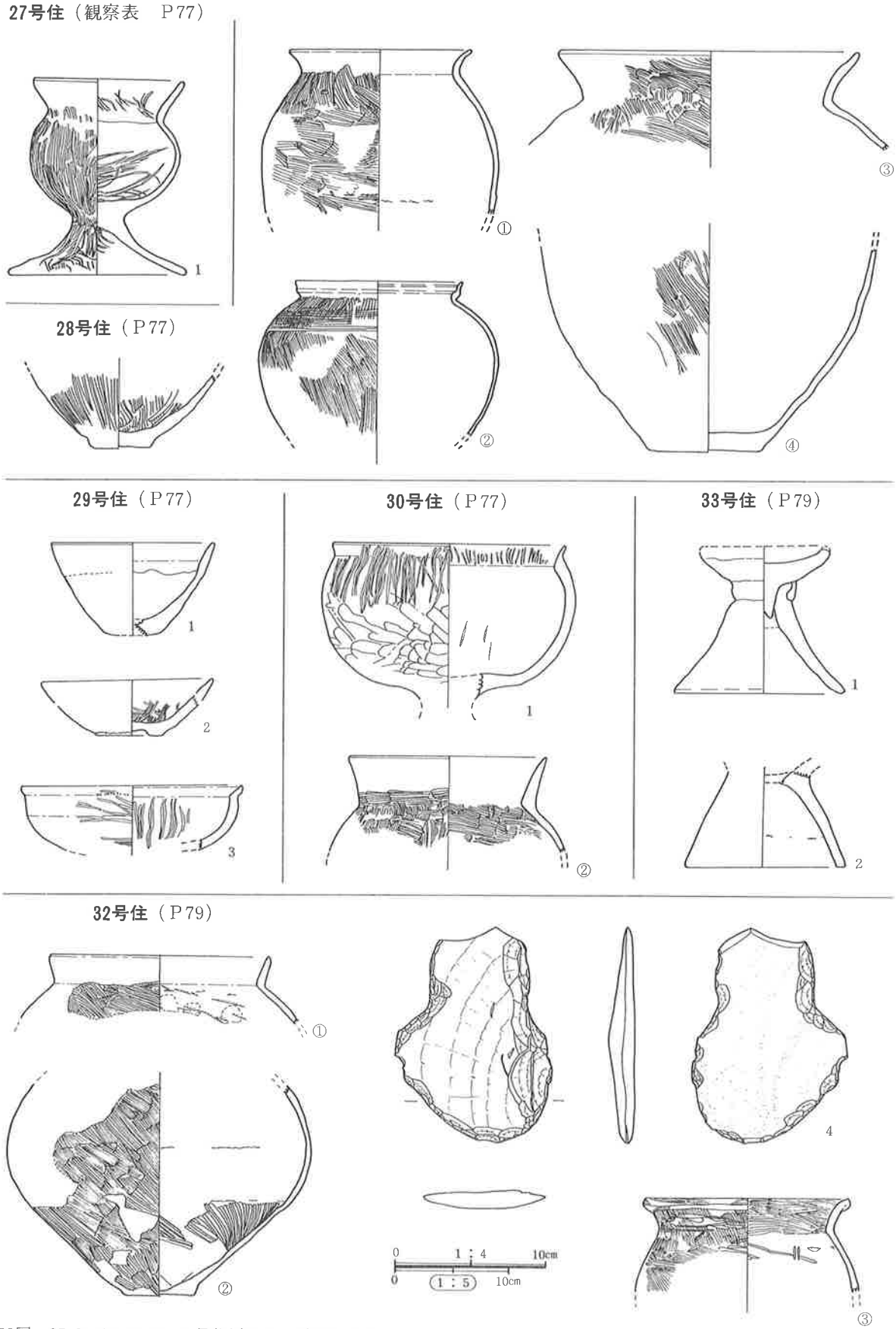


第86図　16～25号住居址出土遺物実測図

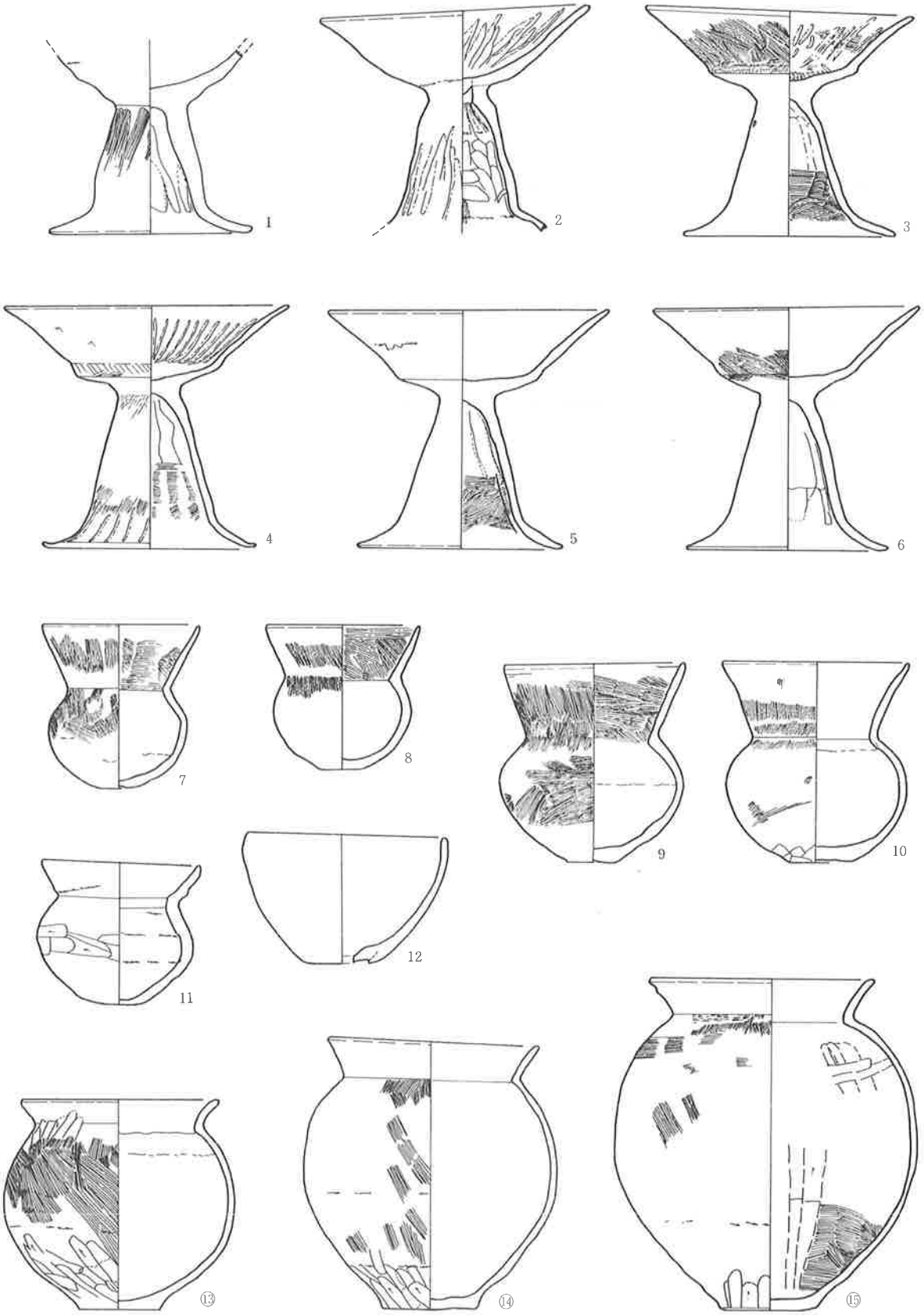


第87図　第26号住居址出土遺物実測図（観察表Ｐ75～）

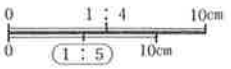
27号住（観察表　P77）



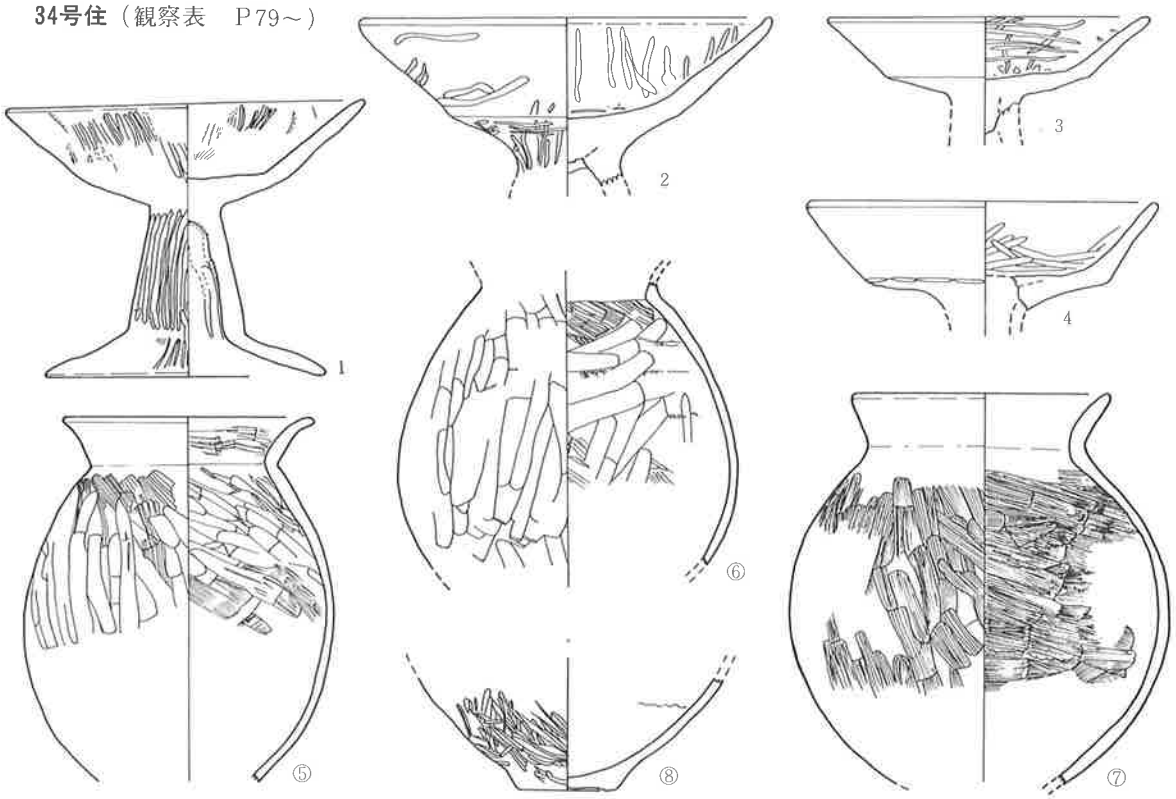
第88図　27、28、29、30、32、33号住居址出土遺物実測図



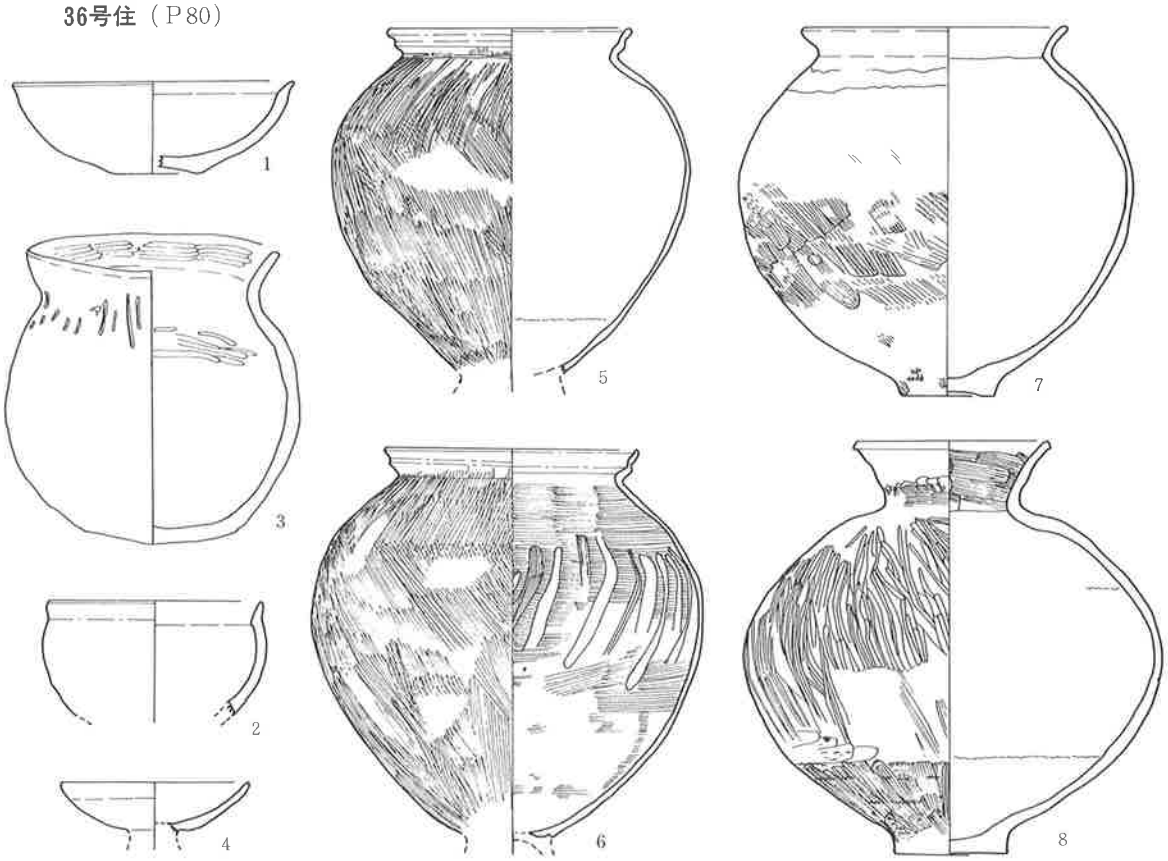
第89図　31号住居址出土遺物実測図（観察表　P78）

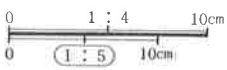


34号住（観察表　P79～）



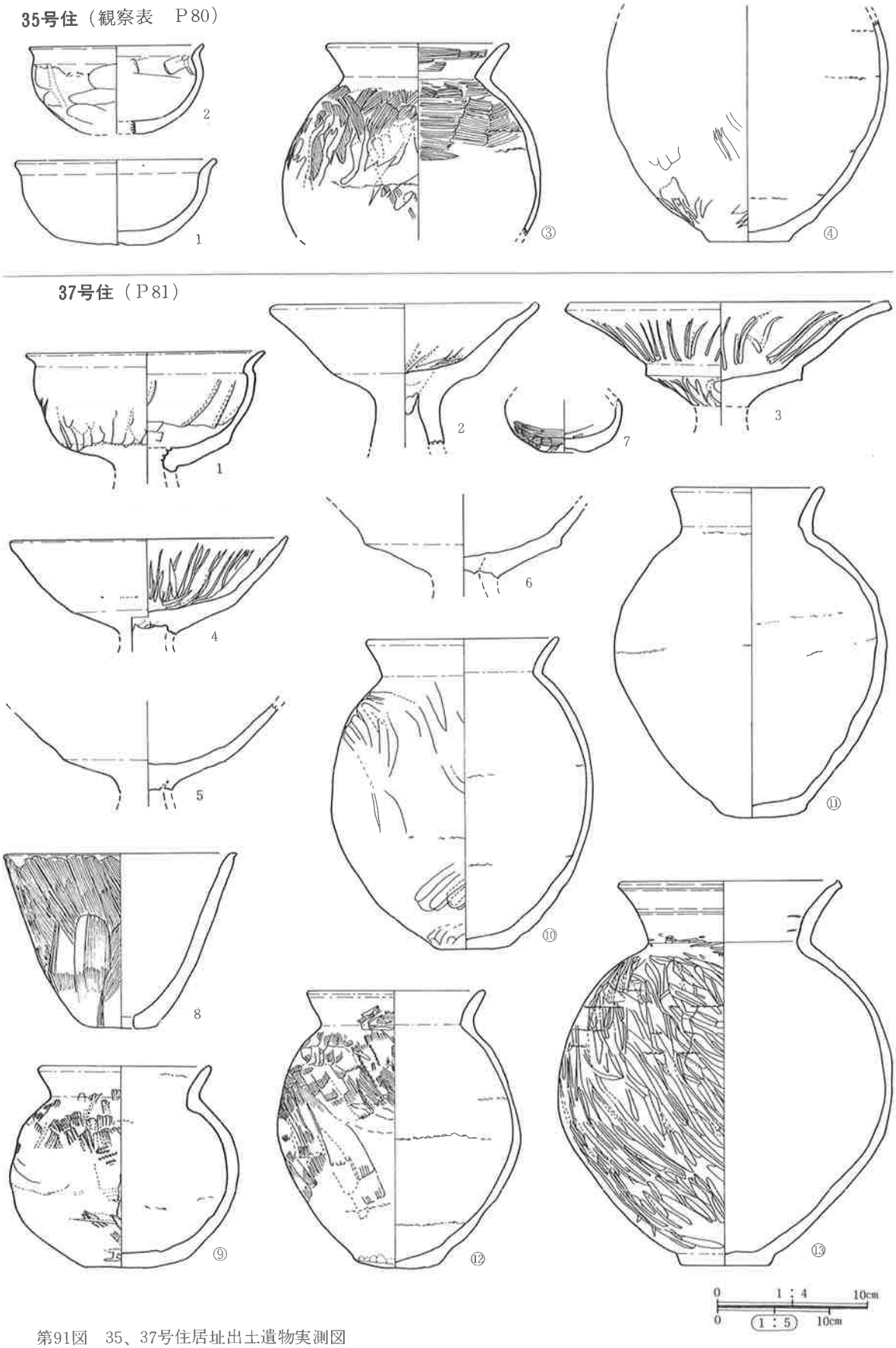
36号住（P80）





第90図　34、36号住居址出土遺物実測図

35号住（観察表　P80）



第91図　35、37号住居址出土遺物実測図

古墳時代前期出土遺物観察表

註：残存状態は実測範囲での残存度を表わす。

1号住

1．土製紡錘車。完形。床直。橙色。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考

2号住

1	ミニチュア	フク土 完形	口：7.0 底：2.6 高：4.8	小さな底部から直線的に開く。 口唇部は鋭い。	外面：ハケナデ後ケズリ後ナデ 内面：ケズリ後ナデ 内：外面とも接合痕を残す。	砂粒含む。 淡黄色。底部黒色。 逆位の可能性あり。
2	手捏ね	フク土 脚部欠損	口：8.3	体部は深い。口唇部は鋭い。歪みがあり、器厚の変化が激しい。	外面：縦方向ハケメ、部分的にナデ。内面：ナデ	粗砂含む。 明黄褐色。外面に黒斑。
3	椀	床直、ピット 体部⅓ 口縁一部	口：12.6 底：3.3 高：7.0	底部は小さな上げ底。 体部は深い。	外面：口縁部ヨコナデ、体部ハケ後下半ケズリ後ミガキ、底部ケズリ後ミガキ、内面：ナデ後ミガキ。	粗砂含む。 淡黄～橙色。 底・体部に大黒斑。
4	壺	床直 ⅔	口：12.6 胴：23.0	胴部は扁球形。頸部がしまり、口縁部は外反気味に開く。口唇部は平坦。	外面：口縁部ケズリ後縦ミガキ。胴部緻密な縦ミガキ。内面：口縁部横ミガキ、胴部ナデ。	粗砂多量に含む。 橙色～浅黄橙色。 胴部中位に小黒斑。

3号住

1	椀	フク土 ⅔	口：16.8 底：5.6 高：6.4	底部は突出した平底。	外面：体部ナデ（後ミガキ）底部ケズリ後ナデ。	砂粒、粗砂多量に含む。 浅黄橙～にぶい橙色。 やや軟質。
2	S字状口縁台付甕	フク土 ¼	口：(12.0)	S字の屈曲は弱い。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケメ、内面ナデ。	砂粒含む。 浅黄橙色。黒褐色。
3	台付甕	炉 台部欠損 他は完形	口：17.8 胴：20.4	胴部は卵型。口縁部はくの字状に外傾する。外面に粘土帯の形状をそのまま残す。	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ(幅広)後下半ケズリ。内面：口縁部横ハケ後ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒含む。浅黄橙色。 胴部上半に煤付着。 胴部中位に大黒斑。

4号住

1	器　台	フク土 脚部完形	底：9.4	脚部は直線的に開く。受部底面に孔は無い。中位の上寄り3方に円孔を穿つ。	**外面**：ケズリ後タテミガキ。 **内面**：ヨコナデ後タテ方向に沈線その後タテミガキ	砂粒含む。 浅黄橙色。 黒斑（片面半分程）
2	高　坏	床直 脚部⅓ 坏部一部	底：13.4	脚部上位は八の字状に開き、裾部でさらに大きく開く。裾は上下からヘラ当てされ鋭角になっている。径1.5cmの円孔を上下3ヶ所づつ計6ヶ所に穿つ。	**外面**：脚部、坏部底ともに密なタテミガキ。 **内面**：坏底部は密なミガキ、脚部裾はヨコナデ。	粗砂（石英粒多)含む。 橙色。 坏底部内面剥落激しい。
3	小型甕	床直 ほぼ完形	口：12.4 底：5.1 高：13.5	底部は突出した平底。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後粗いミガキ。底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	砂粒、小礫含む。 にぶい黄橙、黒褐色。 橙色。胴部に大黒斑。
4	小型壺	炉上10cm 完形	口：9.4 底：5.3 高：14.0	底部は突出した平底。 口縁部は直立気みで中位に弱い稜を持つ。	**外面**：口縁部ヨコナデ後縦暗文状ミガキ、胴部ナデ後ミガキ。底部ナデ。**内面**：口縁部ナデ、胴部ナデ。	砂粒、粗砂含む。 浅黄橙。下半黒褐色。 胴下半煤付着。
5	小型壺	フク土 口縁部¼ 他は完形	口：9.4 底：3.7 胴：15.0 高：14.4	底部は小さく、わずか上げ底状。胴部は強い扁平胴。口縁部はヒサゴ壺状を呈する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、頸部～底部ケズリ後細かなミガキ。（ケズリ痕の為不鮮明）**内面**：口縁部ミガキ、胴部ナデ。	粗砂を多量に含む。 浅黄橙～橙色。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備考(色調その他)
4号住						
6	長頸壺	床直 口縁1/6 胴部2/3	口:(12.5) 底: 4.9 高:18.0	胴部は縦長の球形胴。底部は平底。口縁部は長い。	**外面**:口縁端ヨコナデ、下部ハケ後縦ミガキ、胴部ナデ後粗ミガキ。 **内面**:口縁部ミガキ、胴部ナデ。	粗砂含む。 浅黄橙色。
7	小型甕	フク土 口縁部完	口:12.8	口縁部は肥厚する。口唇部は平坦である。	**外面**:口縁部ヨコナデ、頸～胴部ハケナデ。**内面**:口縁部ヨコナデ胴部ナデ。	砂粒含む。 浅黄橙色。
8	S字状口縁台付甕	床直 ほぼ完形	口:17.2 胴:26.0 裾:10.0 高:28.4	口縁部下半は水平に近く張り出す。上半も比較的強く外反する。胴部は中位よりわずか上で張る扁球形状を呈す。	**外面**:口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、台部上半ハケメ下半ナデ。 **内面**:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、台部ナデ、裾部ヘラ当て。	砂粒含む。 浅黄橙～黒褐色。 胴上半に黒斑。 胴中位に付着物。
9	台付甕	床直 台部1/2 胴一部	裾: 8.7	裾部内面折り返し。	**外面**:胴部ハケメ、台部上半ハケメ、下半ナデ。**内面**:胴部ナデ、台部ナデ。	砂粒含む。 浅黄橙、黒褐色。
10	台付甕	フク土 台部完形	裾:10.9	裾部内面折り返し。	**外面**:上半ハケメ、下半ナデ。 **内面**:ユビナデ。ナデ。	砂粒含む。 浅黄橙色。
11	甕	床直 一部欠損	口:25.2 胴:32.0 底: 5.8 高:29.5	底部は突出した小さな上げ底。 胴部は扁平な無花果型。 口頸部は広い。口唇部は平坦。	**外面**:口縁部斜ハケ後ヨコナデ。胴部ハケナデ。 **内面**:口縁部ヨコナデ後粗ミガキ、胴部横ハケナデ。	砂粒含む。 浅黄橙～にぶい黄橙。 胴部下半煤付着。 小黒斑。
5号住						
1	高坏	床直 口縁部欠損、他は2/3	裾: 9.5	脚部は直立ぎみに開き、中位から大きく直線的に開く。中位の3ヵ所に径1.1cmの円孔を穿つ。	**坏部**:外面タテ　内面ヨコハケメ。底一体部の境に接合痕。 **脚部**:裾内外ヨコナデ、他はナデ。	砂粒少量、雲母多量。
2	甑	貯蔵穴 ほぼ完形	口:20.2 底: 4.7 高:11.8	鉢型で半球形状を呈す。 底部に径約2cmの単孔を穿つ。	**外面**:上位2/3斜ハケメ後下位2/3ケズリ後全面横ミガキ。底部ケズリ後ミガキ。口唇ヨコナデ後ミガキ。**内面**:横ハケメ後ミガキ	粗砂、雲母多量。
6号住						
1	高坏	フク土 坏部1/2	口:13.0	小型高坏で椀状を呈する。	**外面**:ナデ後縦ミガキ。 **内面**:口縁部ヨコナデ後横ミガキ **体**:底部ナデ後縦ミガキ。	細砂粒含む。 灰白～灰色。
2	高坏	フク土 脚部完形 坏部1/3	裾: 9.2	脚部は外反しながら開き、裾端部で内湾気味となる。坏部は深い。	**坏部**:内面縦ハケ後ナデ、外面斜ハケ後ナデ。**脚部**:内面絞り目裾ヨコナデ、外面縦ハケ後ナデ	砂粒含む。 橙色。 内外面に黒色付着物。
3	器台	フク土 3/4	受: 9.9 裾:11.3	裾はハの字に開く。上位の3ヶ所に径7mmの円孔を穿つ。受部と脚部の接合部は円筒状で、受部は中位からほぼ水平に開く。	**受部**:内、外面ともナデ後ミガキ但し、外面は粗い。 **脚部**:内部縦ナデ、裾ヨコナデ。外面縦ナデ、裾ヨコナデ後ミガキ	細砂粒含む。 浅黄橙。部分的に灰色。
4	器台	フク土 1/2	裾:12.4	脚部が漸次外反する。上半の3ヵ所に径13mmの円孔を穿つ。	**外面**:ナデ後ミガキ **内面**:ケズリ後粗くナデ。	砂粒含む。浅黄橙色。
5	小型甕	フク土 1/3	胴:12.0		**口縁部**:内外面ヨコナデ。 **胴部**:内面横ヘラナデ。外面ケズリ後ナデ。	砂粒含む。 浅黄橙～灰黄色。 胴部黒斑。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
6号住						
6	小型甕 (S字口縁?)	口縁欠損	胴：19.1 底：4.7	底部が平底である点を除くとS字状口縁台付甕に類似する。	**外面**：斜ハケメ後胴上端縦ハケメ　頸部ヨコナデ。底部ナデ。 **内面**：上～中ナデ、下斜ハケナデ	細砂粒含む。 にぶい橙色～黒褐色。 接合痕明瞭。
7	甕	床～覆土 1/3	口：16.9	口縁部は内湾気味に開く。中位で弱く折れ曲がる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ。**内面**：口縁上半ヨコナデ、下半ハケナデ、胴部ナデ。	砂粒、小礫含む。 付着物(黒色)。 淡褐色、軟質。
8	台付甕	フク土 台部完形 脚部1/6	胴：(22.1) 裾：8.4	台部はわずか内湾気味に立つ。裾部は折り返し。裾端は平坦。	**外面**：胴部ハケメ。下端から台部上半にかけてハケメ。台部下半ナデ。**内面**：胴部ナデ、台部ナデ。	砂粒少量含む。 浅黄色～黒褐色。 台部裾に黒斑。
9	甕	フク土	口：16.6 胴：(22.0)	口縁部折り返し口縁。 口－胴部の境内面に稜を持つ。	**外面**：口～胴上部櫛書き波状文　胴中央部縦ミガキ後横ミガキ **内面**：横ナデ後ミガキ。	粗砂含む。やや軟質 浅黄橙。
10	壺	床直 ほぼ完形	口：15.9 胴：28.6 底：6.1 高：30.1	口縁部は外反気味に開く。折り返し口縁で2本1組の突帯を4ヶ所に付す。頸部は粘土帯で装飾を施す。底部は突出し中央が窪む。	**外面**：口縁上半ハケ状ヨコナデ後細かな横ミガキ、下半縦ハケ後横ミガキ。頸部突帯部工具で刺突。胴部ハケ→ケズリ→ミガキ。(下部程ハケを残す)底部ナデ。**内面**：口縁部ミガキ、胴部ナデ。	粗砂多量に含む。 橙色、胴下半に黒斑。 破片状態で火を受ける。
11	壺	床直 1/2	口：14.1 胴：27.0	口縁部は折り返し口縁で外反気味に開く。胴部は扁平な球形胴であるが、上半は丸味が弱い。	**口縁部**：内外面ともヨコナデ。 **胴部**：内面ナデ（ユビオサエ）　外面ケズリ後ナデ。	砂粒、小礫含む。橙色～浅黄橙色。スス付着。 接合痕が内外面に有る。
7号住						
1	甕	フク土 1/2	口：13.3 胴：(16.0)	口唇部平坦。 口縁部はゆるやかに外反。	**外面**：横ハケ後櫛書き波状文。 **内面**：ナデ後横ミガキ。 口唇部ハケナデ。	砂粒含む。金雲母少量。 暗赤褐色。 外面に付着物。
2	S字口縁甕	フク土 口縁部3/4 胴部1/3	口：17.0 胴：24.0	口縁部立ち上がり及び上半部とも強く外反する。上段内・外面に各1条の沈線が入る。	**外面**：口縁部ヨコナデ。胴部ハケナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ハケ後粗ケズリ後ナデ。	砂粒含む。 浅黄橙～黒褐色。 外面に煤、付着物。
8号住						
1	手捏ね	床直 ほぼ完形	口：6.2 裾：6.1 高：6.1	器台あるいは高坏を模したものか。鼓型を呈す。支部の可能性もある。	内・外面ともナデ。	砂粒含む。 黒褐色、浅黄橙。 火熱により黒化している
2	坏	フク土 一部欠損	口：10.9 底：2.9 高：5.1	底部は小さな上げ底。	**外面**：口縁部横ナデ、体上部ハケ中～下位ケズリ。底部ケズリ。 **内面**：ケズリ後ナデ。ヘラ痕多。	砂粒含む。 浅黄橙色。 体下部に黒斑。
3	小型甕	フク土 4/5	口：13.8 底：7.0 高：13.4	底部は平底で中央が窪む。 胴部ほぼ中位に最大径。 口縁部は直線的に開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ。胴部ハケナデ後下半部ナデ。底部ナデ。**内部**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂、小礫含む。 橙色、黒褐色。 胴部に黒斑。
4	甕	フク土 1/4	口：(14.6) 胴：(20.0)	口縁部はくの字に外反する。	**外面**：口縁部下半に縦ハケ後ヨコナデ、胴部幅広のハケメ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒含む。 黒褐色。口縁部に煤。 胴部に付着物。
5	S字口縁甕	フク土 1/2	口：(14.8) 胴：(19.0)	口縁部の立ち上がり外面はユビオサエの為に波状となる。内面の段部でほぼ水平となる。口端部上面は平坦。頸部下へこむ。	**外面**：口縁部ヨコナデ、立ち上がりはユビオサエ。胴部ハケメ後頸部直下をヨコナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ後ミガキ、胴部ナデ。	砂粒含む。 黒褐色。 胴部外面付着物。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
9 A号住						
1	手捏ね？	床直 完形	口：7.9 底：4.7 高：5.1	平坦な底部から体部が外反する。 （逆位の可能性もある。）	**外面**：体部ナデ、一部に細いミガキ、底部ケズリ。**内面**：ナデ後粗いミガキ。	粗砂含む。 にぶい橙。 外面に火を受ける。
10号住						
1	高　坏	フク土 脚部完形 坏部⅓	口：(21.4) 裾：11.1 高：12.8	坏部は深く、底部小さい。 脚部はハの字に外反する。 脚部中位3ヵ所に円孔を穿つ。	**外面**：ナデ後口縁部横ミガキ、体部縦ミガキ。脚部ナデ後縦ミガキ。**内面**：坏部縦ミガキ、脚部ナデ。	粗砂含む。 橙～にぶい橙色。
2	S字口縁台付甕	床直 ほぼ完形	口：13.9 胴：19.7 裾：7.7 高：21.7	口縁部上半はほぼ直立する。口唇部は鋭い。裾は一部分折り返し？　裾唇部は平坦。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴上半縦ハケメ後頸部から横ハケメ後胴中下位斜ハケメ。脚部ナデ。**内面**頸部細いハケ、胴部ハケ。脚部ナデ。	砂粒含む。 胴部黒褐色、赤褐色。 脚部橙色。 肩～口縁部煤付着。
11号住						
1	高　坏	フク土 坏部ほぼ完形	口：17.7	底－体部の境に段がある。 （接合部にヘソ）	**外面**：体部ハケ後口縁ヨコナデ後暗文状斜ミガキ、底部ナデ。**内面**：ヨコナデ後暗文状斜ミガキ。	砂粒含む。 橙色～黒褐色。黒斑、 底部に火を受ける。
13号住						
1	高　坏	床直 ⅘	口：16.3 裾：13.6 高：13.9	脚部は漸次ゆるやかに外反する。	器面荒れて不鮮明。内外面ともナデ、ヨコナデ、脚柱部内面ナデで接合痕を良く残す。	砂粒含む。橙～赤色。 二次焼成の為か比較的軟質。
2	高　坏	床直 ほぼ完形	口：18.2 裾：16.7 高：16.1	口縁部はゆるやかに外反する。 裾部は器厚が薄く裾端はほぼ水平になる。	内外面ヨコナデ、ナデ。 脚柱部内面上半絞り目痕、下半ケズリ。	細砂粒含む。 橙色。　2次焼成により煤ぼけている。
3	高　坏	床直 口縁部一部欠損	口：20.1	底、体部の接合部に明瞭な段を残す。底部は平坦。 接合部にヘソ。	**外面**：体部ハケ後口縁部ヨコナデ後体部暗文状縦ナデ(ミガキ)底部ナデ。**内面**：ハケ→ヨコナデ→ミガキ	砂粒、粗砂含む。 橙色～黒褐色。 割れてから二次焼成。
4	高　坏	床直 坏部のみ 一部欠損	口：14.0	坏部は内湾気味に開く。 かなり歪んでいる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ段部粘土乗り痕。**内面**：口縁部ヨコナデ（ハケ状）体部ナデ。	粗砂、小礫含む。 にぶい橙～橙色。 2次焼成。
5	高　坏	床直 坏部のみ ⅘	口：23.0	大型の坏部で、段部を明瞭に作り出す。体～口縁部は大きく外反。底部は平坦。	**外面**：体部丁寧なヨコナデ（ミガキ）底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ。体～底部ナデ。	砂粒含む。 明赤褐色～橙色。 体部に黒斑。二次焼成
6	高　坏	床直 脚部のみ 完形	裾：14.9	脚柱部は弱いエンタシス状。 裾部はほぼ水平となる。	**外面**：脚柱部～裾部ナデ。裾端部ヨコナデ。**内面**：脚柱上半絞り目痕、下半ナデ。裾部ヨコナデ。	砂粒含む。 赤色。
7	高　坏	床直 脚部のみ ⅔	裾：15.0	脚柱部は細いエンタシス状を呈す。裾部は外反し、裾端は若干もち上がる。	**外面**：脚柱部ナデ、裾部ヨコナデ。**内面**：脚柱部ナデ、絞り目痕は不鮮明、裾部はヨコナデ。	砂粒含む。 橙～極暗赤褐色。 2次焼成受ける。
8	高　坏	床直、貯蔵穴 脚部完形	裾：19.0	裾部は急角度でほぼ直線的に開く。大きな裾部である。	内外面とも器面荒れている。 裾部内外面ヨコナデ、他はナデ。	砂粒含む。橙色。 全体が火を受けて軟質になっている。
9	壷	床直 一部欠損	口：13.3 胴：15.5 底：4.2 高：17.3	底部は小さな平底。胴部は扁球状。口縁部は直線的に開き上端で内湾する。	**外面**：口縁端部ヨコナデ、他は縦に緻密なミガキ。胴部ナデ後粗いミガキ、底部ナデ。**内面**：口縁端ヨコナデ、他はナデ。(ミガキ)	砂粒少量含む。 橙色。頸部に赤色顔料。 塗彩の可能性あり。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考

13号住

10	坩	床直 ほぼ完形	口：11.5 胴：9.6 底：3.3 高：11.5	底部はわずか窪む。体部は扁球形状を呈す。口縁部は体部より大きく、内湾気味に開く。	**口縁部内外面**：上端ヨコナデ、下部ナデ後暗文状縦ミガキ。胴部：外面、上半ナデ、下半ケズリ（後ナデ）内面ナデ。	砂粒、粗砂含む。 橙～黒褐色。胴部黒斑 二次焼成。煤付着。
11	小型甕	床直 完形	口：14.4 底：4.5 高：16.0	底部中央がわずかにくぼむ。 口縁部は中位に段を持って立ち上がる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ後粗いナデ。	砂粒含む。 橙色。 外面に大黒斑。
12	壺	床直 口縁完形 胴部⅔	口：10.4 胴：22.7	口縁部は直立気味にわずか開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。接合痕残す。	砂粒含む。 浅黄橙～橙色。 胴部中位２ヶ所に黒斑
13	（壺）	床直 胴部下半 ⅔	底：10.0 胴：26.0	底部は突出した比較的大きな平底。胴下半は丸みがある。	**外面**：胴部ケズリ後ナデ。底部ナデ。**内面**：全体ナデ。 （ケズリの稜は鮮明）	粗砂多量に含む。 にぶい黄橙～橙色。 胴下部に黒斑。
14	甕	貯蔵穴 ⅔	口：16.3 底：8.7 高：25.0	口縁部は直立気味に開く。 胴の接合部に弱い稜をもつ。 底部は比較的大きな上げ底。	**外面**：口縁部ヨコナデ。胴部上半ナデ、下半ケズリ後ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒含む。にぶい橙色 黒褐色、橙色。 割れてから火を受ける。
15	甕	床直 ほぼ完形	口：16.5 底：8.0 高：26.0	胴部は上半に最大径がくる。 底部はわずかに上げ底気味。 口縁部はゆるやかに外反。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケ後ナデ、下半ケズリ後ナデ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒含む。 赤褐色。内外面とも接合痕多い。２次焼成。
16	甕	床直 ほぼ完形	口：16.1 底：7.2 高：23.2	底部は突出した平底だが、中央がわずか窪む。胴部は接合部に弱い稜をもつ。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部上半ナデ、下半ケズリ後(粗いミガキ)。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ	砂粒、粗砂含む。 にぶい橙。黒斑。 ２次焼成。スス付着。
17	壺	床直 完形	口：17.1 底：7.0 高：26.3	底部は突出した平底。 胴部はほぼ正球形。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後粗い縦ミガキ、底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。(ミガキ)	砂粒含む。 橙色～褐灰色。 ２次焼成受ける。
18	甕	フク土 床上15cm 完形	口：13.8 底：7.0 高：29.0	胴部は下半に最大径をもつ。 底部は突出する平底。 口縁部は直立気味に開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ、下半から胴部ハケ後上半ナデ、下半ケズリ後ミガキ？　**内面**：口縁部ハケナデ。胴部ケズリ後丁寧なナデ。	砂粒含む。 にぶい橙～橙色。 黒斑。２次焼成。
19	甕	床直 完形	口：19.5 底：8.0 高：31.0	底部は突出した平底で中央がわずか窪む。胴部は中位に最大径を持つ。口端部は小さく外反。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴上半ナデ、下半ナデ後粗いミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒、粗砂含む。黒斑 橙～黒褐色。胴、口縁部に煤付着。２次焼成。
20	壺	床直 口縁欠損 ほぼ完形	胴：27.0 底：7.0	突出した平底。 胴部はほぼ正球形で下半部がわずかに伸びる。	**外面**：胴部ナデ（後ミガキ？単位不明）底部(ナデ)　**内面**：ケズリ後ナデ。	砂粒含む。浅黄橙、橙色、黒褐色、黒色、赤褐色。 破片状態で２次焼成。
21	甑	フク土 ほぼ完形	口：17.9 底：4.0 高：12.0	小さな底部から直線的に開く。 底部に径 1.5cm前後の扁円孔を穿つ。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体上部縦ハケ、下半ナデ、下端磨滅。底部ナデ。**内面**：ヨコナデ、ハケ、ナデ。	砂粒、雲母多量に含む。 橙色。 体下部外面に黒斑。

22．紡錘車　滑石製。　浅い編笠状の形態を呈する。上面は放射状を基調に同心円状と斜めの線刻が施され、下面は放射状に粗く線刻されている。

23．砥　石　砂岩製。　４面ともに砥面となっており、きわめて滑らかである。浅い条線のみられる面もある。

14号住

1	器　台	フク土 脚下半欠 受部¼	口：(16.9)	受部は小さい。脚部の３ヶ所に円孔を穿つ。受部中央に径８㎜の孔を穿つ。	内外面とも縦方向の緻密のミガキ。 （他に類似の整、成形、胎土、色調の坩、壺、器台の大破片出土。）	砂粒、粗砂含む。 橙～明赤褐色。 器面滑沢。非常に堅緻。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
14号住						
2	小型甕	フク土 ⅔ 底部欠損	口：11.8 胴：14.3	口縁部はくの字に外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ハケ→ケズリ→ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ→ミガキ、胴部ナデ。	砂粒、粗砂含む。 にぶい橙色。 火熱受ける。
3	S字状口縁台付甕	口縁完存 胴部½強	口：15.9 胴：25.6	胴部上半に張りを持ち、下半部は直線的。口縁部上半の反りは大きい。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ、頭部ヘラアテ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ユビオサエ、ナデ。	砂粒含む。外面黒褐色～にぶい褐色、内面にぶい黄橙色。胴部付着物。
4	S字状口縁台付甕	口縁⅘ 胴部¼	口：15.6 胴：(26.0)	胴部上半に張りを持つ。 口縁部上半の反りは少ない。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ後ハケメ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒含む。外面黒褐色～にぶい赤褐色、内面灰褐色。胴部付着物。
16号住						
1	(土製支脚)	フク土	受：4.2	高坏の脚状に裾部が大きく開く。受部は平坦。	**外面**：ケズリ後ナデ。受部ナデ。 **内面**：ヘラケズリ後ナデ。粘土粒が数ヵ所にみられる。	砂粒含む。にぶい橙色。 受部全面黒色。
2	埦	フク土 口縁一部欠損	口：11.2 底：5.2 高：4.5	底部は上げ底	**外面**：口縁部ヨコナデ、体・底部ナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	砂粒少量含む。 浅黄橙、大黒斑あり。 内外面付着物。
17号住						
1	甕	床直 一部欠損	口：17.9 胴：21.2	口縁は直線的に開き口端部でほぼ直立する。 胴部は卵型状を呈する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、脚部全体斜ヘラケズリ後上半部ナデ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部下半ケズリ後ナデ。上半ユビオサエ後ナデ。接合痕多い。	粗砂含む。 にぶい褐色。 胴部外面中位に付着物 胴部に黒斑。
18号住						
1	埦	フク土 ½弱	口：10.4 底：5.2 高：7.7	底部は平坦、体部は深い。 口縁部は短かく、内面に稜を持つ。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ体部ナデ。	砂粒含む。 橙色～赤褐色。 付着物。
2	甕	床直 口縁部¾	口：20.0	口縁は直立気味に立ち上がる。 口端部でわずかに外反する。	**外面**：ヨコナデ後横ミガキ。 **内面**：ヨコナデ後横、斜ミガキ。	粗砂含む。
19号住						
1	小型壺	フク土 口縁一部欠損	口：12.4 底：7.2 高：14.8	底部は比較的大きく、胴下端を強く押さえて作り出している。 口縁部は端部で内湾気味になる。	**口縁部**：内外面ともヨコナデ。 **胴部**：外面上半縦ケズリ後ナデ、下半斜ケズリ、底部周縁ナデ。内面上半ユビオサエ、下半ケズリ	砂粒、粗砂含む。 橙色。 黒色付着物あり。
2	壺	フク土 一部欠損	口：18.5 胴：26.6 底：7.7 高：29.4	口縁部は広く大きく開き、上半からさらに外傾の度を強める。 口唇部はヘラアテされている。 胴部は弱い扁球形状を呈する。 底部はわずかに上げ底。	**外面**：口縁部縦ハケ後上半ヨコナデ、その後横ミガキ（単位不明）胴部斜、縦ヘラケズリ後上半ナデ（後全体ミガキか？） **内面**：口縁部ヨコナデ(後ミガキ)胴・底部ハケナデ後ナデ。	粗砂、小礫含む。 にぶい赤褐色、黒褐色。 火熱を受けもろい。 口縁部内面は剝落多い。
21号住						
1	坩	床直 完形	口：8.1 底：2.9 高：8.0	底部は小さな平底。 （胴内面に赤色顔料）	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケ→ケズリ→ナデ、下半ケズリ **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂、小礫含む。 にぶい赤褐色、褐色 胴部黒斑。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
22号住						
1	小型甕	床直 (ピット上面) ほぼ完形	口：13.6 底：4.8 高：14.2	底部は突出した平底。 歪んでいる。	**外面**：口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ後ナデ、底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒含む。 黒褐色。黒斑あり。 煤付着。付着物あり。
23号住						
1	鉢	炉 ほぼ完形	口：12.1 底：5.6 高：6.2	底部：わずか上げ底気味。 体部上半は内湾気味に開く。	**外面**：体部ナデ、底部ナデ。 **内面**：ハケナデ。	粗砂、小礫含む。 にぶい橙～橙色。
3	高坏	炉 脚部裾欠損、他完	口：17.8	坏底部は口縁部に比し小さい。 坏部の稜は不鮮明。脚・坏の接合部は細い。脚柱部は短かい。	**外面**：坏部ケズリ、ヨコナデ後、暗文状縦ナデ(ミガキ)、底～接合部ミガキ。**内面**：坏部ヨコナデ、脚柱部弱い絞り目、裾部ヨコナデ。	粗砂、小礫含む。 橙～赤色。
4	台付甕	床直	胴：26.0 裾：10.2	胴部は上位で張りを持つ。	**外面**：胴部ケズリ、台部ナデ。 **内面**：胴部ナデ、台部ナデ、裾折り返し、ユビオサエ。	砂粒含む。 褐色、にぶい橙色。
24号住						
1	甑	フク土 (壁際) ほぼ完形	口：15.8 底：7.2 高：8.6	底部は突出した上げ底で中央に径8㎜の円孔を穿つ。胴部上半はほとんど粘土帯のまま。	**外面**：胴上半は接合痕を残しわずかにナデ。下半、底部はナデ。**内面**：胴上半ケズリ、底部ナデ。	細砂粒含む。橙色。 壺の製作途中で使途変更したものか？
25号住						
1	高坏	床直 坏部⅔ 裾部¼	口：18.0 裾：(15.1) 高：14.0	裾部はほぼ水平に開く。 脚柱部は弱いエンタシス状。 口縁部は大きく外反する。 坏部内面クレーター状剥落多い。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部荒いナデ(痕)、底部ナデ、接合部ハケ。脚部ナデ。**内面**：坏部ヨコナデ、ナデ。脚柱部横ケズリ、裾ヨコナデ。	粗砂、赤色粒含む。 にぶい赤褐色。断面橙色。 坏―脚接合部にヘソ。
2	高坏	床直 脚柱部～坏部完、裾部一部	口：12.5 底：(11.5) 高：11.4	坏部は椀状を呈す。 脚柱部は弱い八の字に立ち、裾部は急角度で開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ脚部ナデ。**内面**：坏口縁部ヨコナデ、体部ナデ、脚柱部絞り目痕、接合痕残す。裾部ナデ。	砂粒含む。 浅黄橙～橙色。 ２次焼成受ける。
3	坩	床直 ほぼ完形	口：12.8 底：4.5 高：14.5	底部は上げ底。 口縁部は直線的に開く。 口唇部は鋭い。歪んでいる。	口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ナデ。内面ケズリ後ナデ。 脚柱内面及び口縁一部赤色顔料。	砂粒、粗砂含む。口縁～胴上半橙色、胴下半灰色。
26号住						
1	埦	フク土 ¾	口：10.5 高：6.3	底～体部の境は判然としない。 丸底。	**外面**：口縁部ヨコナデ、脚部ハケナデ、底部ケズリ、後ミガキ。**内面**：ヨコナデ、ナデ後ミガキ。	砂粒含む。 橙色。口縁部黒褐色。
2	埦	フク土 ⅚	口：13.2 高：5.8	口縁部外面に沈線。 口縁部は内湾気みに小さく開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ後暗文状縦ミガキ。**内面**：ヨコナデ、ナデ後暗文状ミガキ。	砂粒含む。 橙色。 内面剥落多い。
3	手捏ね埦	フク土 ⅔	口：10.8 底：5.6 高：5.9	底部は突出した平底。	**外面**：口縁部ヨコナデ。胴部ハケナデ、ナデ。底部ナデ、内面ナデ。	砂粒含む。 にぶい橙～橙色。
4	手捏ね ミニチュア	フク土 ½	口：5.2 底：4.0 高：3.8	底部は平底。口縁部は内湾する。 口唇は平坦。	外面ナデ。内面ユビオサエ。 口唇部ヘラアテ。	砂粒含む。 にぶい赤褐色～橙色。 底部に黒斑。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
26号住						
5	高　坏	ピット 一部欠損	口：20.3	底―体部境の稜はあるが、底部から口縁部まで単調に開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体・底部ナデ。一部ハケ痕。**内面**：ヨコナデ、ナデ。(剝落して不明瞭)	砂粒含む。 橙色。 接合部にヘソ。
6	高　坏	床直 ⅔	口：19.4	底～体部境の稜は比較的明瞭。	**外面**：口体部ヨコナデ。底部ナデ。 **内面**：口体部ヨコナデ。底部ナデ。	砂粒多量に含む。 赤～橙色。 黒斑。煤付着。
7	器　台	フク土 脚部完形	裾：10.3	受部中央に径1cmの円孔を穿つ。脚部中位3ヵ所に径1cmの円孔を穿つ。	**外面**：細かく緻密な縦ミガキ。 **内面**：ナデ後、ミガキ(単位不明)	細砂粒、石英粒含む。 基本的に浅黄橙色。 赤色塗彩。
8	坩	床直 ½	底：3.8	底部は上げ底。	**外面**：胴部ケズリ後ナデ、底部ナデ。**内面**：ナデ。	砂粒含む。 外面橙色、内面褐灰色。
9	坩	フク土 口縁欠損 口縁一部	底：2.9	底部は小さな平底。 (手捏ね？)	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ、底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ、オサエ。	にぶい橙色。 胴部に黒斑。
10	小型壺	フク土 (床上20cm) 口縁欠損	胴：9.7 底：5.2	底部は比較的大きな平底。胴部はかなり扁平。頸部は細い。	**外面**：ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部不明(ナデか？)	細砂粒、粗砂含む。 橙色。胴下半～底部に火を受けている。
11	坩	床直 ½	口：10.1 胴：10.4	口縁部は内湾気みに開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ、ナデ、胴部ハケ後ナデ、頸部ハケ。**内面**：口縁部ハケ後ナデ、胴部ナデ。	砂粒含む。 淡橙色。
12	小型甕	床直 ⅖	口：(11.7) 底：5.0 高：12.5	底部は平底。 口縁部に歪みがある。	**内外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。底部ナデ。	砂粒含む。 橙色。煤付着。 胴部外面に黒斑。
13	小型甕	フク土 ⅔	口：16.0 胴：19.6	扁平な丸みのある胴部から口縁部がくの字に開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後ハケナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂含む。 暗赤褐～黒褐色。 口縁部外面に煤付着。
14	壺	床直 ⅓	胴：(15.6)	わずかな扁球形状を呈す。 底部は丸底。 接合痕が目だつ。	**外面**：胴部ナデ、底部ケズリ。 **内面**：ナデ。	砂粒含む。 赤褐色。
15	甕	床直 ⅔	口：16.1	口縁部は弱いくの字に内湾ぎみに外傾する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部上端斜ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒含む。 外面暗赤褐色、内面橙色。口縁部外面付着物。
16	甕	フク土 ½	口：18.6	丸い胴部から、弱いくの字に口縁部が外傾。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ(後ミガキ？)。**内面**：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、ケズリ後ミガキ。	砂粒多量。粗砂。 暗赤褐色。胴部外面に黒斑、煤、付着物。
17	壺	床上6cm ½	口：20.1	口縁の立ち上がりは直立気みで外反する。上端は内湾ぎみになる。口唇は平坦。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ(後ナデ？)。**内面**：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面に接合部残る。	砂粒多量に含む。 にぶい橙～橙色。 ケズリ痕明瞭。
21	甕	床直 ½	胴：23.0 底：6.5	底部は平坦。 胴部は卵型。	**外面**：胴部上半ハケナデ、下半ナデ、後中位部分的にミガキ、底部ナデ。**内面**：ナデ。	砂粒含む。 にぶい黄橙～赤褐色。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考

26号住

18.　砥石。床直。凝灰炭製。4面とも使用されている。

19.　石製品。フク土。軽石質。長軸の一面を除いて径1cm前後の区画内に5～6本の細い条線を沈刻している。用途は不明。

20.　石製品。壁面最下部。石質は19と類似。円礫を打ち欠いて、大小の面を3面作り出し、表面を平滑に磨いて鋭利な道具を用いて線刻している。線刻は幾何学的な文様で、意味、意図するものは不明であるが、下端の細い条線は文字あるいは絵の様にも見える。長径8.0cm、矩径5.6cm。

27号住

1	(脚付坦)	床直 裾一部欠損	口：10.2 胴：10.1 裾：12.0 高：13.1	脚部は中位から内湾気みに大きく開き裾部でほぼ水平になる。	**外面**：口縁部ヨコナデ後縦ナデ。胴部ケズリ後頸部から縦ミガキ、脚部ケズリ、ヨコナデ後縦ミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後ミガキ、脚部ケズリ、ヨコナデ。	砂粒、粗砂含む。 にぶい黄橙～橙色。 口縁部に煤付着。 裾部に黒斑。

28号住

1	甕	フク土 ¼	口：(15.4) 胴：(20.0)	余り張りのない胴部から口縁部が比較的強めに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部、縦、横ハケナデ。**内面**：頸部ナデ、口縁と胴部細かい横ハケ状ナデ。	砂粒、小礫含む。 黒褐色。
2	S字口縁台付甕	床直 ½	口：14.1 胴：20.4	S字状口縁の上半は直立ぎみに外反する。胴部は上半に張りを持つ。口縁内面に沈線。	**外面**：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラアテ、胴部ハケメ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ユビオサエ、ナデ。	砂粒含む。頸、肩部浅黄橙、他は黒褐色。 胴口縁部多量の付着物。
3	(広口壺)	床直 口縁部⅓ 胴部⅙	口：(25.8)	口縁部はくの字に外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ後胴部にかけてハケナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂、小礫含む。 にぶい黄橙～浅黄橙色。
4	〃	床直 底部完形 胴部⅙	底：9.6	底部は大きな平底。 実測上では整合しないが、③と同一個体の可能性がある。	**外面**：胴部斜ハケ後縦ミガキ。底部ナデ後ミガキ。**内面**：胴部横ハケナデ、底部ナデ。	砂粒、小礫含む。内面橙色、外面にぶい黄橙。 胴部に大黒斑。
5	(壺)	フク土 底部完存	底：4.1	底部は突出した上げ底。 小型壺型土器と思われる。	**外面**：胴部縦ハケ。**内面**：縦ハケ後縦ミガキ。	砂粒含む。 にぶい橙色。

29号住

1	鉢	フク土 ⅓	口：11.0	体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は肥厚し、内面に稜を持つ。又接合痕が残る。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体～底部ナデ後ミガキ。	砂粒多量に含む。 にぶい橙色。体～底部内外面に大黒斑。
2	坏	床直 ¼	口：(11.5) 底：4.6 高(3.7)	底部は上げ底で突出している。	**外面**：口～体部ナデ、底部ナデ。**内面**：ナデ後ミガキ。	粗砂、小礫多量に含む。 赤色。 体部、口縁部に黒斑。
3	坏	フク土 ⅙	口：(15.0)	口縁部は小さく体部から突出し内面に稜を持つ。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後横ミガキ、内面ナデ後縦ミガキ。	砂粒含む。 橙色。

30号住

1	高坏 (埦型)	フク土 坏部½	口：15.6 体：17.0	丸みのある体部から短かい口縁部が内湾ぎみに外斜する。口縁部全体が薄く、口唇部は鋭い。	**外面**：口縁部ヨコナデ後上半にかけて細い縦ミガキ．体下半強い横ミガキ、底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ後細い縦ミガキ、体部ナデ。	砂粒、粗砂含む。 橙、赤色。黒斑あり。 31号住フク土出土遺物と接合。
2	甕	床直 口縁部½ 胴部　¼	口：17.0	口縁部は直立気みで、肥厚する。剣先状に先端に行くに従い厚さを減ずる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、下端ヨコハケ。胴部ハケナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ。	砂粒含む。 橙～赤褐色。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
31号住						
1	高　坏	床直 坏底部½ 脚裾部½	裾：13.0	接合部は太く、脚部はエンタシス状。器厚が全体的に厚い。	**外面**：坏部ハケナデ、ナデ、脚部暗文状縦ハケ。裾部ヨコナデ。**内面**：坏部ハケナデ、脚部絞り目痕。	砂粒含む。 橙色。
2	高　坏	床直 裾部欠損	口：17.2	坏部の底面は口縁に比べて小さく、比較的深めの感じを受ける。接合部はくびれ、脚柱部はエンタシス状を呈する。	**外面**：坏口縁部ヨコナデ、体・底部細かなハケ後ナデ、その後ミガキ、脚柱部ハケ→ナデ→縦暗文状ミガキ、**内面**：坏部ヨコナデ後放射状暗文脚柱部内面接合部ヘソ上位絞り目痕下位ナデ、裾部ヨコナデ。	粗砂粒含む。 橙色～にぶい橙。
3	高　坏	床直 ほぼ完形	口：17.4 裾：13.6 高：14.8	２に比して頸部のくびれが強い。また、体部と底部の境の稜が若干鮮明になる。裾部は水平に近く開く。	２との相異点は、坏体部外面縦斜ハケのまま。裾部外面ヨコナデ後縦ミガキ坏部内面底部一定方向ミガキ。脚柱部絞り目後下半横ハケ。	粗砂、小礫含む。 橙、にぶい橙・褐色。 坏部に大黒斑。 ２次焼成受ける。
4	高　坏	床直 ほぼ完形	口：18.4 裾：13.7 高：15.7	坏部の底部と体部の境の段が明瞭になる。脚柱部は２に類似するが少し高くなる。裾端は若干もち上がる。	坏部内面にハケがわずかに残る。暗文のミガキは細くなる。脚柱部内面は絞り目後横ハケケズリ後暗文状の縦ナデ。	砂粒、小礫含む。 橙色。 坏部外面口縁部に黒斑 二次焼成を受ける。
5	高　坏	床直 脚部裾¼ 欠損	口：17.9 裾：13.4 高：15.4	坏部は３に類似する。脚柱部は４に裾部は３に類似する。	坏部内面はヨコナデ後、近接して３本の縦ミガキ。脚柱部内面下半は横ハケ後近接して４本の縦ミガキ(沈線）外面はハケ、ナデ、ヨコナデ。	砂粒、雲母含む。 浅黄橙～橙色。 坏口縁部内外面、体部脚裾端部に黒斑。
6	高　坏	床直 ほぼ完形	口：17.1 裾：13.0 高：15.6	５に類似。 坏部の口唇部は最も鋭い。	内外面ともにミガキは見られず、ハケ、ナデ、ヨコナデが施される。脚柱部中位に粘土の接合痕がそのまま残っている。	粗砂、小礫含む。 橙色。坏部内面に大黒斑、脚裾部内面に小黒斑。外面片側煤ぼける。
7	坩	口縁部¼ 欠損	口：10.0 底：1.8 高：10.5	底部はごく小さな上げ底。 肩部こけ気みで、口縁部は直線的に開く。	**外面**：口縁部縦ハケ、胴上半斜ハケ、下半ケズリ後ナデ。**内面**：口縁部横ハケ、胴部ケズリ後ナデ。	粗砂含む。 橙色。胴下部と口縁部に火熱を受ける。
8	坩	床直 完形	口：9.8 底：2.6 高：9.4	底部は小さな平底。 胴部は扁球気みで口縁は直線的にわずか開き脚部で内湾気味になる。	**外面**：口縁部ハケ後ヨコナデ、ナデ。頸部ハケ、胴部ナデ、ケズリ。**内面**：口縁部横ハケ、胴部ナデ。	小礫多量に含む。 黒色、一部橙色。 内面に付着物。
9	坩	床直 口縁端一部欠損	口：11.6 底：3.1 高：12.8	底部は小さな上げ底。胴部は算盤玉状。口縁部は内湾気みに立つ。	**外面**：口縁部ヨコナデ、縦ハケ、胴部上からハケ↘→↙、ケズリ。**内面**：ヨコナデ後下半ハケ、胴部上ユビオサエ、下ナデ。	粗砂含む。赤褐色。
10	坩	床直 完形	口：12.2 底：3.8 高：12.9	底部は小さな上げ底で、胴部は扁球形状を呈する。口縁部は外反気みに立ち上がる。	**外面**：口縁部縦ハケ後上半ヨコナデ、胴部ハケ後ナデ。下端ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂含む。 橙色。小黒斑ある。 胴、口縁部に煤付着。
11	小型壺	床直 完形	口：10.3 底：4.3 高：9.1	底部は平底。頸部に段をもつ。器厚が厚く上半は手捏ね土器のような作り。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴上半ナデ、下半ケズリ、底部ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。	粗砂含む。 橙色。胴下部から底部にかけて黒斑。
12	甑	床直 完形	口：12.7 底：4.6 高：8.3	鉢形で、底部中央に径 1.4cmの円孔を穿つ。口縁部は内湾気みである。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。底・体部境に粘土のかぶさり。	粗砂含む。 浅黄橙～橙色。 体部～底部に黒斑。
13	甕	床直 完形	口：15.9 底：6.7 高：17.2	底部は突出した平底。胴部はほぼ球形を呈する。頸部は丸みがある。	**外面**:口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケナデ、下半ケズリ、底部ケズリ、**内面**:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂含む。 赤褐色～橙色。胴部に黒斑、煤付着。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
31号住						
14	甕	床直 完形	口：17.2 底：7.2 高：22.0	底部は突出した平底。胴下部に接合時の稜がある。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ後上半ナデ、下半ケズリ。底部ケズリ。内面ケズリ後ナデ。	粗砂含む。口縁部黒斑。赤褐色～にぶい橙。胴部外面に付着物。
15	甕	床直 口縁部⅔ 胴一部欠損	口：18.5 底：8.2 高：27.1	底部は平底。口縁部はくの字に外反する。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ後ケズリ後ミガキ。内面ケズリ後粗いナデ、下半はハケ後ケズリ後粗いミガキ。	粗砂含む。橙色。胴部に大黒斑1、小黒斑2。胴部片面に火熱。
32号住						
1	甕	フク土 ⅙	口：(18.8)	口縁部は短かく外反。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケナデ、内面ナデ。	砂粒含む。内面浅黄橙色。外面黒褐色。
2	壺	床上5cm ⅓ 底部完存	胴：(26.1) 底：6.0	底部は突出した平底。胴部は底部から直線的に大きく立ち上がり中位に張りを持つ。	胴部外面ハケメ、内面ハケナデ。底部外面ケズリ、内面ヘラケズリ後ナデ。	砂粒、小礫含む。橙色。軟質。二次焼成を受ける。
3	甕	フク土 口縁部⅔ 胴部一部	口：17.2	胴部は肩に張りを持つか？口縁部は折り返し口縁。	**外面**：口縁部縦ハケ後横ミガキ。口唇部ヘラ当て、ハケ、折り返し部指オサエ。胴部ハケ後ミガキ。**内面**：口縁部横ハケ後密なミガキ胴部ナデ後粗いミガキ。	砂粒含む。非常に堅緻。にぶい橙。57号住出土破片と接合。

4．打製石斧（鍬）　泥岩。

33号住						
1	（器　台）	フク土 受部½ 脚部½	受：(8.7) 裾：(11.4) 高：(10.0)	脚部は八の字状に外反する。脚と受部の接合に粘土帯が残る。	**外面**：受部ナデ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ。**内面**：受部ハケ後ミガキ。脚部ナデ、裾部ヨコナデ。	砂粒含む。明赤褐色。ヘソ。
2	台付甕	フク土 台部¾	裾：10.8	「ハ」の字に開く。裾端は荒く、ヘラ押さえ。	**外面**：ナデ後縦ミガキ（条線）**内面**：ナデ。	砂粒含む。橙色。
34号住						
1	高　坏	床直 坏部½ 裾部¾ 脚柱部完	口：18.3 裾：14.2 高：14.0	坏部は直線的に浅く開く。脚柱部は細く若干エンタシス状を呈する。裾部は急角度で開き端部で内湾ぎみとなる。	**外面**：坏部ヨコナデ、他はナデ後各部位ごとに縦方向の緻密なミガキ。**内面**：坏部縦に緻密なミガキ脚柱部弱い絞り目、裾部ヨコナデ。	砂粒含む。橙～黄橙色。他に1個体類似の高坏が出土している。
2	高　坏	床直 坏部½	口：21.0	坏部は深めで大きな高坏である。	**外面**：坏口～体部ヨコナデ後粗い横ミガキ、底部ナデ後縦ミガキ。**内面**：ヨコナデ後放射状暗文。	砂粒、石英粒含む。橙色～にぶい赤褐色。
3	高　坏	フク土 坏部½	口：16.3	体・底部境の稜は比較的鋭い。浅めの坏部である。	底部内外面にハケナデ後坏部全体ヨコナデ。後、内面坏部縦横粗ミガキ、底部縦ミガキ。ヘソ完存。	砂粒含む。にぶい橙～明赤褐色。坏部内面に黒斑。
4	高　坏	フク土 坏部¾	口：17.8	口縁に比して大きな底部を持つ浅めの坏部である。	**外面**：口縁部ヨコナデ、底部ケズリ後縦ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、底部ナデ後粗い横ミガキ。	砂粒含む。にぶい橙～赤色。
5	甕	フク土 口縁部⅓ 胴部½	口：16.5 胴：20.1	口縁部は内湾ぎみに外傾し、上半で外反する。胴部は下半に最大径がある。器厚が薄い。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部斜ハケ後粗い斜ケズリ。**内面**：口縁部横ハケ後ヨコナデ、胴部斜ケズリ。	砂粒多量に含む。橙色。胴部2ヵ所外面に黒斑。
6	甕	床直 胴部⅔	胴：23.1	胴部中位あるいは下位に張りをもつ。器厚が薄い。	5と類似。外面はハケ後密な縦ケズリ、内面ハケ後ケズリ。	砂粒多量に含む。橙色。外面に黒斑。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
34号住						
7	甕	床直 口縁部完 胴部½	口：16.7 胴：24.5	口縁部は余り開かない。 胴部は球形状を呈する。 頸部は丸みがある。	内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ。（外面は磨耗して不鮮明）。内面にユビオサエ、接合痕。	粗砂多量に含む。 外面橙色、内面灰褐色。 胴部に黒斑。
8	（壺）	貯蔵穴 底部完存 胴部½	底：6.3	底部は突出し、わずか上げ底ぎみの平底である。	**外面**：胴部ハケ後密なミガキ、底部ケズリ。**内面**：ハケ（荒れている）接合帯頂部にキザミ痕。	砂粒含む。 外面赤褐色、内面黒色。 33号住の可能性あり。
35号住						
1	埦	貯蔵穴 ほぼ完形	口：13.5 高：5.7	底部は小さな上げ底。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。 **内面**：ヨコナデ。全面磨かれているが磨耗激しく不明瞭。	砂粒含む。赤色塗彩。 橙色(地は浅黄橙色)。 底～体下部黒斑。
2	埦	床直 底部欠損	口：11.3 高：（5.8）	体部上端は内湾し、短かい口縁部が外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ（後ナデ）。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ。	粗砂含む。 橙色。 体部下半黒斑。
3	甕	床直 一部欠損	口：15.0 胴：22.0	口縁部は直線的に外傾する。 頸部は丸みがある。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケナデ、下半ケズリ。**内部**：口縁部ハケ状ヨコナデ、胴部ハケナデ。	砂粒含む。胴部黒斑、黒褐色、赤褐色。 内面接合痕6本。
4	甕	床直 ½	胴：24.0 底：7.0	底部は立ち上がり部を持つ？　胴部は卵型状を呈する。	**外面**：胴部丁寧なナデ、底部ケズリ。 **内面**：ケズリ後ナデ。	砂粒含む。 暗赤褐～黒褐色。 胴部中位付着物。
36号住						
1	坏	フク土	口：14.4 底：4.4 高：4.6	底部は上げ底。体部は浅い。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ後ミガキ。内面ナデ。	砂粒含む。赤橙色。 底部内面に剝落。
2	埦	フク土	口：11.0	体部は深く、口縁部は直立気味に開く。	口縁部：内外面ヨコナデ。体部：内外面ナデ。	雲母多量に含む。 内面赤色、外面橙色。
3	小型甕	床直	口：13.0 底：7.8 高：14.8	底部は平底。 頸部の一部に縦の沈線を残す。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後ミガキ、底部ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ後ミガキ、胴部ナデ後ミガキ。	粗砂、小礫多量に含む。 橙色～黒褐色。 胴～底部内面に付着物。
4	器台	貯蔵穴 受部完存	口：9.6	口縁部が立ち気みになる。 受部中央は穿孔されないと思われる。	**外面**：口縁部ヨコナデ後ミガキ、体部ナデ後ミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ体部ナデ後ミガキ。	砂粒含む。 橙色。黒色付着物。 体部底面剝落している。
5	S字状口縁台付甕	床直 台部欠損 胴一部欠損	口：15.3 胴：23.6	肩が張り、胴下半は伸びる。	**外面**：口縁部ヨコナデ。頸部ヘラ当て。胴部ハケメ。**内面**：口縁部ヨコナデ。胴部ユビオサエ、ナデ。	砂粒含む。付着物。 口頸部灰白色。胴中位黒褐色、下位浅黄橙。
6	S字口縁台付甕	床直 台部欠損 胴部¾	口：16.1 胴：25.4	肩が張り、胴下半は伸びる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラ当て、胴部ケズリ後ハケメ。**内面**：口縁部ヨコナデ。胴部横ハケ後暗文状縦ナデ。	砂粒含む。付着物。 口～肩部浅黄橙、胴中位黒褐色、下位浅黄橙。
7	甕	床直 一部欠損	口：17.2 胴：26.5 底：6.4 高：25.0	底部は立ち上がり部をもち上げ底である。若干扁球形ぎみの胴部から口縁部がくの字状に立ち上がる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ、中位ハケナデ、下位ハケ後ケズリ。底部ハケ後ヘラオサエ？　**内面**：口縁部ハケ後ヨコナデ。胴部ナデ。	粗砂含む。 肩～口縁橙色。胴部暗赤褐色。煤付着。 胴部2ヵ所に黒斑。
8	壺	床直 口縁部½ 胴部一部欠損	口：12.6 胴：27.6 底：7.6 高：28.0	底部は平底で、立ち上がり部を持つ。胴部は中央部が強く張り出す。口縁部は外反し中位に段がある。	**外面**：口縁部上半ヨコナデ、下半斜ハケ後横ナデ後横ミガキ。胴上～中位ケズリ後ミガキ、下位縦ハケ後ミガキ。**内面**：口縁部横ハケナデ、胴部ナデ。接合痕。	粗砂多量に含む。 浅黄橙。 底～胴部大黒斑。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
37号住						
1	高　坏 (埦)	床上5cm 坏部完存	口：16.1	体部は上端で一旦内湾し、そこから口縁部が強く外傾する。	**外面**：口縁部～肩部ヨコナデ。体部縦ヘラナデ。底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体、底部ケズリ後ナデ。	砂粒、雲母多量に含む。 橙色。
2	高　坏	フク土 坏部½ 脚部	口：18.0	坏部の体—底部の境の稜は弱い。 接合部にヘソ。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、脚部ナデ。**内面**：坏部口縁部ヨコナデ、体部ナデ後ミガキ、脚部ナデ。	砂粒含む。 暗赤褐色。
3	高　坏	床直 ⅔	口：22.0	体部と底部の間に段をつけ明瞭に区画する。体部は浅く大きく開く。口唇部はヘラ当てされている。	**外面**：口縁部～体部ヨコナデ後斜暗文。底部ナデ後縦方向暗文。**内面**：口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ後放射状暗文。	砂粒、雲母多量に含む。 にぶい橙～橙色。 口縁部に小さな黒斑。
4	高　坏	床直 坏部完存	口：18.5	体部と底部の境の稜は弱い。全体的に丸みをもつ。	**外面**：口縁部ヨコナデ後ミガキ、体部ハケ→ナデ→ミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ後放射状暗文。脚との接合部内面にヘソ。	砂粒、雲母含む。 にぶい橙～橙色。内面に赤色顔料が広く付着。
5	高　坏	床上5cm 口縁部欠損		底部と体部の境に段がある。	**外面**：体部ヨコナデ、底部横ナデ。 **内面**：体部ヨコナデ、底部ナデ。	粗砂、小礫含む。 橙色。 体部に小黒斑。
6	高　坏	床上5cm 口縁部欠損 坏部⅓			**外面**：体部ヨコナデ、底部ナデ。 **内面**：体部ヨコナデ、底部ナデ。接合部にヘソがある。	砂粒、雲母多量。 にぶい橙色。
7	坩	床上5cm ½	胴：7.9 底：3.2	底部は小さな上げ底で、粘土のかぶりがみられる。	**外面**：ハケナデ、上位はその後ナデ。 **内面**：ヘラケズリ後ナデ。	砂粒含む。 にぶい橙色。 胴部に黒斑。
8	甑	床直 ⅓	口：(14.9) 底：4.8 高：11.6	鉢型。頂部を欠く道円錐形状。底部中央に径1.6cmの円孔を穿つ。	**外面**：口縁端部ユビオサエ、口唇部ヘラオサエ。胴部ハケナデ。底部ケズリ内面ナデ。	粗砂含む。非常にもろい。黒褐色、一部橙色。
9	甕	床直 口縁部⅔ ほぼ完存	口：14.7 底：8.0 高：17.1	底～体部の境の稜は弱い。扁球形の胴部である。	**外面**：口縁部縦ハケ後上半ヨコナデ。胴部、不定方向ハケナデ後ミガキ。 **内面**：口縁部ナデ、胴部ナデ。	粗砂、小礫含む。 明赤褐色。 胴部外面に黒斑。
10	甕	床直 口縁部¼ ほぼ完存	口：16.5 底： 高：26.4	底部は平底で、胴部は均整のとれた卵型をしている。口縁部は「く」の字状に外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。底部ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴～底部ナデ。ハケ後ケズリ後粗いミガキ。	細砂粒含む。胴部に黒斑。胴上半～口縁部橙色。胴中～下半は煤で暗赤褐色。
11	甕	床直 口縁部½ 他は完存	口：13.1 底：7.7 高：27.9	底部は厚みのある平底。中位上寄りに最大径がある。口縁は直立気みに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、頸部ユビオサエ、脚部ナデ。	細砂粒含む。胴部に黒斑。胴下半にぶい赤褐色、上半は黒褐色。スス付着。
12	甕	床直 口縁部⅓ ほぼ完存	口：15.1 底：7.2 高：23.5	底部は丸みのある平底。胴部は中位で張り出し上半、下半ともコケ気味。	**外面**：口縁部縦ハケ後ヨコナデ、胴上半ハケナデ、下半ハケ後ケズリ、底部周縁ナデ、底部ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部上半ナデ、下半ハケナデ、底部ナデ。	砂粒含む。 胴下半にぶい橙色、上半は肩部浅黄橙、他は黒褐色、上半はススぽけている。
13	壺	床直 口縁部¼ 他は完存	口：19.3 胴：28.7 底：7.7 高：32.6	胴上半は球形であるが、下半部は丸みが弱くなる。底部は厚い平底。口縁部は幅広でゆるやかに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、端部で肥厚し、口唇部に浅い淡線が入る。胴部はナデ後斜ミガキ、底部ナデ後ミガキ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ、後ナデ。	砂粒含む。 基本的に橙色。暗赤褐色。胴部数ヵ所に黒斑。破片の状態で火熱をうける。

II　田中田遺跡

－古墳時代後期の出土遺物－

38号住（観察表　P88）

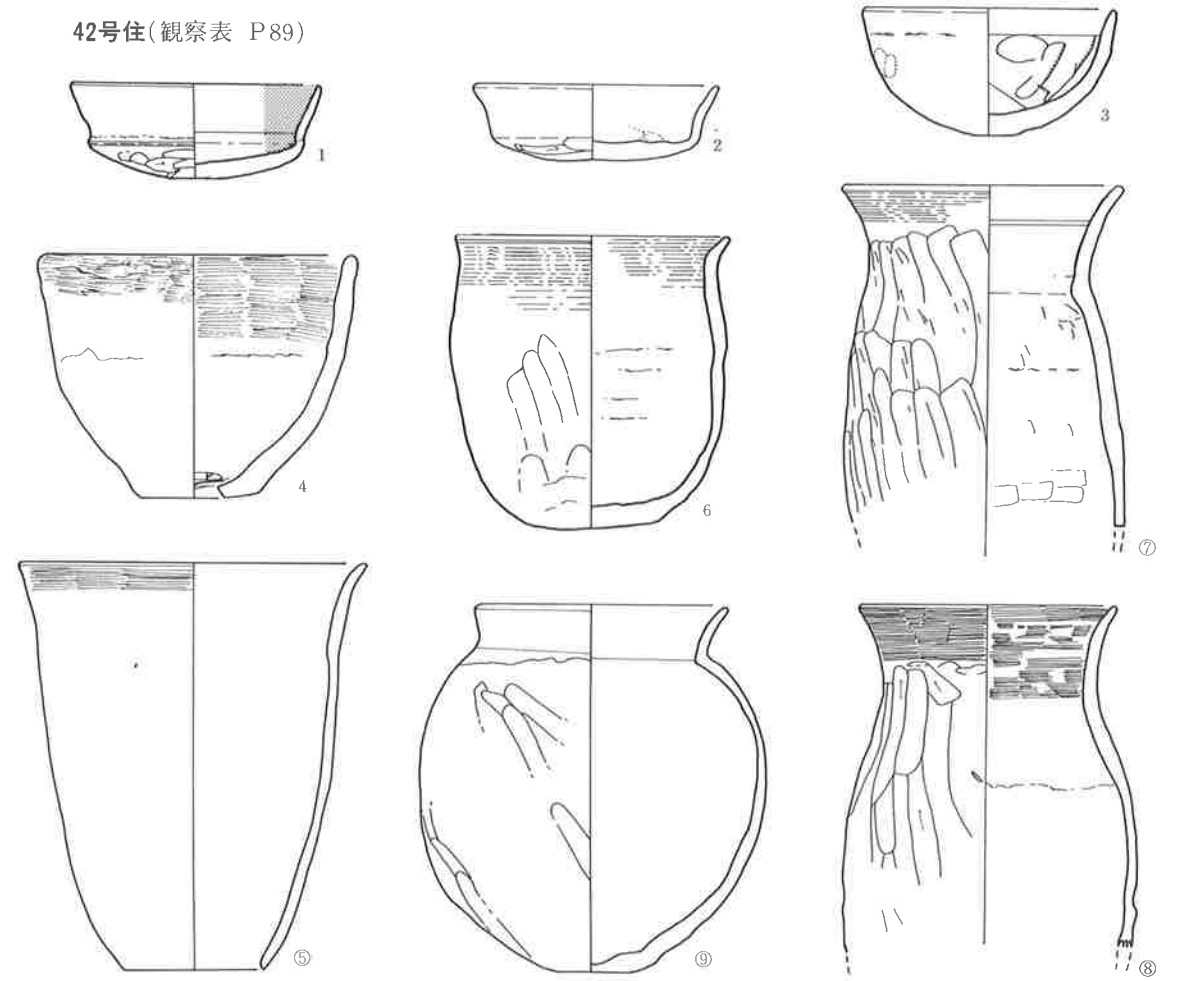
40号住（P88）

39号住（P88）

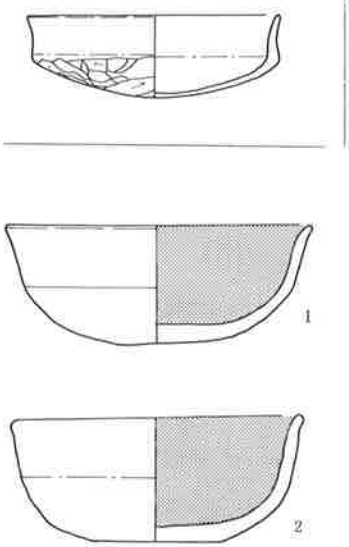
41号住（P88～）

第93図　38～41号住居址出土遺物実測図

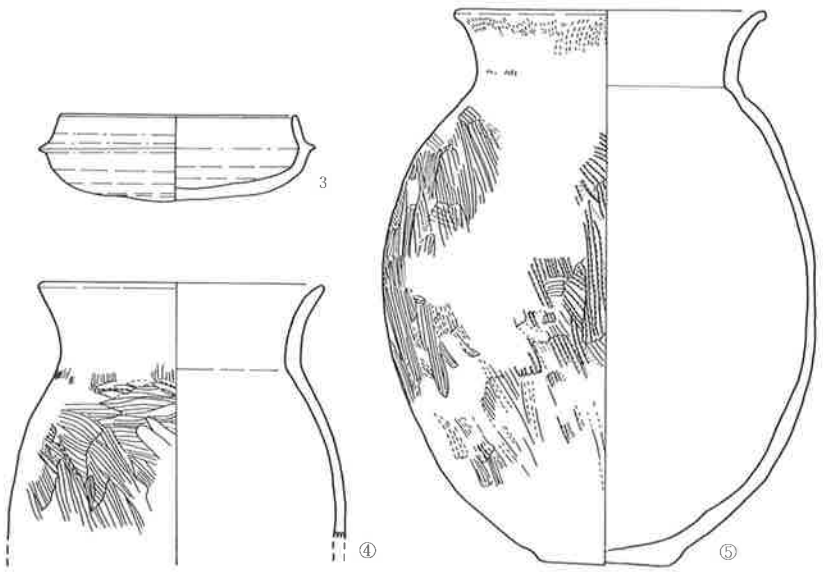
42号住（観察表　P89）

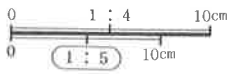


43号住（P89）

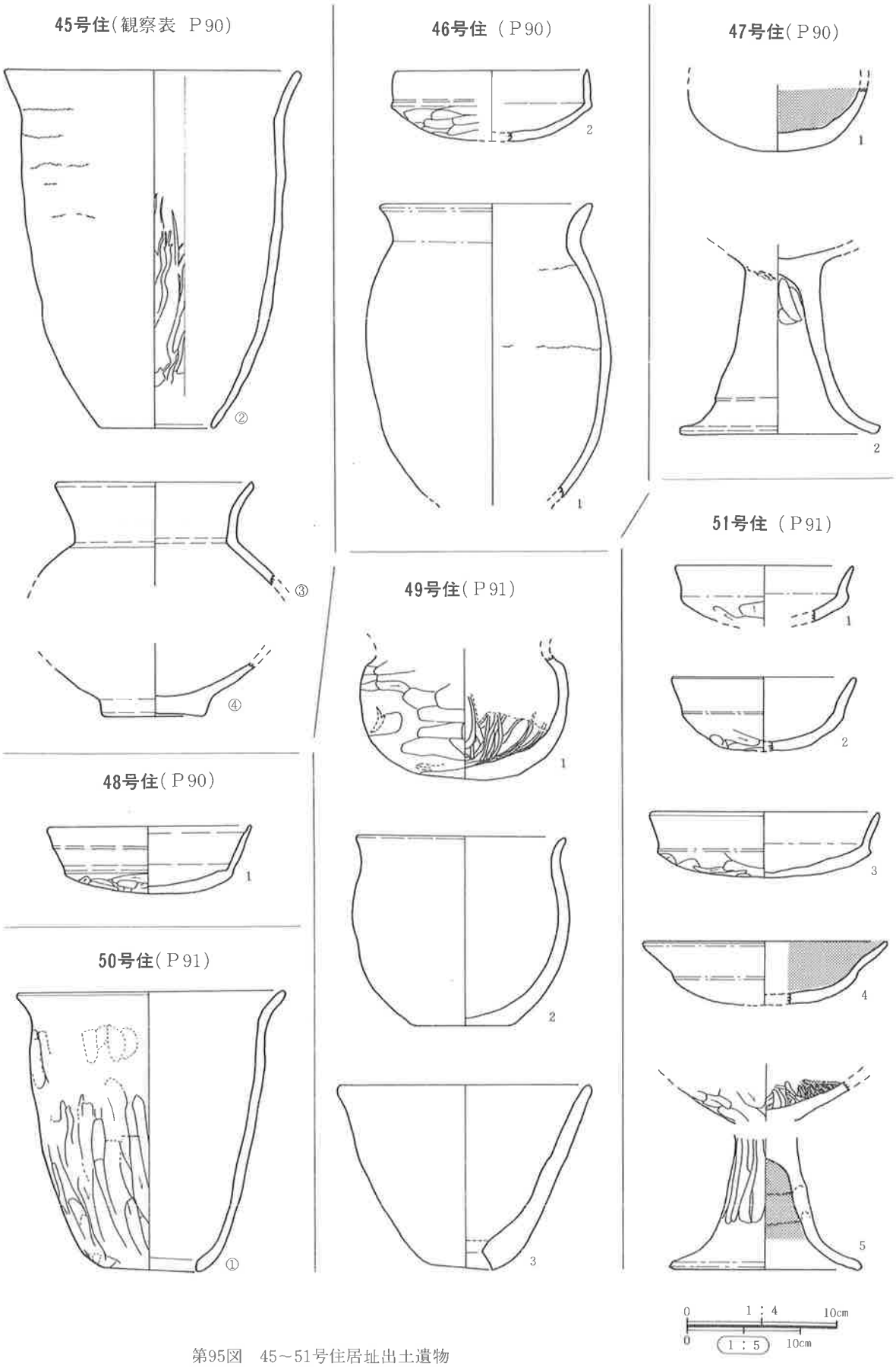


44号住（P90）



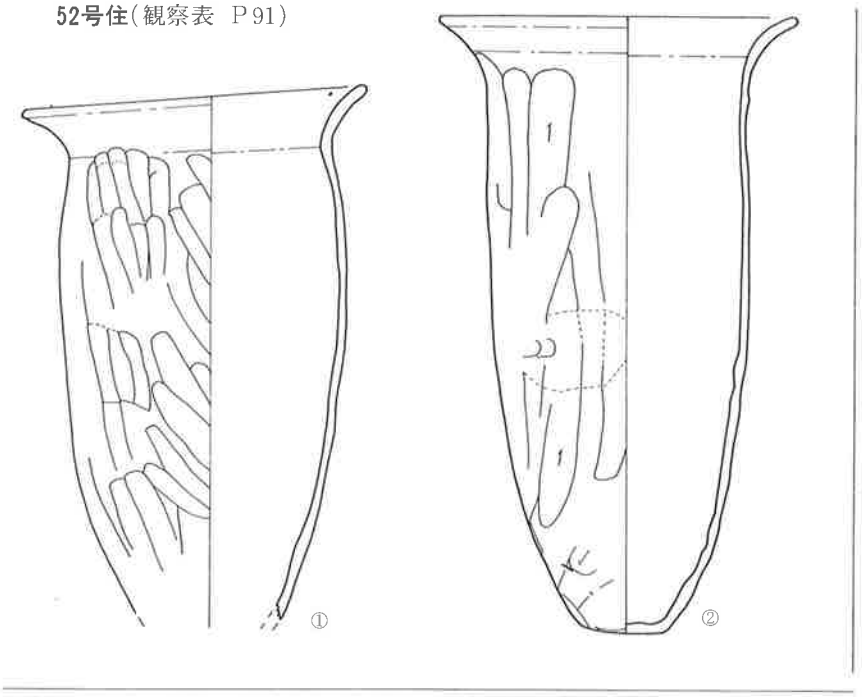


第94図　42～44号住居址出土遺物実測図

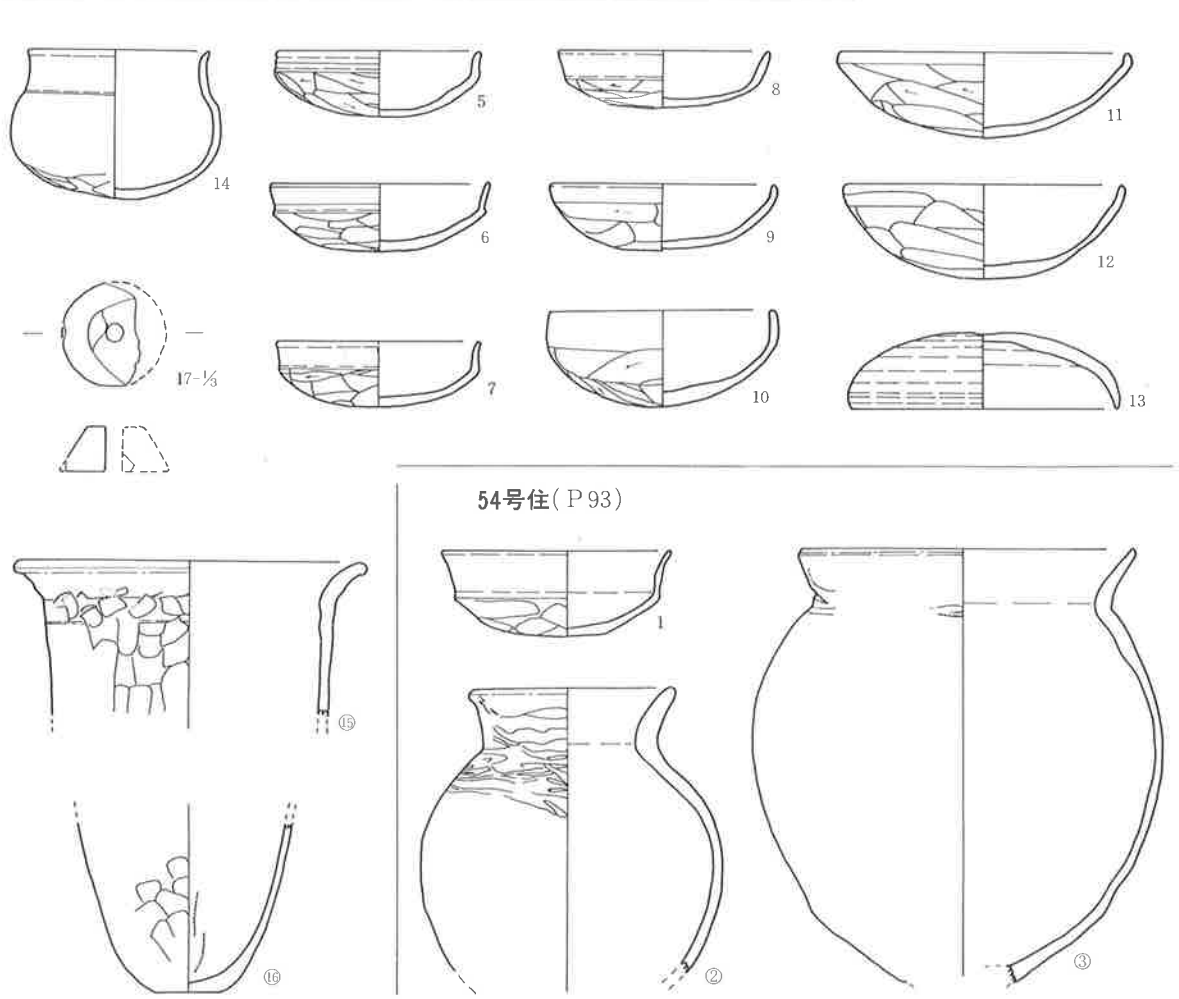


第95図　45～51号住居址出土遺物

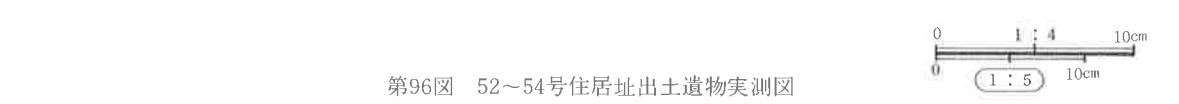
52号住（観察表　P91）



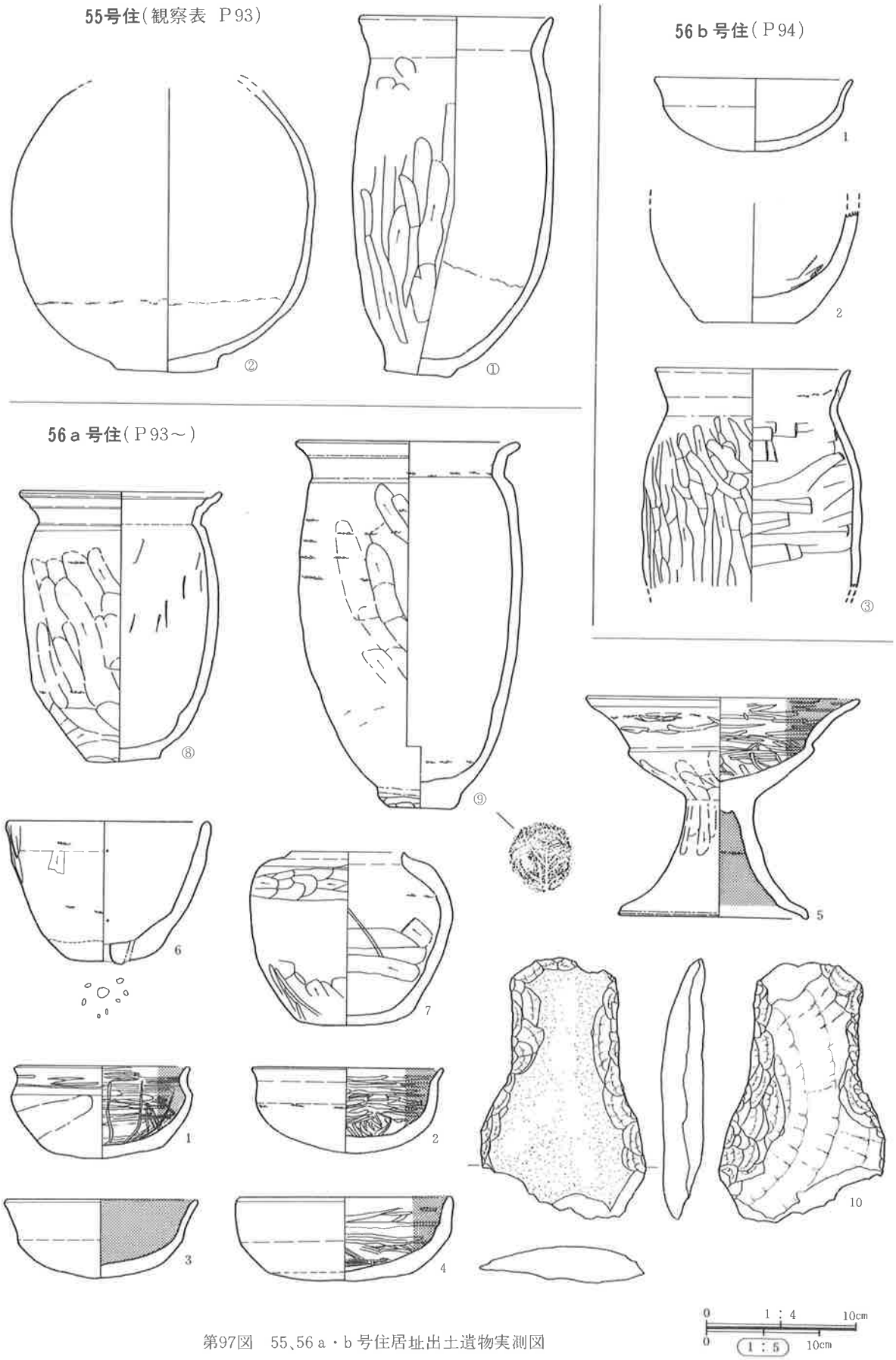
53ａ号住（P91～）



54号住（P93）

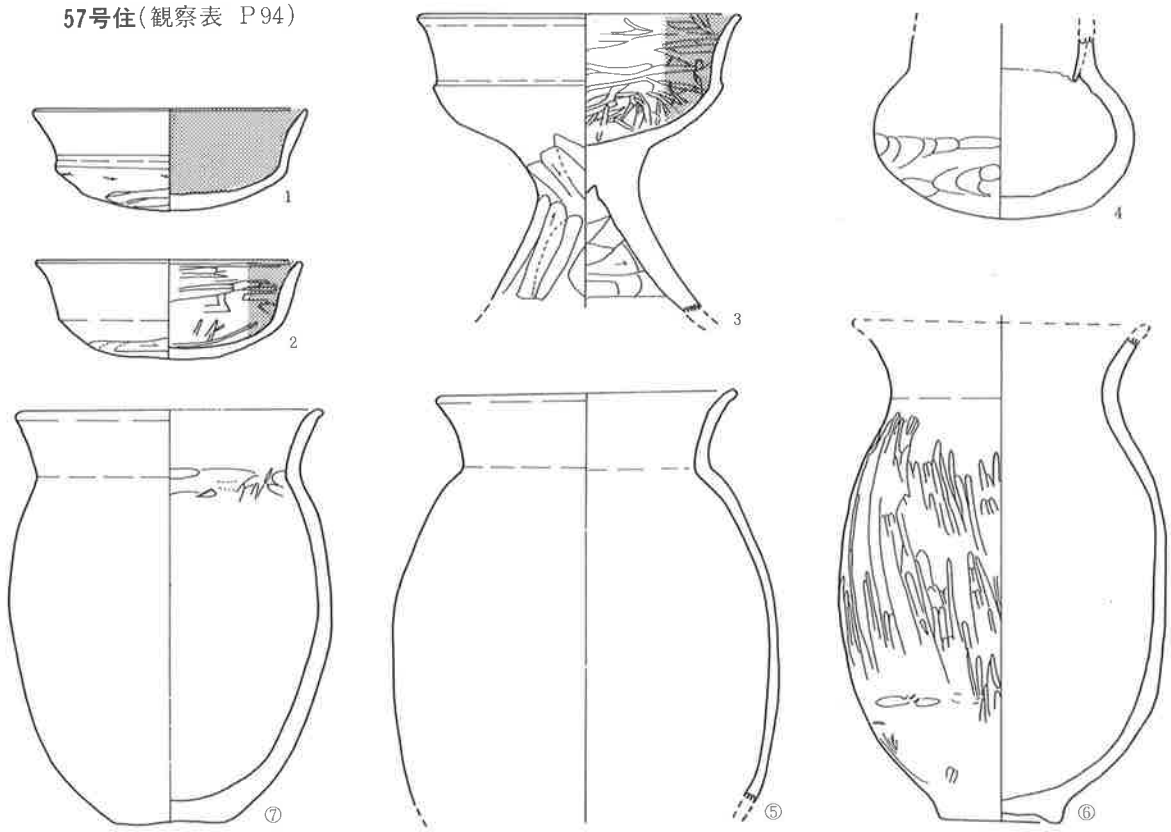


第96図　52～54号住居址出土遺物実測図



第97図　55、56ａ・ｂ号住居址出土遺物実測図

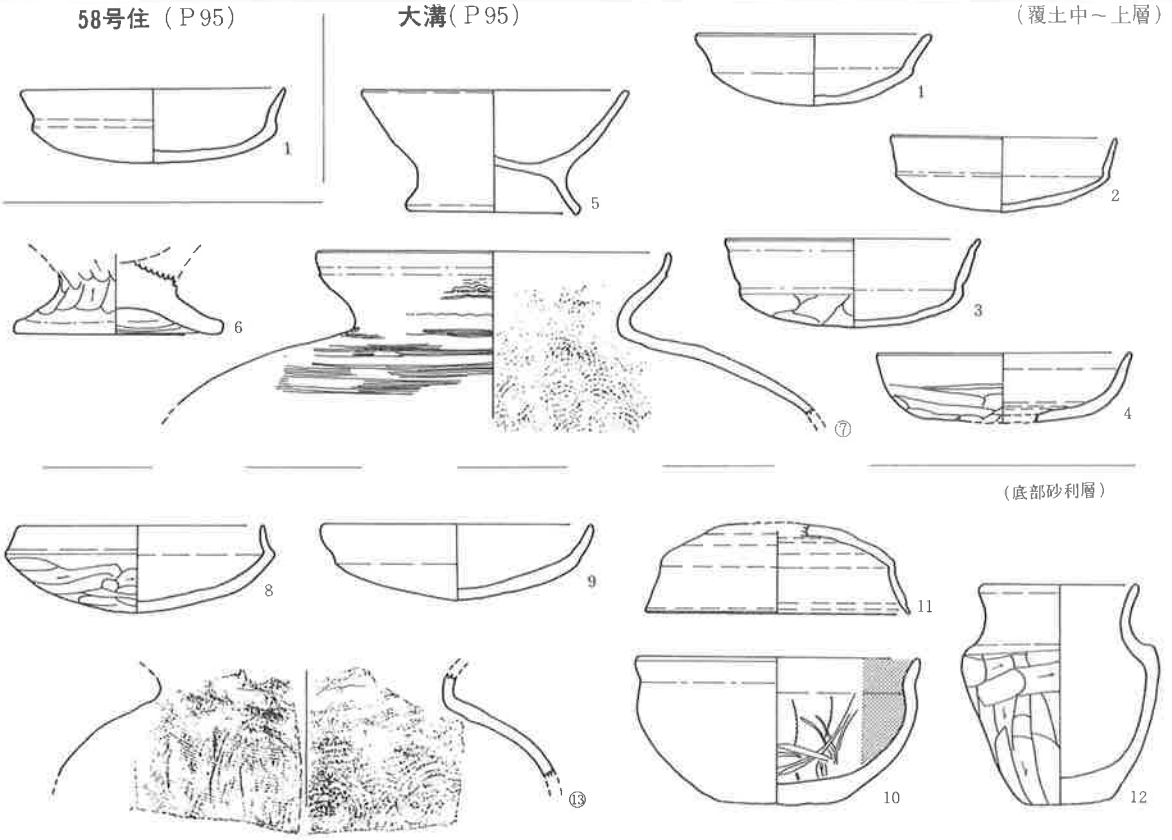
57号住（観察表　P94）



58号住（P95）

大溝（P95）

（覆土中～上層）



第98図　57、58号住居址、大溝出土遺物実測図

0　1：4　10cm
0　1：5　10cm

II　田中田遺跡

古墳時代後期竪穴住居址、大溝出土遺物

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
38号住						
1	坏	フク土 ½	口：13.1 高：4.1	ほとんど平らな体部から口縁部が内湾気みに立ち上がり、上半で外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	砂粒含む。 橙色。 体部に火を受けている。
2	甕	床　直 ⅘	口：17.0 胴：19.6	余り張りのない胴部から口縁部が立ち上がり、中位で外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒含む。 浅黄橙～橙色。
3	甕	床　直 ほぼ完形	口：19.1 胴：22.1 高：33.7	底部は丸みのある平底で胴部との境は判然としない。胴部は中位で張る。口縁部は比較的強めに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ。粗いミガキ。底部ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	粗砂、石英含む。 浅黄橙。底部及び胴中位は黒色。底部内面も黒色。
39号住						
1	坏	床　直 ほぼ完形	口：14.3 高：5.0	口縁端部内面に浅い沈線が一条入る	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面ヨコナデ。 非常に丁寧に作られている。	砂粒含む。 橙色
2	坏	カマド ½	口：13.8 高：4.5	体－口縁部の境の稜は比較的明瞭であり、口縁部上位にも稜がある。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	砂粒含む。 黄橙色。外面に黒色付着物。 内面に白色付着物。
3	坏	フク土 ⅔	口：13.8 高：4.1	丸みのある体部から口縁部がわずかに内湾する。	**外面**：ナデ後ミガキ。 **内面**：ヨコナデ、ナデ後縦方向ミガキ。	砂粒含む。 内面黄橙色、外面浅黄橙。 外面は剥落多い。
4	甕	カマド ⅔	口：18.0	張りのない胴部から口縁部が外反する。器厚は比較的薄く、口縁部で肥厚する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂含む。 にぶい黄橙～灰褐色。 口縁部に黒斑。
5	甕	カマド ⅔	胴：22.5	胴部は比較的丸味を持つ。	**外面**：縦ヘラケズリ。 **内面**：横ヘラケズリ。	粗砂、小礫含む。 にぶい橙～橙色。
40号住						
1	(椀)	床　直 ¼	口：(9.4) 胴：(10.0)	体部は深く、肩が張る。口縁部は短かくわずかに外傾する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ後ミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ後ミガキ。体部ナデ。	粗砂、雲母含む。 にぶい橙色。体部下位は黒褐色。10号住遺物か？
2	甕	床　直 ⅔	口：17.9 胴：22.4	口縁部と胴部の境に強い段を作り出している。口縁部はほぼ直立する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、**内面**：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	粗砂含む。 にぶい赤褐色。橙色。 二次焼成されている。
41号住						
1	坏	床上5cm 完　形	口：12.7 高：4.2	稜は強く、口縁部が内傾する。稜下面をヘラ当てしている。 非常に丁寧な作りである。	**外面**：口縁部ヨコナデ。体部一定方向ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ。	砂粒含む。 浅黄橙。口縁部に小黒斑。 口縁部にスス付着。
2	坏	床上5cm 一部欠損	口：10.3 高：5.8	体部は丸く、稜部はヘラ当てされている。口縁部は外反ぎみに内傾し、上半はほぼ直立する。体部の器厚は非常に厚く、漸次厚さが減ずる。	**外面**：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後粗いミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部もヨコナデ。後、放射状暗文。	砂粒含む。 浅黄橙～橙色。体部内外面中央部に黒斑。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
41号住						
3	坏	床上3cm ほぼ完形	口：11.8 高：6.1	体部に比して大きな口縁部が外反気みに立ち上がる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ（後ミガキ）**内面**：ナデ後横ミガキ。	砂粒、石英粒含む。 浅黄橙～橙。
4	小型壺	床上10cm ⅔	口：14.1 胴：14.5 高:(13.5)	底部は平坦であるが、体部との境は判然としない。若干下膨れな形状を呈する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後粗いミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後ミガキ。	粗砂含む。 外面浅黄橙～橙色、内面にぶい黄橙～褐灰色。
5	小型甕	床直 ⅔	口：12.9 底：6.8 高：16.6	底部は安定した平底。胴は上半に最大径がくる。口縁部は余り開かない。	**外面**：口縁部～肩部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。底部ケズリ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	砂粒、小礫含む。 にぶい橙～橙色。 タール状付着物。
42号住						
1	坏 内黒	床直 口縁部の一部欠損	口：12.5 高：4.8	段部に沈線が入る。浅い体部から口縁部が外傾する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ？**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、後黒色処理。	砂粒、赤色粒含む。 橙色。
2	坏	床直 口縁部の一部欠損	口：12.3 高：3.4	体部内面は平坦である。 口縁部立ち上がりはほぼ直立し外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部不定方向ヘラケズリ。**内面**：ナデ。	砂粒、赤色粒含む。 橙色。
3	埦	床直 完形	口：12.6 高：6.4	半球形状を呈する。 口縁と体部の境は判然としない。 内面はわずかに稜がある。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ。	砂粒含む。 淡赤橙 底部に火をうけている。
4	甑	床上4cm 完形	口：15.5 底：6.2 高：12.2	底部中央に径2.4cmの円孔を穿つ。鉢状を呈する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ。孔周縁ケズリ。	粗砂、小礫含む。 にぶい橙色～橙色。 黒斑
5	甑	床直 ほぼ完形	口：22.2 孔：8.2 高：26.2	長胴で、口縁部は余り開かない。 孔縁は弱くヘラ当てされている。	**外面**：口縁部ハケ目状ヨコナデ。胴部縦ヘラケズリ後縦ミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦に密なミガキ。頸部横ミガキ。	粗砂含む。 浅黄橙色 黒斑（口縁部）
6	小型甕	床上10cm ほぼ完形	口：13.5 底：5.6 高：14.8	口縁部はわずか外反する。 口唇部外寄に沈線が入る。	**外面**：口縁部ハケ状ヨコナデ。胴部ケズリ後ナデ。底部同じ。**内面**：口縁部ハク状ヨコナデ。胴・底部、ナデ。	粗砂含む。浅黄橙～橙色。 胴部に黒斑。
7	甕	カマド炊口 一部欠損	口：17.9 胴：18.1	口縁部は比較的長く、直立ぎみに外反する。 口縁部内面に2本沈線がある。	**外面**：口縁部ハケ状ヨコナデ、胴部縦ヘラケズリ、**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	粗砂粒多量。 にぶい橙色。 胴部、口縁部に黒斑。
8	甕	床直、カマド ⅔	口：16.7 胴：19.2	7と類似するが、胴部はわずかに膨らみがある。	**外面**：口縁部ハケ状ヨコナデ、胴部縦ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ。	粗砂粒多量。 浅黄橙～橙色。 胴部に黒斑。
9	甕	床上12cm 一部欠損	口：15.8 底：5.7 高：23.7	胴部はほぼ球形を呈する。 底部はわずかに突出し、丸い。 口縁部は外反する。	外面は荒れていて判然としないが、口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ、底部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴底部ナデ。	粗砂含む。 浅黄橙～にぶい褐色。
43号住						
1	坏	床直 ほぼ完形	口：13.2 高：3.8	口縁部は外反しながらほぼ直立する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	砂粒含む。 橙色～にぶい橙色。 体部に小黒斑。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
44号住						
1	坏 内黒	フク土 (床上　) ⅔	口：15.3 底：4.0 高：6.0	口縁部はわずかに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ミガキ。**内面**：口縁部横ミガキ、底部一定方向ミガキ。	粗砂多量、石英粒含む。 外面浅黄橙色。 黒斑
2	坏 内黒	フク土 (床上　)	口：14.3 底：7.3 高：6.3	口縁部は外反気みに直立する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ミガキ。**内面**：口縁部横ミガキ、底部一定方向ミガキ。	粗砂、石英粒多量。 外面浅黄橙色。 底部木葉痕。黒斑
3	坏 須恵器	フク土 (床上　)	口：10.0 高：4.2	口縁一体部境の段部は突出している。口縁部は内傾する。	**外面**：口縁部回転ナデ、体部回転ヘラケズリ後上半のみ回転ナデ。**内面**：回転ナデ。	砂粒含む。 灰色。
4	甕	床直 口縁部¾ 胴部⅙	口：18.2 胴：22.0	卵形の胴部から直立気みに口縁が外反する。 底部は安定した平底。	**外面**：口縁部縦ハケ後ヨコナデ胴部ハケナデ、底部ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂含む。 にぶい橙～橙色。 胴部２ヵ所に黒斑
5	甕	床直 ⅔	口：20.3 胴：28.2 底：8.3 高：35.9	口縁部は直立ぎみに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ハケナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	粗砂含む。 にぶい橙～橙色 胴部に黒斑
45号住						
2	甑	床直 一部欠損	口：24.9 孔：8.6 高：30.5	口縁部は直立ぎみにわずか外傾する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ。下位ケズリ、下端ナデ **内面**：ナデ後ミガキ。	砂粒含む。 にぶい橙～灰黄褐色 内外面に黒斑
3	(壺)	貯蔵穴 口縁部一部欠損	口：17.0	口縁部はほぼ直立し、中位から外反する。	**外面**：口縁部縦ハケメ後ヨコナデ、胴部ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	砂粒含む。 浅黄橙色～橙色。 胴部内面にぶい褐色。
4	(壺)	床直 底部実存 胴部½	底：8.8	底部がしっかり作り出され、胴部が大きく開いている。丸胴と思われる。	**外面**：胴部ナデ後粗いミガキ。底部ケズリ。**内面**：ナデ、底部周縁磨滅。	砂粒含む。 内面浅黄橙。外面にぶい褐色。
46号住						
1	小型甕	床直	口：13.6 胴：16.3	胴部は卵型。口縁部は短かく外反する。口縁部は肥厚する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂。 橙色。
2	坏	フク土 ⅓	口:(13.3) 高:(4.7)	口縁部は内湾気みに立ち上がる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部不定方向ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	砂粒含む。 内面橙色、外面灰褐色 外面に黒斑
47号住						
1	(椀) 内黒	床上		底部は丸底。	**外面**：ケズリ後ナデ後ミガキ。**内面**：ナデ。	粗砂含む。外面：浅黄橙～暗赤褐色、底部黒斑。
2	高坏	床上 脚部完存	裾：13.5	脚柱部は余り角度をもたずに開き、裾部で強く外反する。	**外面**：脚柱部縦ケズリ後縦ミガキ。裾部ヨコナデ。**内面**：上端弱い絞り目、柱～裾部ヨコナデ。坏部内面ナデ後ミガキ。	砂粒、石英含む。 浅黄橙～橙色。 裾に黒斑
48号住						
1	坏	フク土 一部欠損	口：13.5 高：4.5	口縁部は中位に稜をもち、口唇部は鋭い。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部不定方向ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部横ナデ。	砂粒含む。 にぶい橙。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
49号住						
1	甑	床　直 ほぼ完形	口：23.6 孔：7.6 高：25.0	胴部はわずかに膨らみをもちながら直線的に開く。そこから口縁部が外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、内面横ナデ、孔縁ケズリ。	粗砂含む。 橙 胴部外面に黒斑２ヶ所。
50号住						
1	小型壺	床上10cm ⅔	胴：14.4	底部は丸底。胴部は扁平。	**外面**：体部横ケズリ後一部にミガキ、頸部にヨコナデ残存。 **内面**：ナデ後縦ミガキ。	砂粒含む。 浅黄橙。
2	小型甕	床上10cm ¾	口：14.0 底：6.8 高：12.7	底部は平坦。胴下端が最も厚く漸次薄くなる。口縁部はゆるやかに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦ケズリ後ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦ケズリ後ナデ。	砂粒含む。 橙色。
3	甑	フク土 ⅙	口：16.4 高：12.6	底部は厚く、直線的に胴部が開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ。 **内面**：ナデ	砂粒含む。軟質。 褐灰色。外面２次焼成。 内面全体に付着物。
51号住						
1	坏	フク土 ⅕	口:(12.0)	口縁部と体部の境に明瞭な段がある。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：口縁～体部ヨコナデ。	石英、雲母多量。 橙色～にぶい赤褐色。
2	坏	フク土 ¼	口：(12.4) 高：4.9	全体的に深い。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後上半～口縁部ミガキ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	粗砂、石英粒多量。 浅黄橙～にぶい褐色。
3	坏	フク土 ¼ 口縁一部	口：15.4 高：4.4	浅い体部から明瞭な段を経て口縁部が立ち上がる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部不定方向ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ後ナデ。	粗砂、石英粒多量。 にぶい橙色。 黒色付着物。
4	(坏) (内黒)	フク土 ¼	口:(16.4) 高:(4.2)	口縁部は大きく開く。 体部は浅い。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ。**内面**：ヨコナデ(後横ミガキ？)後黒色処理。	浅黄橙～橙色。 高坏の可能性がある。
5	高　坏 (内黒)	フク土 一部欠損	裾：12.9	脚上部は直立気みに開き、裾部で大きく外反する。裾端部はわずかに内湾する。外面に沈線。	**外面**：坏部ヘラケズリ、脚柱部縦ケズリ、裾部ヨコナデ。**内面**：坏部一定方向磨き、脚柱部ナデ、裾部ヨコナデ。	石英、赤色粒含む。 浅黄橙色。坏部、内黒 脚部不完全な内黒。
52号住						
1	長胴甕	床　直 ¾	口：22.3 胴：18.5	脚部はわずかな膨らみをもち、口縁部は大きく外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦斜ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	砂粒含む。 にぶい黄橙。
2	長胴甕	床　直 ¾	口：23.3 胴：17.0 底：4.7 高：39.7	口縁部は大きく外反する。 脚部はほとんど膨らまない。 底部は小さい。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦ヘラケズリ、底部ケズリ。**内面**:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	砂粒多量に含む。 橙色。 胴中～下部に黒斑。
53Ａ号住						
1	坏	床　直 ほぼ完形	口：11.0 高：3.8	体部中央口器厚が厚い。そこから漸次薄くなり口縁部で又肥厚する。稜は弱い。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。**内面**：ナデ。内外面とも磨耗激しく判然としない。	砂粒含む。 橙色。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
53A号住						
2	坏	床　直 ほぼ完形	口：11.8 高：3.6	口縁部と体部の境の稜は弱くなっている。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部不定方向ヘラケズリ。 **内面**：ナデか？（剥落激しい）	砂粒、小礫含む。 橙色～黒褐色。割れてから火熱をうけている。
3	坏	床　直 3/4	口：11.4 高：3.4	口縁部と体部の境の稜は弱くなっている。口唇部は鋭くなっている。2と類似。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部一定方向ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ、底部中央一定方向ナデ。	砂粒含む。 橙色。
4	坏	床　直 3/4	口：11.5 高：3.1	6と類似。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部一定方向ヘラケズリ。 **内面**：ヨコナデ。	砂粒含む。 橙色。
5	坏	フク土 一部欠損	口：10.4 高：3.3	口縁部は外反ぎみにほぼ直立する。中位にも段をもつ。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部一定方向ヘラケズリ。 **内面**：ナデ。（器表面磨耗）	砂粒含む。 橙色。 二次焼成された破片がある。
6	坏	フク土 一部欠損	口：11.2 高：3.4	丸みのある体部から明瞭な段を経て急角度で口縁部が立ち上がる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部一定方向ヘラケズリ。 **内面**：ヨコナデ。体部中央ナデ。	砂粒含む。　竪緻 橙色～にぶい褐色。
7	坏	フク土 3/5	口：10.4 高：3.3	6と類似。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部不定方向ヘラケズリ。 **内面**：	砂粒含む。比較的硬い。 橙色 内面剥落痕多い。
8	坏	フク土 一部欠損	口：10.8 高：2.9	口縁部と体部の境の稜は比較的明瞭である。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：横ナデ、体部中央ナデ。	粗砂、小礫含む。 橙色。内外面とも磨耗、剥落が激しい。
9	坏	フク土 1/2	口：11.5 高：3.5	口縁部と体部の境は不明瞭。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、（後ナデ？） **内面**：ナデ。	砂粒含む。 底部外面橙、他はにぶい褐色。黒斑。
10	坏	フク土 2/3	口：11.1 高：4.9	丸い体部から口縁部が内湾気みに立ち上がる。境は不明瞭。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部横ナデ。器面滑沢。	砂粒含む。 橙色。 歪みがある。
11	坏	床　直 一部欠損	口：15.0 高：4.3	短かい口縁部が内湾気みに立つ。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：横ナデ。	砂粒含む。 橙色。
12	坏	フク土 ほぼ完形	口：14.3 高：4.8	短かい口縁部がほぼ直立する。	**外面**：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：ナデ。	砂粒含む。 にぶい橙色。 右回転。
13	蓋	フク土 3/5	口：13.4 高:(3.9)	全体的に丸みをもっている。	**外面**：回転ヘラケズリ後天井部を除き回転ナデ。 **内面**：回転ナデ。	砂粒含む。 内面橙色、外面黄橙、体底部は黒色。
14	（鉢）	フク土 3/5	口：9.2 高：7.5 底：10.4	体部は内湾し、段を経て口縁部が外反してほぼ直立する。	**外面**：口縁部ヨコナデ。体部横ヘラケズリ、底部不定方向ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	
15	甕	床　直 1/4	口：23.0	口縁部は肥厚し、大きく外反して開く。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂粒含む。 にぶい橙色。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考

53Ａ号住

16	甕	カマド ⅔	底：4.8	底部は小さな平底。 胴下半は細い。	**外面**：ヘラケズリ **内面**：ナデ	粗砂粒含む。 にぶい橙～橙色。

17　紡錘車　½残存、滑石製

54号住

1	坏	床　直 一部欠損	口：11.7 高：4.4	口縁部は中位にわずかな稜を持つ。口唇部は鋭い。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(後ナデ)。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	細砂粒、赤色粒含む。 橙色。 外面底部に大黒斑。
2	壺	床　直 上半実存 胴下部½	口：12.8 胴：19.5	球形の胴部から口縁部が外反して立つ。口縁部は肥厚する。	**口縁部**：ヨコナデ後ミガキ。 **胴部**：内外面ケズリ後ミガキ。	粗砂、赤色粒含む。 にぶい橙～明赤褐色。 胴部外面に黒斑。
3	甕	床　直 一部欠損	口：21.6 胴：26.6	卵形の胴部から口縁部がゆるやかに外反する。口唇部外面は平坦で、浅い沈線が入る。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	粗砂、小礫多量に含む。 橙色。内面浅黄橙。

55号住

1	甕	床　直 ほぼ完形	口：16.3 底：5.8 高：29.9	口縁部はわずかに外傾する。 底部は中心よりもかなり偏して付けられている。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦ケズリ、底部ケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ、ナデ	粗砂含む。 にぶい橙～黒褐色。 外面にススが付着。
2	壺	床　直 ½	胴：25.9 底：8.9	ほとんど球形の胴部である。	**外面**：胴部ナデ後ミガキ、底部ナデ。**内面**：胴～底部ナデ、下位に接合痕がある。	砂粒含む。 にぶい橙色。 黒斑

56Ａ号住

1	坏 (内　黒)	床　直 ¾	口：11.2 高：6.2 (底)：8.4	底部と体部の境は明瞭でない。 口縁は外反しながら内傾して立つ。	**外面**：口縁部ヨコナデ後横ミガキ、体部はユビオサエ、ナデ後ミガキか？**内面**：口縁部ヨコナデ後横ミガキ、体部は横ミガキ、底部は一定方向ミガキその後放射状暗文。	粗砂、小礫含む。 浅黄橙色。 体部外面は磨耗している。
2	坏 (内　黒)	カマド ¾	口：12.6 高：5.6	体部は丸みをもち、口縁部はほぼ直立し、口端部で外傾する。 体部と口縁部の境は不明瞭。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ。**内面**：口縁～体上部横ミガキ、体下部一定方向ミガキ。	粗砂、小礫含む。 浅黄橙色。 体部外面に小さな黒斑。
3	坏 (内　黒)	床　直 ¾	口：12.6 高：5.2	丸みのある体部から外反気みに口縁部が開く。	**外面**：口縁部ミガキ、体部ミガキ、**内面**：口縁部横ミガキ、体部密にミガキ（単位は不鮮明）	粗砂、小礫含む。 浅黄橙色～明褐色。 体部外面は磨耗している。
4	埦 (内　黒)	床　直 ¾	口：14.0 底：10.0 高：5.7	底部は平坦で不鮮明ながらも体部との境に稜をもつ。又、体部と口縁部の間にも弱い稜があり口縁部は直立する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部木葉痕。**内面**：口縁～体部横ミガキ、底部一定方向ミガキ、クレーター状剥落がある。	粗砂、小礫含む。 にぶい橙色。 体部外面に黒斑。
5	高　坏 (内　黒)	床　直 ⅘	口：18.3 裾：14.7 高：12.7	坏部は内湾気みに開き中位の段を経て外反気味に口縁部が開く。 脚部はゆるやかに外反し、裾端部で内湾する。	**外面**：坏底部は粗ケズリ後ナデ口縁部はヨコナデ後粗いミガキ脚柱部は縦ケズリ後ナデ、裾部ヨコナデ。**内面**：坏部一定方向ミガキ、脚部、ヨコナデ、ナデ。	粗砂、小礫含む。 淡橙色。 坏、脚とも内面黒色処理。
6	甑	台　上 完　形	口：13.3 底：4.7 高：9.6	手捏ね土器のような作りである。 底部中央に径1cmの円孔がありその周囲に7個の小孔がある。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦ナデ、内面横ナデ。	粗砂含む。 橙色。底部と周縁は磨耗している。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
56A号住						
7	(無頸壺)	台上 完形	口：7.6 底：6.6 高：11.6	平坦な肩部から、ごく短かい(口縁部)が立ち上がる。	**口縁部**：ヨコナデ、**胴部**：外面上位ヘラ調整、下位ユビナデ？内面上位ナデ、下位ヘラケズリ。 底部、外面ヘラナデ。内面ナデ。	粗砂、小礫含む。 黒褐色。
8	甕	カマド 完形	口：16.6 底：6.4 高：23.9	卵型の胴部から段を経て口縁部が立ち上がる。中位に稜を作りさらに外傾する。口縁部内面にも段ができている。	**口縁部**：ヨコナデ、**胴部**：外面下1/3横ヘラケズリ、上部斜ヘラケズリ、内面横ヘラナデ。	粗砂、小礫多量に含む。 黒褐色。
9	甕	カマド 完形	口：18.4 底：6.3 高：31.2	底部は胴部から明確に区別される。頸部は明確に作り出され、口縁部は一旦直立気みに立ち上がり中位から急角度で外傾する。	**口縁部**：ヨコナデ。**胴部**：外面下端横ヘラケズリ、上位斜ヘラケズリ、内面ナデ。外面の特に上半に接合痕が残っている。	粗砂、小礫多量に含む。 黒褐色。 底部木葉痕。

10　打製石斧(石鋤)一部欠損

56B号住

1	坏	フク土 1/2	口：14.0 高：5.0	体～口縁部の稜は不明瞭。	磨滅激しく不鮮明。 内面体部ナデ。	砂粒含む。 にぶい橙～橙色。黒斑。
2	(甕)	フク土 3/4	底：6.5	底部は平底。	**外面**：胴部ケズリ後ナデ、底部ナデ。**内面**：ナデ。	粗砂多量に含む。 にぶい橙色。付着物。
3	甕	フク土 1/4	口:(17.6) 胴:(20.0)	胴部は長胴気味。口縁部は直線的に開くが、接合部で段を残す所もある。	**口縁部**：内外面ともヨコナデ。 **胴部**：外面縦方向ヘラケズリ。 内面横方向ヘラナデ。	砂粒含む。 橙色。
57号住						
1	坏	南壁除床上20cm ほぼ完形	口：13.6 高：5.1	稜は明瞭であり、そこから口縁部がゆるやかに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部不定方向ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ後横ミガキ、体部不定方向ミガキ。後黒色処理。	粗砂、石英多量に含む。 浅黄橙色。体部内面中央に焼成後の「×」印の条線がみられる。
2	坏	南壁際床上20cm 一部欠損	口：13.4 高：5.0	稜は余り明瞭に作り出されず、口縁部は直立気みに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ後横ミガキ、体部縦方向ミガキ、後黒色処理。	粗砂、石英、赤色粒含む。 橙～にぶい褐色。
3	高　坏	北壁際フク土裾部欠損、口縁部1/2	口：16.5	脚部は「ハ」字状に開く。 坏部は深く、口縁部は直立気みに外反しながら立ち上がる。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ後横ミガキ、脚部ケズリ後縦ミガキ。**内面**：坏部ナデ後ミガキ、脚部横ヘラケズリ。	粗砂、石英粒多量に含む。 橙～にぶい褐色。
4	小型壺	フク土 一部欠損	胴：13.3	底部は丸底。胴部は扁平で、口縁の立ち上がりはほぼ直立。	**外面**：ケズリ後ナデ後ミガキ。 **内面**：ナデ。 器面は滑沢である。	砂粒含む。 浅黄橙～にぶい褐色。
5	甕	カマド、他3/5	口：18.8 胴：25.0	丸味のある胴部から口縁部がゆるやかに外反する。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ後ヘラナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	細砂粒、赤色粒含む。 淡黄色。
6	甕	床上5cm 口縁一部 他は完存	胴：21.1 底：7.9	底部は比較的大きく、上げ底である。胴部は長胴気みで、口縁部は大きく開く。	**口縁部**：ヨコナデ、**胴部**：外面縦ミガキ、内面上半丁寧なヘラナデ、下半荒いナデ。	砂粒含む。 淡褐色。 胴部外面に黒斑。
7	甕	フク土 南西隅壁際、完形	口：19.5 底：7.5 高：26.6	底部は平底であるが、中央が若干窪む。口縁部はゆるやかに外反する。	口縁部：ヨコナデ、胴部：外面上半部ナデ、下半ケズリ後ミガキ。底部ナデ。内面暗文状縦ミガキ。	砂粒含む。 にぶい褐色。 口縁部内面に黒斑。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	器形の特徴	整・成形の特徴	備　考
58号住						
1	坏	床　直 ½	口：13.5 高：3.8	体部中央は平らである。 稜は鋭く、口縁部は外反気みに立ち上がる。口唇部は鋭い。	**外面**：口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ(剝落激しく単位不明) **内面**：体部中央を除きヨコナデ。	赤色粒多量に含む。 にぶい赤褐色。
大溝						
1	坏	覆土上～ 中位　⅔	口：12.0 高：3.7	体部の丸みと余り角度をもたないで口縁部が外反ぎみに立ち上がる。境の稜は比較的鋭い。	磨耗が激しく明瞭でないが、口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ、内面ナデと思われる。	砂粒わずかに含む。 橙色。軟質で表面は磨耗している。
2	坏	覆土上～ 中位　½	口：11.5 高：3.8	口縁部は直立ぎみに立上がる。全体の器厚は薄く、口唇部は鋭い。境の稜ははっきりしている。	**口縁部**：内外面ともヨコナデ、 **体部**：外面不定方向ヘラケズリ内面ナデ。	粗砂わずかに含む。 橙色。 比較的硬質。
3	坏	覆土上～ 中位　½	口：13.0 高：4.5	浅い丸底から、口縁部が直立ぎみに立ち上がる。口端部で急に薄くなり、口唇部は鋭い。	**外面**：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。**内面**：口縁部～底部周縁ヨコナデ、底部中央ナデ。	細砂粒含む。 表面黒褐色、内部浅黄橙。 内面にスス付着か？
4	坏 (須恵器)	覆土上～ 中位　¼	口:(13.0) 高:(3.5)	体部は比較的平坦である。口縁部は、端部でわずかに外反する。	**外面**：口縁部回転ナデ、体・底部不定方向ヘラケズリ。**内面**：回転ナデ。	砂粒含む。 灰色。
5	高台付埦	覆土上～ 中位 ほぼ完形	口：13.6 底：8.9 高：6.2	高台部は高く、大きく外方に開く。埦部は内湾気みに立ち上がり、端部でわずかに外反する。	内・外面ともに回転ナデ。 特に高台接合部の内・外面は入念にナデられている。	粗砂含む。灰白色。 酸化炎焼成で軟質である。 高台部に黒斑。
6	台付甕	覆土上～ 中位 台部完存	裾：10.8	台部は大きく低く開く。	**外面**：接合部～台上半縦ヘラケズリ、裾部ヨコナデ。**内面**：裾部ヨコナデ、天井部ナデ。	砂粒含む。 にぶい橙色。
7	大　甕 (須恵器)	覆土上～ 中位　⅕ 口縁一部	口：23.1	口縁部は大きく開き、端部で気角度で立ち上がる。	**外面**：口縁部波状横線、胴部平行叩き痕後、櫛書き横線5条、 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部青海波状当て痕。	砂粒含む。脱痕が目だつ。 灰白色。 他に破片多数有り。
8	坏	底部砂層 ½	口：12.6 高：4.5	体部は浅く、口縁部は内傾する。口端部は鋭い。	**口縁部**：内外面ともヨコナデ。 **体部**：外面は不定方向ヘラケズリ、内面はナデ。	粗砂含む。石英粒大きい。 橙色。
9	坏	底部砂層 ⅓	口：13.6 高：3.8	体部は浅く、口縁部はそこからわずかに立ち上がる。	**口縁部**：内外面ヨコナデ。 **体部**：外面ケズリ、内面ナデ、上端部はヨコナデ。	細砂粒含む。 器表面は褐色、内部は浅黄橙。
10	埦 (内黒)	底部砂層 ⅙	口：14.4 底：5.0 高：7.5	深い体部から短かい口縁部が外傾する。	**口縁部**：内外面ヨコナデ。 **体部**：外面ナデ、内面放射状十斜方行暗文後内黒処理。	砂粒含む。石英多い。 にぶい橙。部分的に赤褐色 口縁部外面は黒色。
11	蓋 (須恵器)	底部砂層 ⅙	口：13.4	全体的に深く丸味をもつ。口縁部は外反ぎみに開き、口端部内面に沈線が入り、口唇は鋭い。	**外面**：回転ヘラケズリ後、頂部を除いて回転ナデ。 **内面**：回転ナデ。	砂粒多量に含む。 青灰色。
12	小型壺 一部欠損	底部砂層 ⅙	口：8.0 底：4.5 高：11.2	口縁部は肩部に明確な稜を持って外反しながら立ち上がる。	**口縁部**：内外面ともヨコナデ。 **胴部**：外面上半横ヘラケズリ、下半縦ヘラケズリ、内面ナデ。	砂粒含む。 にぶい赤褐色。 胴部外面に黒斑あり。
13	大　甕	底部砂層 ⅙			**外面**：平行叩き痕後、櫛書横線4条。**内面**：青海波状当て痕。	砂粒含む。 灰色。部分的に暗赤褐色、内部は橙色。

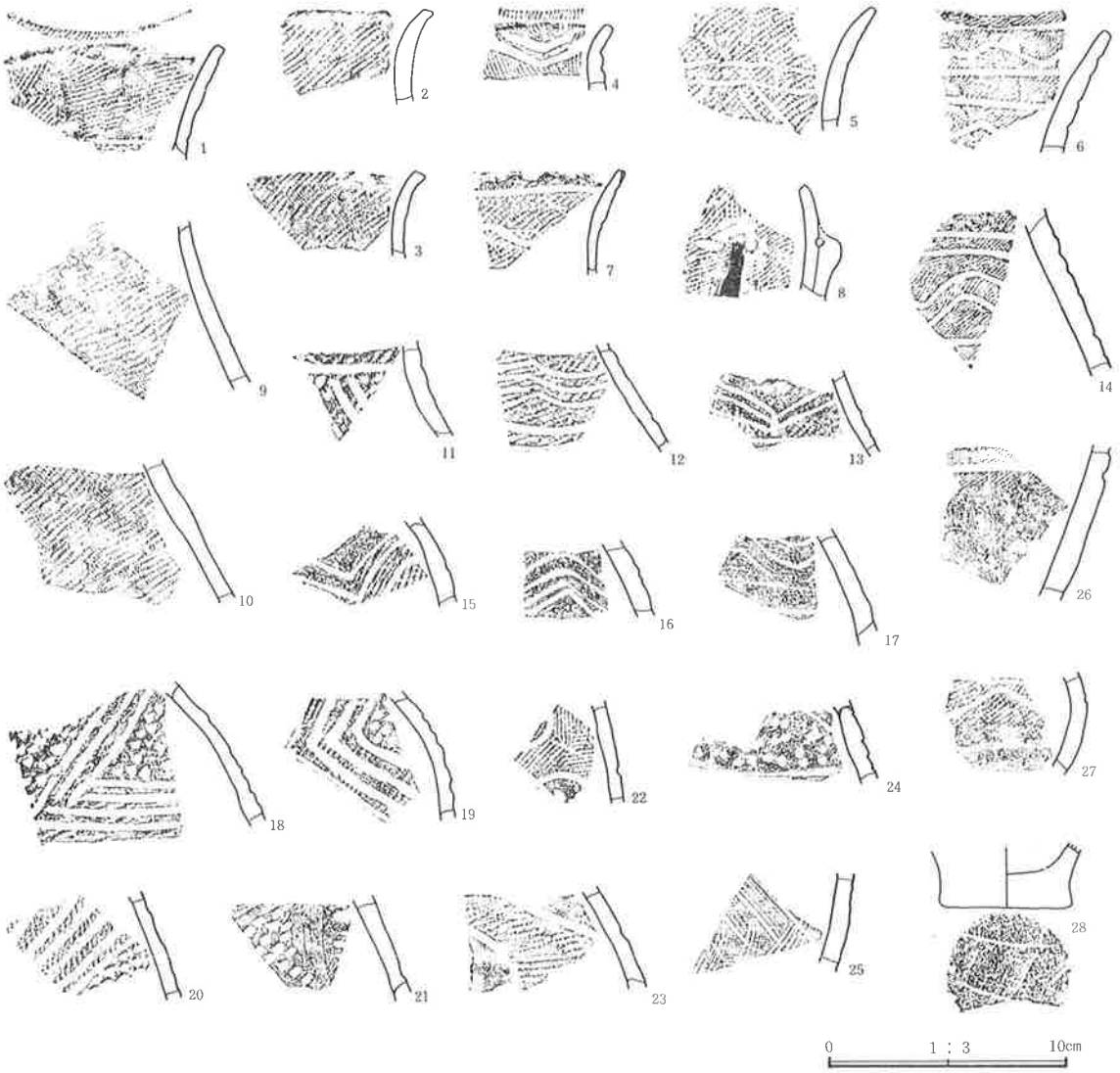
II　田中田遺跡

(5)弥生時代中期前半の遺物

時代が前後するが、弥生時代中期前半に属すると思われる土器片が多数出土しているので報告したい。

これらの土器片はＣ区北端（東西軸12以北）に集中して出土している。そのほとんどは古墳時代の竪穴住居址の覆土中から出土したもので、遺構は検出していない。現時点で約130点程の破片を確認している。小破片が多い為、器種については明確に判断できないが、甕型よりも壺型が多いと思われる。

１～８は口縁部破片である。1､4､6は口唇部にも施文されている。７は口唇部外面に指頭押捺痕がある。８は口縁部が内湾する。口縁部直下に隆帯を付し、横から穿孔している。９～24は頸部及び胴上半部の破片と思われるが、9､10は上下逆で胴下半部になる可能性もある。9､10は縄文地文だけである。12～15は地文上に沈線で施文する。13、15は磨消部分がある。16、17は地文を欠くか磨消する。11、18～21は沈線で多重区画し、区画内を棒状工具で刺突する。20、21は沈線というよりナデに近い。22、23は円形区画で区画内を磨消する。24は竹管状工具による刺突である。25～27は胴下半部と思われる。25は条痕文、26、27は下位無文である。28は底部で木葉痕の一部を撫でている。6、14、26は同一個体で甕型を呈すると思われる。



第98図　弥生時代中期前半遺物実測図

Ⅲ 窪谷戸遺跡

1．発掘調査に至る経過

昭和59年度に圃場整備事業の行なわれた米野地区では、窪谷戸、見眼、尺神、丸山の４地区が群馬県遺跡台帳に記載されており、遺跡保護と記録保存のために工事着工前に発掘調査することを前橋土地改良事務所と確認しあった。

６月８日、県文化財保護課、前橋土地改良事務所、当村土地改良課の立ち会いのもとに遺物の分布調査を実施した。その結果、丸山及び尺神は、今年度事業の範囲内に遺物散布はみられず、窪谷戸、見眼では多量の土器・石器の散布を確認したので、この地区について調査を行なうことになった。

しかし、この２地区だけでも調査面積は約１万㎡と広範であり、また、調査計画をたてるためにも遺跡の範囲と遺構数をより具体的に把握することが必要となった。そこでまず窪谷戸地区の試掘を行ない、遺跡の破壊を最小限度に止めるために工事計画の変更等を協議し、最終的な調査範囲を確認した。また、見眼地区については、桑等畑作物の収穫時期を考慮して８月下旬に試掘を行ない再度協議することとなった。

７月14日、前橋土地改良事務所と埋蔵文化財委託契約を締結し、８月９日から本格的な発掘調査に入った。

2．遺跡の立地

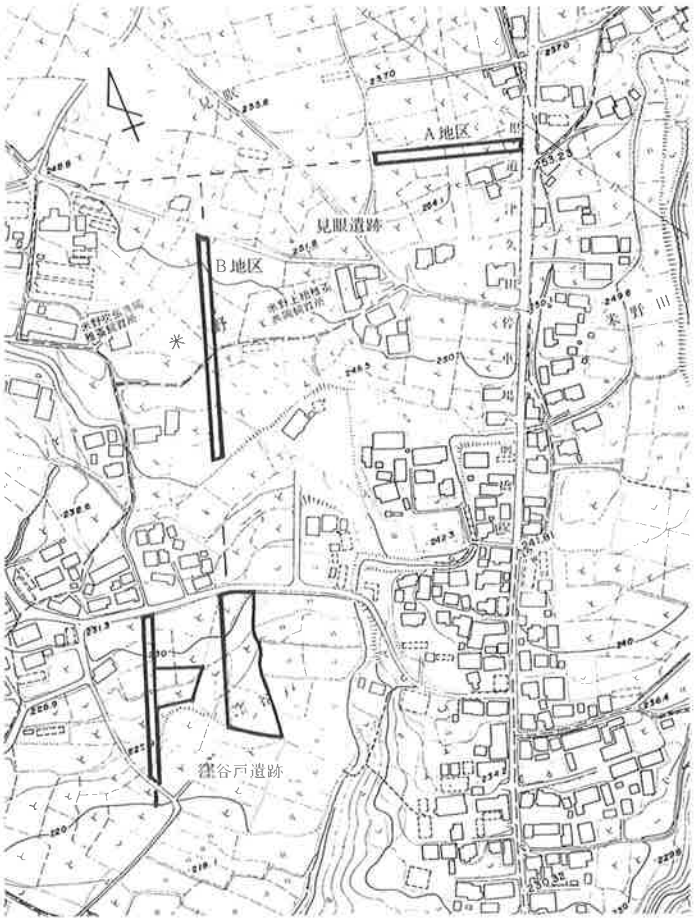
窪谷戸遺跡と見眼遺跡は、赤城山南西麓の橘川と法華沢川に挟まれた台地上に位置する。

この台地は、標高250ｍラインを境にして微地形を形成しはじめる。台地の東端部は、法華沢川に沿って南北に長い支尾根を形成し、この支尾根上に沼田街道の旧米野宿がある。これに対して、台地の中央部と西端部には、谷地を挟んで舌状台地が形成される。

見眼遺跡Ａ地区は、この支尾根の北端部、旧米野宿の家並が切れる、標高250ｍの所に位置する。又、Ｂ地区は、Ａ地区の西南方に150ｍ程離れ、中央の舌状台地が形成し始める、標高240ｍ～250ｍ付近に位置する。Ａ・Ｂ両地区の間は緩斜面となっており、大きな地形的変化はみられない。

窪谷戸遺跡は、見眼遺跡Ｂ地区の乗る舌状台地の東南端部、標高 220ｍ～230ｍに谷地に面して位置している。

各遺跡ともに、現状はおおむね桑園として利用されている。



第99図　窪谷戸、見眼遺跡 周辺の地形

3．発掘調査の方法と経過

調査区域を重機によって試掘を行ない、遺構が検出された区域について本調査を行なった。

本調査は全面発掘を行なった。

縦幹線のセンター杭を基準にして10m×10mのグリッドを設定し、窪谷戸遺跡の南西端の外側に位置する杭を０－０とした。そこから東と北へ算用数字を割り付けていき、東南杭を各グリッドの呼称とした。

見眼遺跡についても、窪谷戸遺跡の東西軸を延長して続き番号でグリッドを設定した。

遺構は、各遺跡、地区ごとに通し番号を付けたが、土坑については、グリッドごとに番号を付けて調査を行なった。（見眼遺跡Ａ地区の土鉱番号は、報告書では通し番号に変更して記載している。）

窪谷戸遺跡では、縦幹線とその東のカット部分をＡ区、支線とその東側カット部分をＢ区と便宜的に呼称して調査を行なった。

調査は窪谷戸遺跡より開始した。試掘は７月中に済んでいたので８月初旬より本調査を行ない、約50軒の竪穴住居を主とする多数の遺構、遺物の出土をみた。窪谷戸の調査は10月で終了し、終了時点に合わせて県道下の試掘を行なったが、遺構は検出されなかった。また、支線の南側に試掘を入れたところ溝を検出した。

見眼遺跡では、９月中旬に縦・横幹線のセンターに沿って試掘を行なった。試掘は全線にわたって行なったが、縦幹線は台地南端部から村道までの約150m、横幹線は東端から約100mの範囲に遺構、遺物の出土が限られたため、この区間のみ本調査を行なった。横幹線を見眼Ａ、縦幹線を見眼Ｂと呼称し、都合により①見眼Ａ（古代以降）②見眼Ｂ、③見眼Ａ（縄文時代）の順序で調査を行なった。

全ての調査が終了したのは、当初の計画通り、12月下旬であった。

4．基本土層（窪谷戸遺跡）

窪谷戸遺跡は、舌状台地の突端部に位置している為、比較的平坦な台地中央寄りの部分と東南の急傾斜面とでは、削平の進み方等により、場所によって異なった様相を呈する。削平の進んだＡ区の北半部では、表土直下にロームが現れ、ＳＰ層まで削平の進んだ所もある。比較的残りの良いのは、Ａ区南端西側と、Ｂ区カット部分の北側で、現地表からロームまでの厚さが１m以上を測る。そこで、ここでは、Ａ区南端西側の土層を掲示して説明したい。

Ⅰ層　現耕作土　しまりのない黒褐色土。

Ⅱ層　旧耕作土　灰褐色を呈す。酸化鉄分、軽石を多量に含む。

Ⅲ層　砂質黒褐色土　Ｂ軽石？を多量に含む。13号住中程以南に堆積し、上面は段状に削平されている。

Ⅳ層　黒褐色土　白色軽石を多量に含む。奈良、平安時代の遺構は、この土層中から掘り込まれており、遺構覆土の主体をなす。

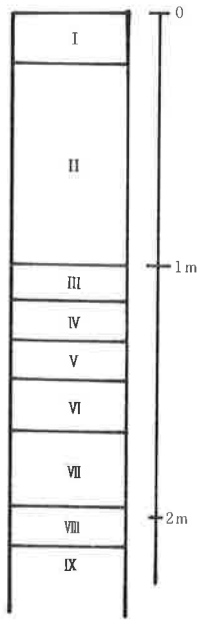
Ⅴ層　砂質黒色土、白色軽石を少量含む。

Ⅵ層　暗褐色土　基本的にはⅦ層であるが、淡褐色ロームを斑状に混える。

Ⅶ層　暗褐色土　ローム漸移層。

Ⅷ層　淡褐色ローム層。

Ⅸ層　黄色ローム層。



第100図　基本土層

5．検出された遺構と遺物

(1)　概要

窪谷戸遺跡では、縄文時代から中世までの遺構と遺物が検出された。

縄文時代では、前期前半の竪穴住居址１軒と土坑２基が検出された。何れもＡ区の北端に位置し、深鉢と少量の石器が出土している。縄文時代の遺物は、窪谷戸遺跡全体で10数点と少ない。

古墳時代の竪穴住居址は１軒だけ検出されており、遺物も少ない。

奈良時代になると集落が形成されるようになり、Ａ区の北半部には少ないが、調査区域のほぼ全域に総計28軒が検出された。遺物は土師器の甕・坏・鉢と須恵器の坏、埦等が出土している。遺構の遺存状況は比較的良好であったが、遺物は少なく、残りも良くない。

平安時代になると集落規模が小さくなり、竪穴住居址は16軒となる。この時代は、多くの住居が、Ａ区の南端（旧河川に面する台地の突端部）に集中しており、他の区域にはまばらに占地するだけである。遺物は土師器の甕・坏、須恵器の坏、高台付埦、羽釜、土釜、ロクロ成形酸化炎焼成の坏、埦、灰釉陶器などが出土している。該期の遺構は浅く、後世の攪乱を受けているため遺物を含めて遺存状況は良くない。竪穴住居址以外では溝が３条検出されている。

明確な時代は遺物が出土していない為不明であるが、中世に属すると思われる竪穴状遺構と多数の溝が調査区域のほぼ全域から検出されている。部分的な調査である為詳細は不明であるが、何れもほぼ同時期の構築と思われ、周囲に溝を巡らせた砦あるいは居館址等の可能性がある。

土坑は縄文時代のものを除いて約40基が検出された。ほとんどは遺物を出土していない為、時期は不明であるが、覆土等を観察すると、平安時代に属するものが多いと思われる。

(2)　縄文時代の遺構と遺物

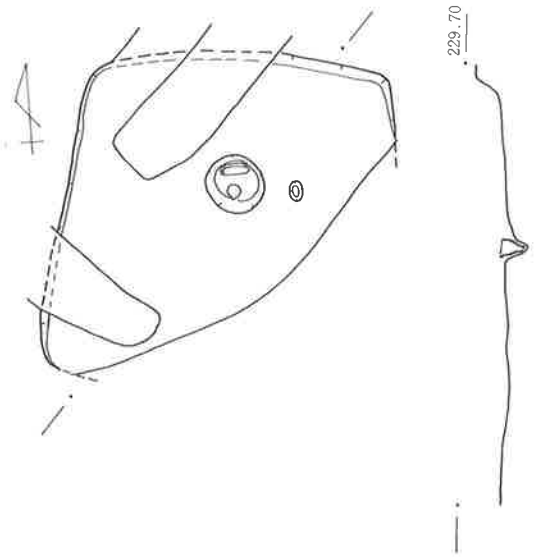
Ｊ１号住居址

11－８グリッドに位置する。一辺３ｍ強の小型住居で、東南部の半分程を削平されている為に判然としないが、南壁を長辺とする台形状を呈すると思われる。壁高は約30cmを測る。

住居の中央、若干北寄りに円形の浅い掘り込みがあり、炉址と思われる。炉の北には扁平な石が立位に据えられ、中央には片口付の小型深鉢がほぼ完形の状態で埋められていた。深鉢の中から炭化材と、黒耀石片が出土している。

炉の東側に小ピットが検出されたが、主柱穴その他の施設は検出されなかった。

遺物は炉址内の深鉢と、耕作溝と床面の境から出土した打製石斧のみで、他には覆土中も含めて何も出土しなかった。



第101図　Ｊ1号住居址実測図

Ⅲ　窪谷戸遺跡

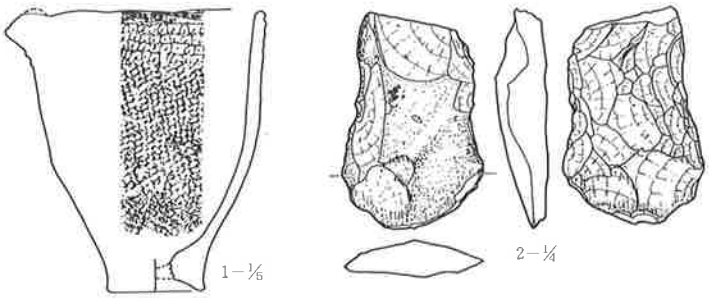
Ｊ１号住出土遺物

１．深鉢（片口付）

小さな上げ底状を呈する底部から急に開き、そこからほぼ直に口縁部へと続く。

施文は縄文だけで、口縁部はループ部分を４段に施文し、胴部は組紐を施す。

２．打製石斧　基部を欠損し、片面に自然面を残している。



第102図　Ｊ１号住居址出土遺物実測図

(3)　古墳時代の遺構と遺物

５号住居址

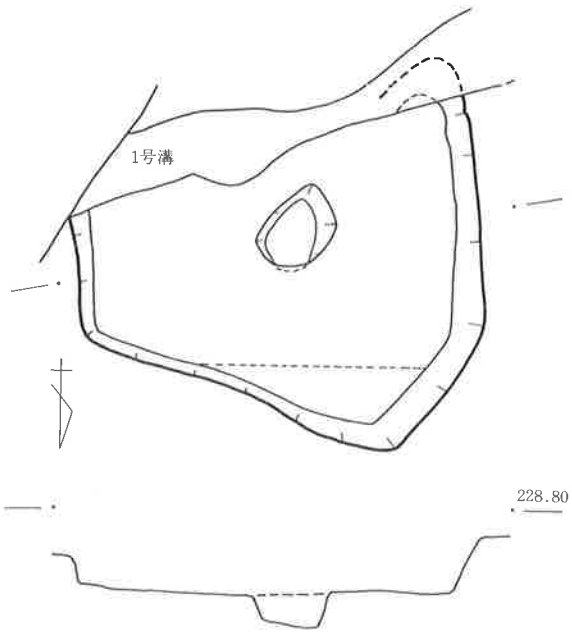
10－８グリッドに位置する。南側は１号溝により削平されている。

東西4.2ｍを測り、南北は2.7ｍ程が残存する。壁高は約60cmを測る。北壁の西半部が張り出しているが、底面は地山のままで床状に踏み固められてはいない。覆土下層には多量のロームが埋まっていた。

カマドは、１号溝と重複する南西隅に一部分残存している。住居中央のピットは用途不明である。

遺物は、カマドから出土した坏が復元できたが、他は何れも小破片である。

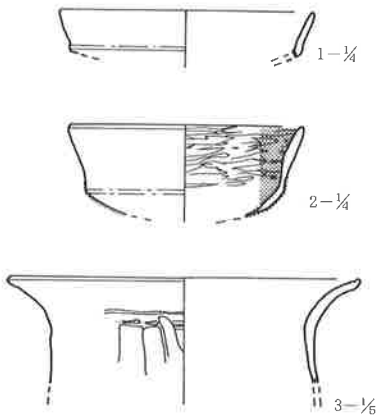
遺物の残りが悪く、又、同時代の遺構が他に検出されていない為、時期を判断する材料が乏しいが、カマドから出土した遺物から古墳時代の遺構と判断した。



第103図　５号住居址実測図

５号住出土遺物

1.と2.は土師器の坏で、何れも底部と口縁部の境に明確な段がある。2.の内面はミガキ後に内黒処理されている。3.は土師器の長胴甕の口縁部で、約⅙の残存である。



第104図　５号住居址出土遺物実測図

(4) 奈良時代の遺構

1号住居址（遺物P112, P116）

A区北端、12－8グリッドに位置する。半分以上を現代の耕作溝によって削平されている。

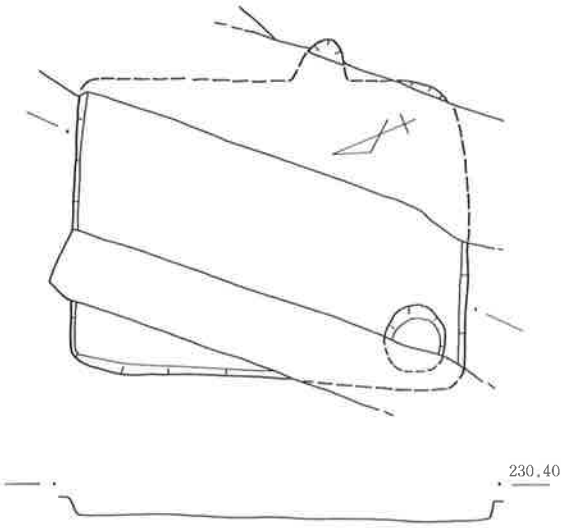
南北約4.4mを測り、東西は3.2m程の規模を持つと思われる南北に長い長方形住居である。壁高は北壁で30cmを測る。

床面は平坦で良く踏み固められている。

カマドはほとんどが削平されているが、煙道の先端がわずかに残存する。東壁の南寄りに位置すると思われる。

貯蔵穴が南西隅に検出されている。西側を削平されているが、径60cm程の円形を呈すると思われる。深さは30cmを測る。

遺物は貯蔵穴から土師器の甕の破片が、覆土中から土師器の坏が数点出土した。



第105図　1号住居址実測図

7号住居址（遺物P112, P116）

6－8グリッドに位置する。南5mに23号住居址が近接する。遺構の上部はほとんど耕作溝により削平されていたが、下部は全て残存していた。

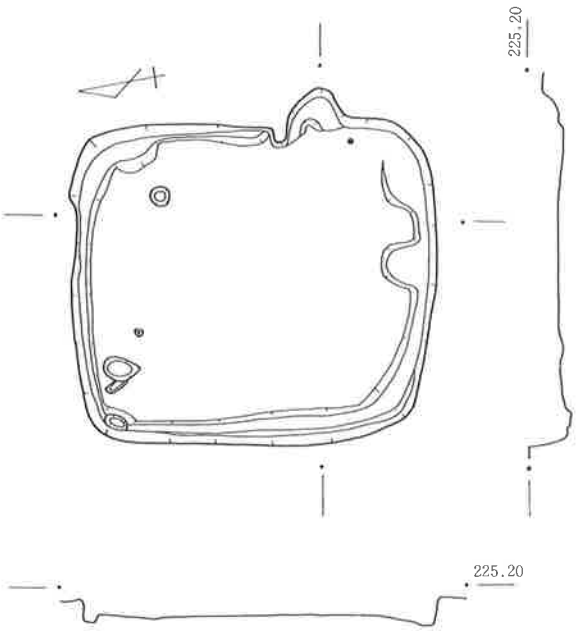
東西3.2m、南北3.7mを測り、南北に長い隅丸長方形住居である。壁高は西壁で40cmを測る。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。左袖がわずかに残存し、燃焼部は床から一段上がって壁外に位置している。燃焼部の中央に小ピットがあり、支脚の抜き跡の可能性もある。焚口幅60cmを測る。

床面は多少の凹凸はあるものの非常に硬く、カマド周辺を除いて壁周溝が巡っている。

小ピットが検出されているが、主柱穴と思われるものはない。

遺物はカマドの周辺から土師器の甕の底部覆土中から土師器の坏等が少量出土している。



第106図　7号住居址実測図

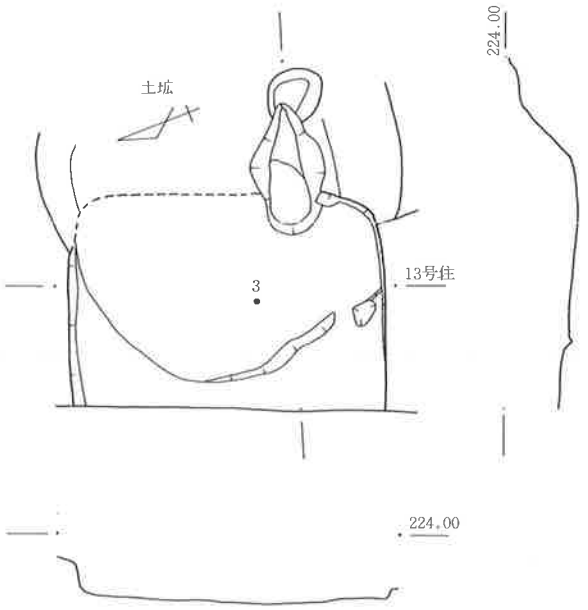
12ｂ号住居址（遺物Ｐ112，Ｐ117）

５－７グリッドに検出された。大土坑の上に乗り、平安時代の12ａ号住居址がほぼ真上に乗っている。また、13号住居址に南側を床面近くまで切られている。西側は調査区域外である。南５ｍに15号住居址が近接する。

南北約 3.5ｍを測り、東西は 2.4ｍ程の範囲が調査できた。検出面からの壁高は北壁で約70cmを測る。床面は大土坑との重複部分が沈みこんでいるが、全体的に良く踏み固められている。

カマドは東壁のかなり南に偏して付設されている。黄褐色粘土で構築されており、燃焼部は床面をわずかに掘り窪め、半分程が壁外に伸びている。そこからさらに煙道部が、比較的ゆるやかに立ち上がっている。煙道先端までの長さ約1.3ｍを測る。

遺物は須恵器の坏、土師器の坏、刀子等が出土している。



第107図　12b号住居址実測図

15号住居址（遺物Ｐ112，Ｐ117）

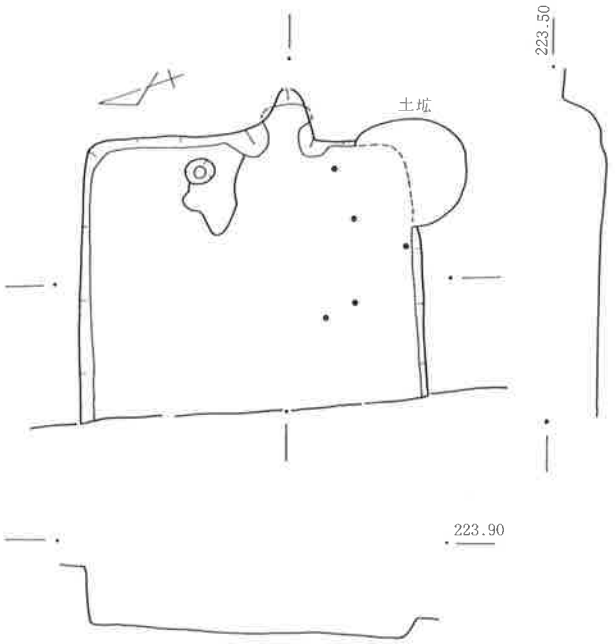
４－７グリッドに位置する。西端は調査区域外になっている。南東５ｍに17号住居址が近接する。南東隅に土坑が重複し、土坑の方が新しいと思われる。

南北 3.5ｍを測り、東西 2.8ｍ程の範囲が調査できた。

床面はカマド前面から南半部分は非常に硬く３～４面の重複がみられる。長期間の使用によって沈んだ床面上に土を入れ、床を貼り替えたものと推察される。その為にか、小さな凹凸が激しい。

カマドは東壁の若干南寄りに粘土を用いて付設されている。袖が住居内に張り出し、燃焼部が壁外に出ている。煙道は急角度で立ち上がる。焚口幅30cmを測る。

遺物はカマド前面を主として、土師器の甕、坏などが出土している。



第108図　15号住居址実測図

17号住居址（遺物P113，P118）

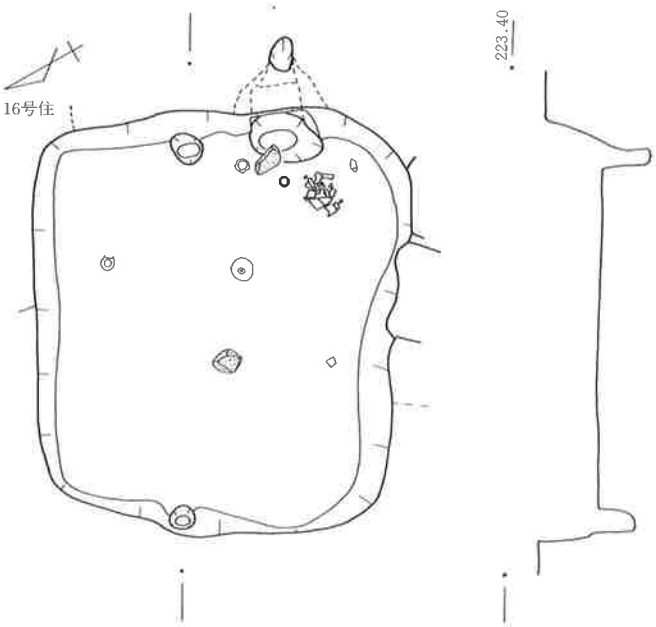
4－7グリッドに位置する。北壁上に16号、南壁上に18号住居址が乗る。北東5mに22号住、北西5mに15号住居址が近接する。

東西4.3m×南北3.9mを測る東西に長い隅丸長方形住居である。壁高は北壁で70cmを測る。北壁は直に立ち上がるが、南壁は比較的ゆるやかである。

床はほぼ全面にわたり厚く貼り床されているが、床面はカマド前面を除き軟弱である。

主柱穴は東壁と西壁の中央に各1本検出されており、径約30cm、深さ43、34cmをそれぞれ測る。

貯蔵穴及び壁溝は検出されていない。



第109図　17号住居址実測図

カマドは東壁の南寄りに付設されている。同期の他の住居のような黄褐色ローム粘土を用いた補強がされておらず、地山を掘り込んだままか、あるいは、黒褐色粘質土を用いた可能性がある。燃焼部を浅く掘り窪め、壁を方形に掘り込んで煙道を設けている。壁から煙出し孔までは約70cmを測る。

遺物は床面密着で須恵器の台付埦、土師器の坏、床上10cmに土師器の鉢、カマド前面の覆土中位から床面までの間に破片状態でまとまって土師器の丸胴甕が出土している。

22号住居址（遺物P113，P118）

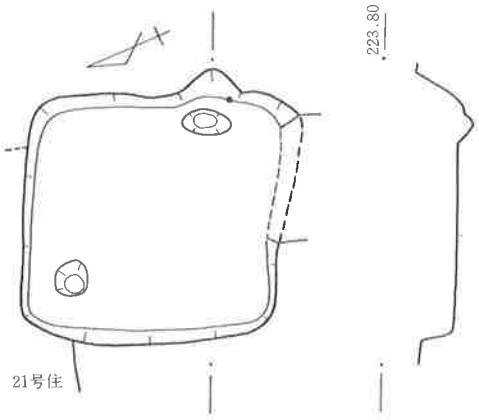
4－8グリッドに位置する。北壁上に21号住居址が乗っている。南壁の東半分は試掘の際に床面まで削平してしまった。

一辺約2.5mの若干歪んだ小型方形住居である。壁高は東壁で65cmを測る。壁は急角度で立ち上がる。

床面は平坦だが軟弱である。北西隅に径39×34cm、深さ30cmの円形のピットが検出されており、貯蔵穴の可能性もある。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。焚口に小さなピットを設け、煙道部はわずか壁外に張り出す。

遺物はカマドの煙道部中位から土師器の坏が出土している。



第110図　22号住居址実測図

25号住居址（遺物Ｐ113，Ｐ119）

Ｂ区北端に位置する。南８ｍに26号住居址が近接する。南壁は後世の攪乱によりほとんど削平されているが、他の３壁は良好に遺存している。

東西4.0ｍ、南北4.5ｍの南北に長い隅丸長方形住居で、壁高は北壁で約60cmを測る。

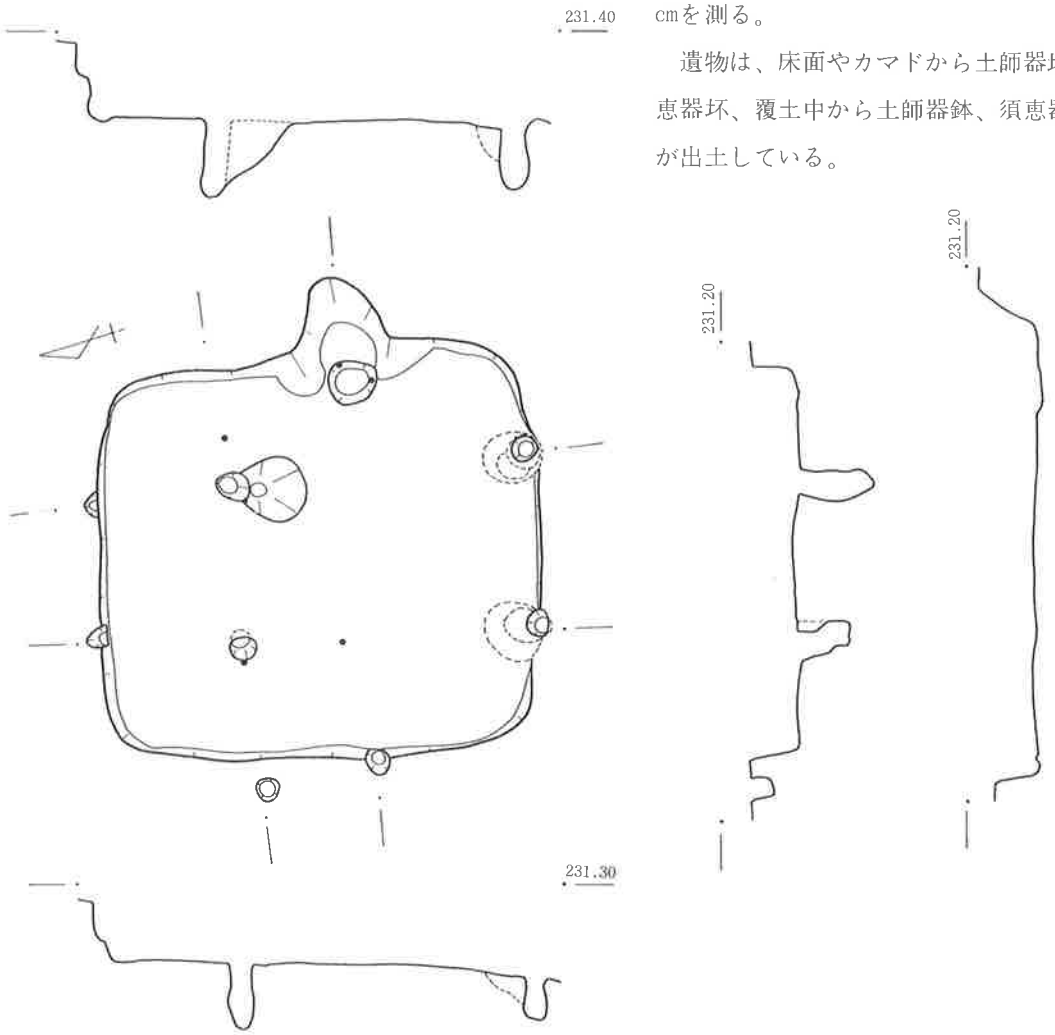
床面は周縁を除いて非常に良く踏み固められている。壁はほぼ直角に立ち上がる。

主柱穴は４ヵ所に検出されている。径25～30cm、深さ50～75cmを測る。南側の２本は壁柱穴で径約60cmの掘り方が検出されている。掘り方の覆土はロームと黒褐色土の混土で硬くしまっている。北東主柱穴の南側に接して径約65cmのピットが検出されているが、住居の覆土と同じ黒褐色土が埋まっており、しまりがない。

西壁と北壁に補助柱穴と思われるピットが４本検出されている。径は何れも25cm前後で、北壁の２本は床面から20、35cm上に底面が位置している。又、西壁南側の補助柱穴は床面とほぼ同一のレベルまで掘り込まれている。西壁北側のピットは壁から20cm程離れて位置し、他の補助柱穴と異なっているが、主柱穴の延長線上に位置しており、補助柱穴と判断した。床面との比高差35cmを測る。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されており、ロームの袖が残っている。燃焼部は円形に浅く掘り込まれ、壁外に伸びている。燃焼部から煙道が急角度で立ち上がる。焚口幅約60cm、燃焼部端から煙道先端までは124cmを測る。

遺物は、床面やカマドから土師器坏、須恵器坏、覆土中から土師器鉢、須恵器壺等が出土している。



第111図　25号住居址実測図

26号住居址（遺物P114，P119）

10－2グリッドに位置する。5号溝に北端を切られている。又、西壁に土坑が重複する。北に25号住居址、南3mに28号住居址が近接する。

東西3.4mを測り、南北2.7mが残存する。北側は削平されて判然としないが、カマドの位置から考えて東西に長い長方形住居と思われる。壁高約30cmを測る。

床は中央部が周縁部より若干高く、良く踏み固められている。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。焚口に浅いピットがあり、燃焼部は壁外に伸びている。壁から煙道先端まで46cmを測り、側壁は良く焼けている。

遺物は、南東隅の床面上約20cmに柄部の木質が残存し、ほぼ完形の刀子が出土したが、他には覆土中から土師器坏が数点出土しただけである。

第112図　26号住居址実測図

31号住居址（遺物P114，P120）

6－2グリッドに位置する。東壁と南壁上に後世の土坑が乗っている。又、東壁は耕作による攪乱も受けている。東1mに32号住居址、南1mに33b号住居址、南5mに35号住居址が近接する。

東西4.2m、南北3.3mの東西に長い長方形住居である。壁高は北壁で68cmを測る。

壁は急角度で立ち上がるが、西壁の上部は崩れている。床面は全体が良く踏み固められており、特にカマド前面から南東部の床面にかけては硬い。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。焚口と燃焼部に小ピットがあり、燃焼部のピットは支脚の抜き跡の可能性がある。

遺物は南壁沿いの床面からほぼ完形の土師器坏が出土しており、カマド及び覆土中から土師器甕が出土している。

第113図　31号住居址実測図

Ⅲ　窪谷戸遺跡

32号住居址（遺物Ｐ114，120）

６－２グリッドに位置する。31号住、33ｂ号住、35号住が西方に近接する。

遺構の上部は後世の耕作溝により半分以上が削平されている。しかし、床は南端を除いてほとんどが残存しており、全体の規模、形状は推定できる。

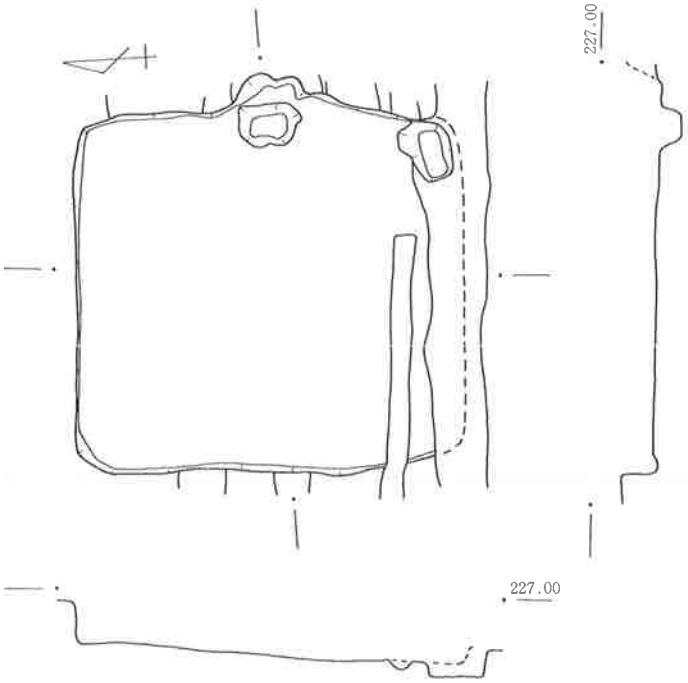
東西 3.5ｍを測り、南北は 3.8ｍ程が残存する。形状は若干南北に長い長方形住居と思われる。壁高は約40cmを測る。

床面は多少の起伏があるものの硬い。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されているが床面近くまで削平されている。焚口に長方形の掘り込みがあり、燃焼部が壁外へ伸びている。

南東隅に貯蔵穴と思われるピットがあり、土師器甕の破片と棒状の河原石が出土している。

遺物は上記以外に土師器の甕、坏、須恵器甕等の破片が少量出土している。



第114図　32号住居址実測図

34号住居址（遺物Ｐ114，Ｐ120）

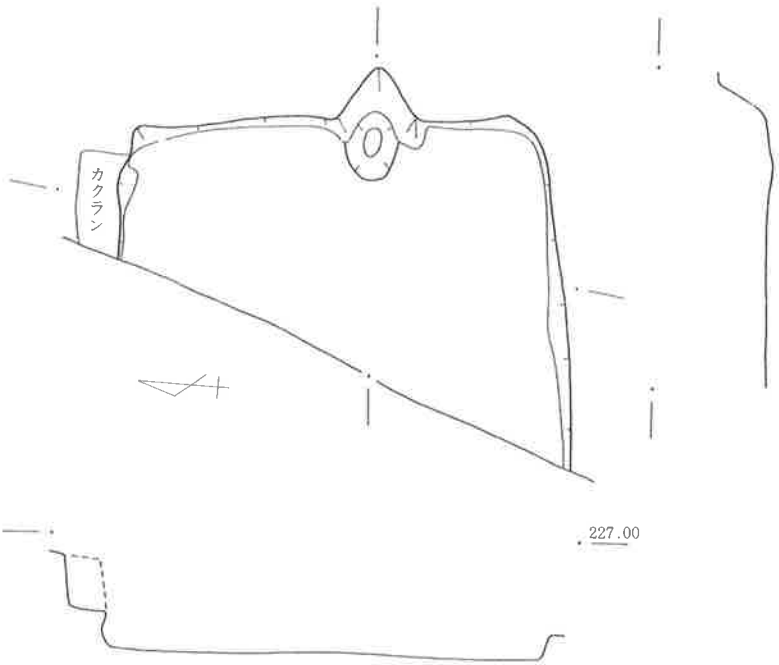
５－１グリッドに位置する。西側は調査区域外であり、北壁上部を攪乱されている。

調査区域の中で最も傾斜の大きい地点に位置し、北壁と南壁の壁高差が60cmある。

南北 4.5ｍで南壁は現状で 3.6ｍを測る。壁高は北壁で 85cmを測る。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。燃焼部は浅く掘り込まれ、大部分が住居内に位置する。煙道は壁から55cm程張り出す。

遺物は土師器の坏、須恵器の壺が出土している。



第115図　34号住居址実測図

33ｂ号住居址（遺物Ｐ114，Ｐ120）

６－２グリッドに位置する。33ａ号住居址が西壁上に乗り、35号住居址が南側を切っている。

31号住、32号住、34号住、36号住が近接する。

東西3.1ｍを測り、南北約2.5ｍが残存する。カマドの位置から推察すると、隅丸方形もしくは、若干南北に長い長方形状を呈すると思われる。壁高は北壁で62cmを測る。

床面は平坦で、カマド前面は良く踏み固められている。

カマドは東壁に付設されているが、耕作により上部を削平され、南側は35号住に切られている。左袖がわずかに残存し、床面は良く焼けている。燃焼部は壁外へ張り出さない。

遺物は、大小２個体の土師器甕が床面に押し潰された状態で出土している。

35号住居址（遺物Ｐ115，Ｐ121）

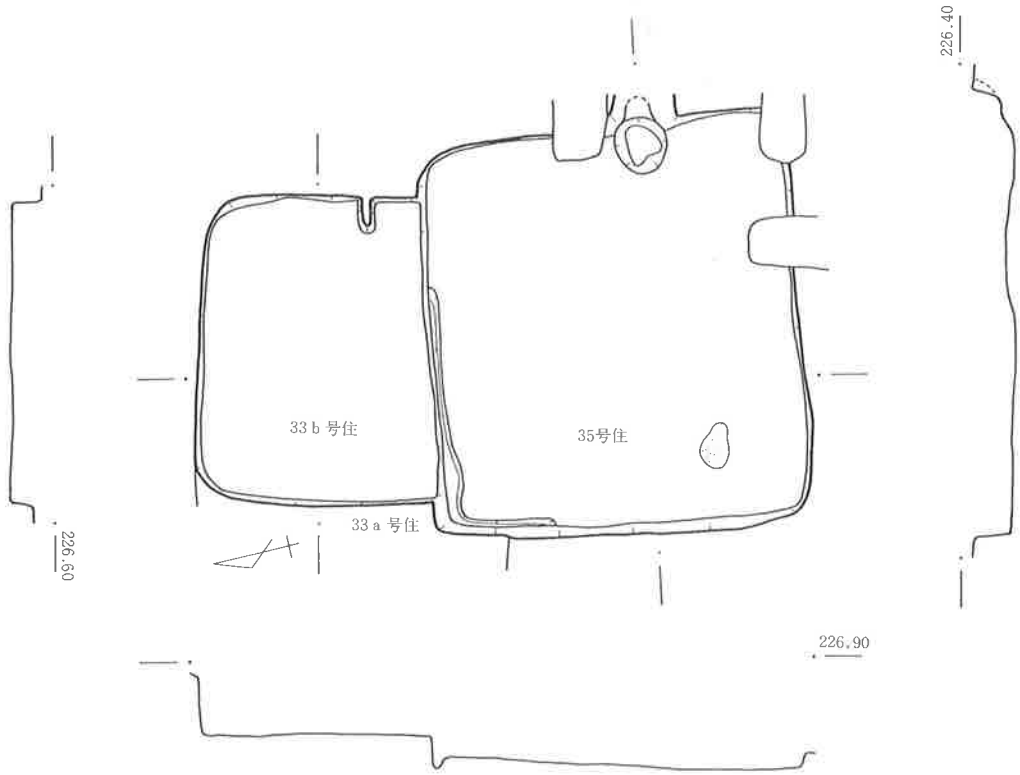
33ｂ号住を切り、33ａ号住が北西隅に乗る。33ｂ号住との床面の比高差は約26cmを測る。

東西4.1ｍ、南北3.8ｍを測る東西に若干長い方形住居で、南壁が北壁よりもわずかに長くなっている。東壁のほとんどは耕作溝により床面近くまで削平されており、南壁の一部も壊されている。

床面はほぼ全体が良く踏み固められており、南半部が北側よりも窪んでいる。部分的に壁周溝が巡る。

カマドは燃焼部が残存しており、良好に焼けている。浅く円形に床を掘り込んでおり、わずかに壁外に張り出している。

遺物は、床面及び覆土中から土師器坏、須恵器坏などが出土している。又、南西床面上から台石状の河原石が出土している。



第116図　33ｂ･35号住居址実測図

Ⅲ　窪谷戸遺跡

36号住居址（遺物Ｐ115，Ｐ121）

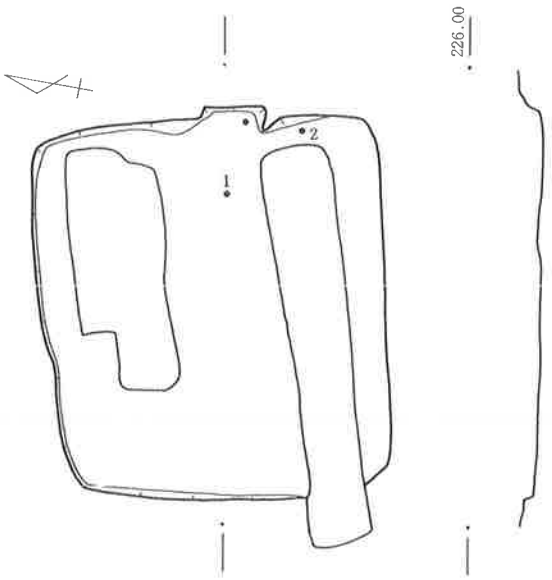
５－２グリッドに位置する。34、35号住居址が近接する。後世の耕作により覆土上部、あるいは床面下まで削平されている。南端部も削平されているが貼り床が残存しており、全体の規模、形状を把握できた。

東西3.9ｍ、南北3.6ｍの若干東西に長い長方形住居であるが、南壁が北壁より長く、歪んだ形状を呈している。壁高は北壁で40cmを測る。

覆土は床面までロームに覆われており、人為的に埋められた可能性がある。特にカマド周辺は灰層を目安にしてかろうじて床面を検出できたが、壁は地山と覆土の分離が困難な場所もあった。

カマドは東壁南寄りに位置し、わずかに壁を掘り込んでいる。

遺物はカマド周辺から土師器の甕が出土している。



第117図　36号住居址実測図

37号住居址（遺物Ｐ115，Ｐ123）

７－５グリッドに位置する。平安時代の８号溝が北西部に重複し、南壁の中央を土坑が切っている。南１ｍに38号住居址が近接する。

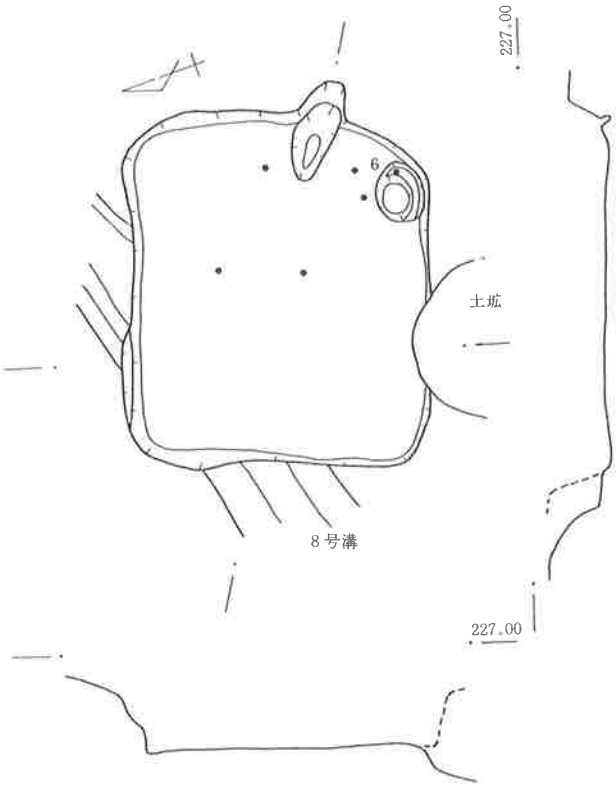
東西3.6ｍ、南北3.0ｍの東西に長い長方形住居であるが、南東隅は他に比べて丸味が強くなっている。

床は周縁部が中央よりも低く軟弱であるが、他は良く踏み固められており硬い。

カマドは東壁の南寄りに付設されているが住居の主軸より　°南へ傾いている。燃焼部は浅く床を掘り込み壁外へ伸びている。煙道は急角度で立ち上がる。

南東隅に浅いピットが検出されており、貯蔵穴と思われる。須恵器坏が出土している。

遺物は多量に出土しているが破片が多く、遺存状態は良くない。土師器坏、甕等が出土している。



第118図　37号住居址実測図

40号住居址（遺物Ｐ116，Ｐ123）

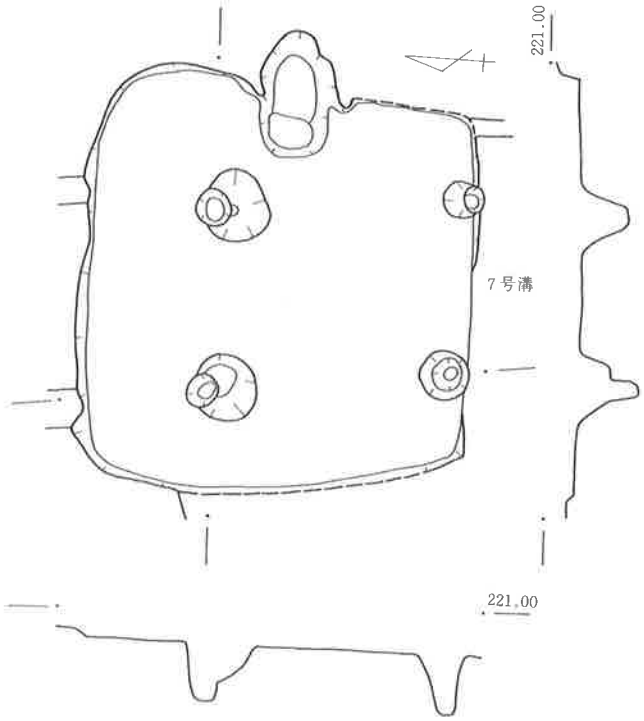
11－２グリッドに位置する。覆土上面を７号溝によって削平されている。また、耕作によると思われる攪乱も受けており、北壁以外の残りは良くない。

各辺とも約４ｍ前後の規模を有するが、南壁が短かく、弱い台形状を呈する。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。焚口をわずかに掘り窪め、壁外へ燃焼部が伸びている。袖部もわずかに住居内へ張り出している。

主柱穴は４本検出され、南側の２本は、壁に接して、あるいは壁を切り込んでいる。北側の２本は、何れも径60cm程の掘り込みが南側にあるが、埋土は住居址の覆土と同様の黒褐色土であり、住居の廃棄時に開いていた可能性がある。

遺物は、土師器坏が床面から出土した。



第119図　40号住居址実測図

42号住居址（遺物Ｐ116，Ｐ123）

８－２グリッドに位置する。41号住、30ｂ号住居址と重複し、何れよりも古いと思われる。又、カマド上部を土坑に削平される。

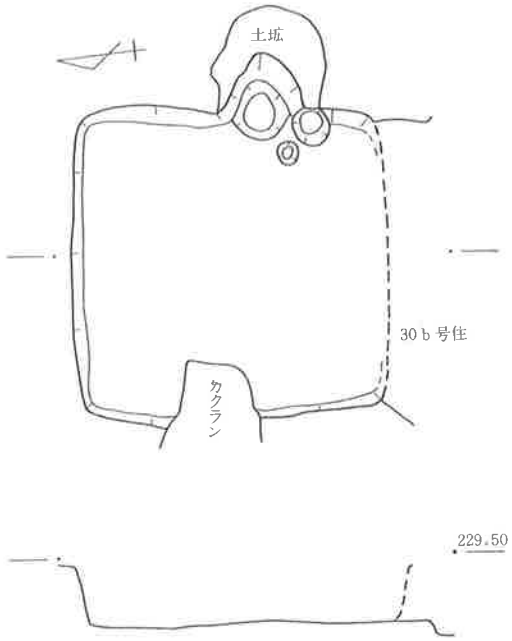
東西3.3ｍ、南北3.1ｍを測り、ほぼ正方形状を呈する。壁高は北壁で約60cmを測る。

床は南半部は硬いが、北側は軟弱で明確に床面を検出できなかった。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。燃焼部はほとんど壁外へ張り出し、焚口幅54cm、壁外への張り出し62cmを測る。

カマドの南側に２個の小ピットが検出されているが遺構につくか判然としない。深さは17cmと24cmを測る。

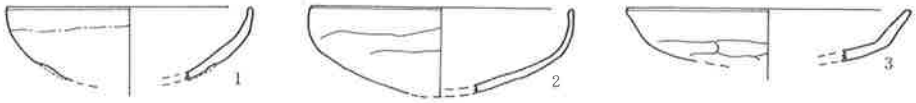
遺物はカマドの周辺に土師器坏、甕が出土している。又、南壁沿いの床面に灰釉陶器の皿が出土したが、30ｂ号住の範囲が判然としないこともあり、30ｂ号住の遺物の可能性が強いと思われる。



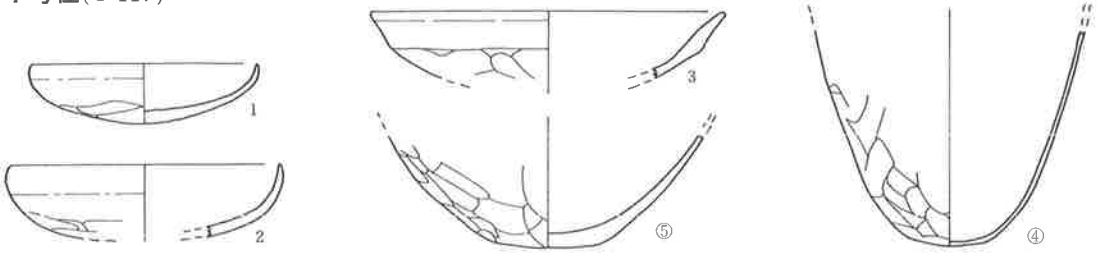
第120図　42号住居址実測図

奈良時代の竪穴住居址出土遺物

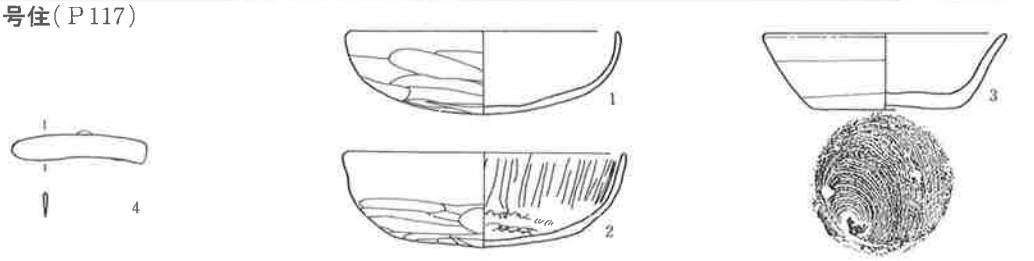
1号住（観察表　P116）



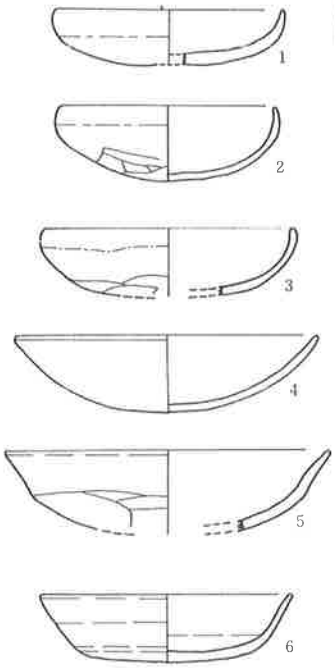
7号住（P117）



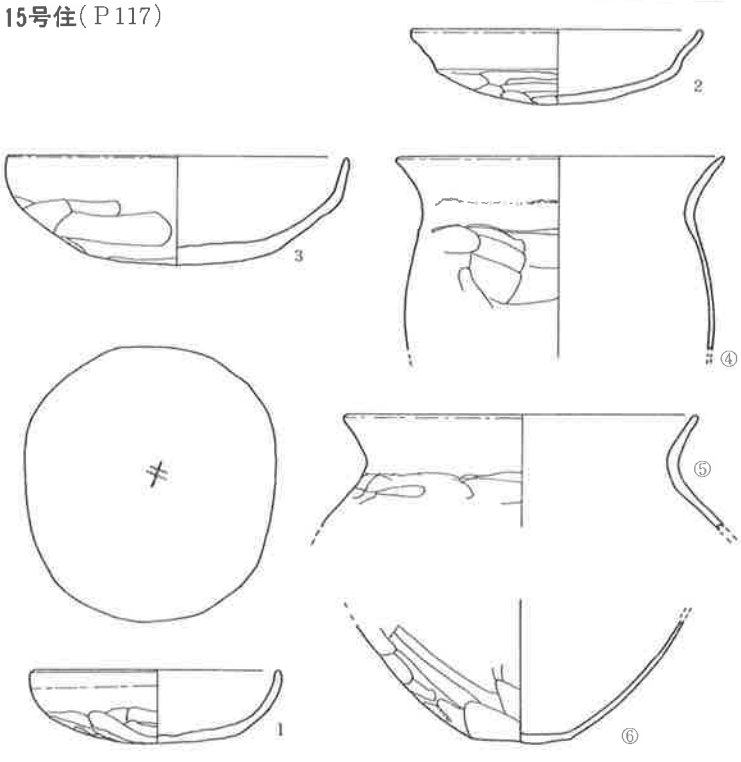
12b号住（P117）

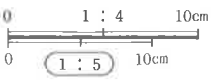


12b号住床下（P117）
（大土坑上部）

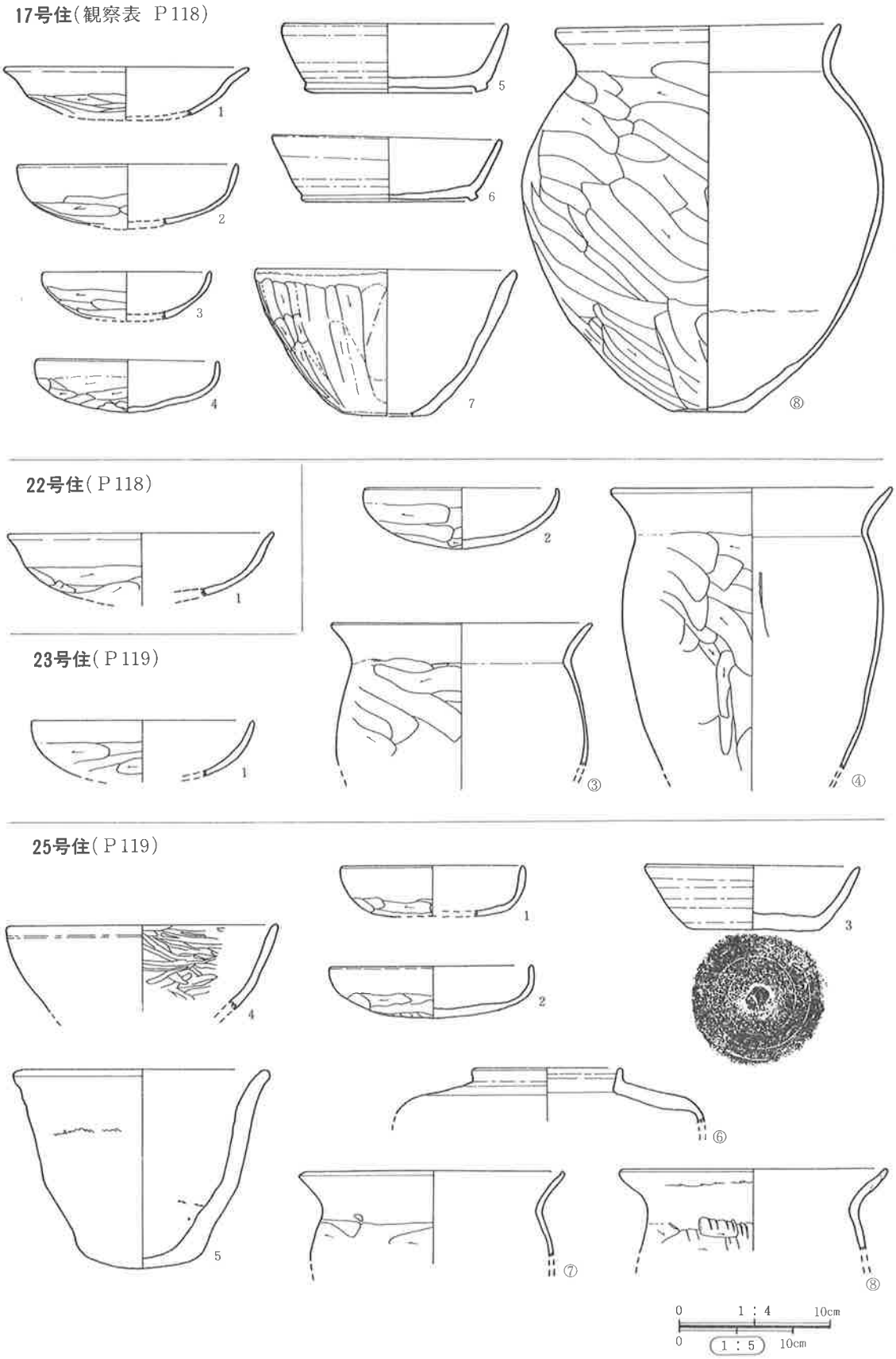


15号住（P117）



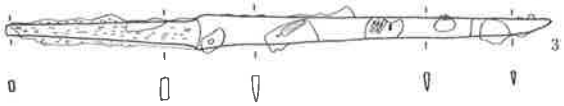


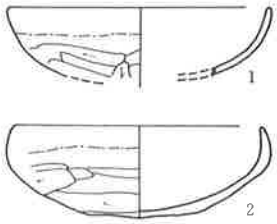
第121図　1・7・12b・15号住居址出土遺物実測図



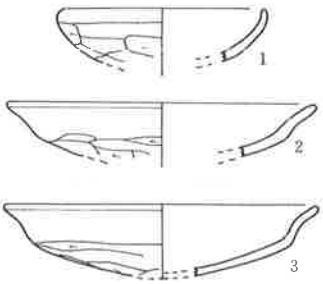
第122図　17・22・23・25号住居址出土遺物実測図

26号住（観察表　P119）

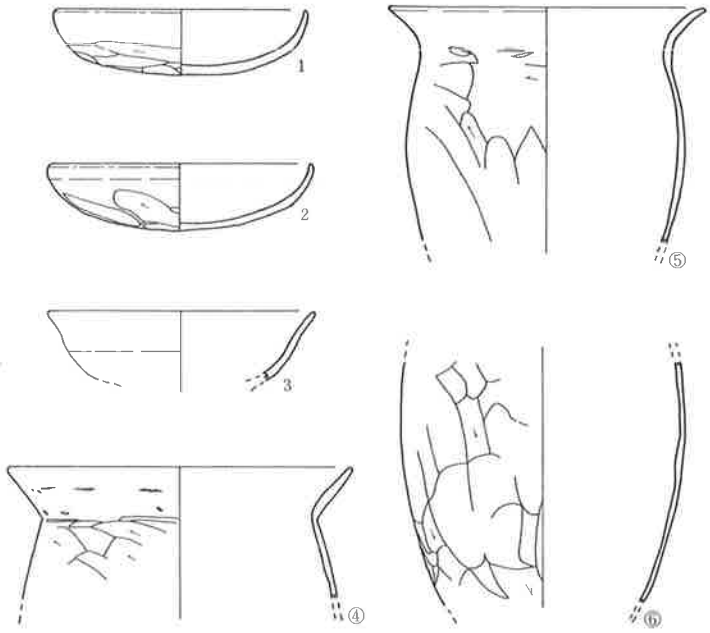




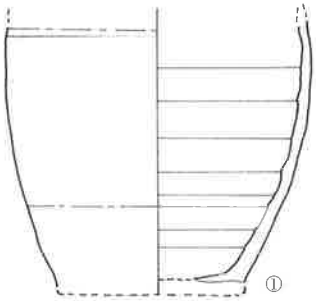
29号住（P120）



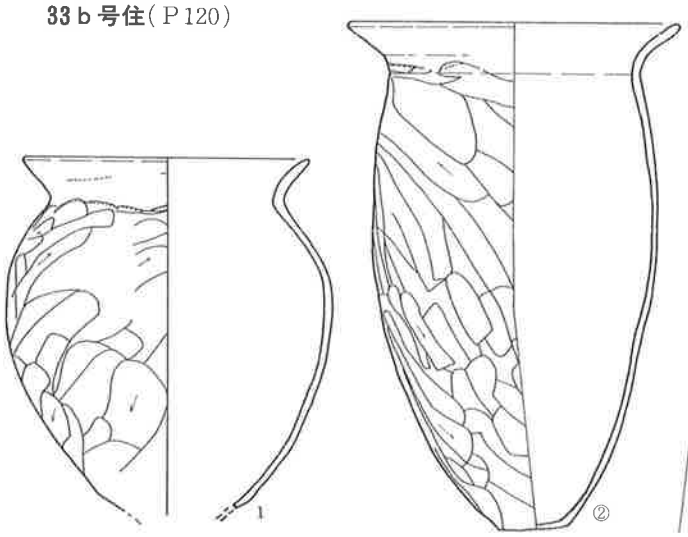
31号住（P120）



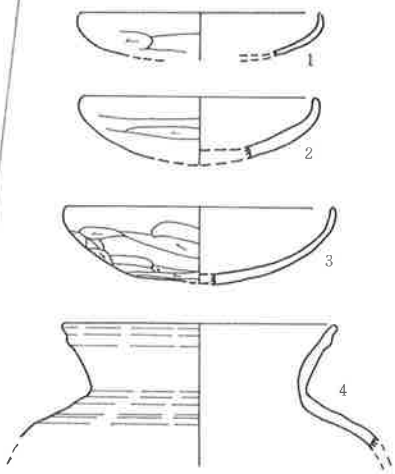
32号住（P120）

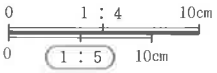


33ｂ号住（P120）



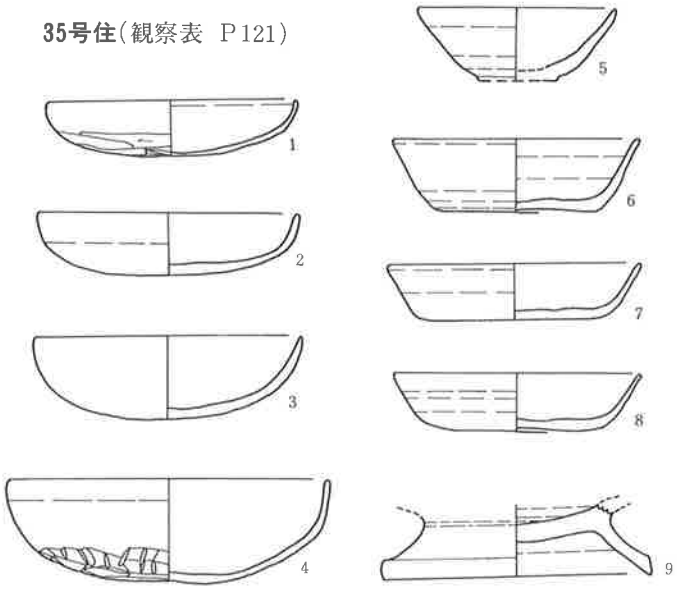
34号住（P120）



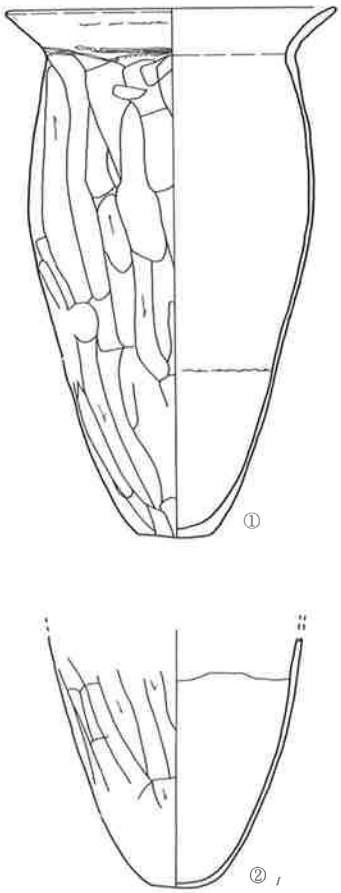


第123図　26・29・31・32・33ｂ・34号住居址出土遺物実測図

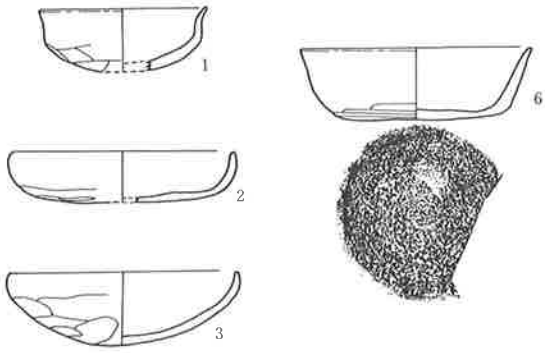
35号住（観察表　P121）



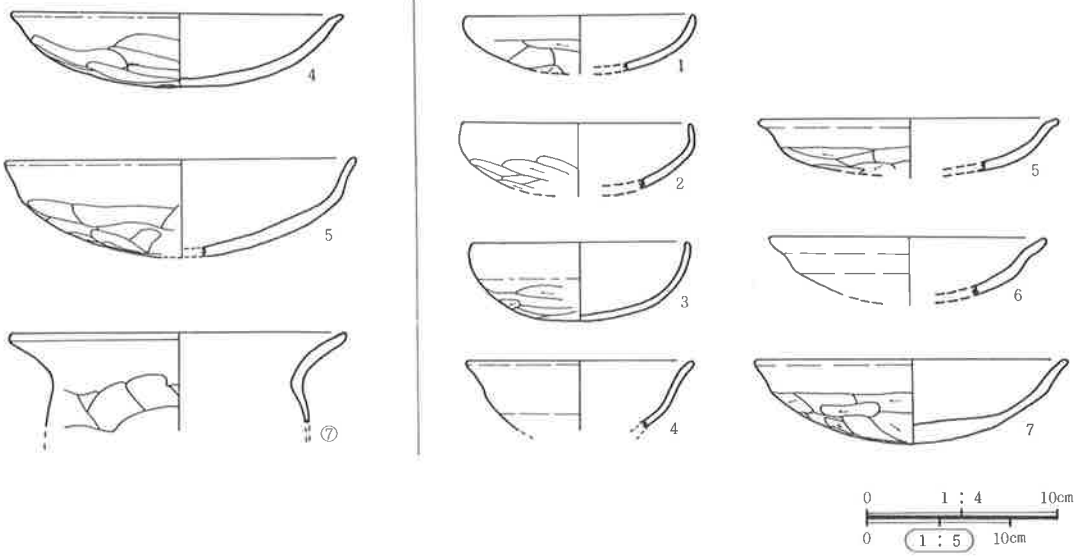
36号住（P121）



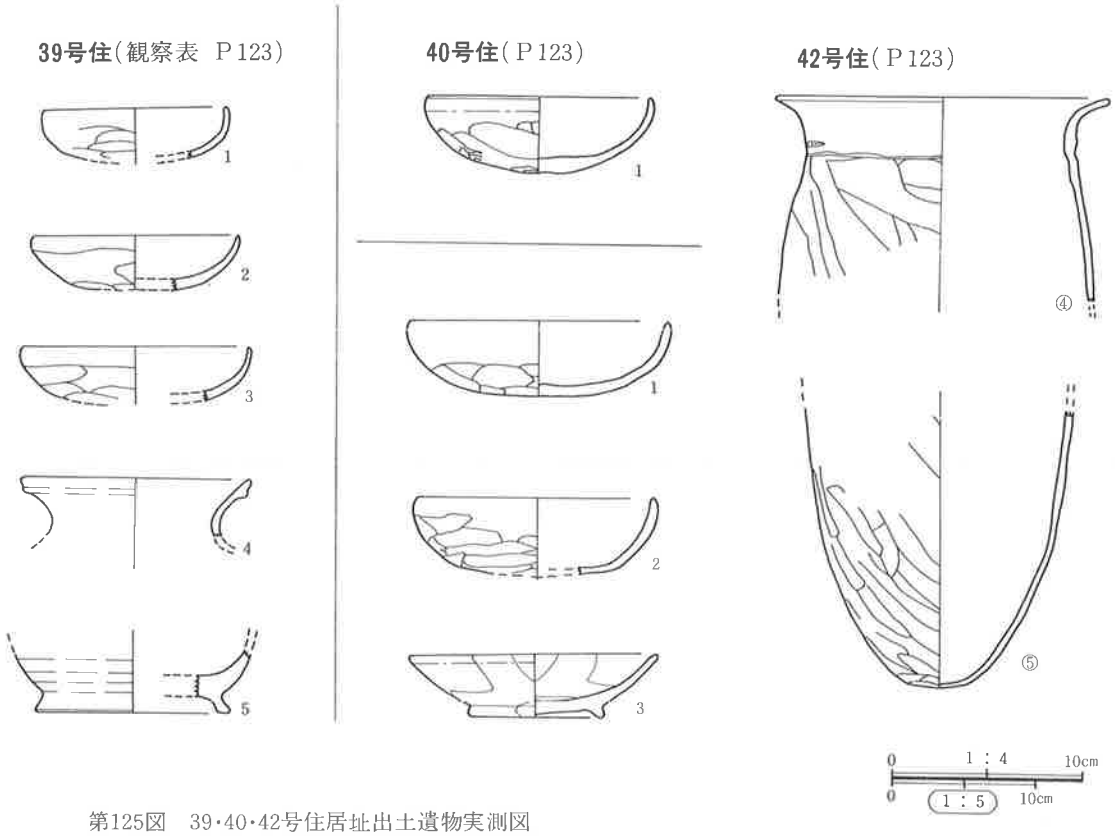
37号住（P122）



38号住（P122）



第124図　35･36･37･38号住居址出土遺物実測図



第125図　39・40・42号住居址出土遺物実測図

奈良時代の竪穴住居址出土遺物観察表

番号	器　種	出土位置 残存状態	法　量（cm）	胎　土 色　調	器形・成・整形の特徴	備　考
1号住						
1	坏	フク土 ¼	口：13.0	細砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。 **内面**：ヨコナデ。	体部外面剥落多い。
2	坏	フク土 ⅙	口：(14.0)	砂粒含む。 橙色。	体部深い。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。 体部周縁指ナデ（指紋残存）　**内面**：ヨコナデ。	
3	坏	フク土 ¼	口：15.0	砂粒含む。 橙色。	この型の坏としては小型、浅い。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。　**内面**：ヨコナデ。	
7号住						
1	坏	フク土 ⅓	口：12.0 高：3.1	砂粒多量。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	体部内面に砂粒脱痕多い。
2	坏	フク土 ¼	口：14.4	砂粒多量。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部下半ヘラケズリ、体部上半ユビナデ、ユビオサエ。**内面**：ヨコナデ。	器厚は比較的厚い。
3	坏	フク土 ⅙	口：(18.6)	砂粒多量。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部荒いヘラケズリ。 **内面**：ヨコナデ。　器厚は比較的厚い。	
4	長胴甕	カマド 底部½、胴部⅙	底：5.2	細砂粒多量。 橙色～黒褐色。	**外面**：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。 **内面**：ナデ。　ケズリの後は不鮮明。	底部～胴下半黒色。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法　量（cm）	胎　土 色　調	器形・成・整形の特徴	備　考
7号住						
5	丸胴甕	カマド前面 ½(底部完)	底：7.1	砂粒多量。 にぶい赤褐色。	**外面**：胴部ヘラケズリ、底部一定方向ヘラケズリ。 **内面**：ナデ。　器壁厚い。	底～胴部に大黒斑。
12b号住						
1	坏	フク土 ⅜	口：14.5 高：4.4	砂粒含む。 橙色～にぶい橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ。**内面**：口縁部～体部上半ヨコナデ、体部下半ナデ。	体部内面中央部に「×」の線刻か？
2	坏	フク土 一部欠損	口：14.9 底：9.2 高：4.9	砂粒含む。 橙色。	稜によって口縁部、体部、底部に分けている。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ。体部周縁ユビナデ、底部ヘラケズリ(後ナデ)。 **内面**：ナデ後口縁部～体部幅約0.5㎜のごく細い縦暗文、体～底部累線状暗文。	内面に小さな黒色の付着物がある。
3	坏 (須恵器)	床直 ほぼ完形	口：12.7 底：7.4 高：4.0	粗砂少量含む。 灰色に白色が斑状に入る。	口径に比し大きめの底部。　右回転ロクロ成形。 内・外面ともに回転ナデ。　底部回転糸切り。 底部周縁調整か？	地色は灰白色。 比較的軟質。
4	刀子。	フク土。	柄部欠損。			
12b号住床下（大土坑上部）						
1	坏	¼	口：12.2	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。内面ヨコナデ、ナデ。	
2	坏	⅓	口：11.6	粗砂含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ(指紋残る)。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	
3	坏	¼	口：13.2	粗砂多量。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ後ミガキ。	体～口縁部内面に煤付着。砂粒脱痕。
4	坏	⅓	口：16.0 高：3.4	砂粒多量。 橙色～にぶい橙色。	口～体部境の稜がみられない。**外面**：ヘラケズリ、**内面**：ナデ(口縁～体上部に砂粒脱痕多く不鮮明)	
5	坏	⅖	口：17.2	粗砂多量。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。(砂粒脱痕多い。)	口唇部に黒斑。
6	坏 (須恵器)	¼	口：13.2 底：9.6	砂粒含む。 褐灰色。	右回転ロクロ成形。底部外面ヘラ調整 他は回転ナデ。	
15号住						
1	坏	床直 一部欠損	口：12.9 高：3.9	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ、ユビオサエ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	体部内面中央に「キ」印の線刻。
2	坏	フク土 ¼	口：15.3 高：3.9	砂粒含む。 橙色。	口～体部境の稜は明瞭、口縁部は外反し、上半で内湾する。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：口縁部～体部ヨコナデ、体部ナデ。	
3	埦	床直 ½	口：19.9 高：5.7	砂粒含む。 にぶい橙色～黒褐色。	体部は深い。口縁部はほぼ直立する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	内外面に付着物。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法 量（cm）	胎　土 色　調	器形・成・整形の特徴	備　考
15号住						
4	長胴甕	⅓	口：22.0	細砂粒含む。 暗赤褐色。	肩部は丸味がある。口縁部はゆるやかに外反する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部丁寧なナデ。	胴～口縁部に煤が付着。
5	丸胴甕	床直 ⅔	口：23.9	砂粒含む。 にぶい橙色～橙色。	口縁部はくの字に外傾。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部荒いナデ。	
6	丸胴甕	床直 底部⅔、胴部¼	底：6.7	砂粒、黒色粒、赤色粒含む。橙色。	**外面**：胴部、底部ヘラケズリ。 **内面**：ナデ。	底部及び周縁に小黒斑。
17号住						
1	坏	床直 ⅙	口：(16.2)	砂粒含む。 橙色。	口縁部～体部境の稜は鮮明。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：ヨコナデ。　（ケズリは波打っている）	口縁部～体部に煤付着。
2	坏	床直 ⅓	口：14.6	砂粒含む。 橙色。	比較的大きめの坏である。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	口縁部に黒斑。
3	坏	フク土 ¼	口：11.2	砂粒含む。 にぶい黄橙色。	口縁部は直立気味で、稜が比較的明瞭である。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部～体部ヨコナデ。	
4	坏	床直 完　形	口：12.1 高：3.5	砂粒含む。 橙色。	口縁部はほぼ直立する。稜は不明瞭。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：口縁部～体上部ヨコナデ、下部ナデ。	体部と口縁部の境に小さな黒斑。
5	高台付埦 （須恵器）	床　直 一部欠損	口：14.6 底：12.0 高：4.6	砂粒、小礫含む。 灰色。	口縁部は内湾気味にわずか開く。高台部は比較的幅広で、端部中央が窪む。 右回転ロクロ成形。**外面**：体部回転ヘラ削り後上半及び下端回転ナデ。底部回転ヘラ削り後回転ナデ。高台部回転ナデ。**内面**：口縁部回転ナデ、底部ナデ。	非常に堅緻。 高台部の端部内外面磨耗している。
6	高台付埦 （須恵器）	床　直 一部欠損	口：14.9 底：11.4 高：4.5	細砂粒含む。 灰色、一部灰白色。	口縁部は直線的に開く。高台端部の稜は鋭い。 **外面**：体部～高台部回転ナデ、底部回転ヘラ削り後周縁～高台部回転ナデ。**内面**：口縁部回転ナデ底部ナデ。	5に比べると焼きが甘いが堅緻。 5に比べ高台の磨耗も少ない。
7	鉢	床上10cm 完　存 （底部中央欠損）	口：21.3 底：7.6 高：12.2	粗砂多量。 にぶい褐色～橙色。	器厚厚いが底部は極く薄い。意識的に薄く成形し、焼成後穿孔した可能性がある。但し、孔の線は整っていない。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部縦ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	口縁部から体部にかけて、煤が斜に一巡りしている。
8	丸胴甕	床直～床上20cm。 ほぼ完形	口：25.2 底：6.5 胴：31.4 高：33.8	砂粒含む。 橙色～にぶい褐色～黒褐色。	底部は小さな平底。胴部最大径は上半にある。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	胴部外面、胴下部～底部内面に大黒斑がある。
22号住						
1	坏	カマド上部 ⅘	口：17.4	砂粒含む。 橙色。	口縁部は体部から角度を持って外反し、稜が明瞭である。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ。	ほぼ内面全体に煤が付着。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法　量（cm）	胎　　土 色　　調	器形・成・整形の特徴	備　　考
23号住						
1	坏	フク土 ⅙	口：15.0	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（後ナデ） **内面**：ナデ。	内面に煤付着。
2	坏	フク土 ¼	口：13.0	砂粒少量含む。 にぶい橙色～橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	内面、特に体部中央に黒色付着物（煤）。
3	長胴甕	フク土 ¼	口：22.0	砂粒、赤色粒、雲母含む。 赤橙～橙色。	胴上半部に丸味を持つ。口縁部の外反は余り強くない。　**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	上端のケズリは波打っている。 内面斑模様。
4	長胴甕	フク土 口縁部¾ 胴　部⅓	口：23.6	砂粒含む。 橙色～にぶい橙色。	３と類似。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	上端のケズリは波打っている。 内面斑模様。
25号住						
1	坏	カマド底面 ½	口：12.0	砂粒含む。 にぶい橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：口縁～体部ヨコナデ。	内面（一部外面）にタール状の黒色付着物あり。
2	坏	床直 一部欠損	口：13.3 高：3.5	砂粒含む。 橙色～にぶい橙色。	底部平坦で浅い。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ（磨滅しており不鮮明）体部周縁ユビナデか。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	比較的軟質。 体部（底部）内面中央に「×」の線刻。
3	坏 （須恵器）	床直 口縁部一部欠損	口：14.1 底：8.5 高：4.3	砂粒、黒色粒含む。 灰色。	右回転ロクロ成形。**外面**：体部回転ナデ、底部回転ヘラ切り、後ナデ、一部ヘラ調整？ **内面**：回転ナデ。	
4	埦	カマド底面 ⅕	口：18.0	砂粒少量含む。 にぶい橙色。 内面黒褐色。	**外面**：ナデ後粗いミガキ。 **内面**：ナデ後密にミガキ。 口唇部直下外面に沈線を一条巡らす。	内黒の可能性あり。 外面は荒れている。
5	鉢	フク土 底部½ 体部⅙	口：17.0 底：7.0 高：14.2	白色粒含む。 外面赤褐色。 内面黒褐色。	底部は丸底。体部中位に弱い稜を持ち、口縁部はわずかに外反する。　**外面**：黒色の付着物が多く不鮮明であるが、ナデ後ミガキか？　内面も、横ナデ後ミガキの可能性がある。	体部上半に接合痕及び、粘土帯の割れがみられる。
6	短頸壺	フク土 ¼	口：10.0	細砂粒含む。 灰色。	平坦な肩部から短かい口縁部が直立する。 内外面とも回転ナデ。	
7	長胴甕	床直 ⅓	口：21.0	砂粒含む。 にぶい黄橙～橙色。	口唇部ヘラナデにより平坦。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部内面に煤が付着する。
8	長胴甕	フク土 ⅕	口：21.0	砂粒含む。 橙色。	口縁部上半は内湾気味になる。 **外面**：口縁部ハケ状ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部外面に接合痕。
26号住						
1	坏	フク土 ⅓	口：14.2	砂粒含む。にぶい橙～橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ。	内面に黒色付着物。（煤？）
2	坏	フク土 ¼	口：13.8 高：5.0	砂粒含む。にぶい橙～橙色。	深めの体部から口縁部が内湾する。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ。 **内面**：ヨコナデ、ナデ。	内面に黒色付着物。

3　刀　子　フク土（南壁際）　全長28.5cm、刀部18.6cm、柄部 9.9cm。　柄部に木質残存。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法 量（cm）	胎　　土 色　　調	器形・成・整形の特徴	備　　考
29号住						
1	坏	フク土 ⅕	口：(11.0)	粗砂含む。 橙色。	口縁部は短かく内湾気味。**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ。	
2	坏	フク土 ⅙	口：(16.2)	砂粒含む。 橙色。	口縁部は直線的にわずか外反する。**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ。	外面に黒色付着物。（煤）
3	坏	フク土 ⅓	口：16.4	砂粒少量含む。 にぶい橙色～にぶい赤褐色。	口縁部が体部から角度をもって立ち上がり、強く外反する。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	内・外面に黒色付着物（煤）
31号住						
1	坏	床直 ほぼ完形	口：13.4 高：3.3	砂粒含む。 にぶい橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	内面に付着物。
2	坏	床直 一部欠損	口：14.0 高：3.5	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	内面に黒色付着物。
3	坏	カマド ⅕	口：14.0	砂粒少量含む。 にぶい黄橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ後放射状暗文。	平底の底部か？
4	長胴甕	カマド ⅓	口：23.0	砂粒、赤色粒含む。 橙色。	頸部はケズリによって角を生じている。口縁部は直線的に「く」の字に反傾する。**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	口縁部外面中位に接合痕残る。
5	長胴甕	カマド ¼	口：21.2	細砂粒含む。 にぶい黄橙色～橙色。	口縁部はゆるやかに外反する。胴部上半に丸味がある。　**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	
6	長胴甕	カマド		細砂粒含む。 にぶい黄橙色～橙色。	**外面**：ヘラケズリ。 **内面**：ナデ。 比較的丸味のある胴部である。	内面にぶい赤褐色。 ５と同一個体の可能性がある。
32号住						
1	壺 （須恵器）	フク土 ⅕	底：（　　）	粗砂少量含む。 灰色～灰白色。	回転ロクロ成形。内外面とも回転ナデ。	内面に黒色付着物。 外面剥落。
33ｂ号住						
1	甕	床直 一部欠損	口：18.9 胴：21.7	砂粒、白色粒多量に含む。 にぶい橙色。	胴部は卵型を呈する。頸部にヘラ痕が深く残る。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	内面はにぶい赤褐色と橙色の斑状。
2	長胴甕	床直 上半部½ 下半部完存	口：22.2 胴：19.2 底：4.2 高：33.7	砂粒、白色粒多量に含む。 にぶい橙色～橙色。	底部は小さな平底。胴部は上半にわずかな膨らみを持つ。口縁部は強く外反し、端部で内湾気味となる。　**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	胴下半部内面にクレーター状剥落。
34号住						
1	坏	カマド ⅛	口：(13.0)	砂粒含む。 黒褐色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：ヨコナデ。	内外面とも黒色付着物多い。
2	坏	フク土 ⅙	口：(12.8)	粗砂含む。 橙色。	口縁部は幅が狭く、内湾気味である。体部は比較的深い。**外面**：口縁部ハケ状ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ。	外面に火を受ける。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法 量（cm）	胎　　土 色　　調	器形・成・整形の特徴	備　　考
34号住						
3	坏	カマド ¼	口：14.4 高：(4.0)	砂粒含む。にぶい橙～橙色。	比較的深めの体部から短かい口縁部がほぼ直立する。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ケズリ、体部周縁のナデはわずか残存。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	
4	壺 （須恵器）	フク土 口縁部¾ 胴部¼	口：14.6	砂粒含む。 灰～明青灰色。	口縁部はゆるやかに外反する。口唇直下に隆帯を貼付する。 内外面とも回転ナデ。	口唇部に欠落多い。
35号住						
1	坏	フク土 ½	口：13.1 高：3.4	砂粒含む。 にぶい黄褐色～橙色。	体部はごく浅い。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。体部内面中央に「×」の線刻。	内・外面に黒色付着物。
2	坏	床直 一部欠損	口：13.8 高：3.4	砂粒含む。 にぶい橙色～橙色。	体部内面底部は平坦。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ。 **内面**：ヨコナデ、ナデ。	内面に黒色付着物。
3	坏	床直 ¾	口：14.2 高：4.3	砂粒含む。 にぶい黄褐色～橙色。	口縁部～体部境に稜はなく、全体的に丸味がある。整形は内外面とも砂粒脱痕の為不鮮明であるが、ナデ後丁寧なナデもしくはミガキと思われる。	内面に黒色付着物。
4	埦	フク土 ½	口： 高：	砂粒含む。 橙色。	深く大型の埦である。体部中央(底部)は平坦で、全体的に丸味がある。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下半ヘラケズリ。(波打っている) **内面**：ヨコナデ、ナデ。	体部外面に粘土のめくれ、ヒビ割れがみられる。
5	坏 （須恵器）	フク土 ⅕	口：11.0 底：5.0 高：3.8	砂粒、石英粒、白色粒含む。 灰色。	口径に比して底径の小さな坏である。 回転ロクロ成形。底部回転糸切りか？ 体部内外面回転ナデ。	33ａ号住遺物の可能性がある。
6	坏 （須恵器）	フク土 ½	口：13.0 底：8.8 高：3.8	白色粒少量。 暗青灰～灰色。	大きな底部から口縁部が直線的に開く。 回転ロクロ成形。**外面**：体部回転ナデ。底部回転ヘラ切り後調整。底部周縁ヘラナデ。内面回転ナデ。	器壁内部は紫灰色。
7	坏 （須恵器）	フク土 ⅔	口：13.3 底：9.4 高：3.0	粗砂、石英粒含む。 灰白～灰色。	底径が大きく、浅い坏である。 回転ロクロ成形。**外面**：体部回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ。**内面**：回転ナデ。	器壁内部は灰色。
8	坏 （須恵器）	フク土 ½	口：13.0 底：9.2 高：3.0	粗砂、石英粒含む。 黒色。	７と類似する。回転ロクロ成形。 **外面**：体部回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ヘラ調整(ナデ)。　**内面**：回転ナデ。	器壁内部は灰白色。
9	脚付盤？ （須恵器）	フク土 ½	裾：14.2	粗砂少量含む。 灰色。	脚部は外反し段を持って端部で直立する。 回転ロクロ成形。内外面ともに回転ナデ。	自然釉が多量に付着。
36号住						
1	長胴甕	床直 口縁部¼ 胴　部⅚	口：22.0 胴：19.0 底：5.1 高：35.3	砂粒多量に含む。 橙色～褐灰色。	底部は小さな平底。胴部上半に最大径をもち、下半で細くなる。口縁部は比較的強めに外傾する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。 頸部に深いヘラ痕を残す。	外面底～胴下半部に黒斑。 口縁部に煤付着。 内面胴下端部にクレーター状剥落。
2	長胴甕	床直 胴下半部完存	底：3.0	砂粒多量に含む。 橙色～黒褐色。	底部は小さな平底。 **外面**：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。 **内面**：ナデ。上端に接合痕を残す。	胴部外面に多量の付着物。底～胴部黒斑。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法　量（cm）	胎　　土 色　　調	器形・成・整形の特徴	備　　考
37号住						
1	坏	貯蔵穴 ⅙	口：(8.8)	細砂粒含む。 橙色。	口縁部は体部からほぼ垂直に立ち上がり外反する。**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	比較的軟質。
2	坏	¼	口：11.8 高：2.7	砂粒少量含む。 にぶい褐色。	底部がほぼ平坦な浅い坏である。**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	粘土のめくれが残る。
3	坏	フク土 ½	口：12.0 高：3.8	砂粒含む。 橙色。	丸底の体部から口縁部が内湾気味にほぼ直立する。**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ。	ヘラケズリの稜は不鮮明(ナデか？)
4	坏	⅚	口：17.3 高：3.8	砂粒含む。 淡橙～橙色。	体部は一定した丸味を持ち、口縁部でわずかに外反する。**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ(後ナデ？)。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	ヘラケズリの稜は不鮮明。内外面ともに黒色付着物。
5	坏	¼	口：18.4 高：(5.2)	砂粒含む。 にぶい橙色～橙色。	4に比して深い坏でケズリの稜も鮮明に残る。**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	内面に多量の黒色付着物。
6	坏 (須恵器)	貯蔵穴 ⅚	口：12.1 底：9.0 高：3.8	砂粒極少量含む。 灰白色。	回転ロクロ成形。底部回転ヘラ切り後周縁部ヘラ調整。他部は回転ナデ。	底部内面に「X」？の線刻。 砂粒脱痕多い。
7	長胴甕	¼	口：(23.0)	細砂粒多量に含む。にぶい橙～黒褐色。	余り張りのない胴部から口縁部が外反し、上半部で内湾気味になる。**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	頸部内外面に煤付着。
38号住						
1	坏	フク土 ⅛	口：(12.2)	砂粒含む。 にぶい褐色。	口縁部が短かく、浅い坏である。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ。	
2	坏	床直 ¼	口：12.2	砂粒含む。 橙色。	深めの体部から口縁部がわずかに内傾する。**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ。**内面**：ヨコナデ。	内・外面黒色付着物。
3	坏	床直 ¾	口：11.6 高：4.1	砂粒含む。 にぶい褐色～橙色。	体部は丸味を持つ。口縁～体部に稜はなく、口縁部はほぼ直立する。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、周縁ユビナデ。**内面**：ヨコナデ。	体部外面に剥落がある。 外面に火熱受ける。
4	坏 (須恵器)	フク土 ¼	口：12.0	粗砂、石英粒含む。	回転ロクロ成形。　内・外面回転ナデ。	器壁灰色。 いぶし処理。
5	坏	床直 ¼	口：15.8	砂粒多量含む。 橙色。	口縁部は強めに外反する。**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	外面に多量の黒色付着物。
6	坏	フク土 ⅛	口：(14.6)	砂粒含む。 にぶい橙色～橙色。	口縁部は体部から余り角度を持たずに立ち上がり上半で内湾気味となる。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ。	外面に黒色付着物。
7	坏	床直 一部欠損	口：16.4 高：4.4	砂粒多量、粗砂少量含む。 褐灰色～橙色。	口縁部は体部から余り角度を持たずに立ち上がりわずか外反する。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	体部中央(底部)外面に火熱を受ける。 全体的に歪む。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法 量（cm）	胎　土 色　調	器形・成・整形の特徴	備　考
39号住						
1	坏	フク土 ⅛	口：(9.8)	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ。	
2	坏	フク土 ¼	口：11.0 高：(2.8)	砂粒含む。 橙色。	底部平坦。　**外面**：口縁部ヨコナデ。体部(底部)ヘラケズリ、体部(上半)ユビナデ。ユビナデの範囲は広い。**内面**：ヨコナデ。	
3	坏	フク土 ¼	口：12.0	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ。	火熱を受けている。
4	壺 （須恵器）	フク土 ¼	口：12.0	白色粒含む。 灰色～暗灰色。	口唇部外面直下に隆帯を付す。器壁薄く小型の壺と思われる。内外面ともに回転ナデ。	
5	高台付埦 （須恵器）	フク土 ¼	裾：10.2	白色粒含む。	高台部外面は、外反する。接地面は平坦でほぼ水平である。　回転ロクロ成形。内外面回転ナデ。	
40号住						
1	坏	床直 ¾	口：11.9 高：4.0	砂粒、石英粒含む。にぶい赤褐色～橙色。	小型で深めの坏である。全体的に丸味があり、口縁～体部間の稜は不鮮明。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	体部外面に小黒斑。体部外面に黒色付着物少量。
42号住						
1	坏	床直 ½	口：13.6 高：4.0	砂粒含む。 にぶい橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	
2	坏	床直 ½	口：12.4	細砂粒少量含む。 橙色。	体部は丸味があり、口縁部は短かく立つ。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	外面に粘土のひび割れが目立つ。
3	高台付皿 （灰釉陶器）	床直 底部完存 他一部	口：(13.6) 底：7.1 高：3.3	断面灰白色。 釉明緑灰色。	「三ヶ月」状の高台から、体部が内湾して開く。 ロクロ水挽き成形。 袖は漬け掛け。	30ｂ号住の混入品の可能性がある。
4	長胴甕	床直 ⅕	口：22.4	砂粒多量に含む。 にぶい橙色～黒褐色。	胴部の張りは弱い。口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、中位からほぼ水平近くまで外反する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	片面に火を受け脆くなっている。
5	長胴甕	床直 床部½ 胴部¼	底：4.2	砂粒含む。 にぶい黄橙色～にぶい褐色。	底部は小さな平底。　**外面**：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。　**内面**：ナデ。	

(5)　平安時代の遺構

2号住居址（遺物P131，P139）

10－8グリッドに位置する。南西10mに3号住が近接する。すぐ東側が台地の端である。

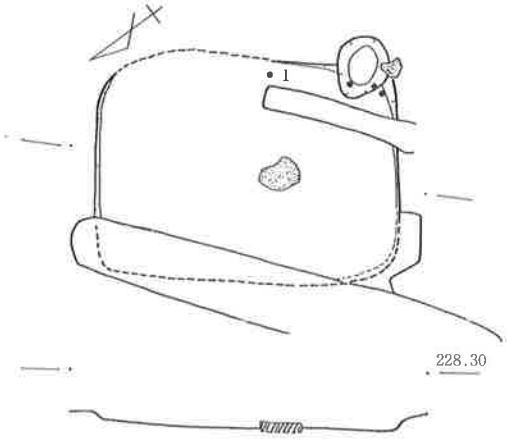
後世の削平により、西壁と東壁の半分程は残っていない。

南北3.1m、東西は2.2m程の小型長方形住居である。壁高は10cm弱である。

カマドは南東隅に位置する。径60cmの規模で浅く掘り窪め、側縁を角礫で補強していたが、1個を除いて表土剝ぎの際に削平してしまった。

床は薄く貼り床され、良く踏み固められていた。

遺物はカマドから羽釜、須恵器甕の破片が、東壁際の床面上から坏が出土している。



第126図　2号住居址実測図

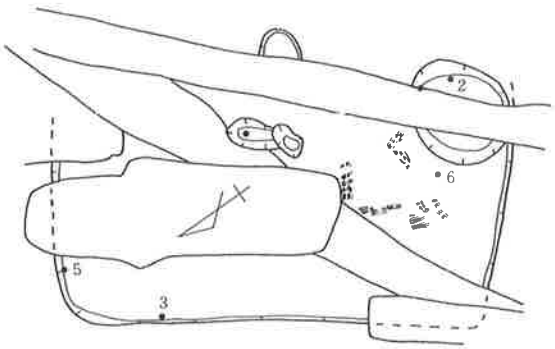
3号住居址（遺物P131，P139）

9－8グリッドに位置する。遺構の半分以上が後世の耕作溝などに壊されている。

床面、貯蔵穴等から判断すると、南北約4.7mの比較的大きな長方形住居と思われる。

床は一部分が残存していただけだが、良く踏み固められている。床一面に炭化物が散乱しており、焼失家屋の可能性がある。貯蔵穴は東南隅にあり、径約1mで円形を呈する。中から、須恵器の坏が出土している。

遺物は他に、土師器の甕、坏、灰釉陶器の皿須恵器の坏が出土している。



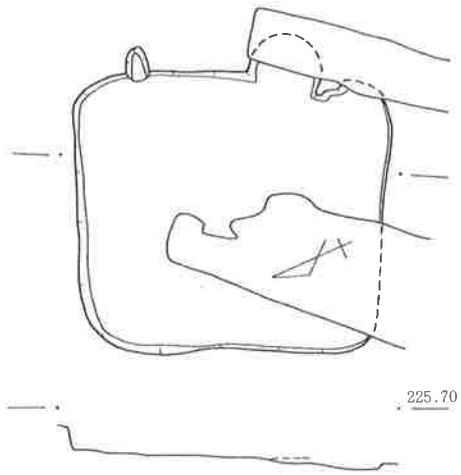
第127図　3号住居址実測図

8号住居址（遺物P131，P139）

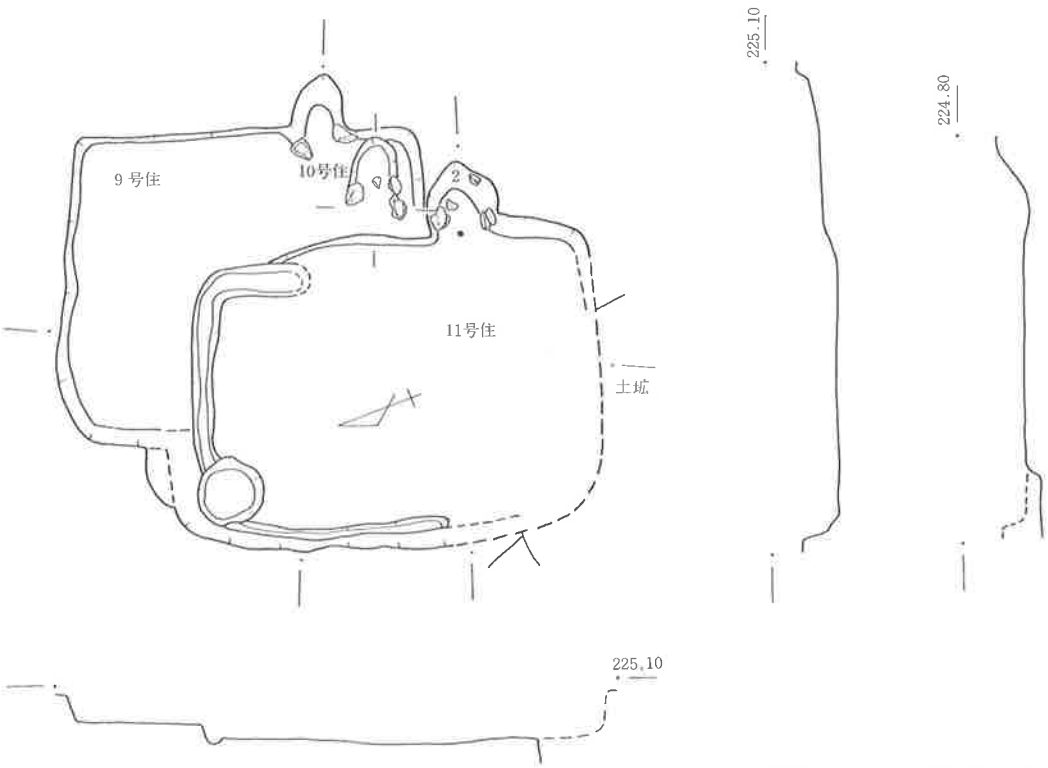
6－7グリッドに位置する。南5mに9～11号住が近接する。耕作による攪乱を受けており、遺構、遺物ともに残りは良くない。

2.7×3.1mの規模を測る小型の隅丸長方形住居で、カマドが東壁に一部分残存していた。

床面は軟弱であり、遺物は少量出土しただけである。



第128図　8号住居址実測図



第129図　9、10、11号住居址実測図

9・10・11号住居址（遺物P132, P140）

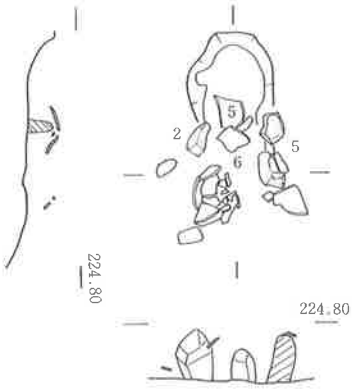
5－7グリッドに3軒が重複して検出された。遺構の出土状態及び、遺物から判断すると11号→9号→10号の新旧関係が考えられるが、11号住の覆土中にわずかに10号住の床が検出された以外には、覆土からは明瞭な切り合い関係をとらえられなかった。

9号住は南北3.7mを測り、東西は10号住との重複によって不明であるが該期の他の遺構側から推察すると2m強の規模を有すると思われる。床面は凹凸が多く、余り硬くない。

カマドは東壁南寄りに位置し、袖部を河原石で補強している。焚口幅40cmで、壁外へ約60cm張り出す。

遺物はカマド底面から羽釜の胴部破片が出土しただけである。

10号住の規模は判然としないが、カマドの位置や、9号住の西に残存する北壁と西壁からほぼ9号住と同様の規模と思われる。床面は余り硬くなく、9号住の床面とほぼ同一レベルと思われる。



第130図　10号住居址カマド実測図

南壁を検出できなかったため判然としないが、カマドは東壁の南端近くに位置すると思われる。9号住の床面を掘り込まず、そのまま燃焼面としている。袖部を角礫を用いて補強し、燃焼部中央に支脚石を立てている。焚口幅約30cm、袖石から煙道部先端までの長さ約80cmを測る。

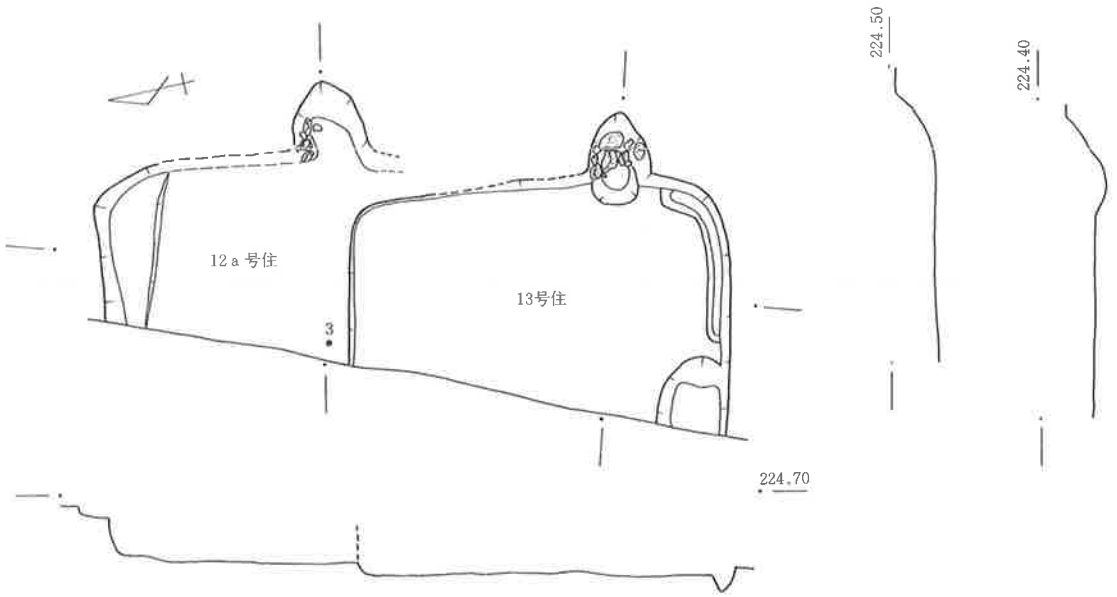
遺物は、カマド焚口に床面から若干浮いて潰れた状態で羽釜が、支脚の上から土釜が、北側の袖脇から灰釉陶器椀が、カマド内から土師質椀が出土している。

Ⅲ　窪谷戸遺跡

11号住は東西3.1m×南北4.4mの規模を有する長方形住居で、南端部は大土坑とも重複している。また、時期的に近い12a号住が南西に近接している。

カマドは東壁南寄りに付設され、小型の礫を用いて袖部・燃焼部を補強している。又、燃焼部の北寄りに支脚石も残存していた。焚口幅40cm強で、壁から60cm程張り出している。

遺物は、カマド前面に床面から浮いた状態で土師器甕が出土し、覆土から須恵器埦が出土した。



第131図　12a、13号住居址実測図

12a号住居址（遺物P131，P139）

5－7グリッドに位置する。12b号住の真上に乗り、13号住によって南端部を切られている。西側は調査区域外である。東壁は大土坑の覆土に掘り込まれている為、明確には検出できなかった。

床面は良く踏み固められているが、12b号住との重複部分は若干沈み込んでいる。

カマドは東壁に付設されており、燃焼部の北側壁を大小の礫を積んで補強している。

遺物は床面から土師器甕が、覆土中から刀子が出土している。

13号住居址（遺物P131，P139）

12a・b号住と重複する。時期的に先行する14号住の西側に近接している。

南北約4mを測るが、西側は調査区域外の為に東西の規模は不明である。

床面は非常に良く踏み固められており、凹凸が激しい。南壁から東壁にかけて浅い壁溝が巡っている。又南壁沿いの西端に浅いピットが検出されており、貯蔵穴の可能性がある。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。燃焼部の側壁から天井部を覆う状態で大小の河原石、礫が多数出土しており、補強に用いられたものと思われる。燃焼部底面は掘り窪められていた。

遺物は小破片が覆土中から少量出土しただけである。器種は、羽釜、灰釉陶器、須恵器坏、土師質の坏などがある。

14号住居址（遺物P132，P140）

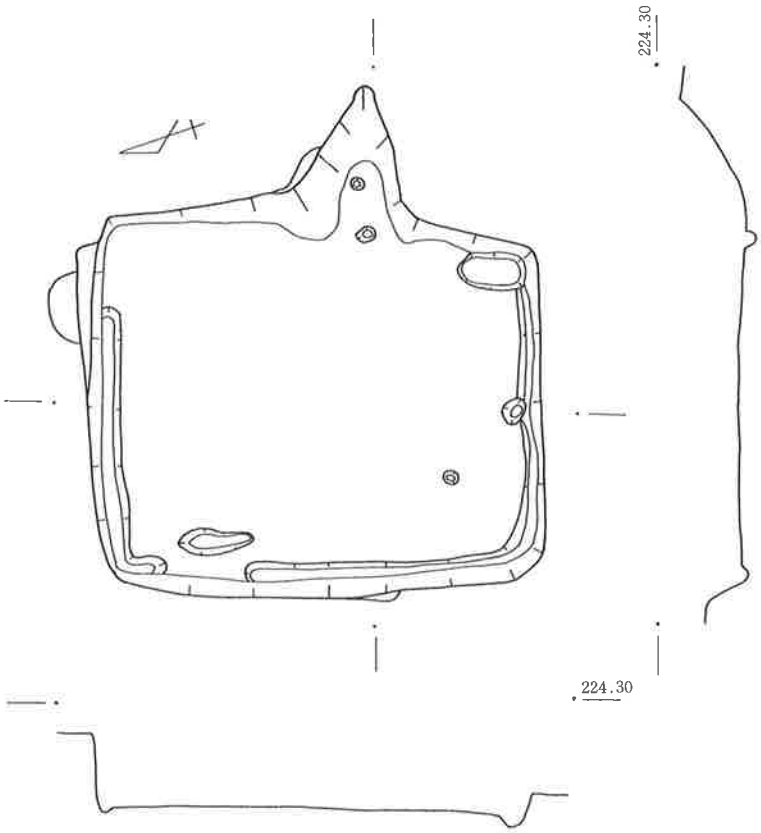
4・5－7グリッドに位置する。11、12a、13、16、21号住が近接する。

東西4.1m×南北4.6mの若干南北に長い長方形住居である。壁高は北壁で約70cmを測り、遺存状況は良好である。

床面は北端を除き良く踏み固められている。東壁を除いて浅い壁溝が巡っている。

カマドの南側の東壁はローム粘土を用いて全面が覆われていた。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。地山を約1.4m掘り込み粘土を用いて補強している。燃焼部は地山が良く焼けている。底面に小ピットが検出されており、支脚の抜き跡の可能性がある。煙道の煙出し口部分には土師器甕が逆位で据えられていた。



第132図　14号住居址実測図

遺物は煙道部の甕以外にカマド周辺からも土師器甕が、カマド袖部や床面から須恵器坏が出土している。又、覆土中からも比較的多量の遺物が出土しているが、羽口と多数の鉄鏃が出土したことが特筆される。

16号住居址（遺物P133，P141）

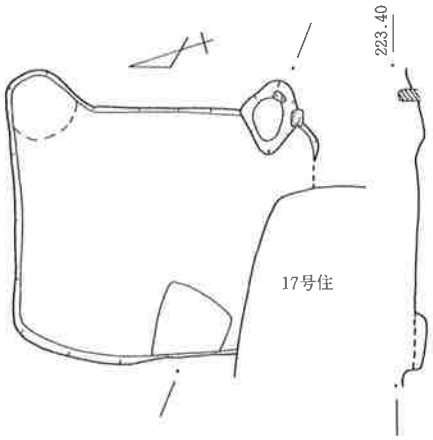
4－8グリッドに位置する小型住居である。17号住の北壁上にわずか乗り、北東部にも土坑が重複する。

東西2.6m×南北3.1mの規模を有するが、南壁は表土剥ぎにより、ほとんど削平してしまった。

床面はローム面まで達しておらず、また余り良く踏み固められていない為に南西隅の部分を掘り過ぎた。

カマドは東壁隅に付設されている。楕円形に浅く地山を掘り窪め、角礫を用いて補強していたと思われるが、一個を除いて崩れていた。

遺物はカマド内及び周辺から多量の土師質の高台付埦坏、埦が出土している。又、羽釜、灰釉陶器片等も出土している。



第133図　16号住居址実測図

Ⅲ　窪谷戸遺跡

21号住居址（遺物Ｐ133，Ｐ141）

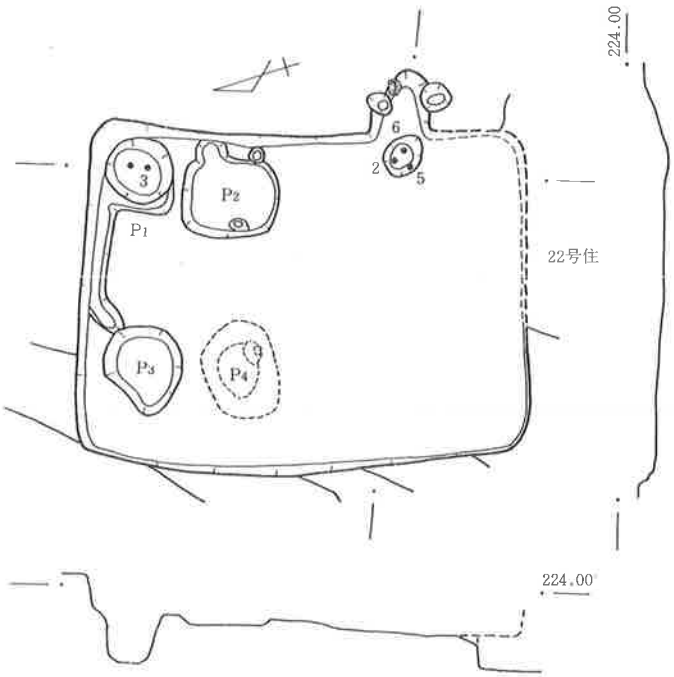
５・６－８グリッドに位置する。奈良時代の22号住の北壁上に乗り、14号住、16号住、24号住が近接する。試掘時に南～東壁の一部を削平した。

東西3.5m×南北4.5mを測り、全体的に西側に張りを持つ長方形住居である。

カマドは東壁の南寄りに付設されており、礫を用いて構築されていたが、表土剝ぎの際にほとんどを削平した。焚口は浅く円形に掘り込まれている。

床面は良く踏み固められている。

柱穴は検出されなかったが、ピットが４基北半部に検出されている。P_1は貯蔵穴と思われ、高台付埦と円礫が出土している。P_2は浅いが底面が床状に固くなっている。P_3は掘り方が明確でなく、後世の攪乱の可能性が強い。P_4は床下土坑であり、覆土中から多量の焼土、灰、炭化物が出土している。



第134図　21号住居址実測図

遺物は破片が多いが、羽釜、土釜、灰釉陶器、土師器台付甕、須恵器埦などが出土している。

24号住居址（遺物Ｐ133，Ｐ141）

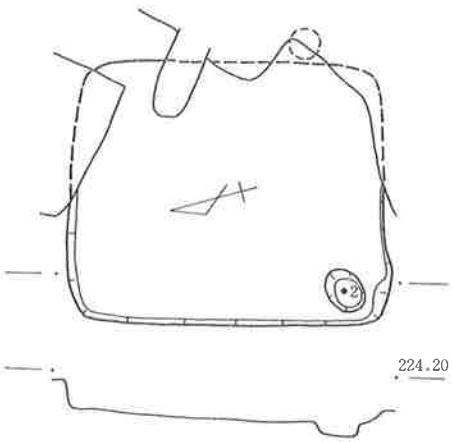
５－９グリッドに位置する。西４ｍに21号住が近接する。東南部は床下まで削平されており、北、東側は耕作による攪乱を受けている。

東西2.6m×南北3.2mを測る。壁高は西壁で30cmを測る。

東壁南寄り壁外と推定される部分に地山が焼けている部分があり、カマド跡と思われる。

床面は平坦で比較的硬い。

南西隅に径約40cmの浅いピットがあり、中から土師質の埦が出土していることから貯蔵穴と推察される。



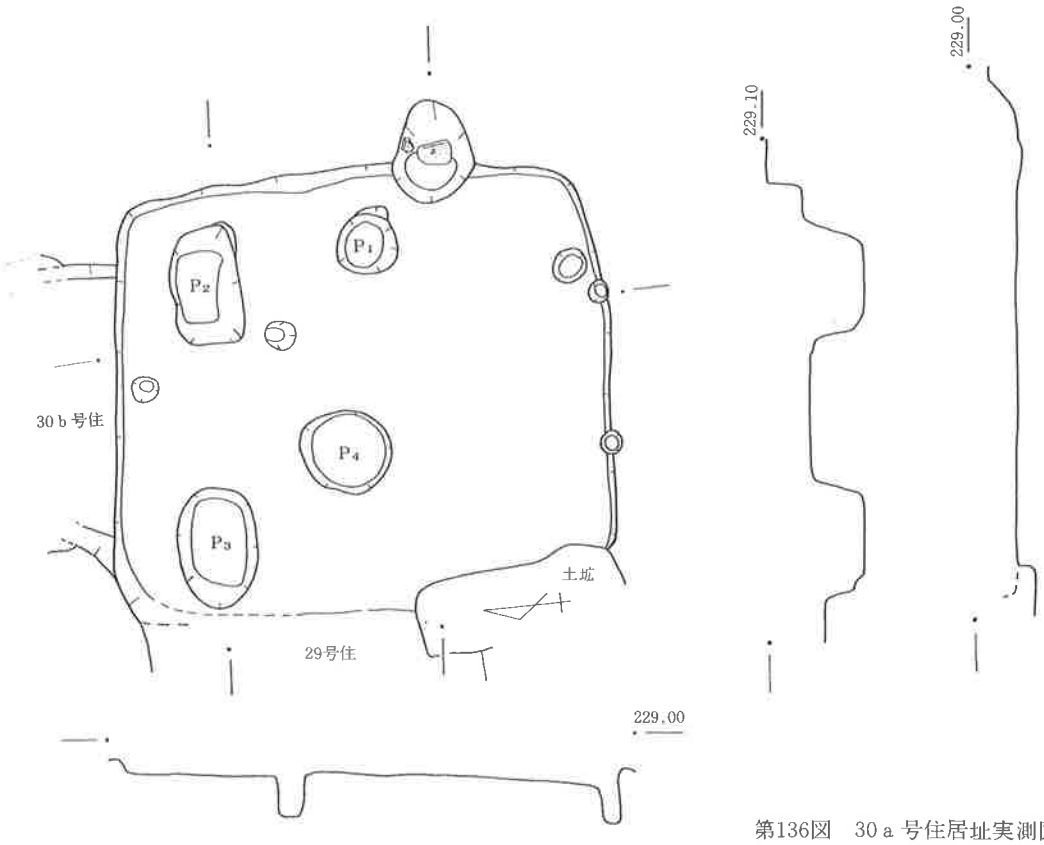
第135図　24号住居址実測図

30ａ号住居址（遺物Ｐ134，Ｐ142）

８－１グリッドに位置する。奈良時代の29号住と平安時代と思われる30ｂ号住と重複している。

東西4.6ｍ×南北5.1ｍの規模を有し、本遺跡の中では最も大きな竪穴住居址である。

カマドは東壁の南寄りに付設されているが、使用期間



第136図　30ａ号住居址実測図

が短かかった為か余り焼けていない。燃焼部中央に河原石が出土しており、天井石と思われる。

床面は南半部分は硬いが北半は軟弱で、明瞭には床を確認できなかった。

主柱穴と思われるピットは３本検出されたが、南側の２本は壁を掘り込んでいる。主柱穴以外にもピットがあり、P_1は貯蔵穴と思われる。P_3からは多量の焼土が出土している。P_4は床下土坑である。

遺物は多量に出土したが破片が多い。貯蔵穴から土師質埦、覆土から甕、羽釜等が出土している。

33ａ号住居址（遺物Ｐ134，Ｐ142）

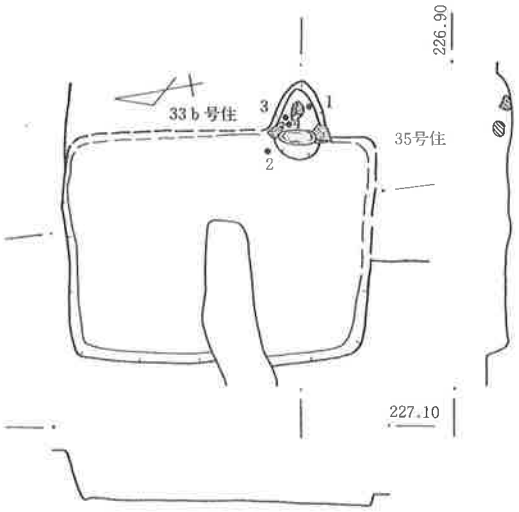
６－２グリッドに位置する。奈良時代の33ｂ号住35号住の上に乗る形で検出された。

東西2.2ｍ×南北3.1ｍの規模を有する小型の長方形住居址で壁高約50cmを測る。

床面は重複部分も含めて良く踏み固められている。

カマドは東壁の南寄りに付設されている。袖部に２個の河原石を補強の為に立て、天井石が崩落状態ではあるが残存していた。燃焼部中央に支脚石が立てられていた。

遺物は、カマドから須恵器坏と羽釜胴部破片が、カマド前面の床面に灰釉陶器片が出土している。



第137図　33ａ号住居址実測図

Ⅲ　窪谷戸遺跡

8・9・10号溝

B区カット部分の南東に位置する。

8号溝は東西方向の走向を示し、10号溝は8号溝とほぼ直行するように北側に位置している。9号溝は8号溝の中程から南へ枝別れし、東へ屈曲した走向を呈している。

8号溝は調査区域内で約20mの範囲を調査した。西側は43号住を削平し、竪穴状遺構群によって削平されているが、支線部分の竪穴状遺構の北側へ伸びている可能性がある。東側は調査区域外へ伸びている。

東端の土層断面では幅、上端約1.6m、下端約60cm、深さ60cmを測る。断面形状は逆台形状を呈する。

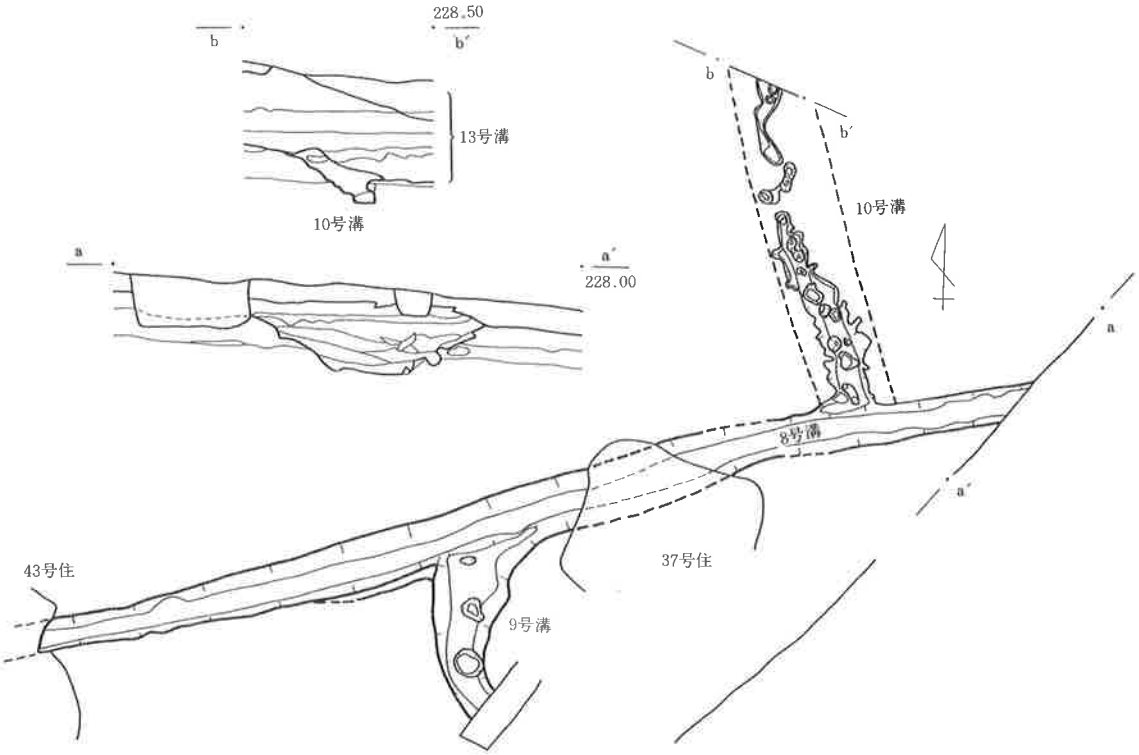
覆土は何層かに分層できたが、基本的には軽石を多量に含む黒褐色土である。又、底部には多量の砂粒が堆積しており、砂層中から奈良、平安時代の遺物が出土している。遺物は何れも小片で、磨耗しているものが多く、比較的水量が多かったと思われる。器種は羽釜、須恵器坏、埦、土師器甕、坏、灰釉陶器片等が多量に出土している。

9号溝は南端部を現代の耕作によって削平されているが、検出面においては調査区内で収束している。

現存長約3mで8号溝の分岐点から先端に行くに従い幅を狭めている。底部は平坦であるが、所々にピット状の流水痕が穿れている。8号溝の底面より10cm程浅くなっている。流水痕中には多量の砂粒が堆積しており、中から遺物が出土している。

10号溝は上部のほとんどを削平しており、流水痕とわずかな底部が残存するだけである。北側断面部分では13号溝と重複している為、規模、断面形状等は不明である。底面の8号溝との比高差は、接合部で約40cmを測り、10号溝の方が浅い。8、9号溝と同様に流水痕中からは多量の砂粒、遺物が出土している。

各遺構の埋没時期は出土遺物から判断して平安時代後半と思われる。



第138図　8･9･10号溝実測図

平安時代の竪穴住居址出土遺物

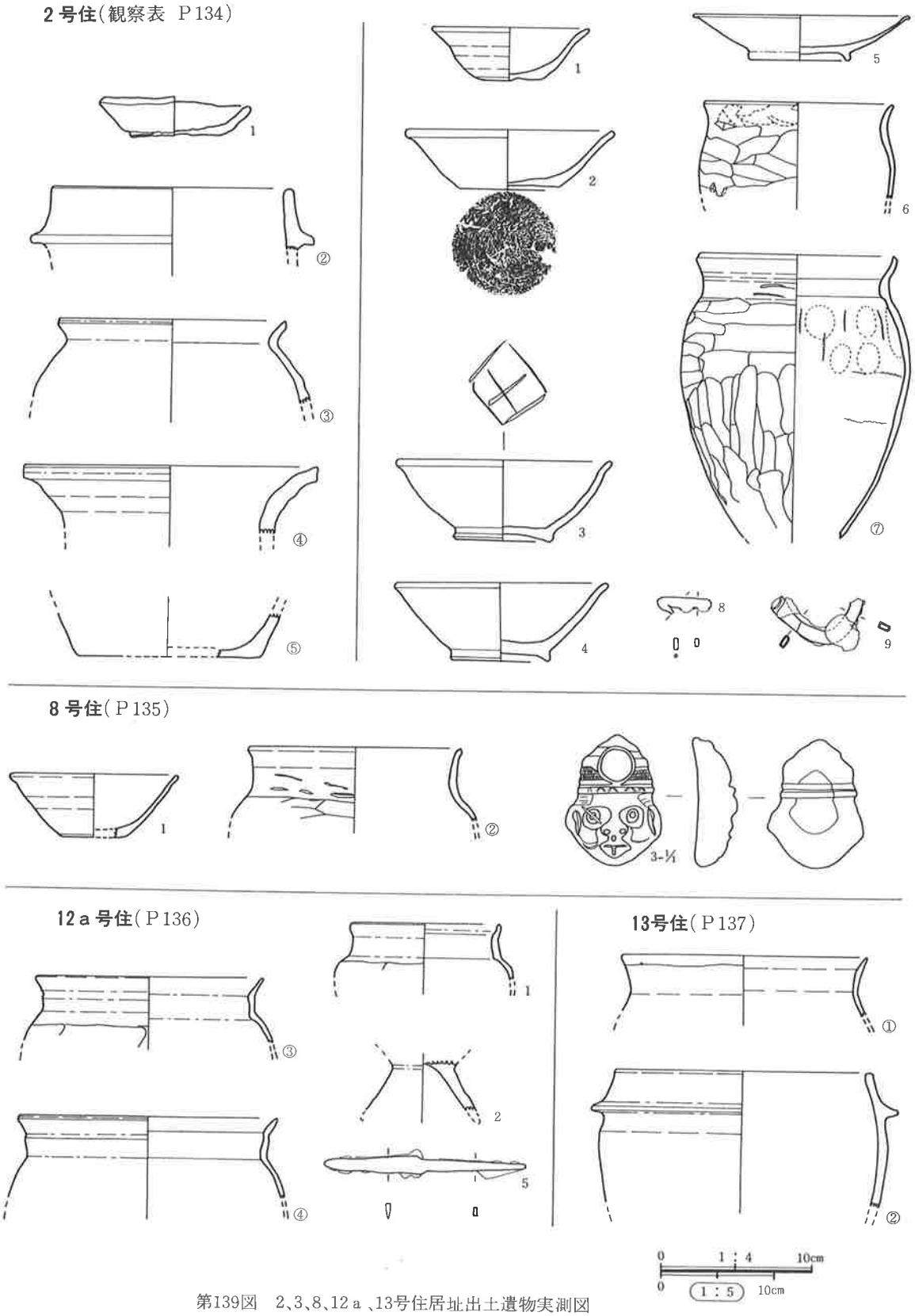
2号住（観察表　P134）

3号住（P135）

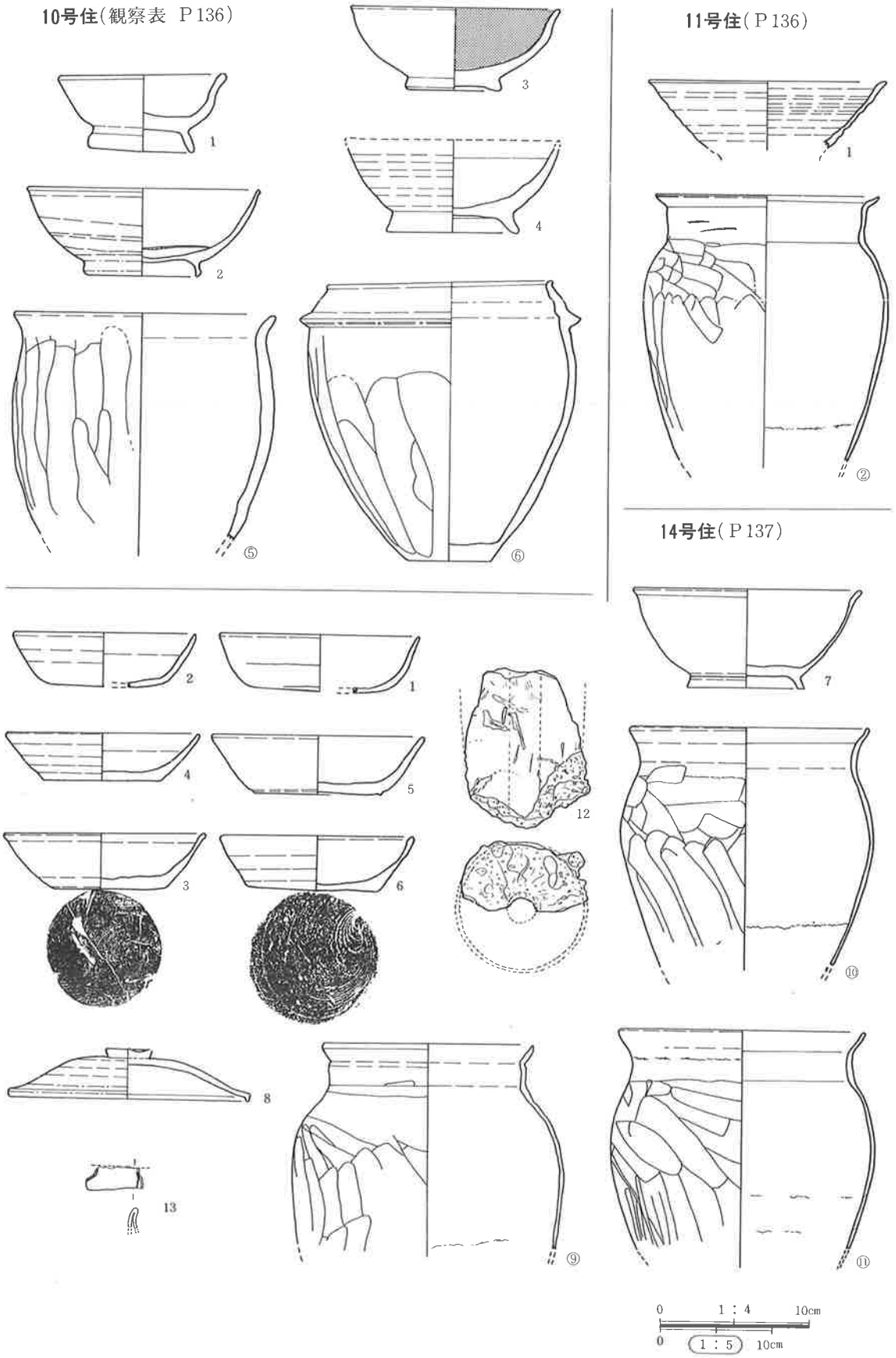
8号住（P135）

12a号住（P136）

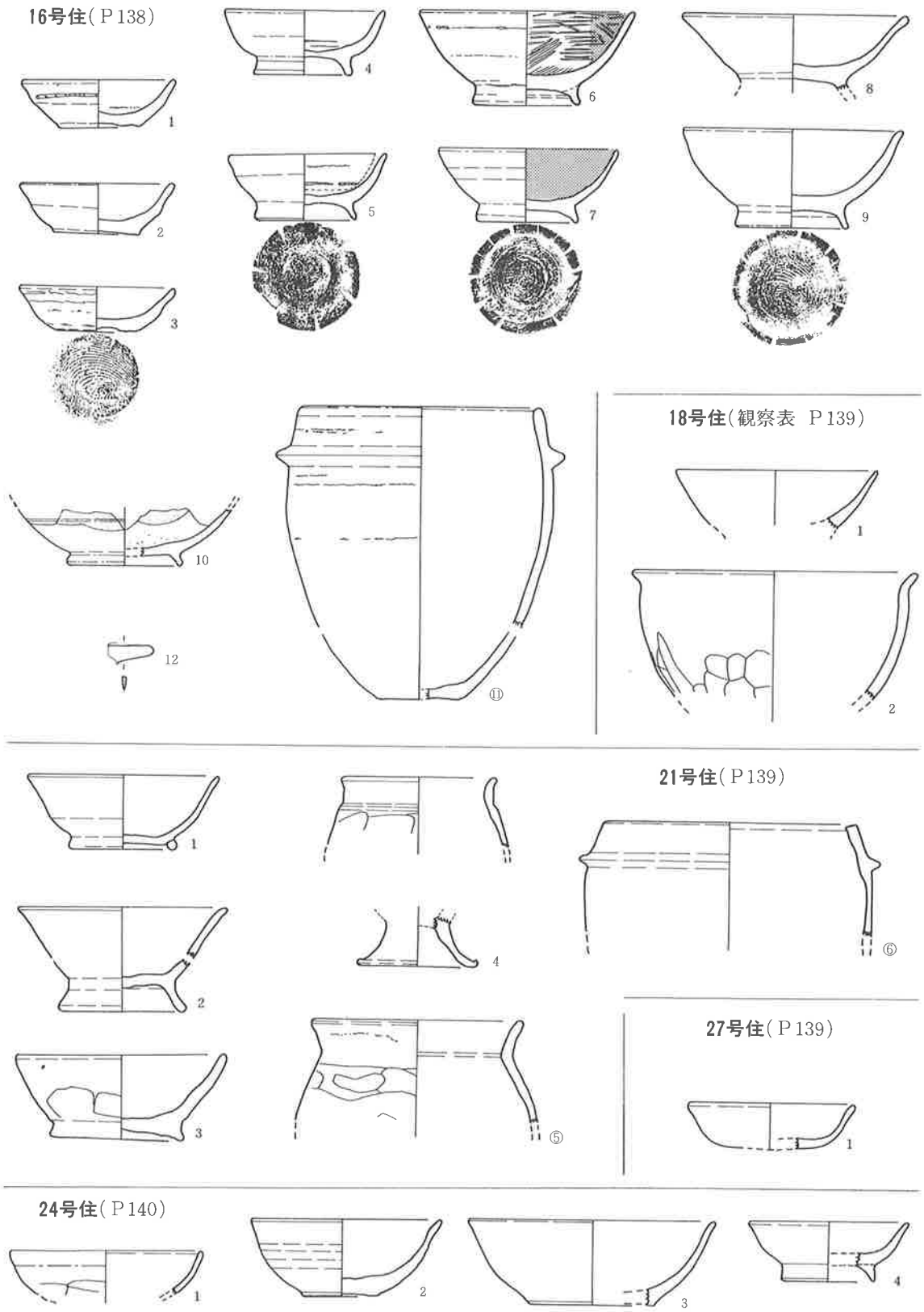
13号住（P137）



第139図　2、3、8、12a、13号住居址出土遺物実測図

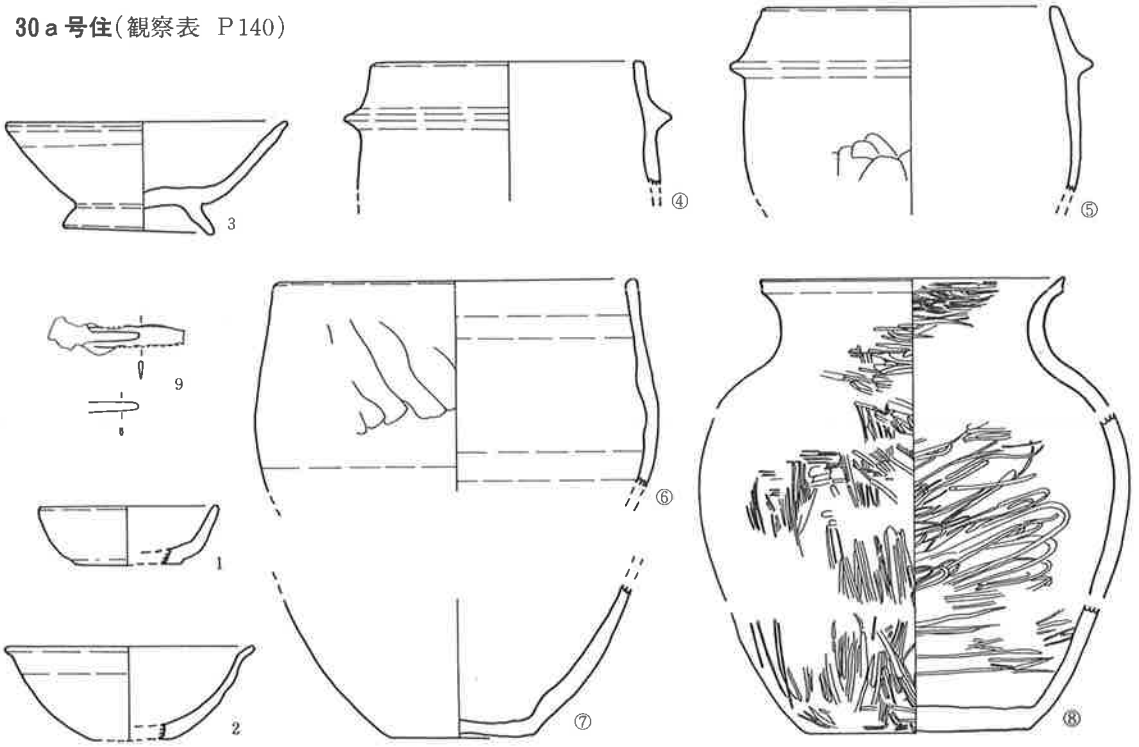


第140図　10・11・14号住居址出土遺物実測図

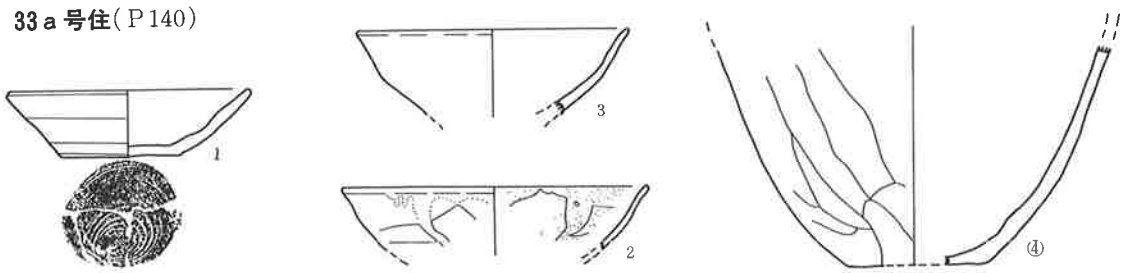


第141図　16・18・21・24・27号住居址出土遺物実測図

30ａ号住（観察表　Ｐ140）



33ａ号住（Ｐ140）



第142図　30a・33a号住居址出土遺物実測図

0　1：4　10cm
0　1：5　10cm

平安時代の竪穴住居址出土遺物

番号	器　種	出土位置 残存状態	法　量（cm）	胎　土 色　調	器形、成整形の特徴	備　考
2号住						
1	坏	床直 3/4	口：10.0 底：6.0 高：2.8	砂粒含む。 灰白色。	底部回転糸切り無調整。右回転。	軟質。歪み多い。 底部内面に付着物。 酸化炎焼成。
2	羽　釜	カマド 1/8	口：(20.6)	砂粒、石英粒含む。橙色。	鍔は丸味を帯びわずか下方を向く。口唇部も丸味がある。　口縁部内外面ヨコナデ。	焼成良好。 酸化炎焼成。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法 量（cm）	胎　土 色　調	器 形、成・整 形 の 特 徴	備　考
2号住						
3	甕 （土釜）	カマド ⅛	口：(19.2)	砂粒、白色粒含む。 にぶい橙色。	丸味のある胴部から口縁部が短かく外反する。口唇部に沈線が一条入る。　**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。**内面**：口縁～胴部ヨコナデ。	
4	甕	カマド ⅙	口：(25.0)	砂粒、白色粒含む。 にぶい褐色。	器壁厚く大型の甕と思われる。口縁部大きく外反する。　内外面とも回転ナデ。	酸化炎焼成。
5	甕	カマド ⅙	底：(15.5)	粗砂、小礫多量に含む。 にぶい赤褐色。	底部は大きな平底。右回転ロクロ成形。 **外面**：底部ナデ、胴部ケズリ後ナデ。内面ナデ。	胴部内面剥落か？ 酸化炎焼成。
3号住						
1	坏 （須恵器）	床　直 ⅕	口：10.4 底：4.4 高：3.5	粗砂、小礫少量含む。 灰色。	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外反する。右回転ロクロ成形の底部回転糸切り後調整か？	かなり歪みがある。 内面に粘土瘤付着。
2	坏 （須恵器）	貯蔵穴 ⅘	口：13.9 底：6.5 高：3.9	粗砂、白色粒含む。 灰色。	小さな底部から内湾して立ち上がり、口縁部で外反する。 底部回転糸切り無調整。　右回転ロクロ成形。	やや軟質。
3	高台付椀 （須恵器）	床　直 底部完存 体部½	口：14.2 底：6.6 高：5.3	粗砂含む。 にぶい黄橙～褐灰色。	体部は内湾し、口縁部で強く外反する。 右回転ロクロ成形。底部回転糸切り後高台貼付。 底部内面に「田」の線刻。	還元炎焼成。 断面灰色。 やや軟質。
4	高台付椀	床直 ½	口：14.1 底：6.6 高：5.2	粗砂多量。 にぶい黄橙色～橙色。	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずか外反する。右回転ロクロ成形の底部糸切り離し技法は判然としないが、糸切りと思われる。その後高台貼付。	酸化炎焼成。 内面底部黒斑。 やや軟質。
5	高台付皿 （灰釉陶器）	床　直 底部完存 体部　¾	口：14.2 底：6.6 高：3.0	白色粒、粗砂含む。 断面灰色。	高台は丸味を持つ。体部は内湾して開く。 ロクロ回転水挽き成形。底部回転ヘラ切り後高台貼付。釉は透明なオリーブ灰色。漬け掛け。	
6	小型甕 （台付）	床　直 ½	口：12.6	砂粒含む。 にぶい橙色～黒褐色。	口縁部は直立気味に外反する。 **外面**：口縁部ヨコナデ後ユビオサエ（指紋残存）胴部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ナデ、胴部ハケ状ヨコナデ。胴部口径4㎜の円孔穿孔。	断面橙色。 口唇部外面に沈線。
7	甕 （コ字口縁）	床　直 ½	口：17.0 胴：19.4	砂粒含む。 橙色。	口縁部は外反気味にわずか内傾し、上半部が内湾して開く。肩部は余り張らない。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、上端ユビ痕。	胴部外面煤付着。 胴部内面クレーター状剥落。

8　鉄製品

9　鉄製品

8号住(1)

1	坏 （須恵器）	カマド ⅙	口：11.2 底：4.4 高：4.2	砂粒含む。 橙色。灰色。	体部は直線的にわずか内湾して開く。 右回転ロクロ成形。底部回転糸切り。(周縁調整？)	半還元炎焼成？ 二次的に火を受ける。
2	甕	床下 ⅕	口：18.0	細砂粒含む。 橙色。	口縁部は直立気味に外反する。**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	口縁部外面中位に接合痕。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法 量（cm）	胎　　土 色　　調	器　形、成・整 形 の 特 徴	備　　考

8 号住(2)

3．土製品、　完成品。フク土出土（攪乱部分の可能性もある。）　人面というよりも猿回しの猿に似ている。右目に裂傷があるので、何等かの呪術的な意味があるのかもしれない。

10号住

1	高台付埦	フク土 一部欠損	口：11.4 底： 7.2 高： 5.2	粗砂、褐色粒多量に含む。 浅黄橙色。	高台部は比較的高く、接合部に強いくびれを持つ。体部は大きく内湾しながら開き、口縁部で外反する。底部内面は中央が盛り上がる。 回転ロクロ成形と思われ、底部も含め回転ナデ。	軟質。 酸化炎焼成。 内・外面とも砂粒が目立つ。
2	高台付埦 （灰釉陶器？）	カマド袖 ½	口：15.5 底： 8.1 高： 5.9	緻密、夾雑物少量。 灰白色。	高台部は細く、口唇部外面を急角度で面取り。ロクロ回転水挽き成形。釉は内面漬け掛け、外面全面釉付け後体部下半回転ヘラケズリか？	釉はほとんど剥落。磁器のように器面滑沢。
3	高台付埦 （内黒）	フク土 一部欠損	口：14.4 底： 6.2 高： 5.6	砂粒含む。 にぶい黄橙色。	底部厚く、高台部内面はわずかな上げ底状を呈する。体部下半は直線気味に内湾し、口縁部で外反する。右回転ロクロ成形。底部回転糸切り後高台貼付。体部外面回転ナデ後口縁部ミガキ。内面は体部縦ミガキ、口縁部横ミガキ後内黒処理。	酸化炎焼成。 やや軟質。
4	高台付埦	カマド 口縁部欠損		砂粒、白色粒含む。にぶい橙色～橙色。	高台部は外反気味に開く。　回転ロクロ成形。底部回転糸切り後高台貼付。内外面回転ナデ。成形の稜を良く残す。 体部内面に剥落多い。	酸化炎焼成。 底部内面に焼土といっしょに木質が付着
5	甕 （土釜）	カマド ¾	口：22.0	粗砂多量。 外面橙色。 内面浅黄橙色。	口縁部は短かく外反する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部縦ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	器壁厚い。 内・外面に黒斑。
6	羽　釜	カマド ほぼ完形	口：18.8 胴：22.7 底： 7.0 高：23.6	粗砂、赤色粒多量に含む。 浅黄橙色～橙色。	底部は平底。胴部は上半に最大径を持つ。鍔は断面三角形状を呈する。鍔下面に沈線が一条入る。口縁部は内湾、内傾する。口唇部は平坦で外側に張り出す。　**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部上半ナデ、下半縦ヘラケズリ、底部ナデ。 **内面**：口～胴部ヨコナデ、底部ナデ。	胴部上半に接合痕を残す。 酸化炎焼成。 やや軟質。

11号住

1	高台付埦 （須恵器）	フク土 ⅓	口：16.0	粗砂少量、砂粒含む。 灰色。	体部は直線的に開き、口縁部でわずかに外反する。成形の稜を明確に残す。口唇部は鋭い。 内・外面とも回転ナデ。	器壁厚い。
2	甕 （コ字口縁）	カマド 胴部½ 口縁部⅙	口：(19.2)	細砂粒含む。 にぶい褐色。 内面橙色。	肩部は比較的強めに張る。口縁部はほぼ直立し、上半で外傾する。口唇部外面直下に沈線が入る。 **外面**：口縁部上半、頸部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	胴部外面上半に黒斑。

12ａ号住

1	小 型 甕	フク土 ⅛	口：(10.0)	細砂粒含む。 外面：橙色。 内面：黒褐色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	胴部内面に 黒色付着物。
2	台 付 甕	フク土 ¼		細砂粒含む。 内外面橙色。	内・外面ヨコナデ。	1.と同一個体と思われる。

番号	器 種	出土位置 残存状態	法 量（cm）	胎 土 色 調	器 形、成・整 形 の 特 徴	備 考
12 a 号住						
3	甕 （コ字口縁）	床 直 ⅔	口：19.3	細砂粒含む。 橙色。	口縁部は内湾気味に直立し、上半で外傾する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部外面に接合痕を残す。
4	甕 （コ字口縁）	フク土 ⅙	口：22.0	砂粒含む。 にぶい赤褐色～にぶい褐色。	口唇部外面直下に沈線が一条入る。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ（波打つ） **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	

5　刀 子。フク土、　ほぼ完存、　長さ13.3cm

13号住

1	甕 （コ字口縁）	フク土 ¼	口：20.8	砂粒含む。 にぶい黄橙色～橙色。	口縁部は直立気味で、上端がわずかに外傾する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口唇直下に接合痕を残す。 口唇部鋭い。
2	羽 釜	フク土 ⅙	口：22.0	砂粒、石英粒、白色粒含む。 黒褐色。	鍔は部分的に端部をヘラ当てされ平坦になっている。　**外面**：口縁部～胴上半ヨコナデ、下半縦ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ。	胴部外面に接合痕が目立つ。 酸化炎焼成。

14号住

1	坏 （土師器）	フク土 ½	口：13.4 底： 9.6 高： 3.8	砂粒、赤色粒含む。 橙色。	底部平坦。器壁は薄い。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ。	
2	坏	フク土 ¼	口：12.2 底： 8.8 高： 3.6	砂粒含む。 にぶい赤褐色。	底部平坦。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。**内面**：ヨコナデ。	内外面黒色付着物。
3	坏 （須恵器）	フク土 底部ほぼ完存 口、体部½	口：13.6 底： 8.3 高： 3.8	粗砂少量含む。 灰白～灰色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り後ヘラ調整、中央部に糸切り痕残る。底部のヒビ割れにヘラ当て痕。	やや硬質。
4	坏 （須恵器）	床 直 底部ほぼ完存 口、体部½	口：13.0 底： 9.0 高： 3.6	粗砂、小礫含む。 暗青灰色。	右回転ロクロ成形。　底部回転ヘラケズリ。他は回転ナデ。	硬質。
5	坏 （須恵器）	フク土 底部⅓ 口、体部一部	口：14.4 底： 8.6 高： 3.9	細砂粒含む。 灰色。	底部外縁に擬高台。回転ロクロ成形。底部外面ナデ。他は回転ナデ。	硬質。
6	坏 （須恵器）	カマド袖 一部欠損	口：13.0 底： 9.0 高： 3.6	白色粒、細砂粒含む。暗緑灰～にぶい赤褐色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り未調整。	やや軟質。
7	高台付埦 （須恵器）	床 直 底部完存 口～体部⅙	口：15.5 底： 7.9 高： 6.6	粗砂多量に含む。 灰～暗灰色。	高台の端部はほぼ水平に接地するが、中央がわずかに窪む。高台外面中位に稜がある。体部は深い。右回転ロクロ成形。底部糸切り後高台貼付。	やや軟質。
8	蓋 （須恵器）	床 直 ½	口：16.2 高： 3.4 摘： 2.8	粗砂、小礫含む。 灰色。	端部はほぼ直立するが、外面中央部が窪む。つまみは小さく中央部が盛り上がる。 右回転ロクロ成形。天井部外面回転糸切り痕。	
9	甕 （コ字口縁）	カマド ⅓	口：17.8 胴：23.0	砂粒含む。 にぶい褐色～黒褐色。	張りのある胴部上半（肩）から口縁部がほぼ直立し上半で強く外傾する。　**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部内面に黒色付着物。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法 量（cm）	胎　土 色　調	器　形、成・整 形 の 特 徴	備　考
14号住						
10	甕 （コ字口縁）	カマド煙道部 先端 一部欠損	口：20.7 胴：21.7	砂粒含む。 明赤褐色～橙色。	肩部の張りは比較的少ない。口縁部は外傾気味に立ち上がり、上半でさらに外傾する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	内面に黒色付着物。 胴下半部内面に接合痕。
11	甕 （コ字口縁）	カマド南壁際 ⅘	口：21.4 胴：22.8	砂粒含む。 にぶい橙色～橙色。	肩部の張りは比較的少ない。口縁部はわずかに内傾し、上半で内湾気味に開く。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	破片状態で流れ込み。
12	羽口。	フク土中位。	径 8.8cm 孔径 2.0cm	雲母含む。 外面―にぶい橙～橙色。 内面―橙色。	多数の繊維（イネ科？）脱痕がみられる。 溶解した鉄が多量に付着している。 内面は脆くなっている。	多量の鉄鋌とともに出土。
13	鉄製品	カマド左袖上	残存長 3.5cm			
16号住						
1	坏	床　直 ほぼ完形	口：10.1 底：5.3 高：3.1	砂粒、白色粒含む。 にぶい橙色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り未調整。 内・外面回転ナデ。 酸化炎焼成。	底～胴部に火を受ける。 歪みがある。
2	坏	床　直 一部欠損	口：10.4 底：6.3 高：4.2	粗砂多量に含む。 にぶい橙色～黒褐色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り未調整。 内外面回転ナデ。　底部が若干突出している。 酸化炎焼成。	体部上半に火熱を受け脆くなっている。 煤付着。
3	坏	床　直 一部欠損	口：10.2 底：5.3 高：2.9	粗砂含む。 浅黄橙～橙色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り未調整。 内外面回転ナデ。　　酸化炎焼成。 １～３の共通事項として底部縁辺の一端だけに縦方向にナデ痕様の引きずり跡がみられる。	
4	高台付	カマド底面 台部ほぼ完存 体部　½	口：10.2 底：6.6 高：4.3	粗砂含む。 にぶい赤橙色～黒褐色。	右回転ロクロ成形。切り離し技法不明。高台貼付後底部外面全面回転ナデ。内外面回転ナデ。 酸化炎焼成。　高台端部丸い。	全面に火熱を受けている。 断面赤褐色。
5	高台付	カマド底面 ほぼ完形。	口：10.4 底：6.7 高：4.3	粗砂含む。 にぶい褐色。	右回転ロクロ成形。切り離し技法不明。高台貼付後底部外面全面回転ナデ。内外面回転ナデ。 酸化炎焼成。　体部の一部分が釉と異なる液状の物質に漬け掛けされており、黒褐色になっている。	体部に火熱を受け部分的に煤ボケている。 高台端部平坦。
6	高台付埦	カマド底面 台部完存。 口縁部¼	口：14.0 底：7.0 高：6.1	粗砂含む。 浅黄橙～橙色。	右回転ロクロ成形。切り離し技法不明。高台貼付後底部外面全面回転ナデ。**外面**：回転ナデ。**内面**：底部一定方向ミガキ体～口縁部横ミガキ。その後内黒処理。　高台端部丸い。	口縁部外面も黒色化している。
7	高台付埦	カマド底面 一部欠損	口：11.5 底：6.6 高：5.0	粗砂含む。 にぶい橙色～黒褐色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り後高台貼付、その後接合部回転ナデ。**外面**：回転ナデ。**内面**：底部一定方向ミガキ、体～口縁部横ミガキ。その後黒色処理。　高台外面中位に接合部の強いナデの為稜ができている。　酸化炎焼成。	体～底部外面に火熱を受け煤ボケている。
8	高台付埦	カマド底面 高台部一部 体部½	口：15.1	粗砂、赤色粒含む。赤橙、にぶい橙色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り後高台貼付、後中央部を除き回転ナデ。内外面回転ナデ。 体部は直線的に開く。　酸化炎焼成。	

番号	器　種	出土位置 残存状態	法 量（cm）	胎　土 色　調	器　形、成・整形の特徴	備　考

16号住

9	高台付埦	床　直 口縁部一部欠損、高台部½	口：14.3 底：7.4 高：6.3	砂粒、白色粒含む。橙色～黒褐色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り後高台貼付、後接合部回転ナデ。口縁～体部外面回転ナデ。 **内面**：底部一定方向ミガキ、体～口縁部横ミガキ、黒色処理不完全で一部分黒色化。	高台～口縁部に火熱を受け煤ボケる。
10	高台付埦 （灰釉陶器）	床　直 ¼	底：8.0	緻密。 断面灰白色。	回転ロクロ水挽き成形。 釉は透明なオリーブ灰色。	体部内面に釉の飛抹多数。
11	羽　釜	カマド床面 口～胴部½ 底　部　⅛	口：19.8 底：(6.8) 高：(24.2)	粗砂、白色粒多量に含む。 褐灰～黒褐色。	鍔は断面三角形状で端部は丸い。 **外面**：口縁～胴部上半回転ナデ、下半へラケズリ、底部ナデ。**内面**：回転ナデ。　酸化炎焼成。	胴部外面磨耗している。 やや軟質。

12.　鉄製品.（刀子の柄部か）　残存度 3.0cm

18号住

1	高台付埦	フク土 ⅙	口：13.2	砂粒含む。 浅黄橙。	右回転ロクロ成形。内外面回転ナデ。 口唇部平坦、へラ当てか。	酸化炎焼成。
2	甕 （土釜）	フク土 ⅓	口：18.6	粗砂多量に含む。 にぶい褐色。	鉢型の胴部から、口縁が短かく外反する。 **外面**：口縁部～胴部上半ナデ、下半縦へラケズリ、**内面**：横ナデ。	

21号住

1	高台付埦 （須恵器）	貯蔵穴 底台部一部欠損、体部一部	口：12.6	砂粒、白色粒含む。 灰白～灰色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り後高台貼付、その後外面回転ナデ、内面は底部周縁を回転ナデするが、接合部はほとんど粘土紐の形状をそのまま残す。口縁～体部内外面回転ナデ。	環元炎焼成。 やや軟質。
2	高台付埦 （須恵器）	フク土 高台部¾、底部完、体部¼	口：13.8 底：8.4 高：6.8	砂粒、雲母含む。 灰白色。	高台部は高く、広めに外反する。 右回転ロクロ成型。底部切り離し技法不明。高台貼付後回転ナデ。内外面回転ナデ。	酸化炎焼成。 軟質。
3	高台付埦 （土師器）	貯蔵穴 ⅔	口：13.8 底：8.7 高：5.7	粗砂含む。 にぶい褐色～橙色。	全体的に歪んでいる。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ、高台接合部～高台部ヨコナデ、底部外面～高台部内面ヨコナデ。埦部内面、ナデ。	口縁～底部外面の一部に多量の煤が付着している。
4	小型台付甕	フク土 胴～口縁部½ 脚部½、裾一部	口：10.2 底：8.0	細砂粒少量含む。 にぶい黄褐～明赤褐色。	口縁部はコ字状を呈する。強いヨコナデにより、胴部と口縁部の境に２条の沈線が入る。裾部は大きく外反する。裾端は上反りする。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部へラケズリ、脚部ヨコナデ。**内面**：口～胴部ナデ、脚部ヨコナデ。	胎土、色調等から同一個体と判断した。
5	甕 （土釜）	フク土 ¼	口：17.5	粗砂含む。 浅黄橙～赤褐色。	口縁部は弱いコ字状を呈する。器壁厚い。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部横へラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	内面胴部に黒斑。 頸部内面と口縁部外面に沈線。
6	羽　釜	フク土 ⅙	口：21.0	砂粒少量含む。 にぶい黄橙色～橙色。	鍔は断面三角形で端部は丸味を持つ。口縁部は肥厚し、口端部内面がせり出す。 回転ロクロ成形。内外面とも回転ナデ。	酸化炎焼成。 硬質で比較的丁寧な作りである。

27号住

1	坏	床 ⅓	口：11.0 底：6.8 高：2.9	砂粒少量含む。 灰白～黒褐色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り未調整。	ほぼ全面に火を受けている。 酸化炎焼成。軟質。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法　量（cm）	胎　土 色　調	器　形、成・整形の特徴	備　考
24号住						
1	坏	フク土 ⅛	口：(12.6)	砂粒含む。 にぶい赤褐色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下部ヘラケズリ。**内面**：ナデ。	
2	埦	貯蔵穴 一部欠損	口：12.4 底：5.0 高：5.0	粗砂、赤色粒含む。淡黄～浅黄橙。	底部はわずかに突出した平低。右回転ロクロ成形。底部回転ヘラ切り後部分的にヘラ痕ナデ？　痕を残す。内外面回転ナデ。　酸化炎焼成。	内面ほぼ全面に黒褐色の付着物。 軟質。
3	埦	床　直 ⅙	口：16.0 底：8.0 高：5.5	砂粒含む。 にぶい黄橙。	底部は平底か？　右回転ロクロ成形。底部回転糸切りか？　**外面**：回転ナデ。**内面**：ナデ後ミガキ。酸化炎焼成。	
4	高台付埦	貯蔵穴 ¼	口：10.4 底：6.2 高：3.9	細砂粒含む。 にぶい黄橙色。	右回転ロクロ成形。付高台。内外面回転ナデ。 酸化炎焼成。	やや軟質。
30号住						
1	坏	¼	口：9.5 底：5.6 高：3.1	砂粒、赤色粒含む。 浅黄橙色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り未調整。 内外面回転ナデ。 酸化炎焼成。	やや軟質。
2		¼	口：13.0	粗砂含む。 にぶい橙色。	右回転ロクロ成形。**外面**：回転ナデ。内面ミガキ後内黒処理。酸化炎焼成。	口縁部外面も黒色化。
3	高台付埦	ピット（貯蔵穴）体部⅔ 高台部完存	口：14.8 底：7.9 高：5.9	粗砂、赤色粒含む。にぶい褐色～橙色。	口縁部は直線的に外傾。高台は比較的高い。 右回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。 内外面回転ナデ。	酸化炎焼成。 やや軟質。
4	羽　釜	⅙	口：(18.2)	砂粒、赤色粒含む。橙色。	鍔は断面三角形で端部丸味を持つ。口唇部も丸い。 内外面回転ナデ。酸化炎焼成。	
5	羽　釜	⅕	口：(20.2)	粗砂含む。浅黄橙～黒褐色。	口唇部平坦。 回転ロクロ成形。回転ナデ後胴部ヘラケズリ。	
6	甕 （土釜）	⅙	口：(24.2)		口唇部平坦。回転ロクロ成形。全面回転ナデ後、胴部上半斜ヘラケズリ。　酸化炎焼成。	鍔のない羽釜？
7	羽釜？	胴部⅓ 底部½	底：9.2	砂粒、赤色粒含む。浅黄橙。	**外面**：胴部ヘラケズリ後ナデ。底部ナデ。**内面**：回転ナデ。　酸化炎焼成。	
8	甕	½	口：21.0 底：16.0 高：(31.5)	白色、赤色粒含む。にぶい黄橙～黒褐色。	回転ロクロ成形。口縁部外面回転ナデ。底部内面ナデ。底部外面ナデ後ミガキ。他は回転ナデ後密なミガキ。　酸化炎焼成。	胴部外面大黒斑。 焼成は良好堅緻。

9　刀　子

33ａ号住						
1	坏	カマド底面 ほぼ完形	口：12.8 底：6.4 高：3.6	細砂粒含む。 灰色。	口縁部は直線的に開く。 右回転ロクロ成形。底部回転糸切り無調整。 内外面回転ナデ。　還元炎焼成。	やや軟質。
2	(高台付埦)	床　直 ⅕	口：(16.2)	粗砂少量含む。 緻密。　灰色。	釉は漬け掛け。	釉オリーブ灰色。
3	(高台付埦)	カマド床面 ⅔	口：14.4	赤色粒含む。 浅黄橙～灰褐。	右回転ロクロ成形。内外面回転ナデ。 酸化炎焼成。	火熱を受けている。
4	(羽釜)	カマド床面 ⅙	底：(9.4)	粗砂多量。にぶい橙～褐色。	**外面**：胴部ヘラケズリ、底部ナデ。 **内面**：回転ナデ。　酸化炎焼成。	焼成良好、比較的堅緻。

(6) 中近世その他の遺構

ここで取り扱う遺構は、竪穴状遺構、溝、土坑、井戸址であるが、これらの中には、これまでの項目の中で扱うべきものを編集上の都合で本項に入れたものがある。

紙面の都合で掲載していない遺構も多い為、順序は前後するが、ここで何点か補足しておきたい。

本項で掲載しなかった溝が他に３条検出されている。１号溝はＡ区の北半部を東西に横断している溝で、走向、規模、覆土などから８号溝と連続する可能性がある。３号溝はＡ区の東南端に検出されたが、出土遺物、形状、覆土、位置などから判断すると、平安時代頃に埋没した旧河川址と思われる。４号溝は、３号溝と重複する溝で、時期は判然としないが、中世、もしくは近世の可能性がある。

次に、Ｂ区カット部分に検出されたピット群について簡単に記述したい。

このピット群は、７－２グリッドから7－5グリッドにかけて、約10ｍ程の範囲に集中しており、ほぼ東西方向の広がりを有している。ピットの規模、形状などは一定せず、明確に掘立柱建物、柵列と認められるものはなかったが、これは、遺構検出面をローム層、ローム漸移層まで下げたためで、実際には建物址等があった可能性が強いと思われる。特に、10号溝の西側には斜面を平坦に切り崩し、内部にピットを多数配した所があり、掘立柱建物址の存在を示唆している。なお、この窪みの底面とピット覆土中には多量の焼土粒、炭化物が検出されており、焼失建物の可能性もある。ピットの時期は、覆土の違いから３期程に別れると思われるが、ピット内出土遺物は、奈良時代のものが多く、ピット群の占地する範囲内には、奈良、平安時代の竪穴住居址が一軒も検出されていないことから、奈良・平安時代を通じて、居住用途以外の性格を与えられた場所であり、ピット群であると思われる。

竪穴状遺構

Ｂ区の中程に東西方向に並んで３軒が集中して検出されたが、45号住周囲の落ち窪みや、各遺構周辺のピット等も含めて一連の遺構群を構成している可能性がある為、周辺の遺構も含めて一括して記述したい。

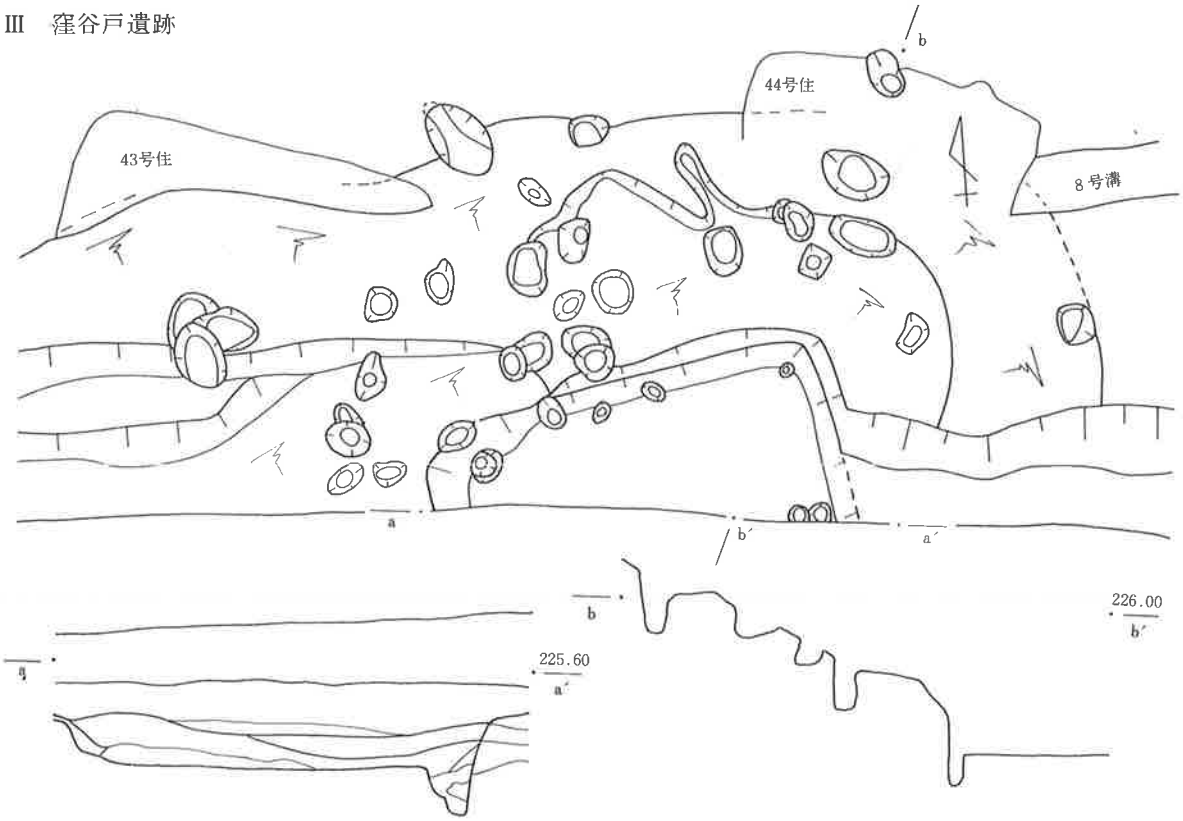
45号住

Ｂ区カット部の南端に位置しており、南側は未調査である。

東西4.3ｍ、南北2ｍ以上を測り、方形もしくは長方形を呈すると思われる。壁は西壁を除いて急角度で立ち上がるが、北壁から東壁にかけては中位から開き気味になっている。壁高は最も深い北壁で約80cmを測る。底面は地山を踏み固めており、平坦である。壁に沿い、あるいは壁を掘り込んで柱穴が穿たれているが、形状、規模は一定していない。覆土は上層は黒褐色土であるが、下層はローム主体の淡褐色土が埋没している。

45号住周囲の落ち込みは奈良時代の43、44号住、平安時代の８号溝を削平して掘り込まれている。この落ち込みは、45号住の東側から49、50号住の方向に向かって掘り込まれているが、南半部をさらに掘り込んで45号住を挟んで東側と西側に平坦面が形成されていることから、45号住の東側にも遺構が伸びている可能性もある。

落ち込み内のピットは45号住をとりまくように検出されているが、平面形は円形、楕円形、方形と様々で深さも一定していない。但し、45号住の北壁に並行するような配列もみられることから、竪穴状遺構と落ち込み、ピットがそれぞれ深い関連を持って遺構を形成しているものと思われる。



第143図　45号住居址実測図

49号住

Ｂ区支線部分の中程に50号住と並んで東西に位置する。49・50号住の北側には45号住の周囲のような落ち窪みはみられないが、地形的にはこの遺構の北端を傾斜の変換点として、北側は平坦であり、遺構周辺が最も傾斜が大きく、南へ下るに従って次第に緩傾斜になっている。

49号住は東西３ｍ×南北４ｍを測り、南北に長い長方形プランを呈する。壁は急角度で立ち上がり、壁高は北壁で約60cmを測る。床面は地山を踏み固めており平坦で硬い。北壁と南壁に沿って等間隔に４本づつの柱穴が配列されている。平面形は円形で、北側の柱穴の方が径が大きい。深さは60cm前後を測る。東壁と西壁は長方形土坑によって攪乱を受けているが、浅い壁周溝が検出されている。

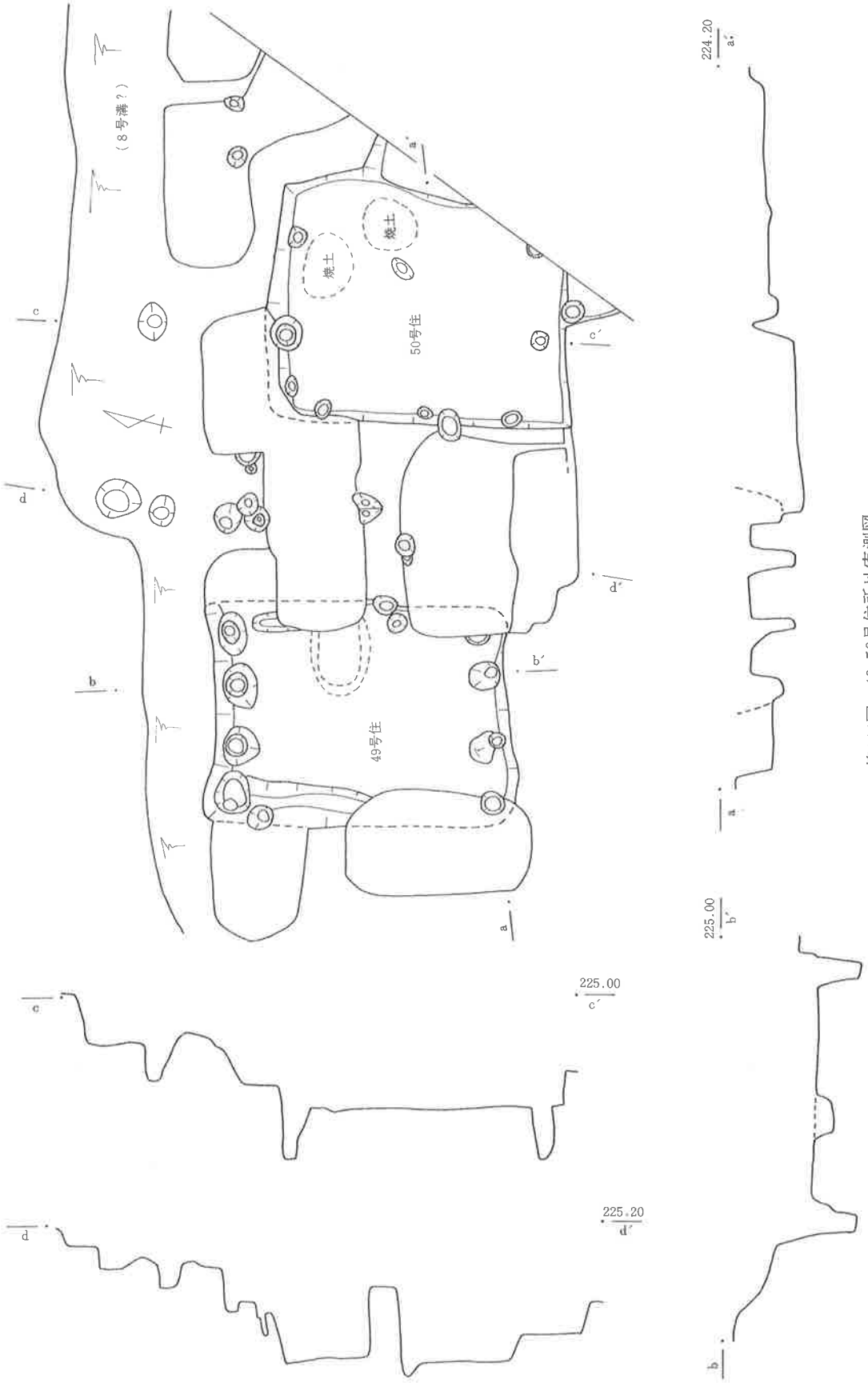
50号住

東西3.2ｍ×南北4ｍ、深さ約80cmを測り、49号住とほぼ同様の形状、規模を有する。床面は非常に良く踏み固められている。北東隅の２ヵ所が焼土化し、焼土、炭化物が検出されている。各壁沿いには柱穴が検出されているが、49号住程の規則性はない。最も深い柱穴で約60cmを測る。

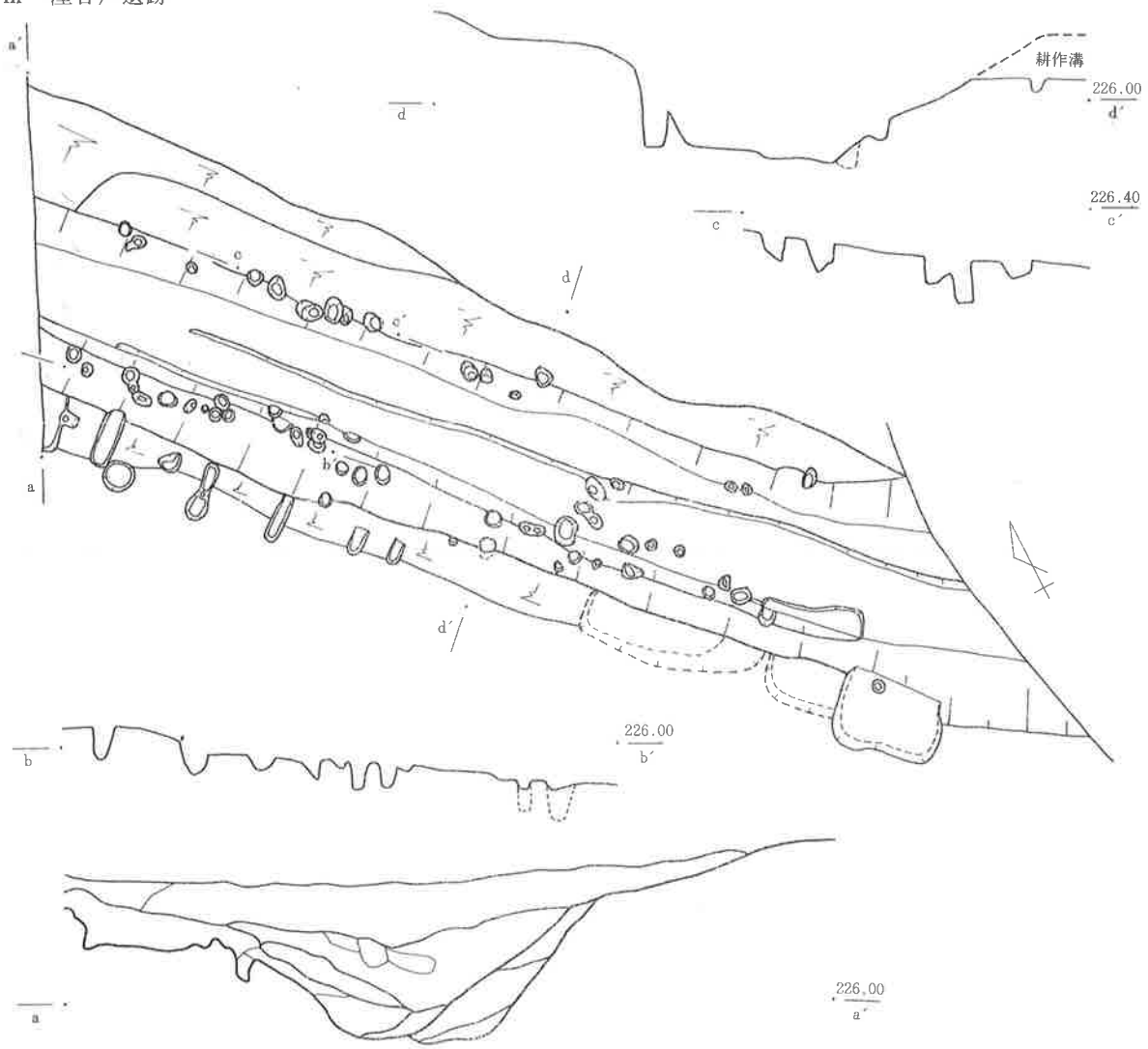
49号住も同様であるが、覆土はロームを主体とする淡褐色土で、地山との判別が難かしかった。

49・50号住の間に南北方向に配列されたピットがあり、竪穴状遺構と関連した施設の可能性がある。又、両遺構と重複、近接する一群の長方形土坑が検出されているが、覆土が竪穴状遺構と類似し、壁の方向等を意識した掘り方をしていることから、竪穴状遺構と同時期、あるいはごく近接した時期に構築されたものと思われる。

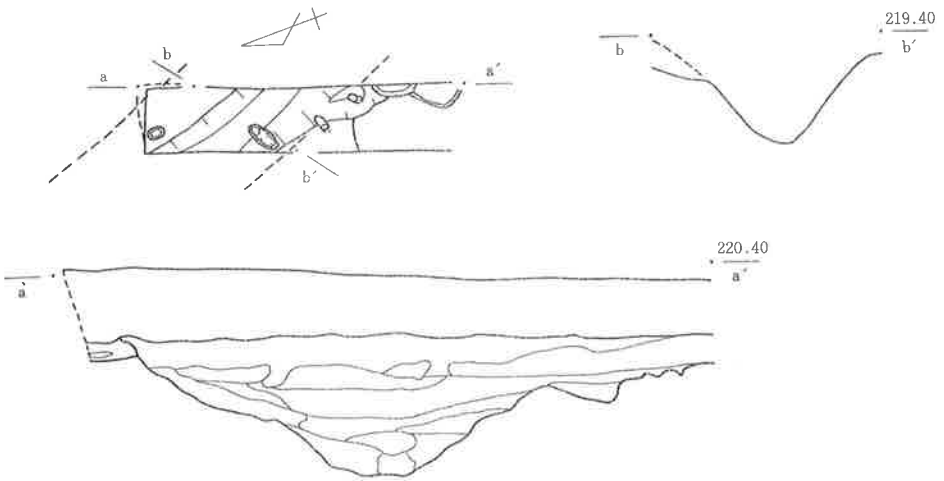
各遺構とも流れ込みと思われる少量の土器片を除いて遺物の出土が無い為に時期を判断する材料に欠けるが、奈良・平安時代の遺構を削平していることから平安時代以降の構築遺構である。



第144図　49、50号住所址実測図



第145図　2号溝実測図



第146図　14号溝実測図

—溝—

2号溝

A区の中央部を北西から南東に向け横切っている。南東部は谷地へ落ち込んでいる。

本溝はわずか南へずらして掘り替えが行なわれている。北西端部では新溝の方が浅いが、ほとんどの部分では新溝の方が若干深くなっている。規模は新溝が幅、上端約4m(北西)～5m(南東)、下端80cm(北西)～1.5m(南東)、深さ1.4m程で断面形は逆台形状を呈する。旧溝も同様の規模、形状を有していたと思われる。

新旧どちらの溝に属するか判然としないが、溝の走向に沿って多数のピットが中段と底縁に穿れている。又、新溝の南西壁上端に多数の小溝が検出されており、土層断面の観察では、この小溝から2号溝中に埋没土が流れ込む様相がみられ、ピット、小溝ともに2号溝に関連する施設の存在を示唆している。

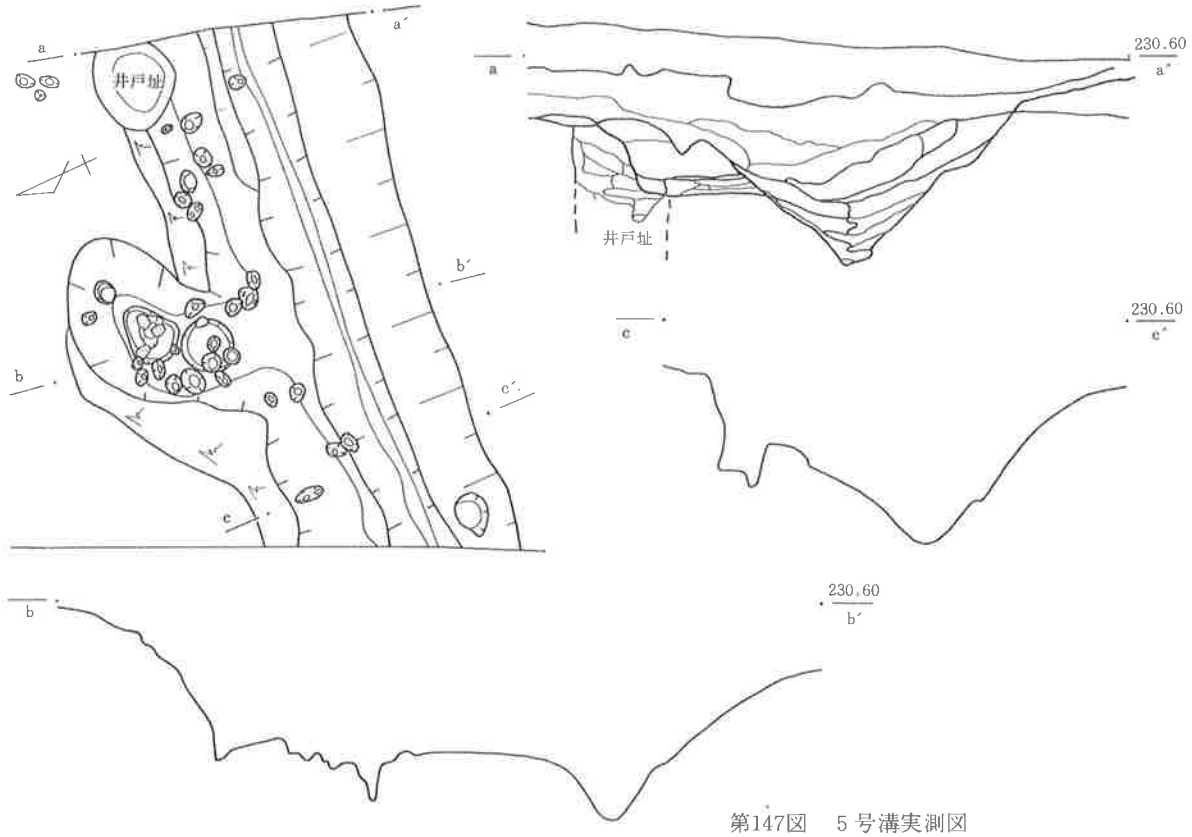
なお覆土は軽石を混入する黒褐色土が堆積しているが、中位には南西側から多量の黄褐色ロームが流れ込んでいる。また、底部には少量ながら砂粒の堆積がみられる。

5号溝及び落ち込み

B区の北端に位置し、ほぼ東西方向に走っている。2号溝と同様に南側へ掘り替えが行なわれているが、新溝の方が約60cm旧溝よりも深く掘られている。新溝は幅、上端約4m、下端30cm、深さ1.6mを測る。断面形はV字型を呈しており、2号溝の新溝と断面形状を異にしている。

覆土は黒褐色土を主体とするが、中位には南側から多量の黄褐色ロームが流入しており、土塁等の存在を示唆するものか。底位には薄い砂層が堆積している。

旧溝の規模は不明であるが、東端の土層断面では底面は平坦で1.2m以上の幅があり、新溝とは断面形状が



第147図　5号溝実測図

異なる。また、底面が床状に固くなっており、新溝よりも厚く砂層が堆積している。北壁の底縁及び中段には多数のピットが検出されている。

５号溝北側に接して楕円形を呈する土坑状の落ち込みが検出されている。長径４ｍ×短径2.5ｍ、深さは検出面から1.6ｍ程の規模を有するが、南側は５号溝に向かって開かれており、旧溝との間に壁や段差は認められない。重機によって５号溝中位まで掘削を行なった為に切り合いの土層断面の観察ができなかったが、落ち込み部分の土層堆積状況は５号溝側からローム主体の淡褐色土が流れ込んでいるような様相も観察できることから５号溝の旧溝と関連する遺溝と考えられる。

落ち込みの底位には多数の柱穴状のピットが穿たれ、多量の砂粒が堆積している。又、覆土下～中位にも砂層、淡褐色粘質土、黒褐色土等が何重にも互層をなして堆積している。

14号溝

Ｂ区南端を走る村道の南に遺構確認のトレンチを入れた際に検出された溝で、拡幅調査は行なわなかった。

重機を用いた表土剥ぎの際に東側上部を削平したが、土層断面から判断すると、幅が上端約３ｍ、下端約60cmで、深さは東側と西側の上端で比高差約60cmあるが、東側上端から約1.6ｍを測る。断面形は東側に中段があるが逆台形状で規模は小さいが２号溝に類似する。覆土は基本的には軽石を含む黒褐色土であるが、量は少ないものの中～下層には褐色土、ローム等も流入している。

各溝とも流れ込みと思われる少量の土器片が出土しただけで、積極的に時期を判断する材料に欠けるが、他の遺構との重複関係から平安時代以降の遺構であり、中世に属すると考えるのが妥当と思われる。

６号溝

Ｂ区支線部分から、カット部分、７－１グリッド～７－４グリッドに位置する。

西端の土層断面を観察すると幅、上端２ｍ、下端１ｍ、深さ80cm程で、逆台形状の断面形を呈している。

覆土はロームを含む暗褐色土で粘性が強く、薄い砂層を数枚挟んでいる。

西側は調査区域外へ伸びているが、東側は南北の3、4ラインの中位で一旦収束している。しかし、Ｂ区カット部分の北端断面に検出された13号溝が６号溝の延長上に位置し、覆土にも類似性が認められるので、13号溝と連続し、東側へ伸びている可能性がある。遺物は全く出土していない。

11、12、13号溝

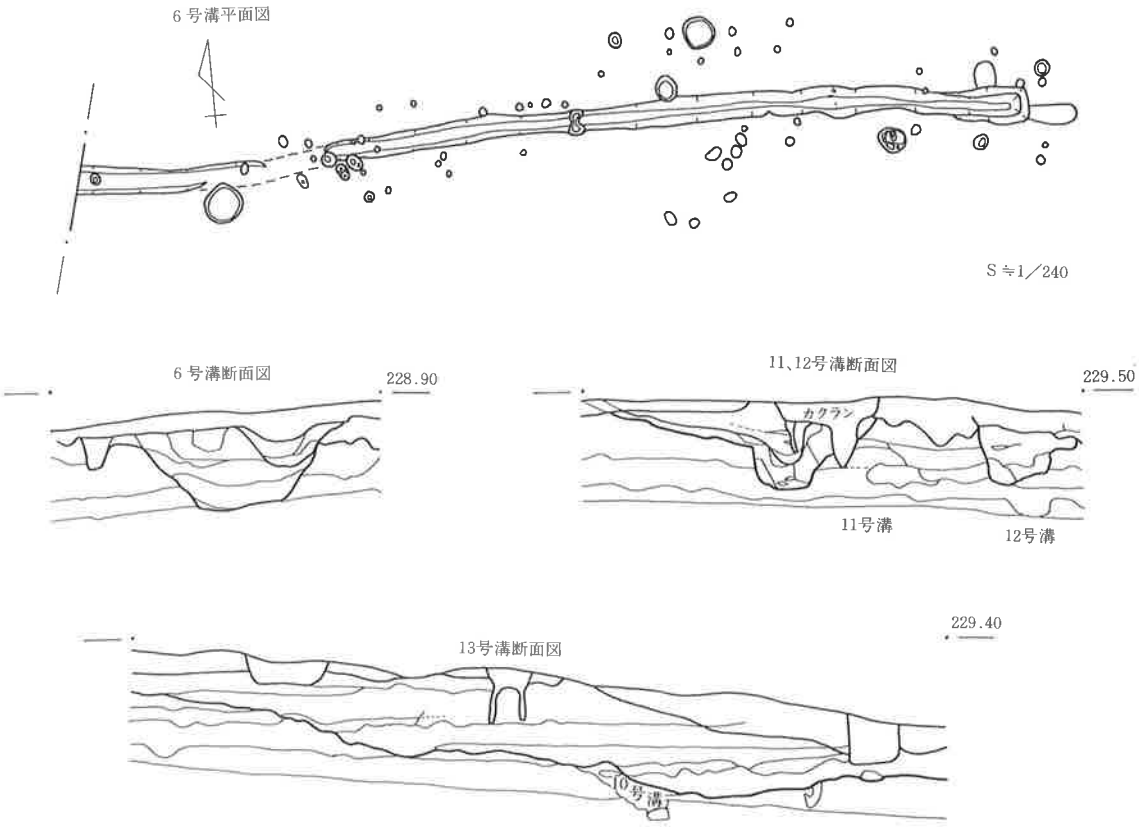
Ｂ区カット部の北側土層断面に検出されたもので、何れも覆土は６号溝に類似する粘性のある褐色土、砂礫層等が堆積している。断面での検出の為に規模は判然としないが、11・12号溝が６号溝とほぼ直交すると仮定すれば何れも上幅１ｍ前後、深さ60～80cmで類似した形状を呈している。

７号溝

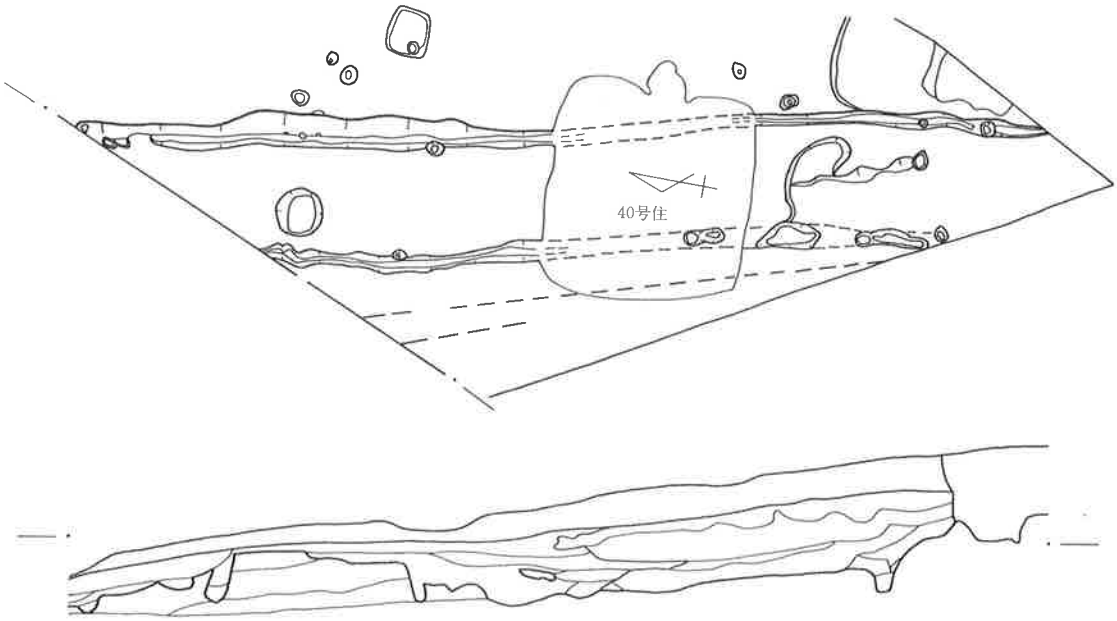
Ｂ区南端に位置し、奈良時代の40号住の真上に乗る形で検出された。

ほぼ南北方向の走向を示し、幅、上端約４ｍ、下端約25ｍ、深さ60cm弱を測る。底面は平坦であり、両側縁に浅い溝が巡っている。覆土は西側から黒褐色土が、東側から褐色土が流入している。

遺構の形状から判断すると、底面が軟弱ではあるものの溝というより道路状遺構と考えた方が良いと思われる。



第148図　6、11、12、13号溝実測図



第149図　7号溝実測図

III　窪谷戸遺跡

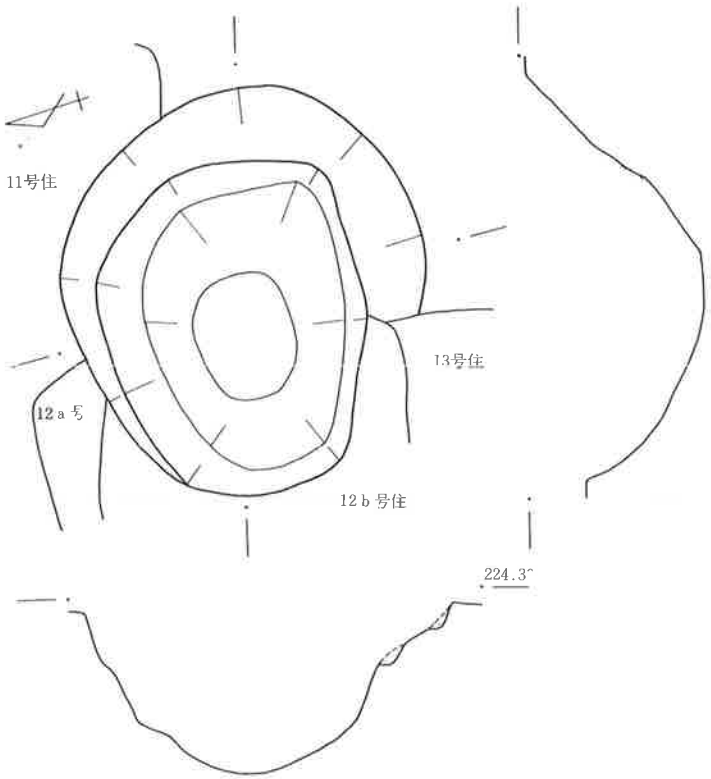
―土坑―

縄文時代の土坑を除いて約40基程の土坑が検出されている。

占地状況は調査区全域に検出されているが、特にA区南端の竪穴住居址周辺には集中して15基程が検出されている。

径1m前後の円形を呈するものが多く、比較的浅く掘られている。遺物を出土する土坑が少なく、時期は不明であるが、覆土等から判断すると平安時代に属するものが多いと思われる。

紙数の都合で、個々の土坑については記述できないが、他の土坑と様相を異にする土坑が1基検出されているので、ここで記述しておきたい。



第150図　土坑実測図

この土坑は5－7グリッドに検出された。奈良時代の12b号住、平安時代の11・12a号住と重複している。

径4m前後で東西に若干長い楕円形を呈している。検出面からの深さは約1.8mを測る。断面形は椀状を呈し、中位と底面周縁に弱い段を有する。

覆土は暗オリーブ色を帯びた黒色土で、C軽石を多量に含んでいる。又、大粒の白色軽石(FP?)も少量混入している。12b号住の床面下にあたる覆土上部からは多量の土器片と炭化物、白色軽石（径50mm前後）が出土しており、土相も他の覆土部分と異なることから、12b号住の床下土坑の可能性がある。遺物の時期は奈良時代に属する。この部分以外の覆土からは一点の遺物も出土していない為、遺構の時期は判然としないが、遺構の重複関係や、覆土から判断すると、古墳時代後期に属する可能性が強い。

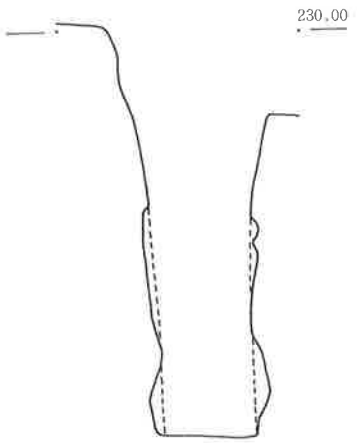
遺構の性格は全く不明である。

―井戸址―

10－2グリッドに位置する。南半上部を5号溝によって削平されている。北側に奈良時代の26号住が近接する。

上端径約1.6m、下端径約1m、深さ約4.5mを測り、ほぼ円形に掘り込まれている。下半部は崩落が激しい。

覆土はロームが主体で下層は粘性が強い。上層は黒色土との互層になっている。遺物は覆土上層から須恵器台付椀などが少量出土している。時期は平安時代の可能性が強い。



第151図　井戸址断面図

Ⅳ　見　眼　遺　跡

1．基本土層

見眼遺跡Ａ地区は平坦な台地上にあり、基本的な層序に大きな変化はない。しかし、現代あるいは過去の耕作等により微妙な差を生じている。

ローム層の堆積は同様であるが、縄文時代の遺物包含層であるⅢ層は東端部が10cm弱なのに対し、西端部では約30cmの厚さがある。逆にⅡ層は西端部が約10cmで東端部は約25cmを測る。このⅡ、Ⅲ層の厚さの違いは、東半部が、過去（奈良、平安時代）において開発（Ⅲ層の削平）がⅢ層深くまで行なわれたことによる差異と思われる。

見眼遺跡Ｂ地区は現代の削平が進み耕作土直下にローム層が現れるが、Ａ地区と同一台地上にあり、距離も近いので、Ａ地区の層序と同様と思われる。

ここではＡ地区西端の土層を模式化して掲示したい。

Ⅰ層　現在の耕作土

Ⅱ層　黒褐色土層　軽石を含む。

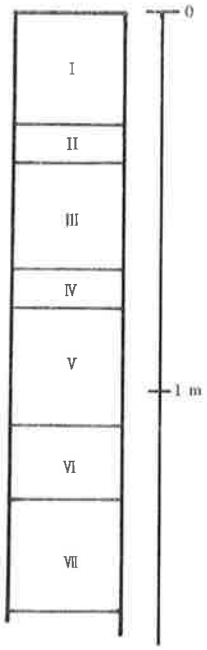
Ⅲ層　黒褐色土層　緻密でしまりがある。縄文遺物包含層。

Ⅳ層　ローム漸移層

Ⅴ層　ローム層　パミスの多少、しまり方で分層できる。

Ⅵ層　Ｓ・Ｐ層

Ⅶ層　ローム層



第152図　基本土層

2．遺跡の概要

〈Ａ地区〉

見眼遺跡Ａ地区では、縄文時代から近世までの遺構、遺物が検出されている。

縄文時代の遺構としては中期の竪穴住居址２軒と50基の土坑が調査され、遺物は前期末葉から後期前半までの土器と多量の石器が遺構内外から出土している。

奈良、平安時代の竪穴住居址は９軒調査されたが、完掘できたのは３軒だけで遺物の残りも良くなかった。該期に属すると思われる多数のピットが調査区の東半部に集中して検出されており、掘立柱建物址２棟と柵列が確認されている。土坑は住居址周辺に数基検出された。

調査区の西端と中央部に大小の溝が検出されたが時期は判然としない。大溝は道路址の可能性がある。

〈Ｂ地区〉

見眼遺跡Ｂ地区で検出された遺構は、竪穴住居址14軒、掘立柱建物址３棟、溝５条、火葬墓１基、集石土坑、長方形土坑などである。

竪穴住居址は全て奈良、平安時代に属すると思われるが、他の遺構の構築時期は出土遺物の少ないこともあり判然としない。しかし、遺構の占地状況等から判断すると奈良、平安時代に属するものも多いと思われる。

遺物の大半は奈良、平安時代のものであるが、１号住の覆土中から縄文土器片が多数出土している。

３．検出された遺構と遺物（Ａ地区）

(1)縄文時代

―竪穴住居址―

Ｊ１号住居址

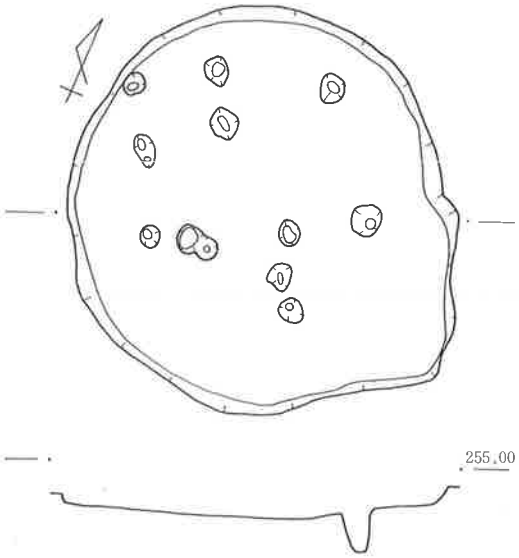
調査地の西端に検出された小型の住居址で近接する同時期の遺構はない。

径約４ｍの円形住居で、東側に張り出し部分を有する。

壁は比較的ゆるやかに立ち上がり、床面は軟弱で、中央が窪んでいる。

ピットは多数検出されたが、東壁沿いの１基を除いて深さ10cm内外と浅く、形状、配列ともに不規則である。

炉は検出されていない。



第153図　Ｊ１号住居址実測図

遺物は、主に中期中葉に属すると思われる土器が覆土の中～上層にまとまって大量に出土している。土器は何れも破片状態で混在して出土しており、器種、器形その他による偏在性は認められなかった。覆土中からは、他に前期後葉から中期初頭の遺物も出土しているが、中期初頭の土器片が比較的多い。石器は量的には多くないが、石皿、磨石、凹石、打製石斧、石鏃等が出土している。

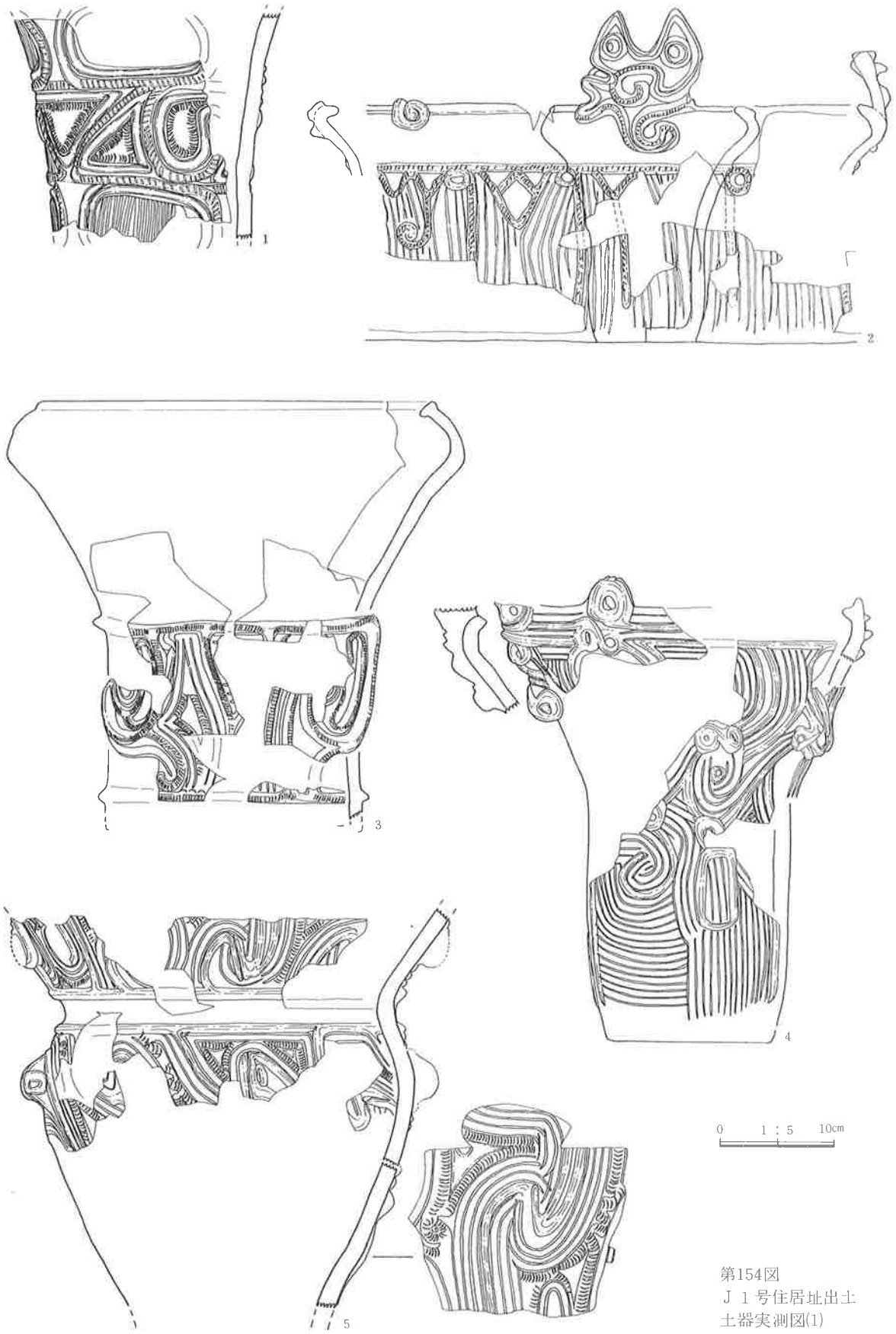
出土遺物

１は口縁部と底部を欠失する深鉢である。残存部分で隆帯により３段に横位区画し、さらに各区画内を三角文、楕円文等で区画している。この区画は２重の隆帯で施されており、基本的に外側の隆帯上には刻目文が施されている。楕円区画文の内側には縦位の平行沈線が充鎮され、三角区画文等の内部には、隆帯に沿った瓜形文か、縦位の平行沈線が施文されている。

２は大小１対の把手を有する小型の深鉢である。口縁部は無文で丁寧に磨かれている。大型の把手は隆線によって円文等の文様を施すが、動物を模した形象把手と思われる。小把手は渦文であるが、動物の尾を表わしていることも考えられる。胴部文様帯は隆帯によって口縁部文様帯と区画され、そこから、隆帯が垂下して、４単位に区画される。さらに区画内に円文、三角文、Ｊ字状文等が施され、円文、三角文内部を除いて、縦位の平行沈線が充鎮される。

３は大型破片からの復元実測である。口縁部は無文であるが、把手のつく可能性もある。胴部文様帯は、頸部と胴下部に隆帯を巡らし、その間も隆帯によって渦巻文等を施文している。隆帯上には刻み目文が施され、隆帯間に平行沈線文、瓜形文が施されている。

４は全面が隆帯と平行沈線によって施文される深鉢で、口縁部は横位に施文され、環状小把手が付される把手の総数は不明であるが、大小含めて３～４対程付されると推察される。頸～胴部文様帯は把手部分から隆帯が垂下され、３～４単位に区画されると思われる。各区画内は隆帯と平行沈線により、渦巻文、弧線文、



第154図
Ｊ１号住居址出土
土器実測図(1)

直線文等が施されている。胴上半部の隆帯上には∞字状の突起が付される。

5は頸部のくびれ部で文様帯を2分しているが、基本的には口縁部、胴部とも同様の文様構成をとると思われる。隆帯と隆帯に沿う平行沈線によって変化に富んだ主文様を施こし、これに瓜形文を組み合わせて、三角区画文、三叉状文も形成している。環状隆起を文様の変換点に付している。

6の胴部はＲＬの縄文地文のみで、口縁部には隆帯による一対の渦巻文と波状文が付される。

7は文様帯が3段に区画されている。口縁部は無文上に隆帯で施文しており、残存部分の変化から把手の付く可能性がある。頸部の隆帯は上下から交互に押圧され、波状を呈している。胴部は低い隆帯により2段に区画し、全面にＲＬ縄文を施こしている。さらに上半部には、半裁竹管状工具による平行沈線を垂下させ上下の隆帯に沿って瓜形文を配している。但し瓜形文の施されない部分もある。

8は口縁部に4単位の把手を配し、そこから隆帯を垂下させて文様帯を区画している。又、胴上端部にも横位の隆帯を巡らせ、頸部文様帯を区画している。隆帯上には刻み目文が施されている。口縁部には波状隆帯が付され、隆帯上に刻み目文が施されている。頸部文様帯は残存部分が少ない為に不明な点が多いが、縄文地文上に平行沈線で簡単な文様が施されていると思われる。逆Ｊ字状文の施文された区画が残存する。胴部文様帯も縄文地文上に平行沈線文、瓜形文、刻み目文が施されるが、各区画ごとに文様構成を少しづつ変えていると思われる。

9は口縁部と胴部の間にふくらみを持つ土器である。各文様帯間は隆帯によって区画されており、口縁部文様帯は無文である。ふくらみ部は上下の隆帯から連続する隆帯で施文され、2単位の逆Ｓ字文が横位に配されている。隆帯も含めて縄文施文した後に隆帯に沿う沈線文、渦巻文等が施文される。胴部は縄文地文上に1対の蛇行隆帯が垂下されていると思われる。

10は口縁部に4～5単位の隆帯による逆Ｓ字状文が付された深鉢である。この隆帯の中央部は9と同様に形状に沿って指頭様のものでなぞられ沈線化している。地文はＲＬで口縁部の隆帯上にも施文されている。頸部には、連続した指頭圧痕を施した隆帯が巡るが、隆帯が途切れ、沈線だけ施文される部分がある。

11は胴部破片から復元実測した深鉢である。頸部に隆帯を巡らせ、そこから、並行する一対の隆帯を垂下させている。この隆帯は途中で対象形の屈曲を呈している。地文は4本を1単位とする櫛歯状工具で縦位刺突を行なっている。上下逆位の可能性がある。

12と13は縄文地文だけが施文される深鉢の胴上半部である。12は小型の深鉢で縄文は2段の撚紐による単節縄文の可能性がある。13はＲＬ縄文を施文するが、上半部は磨き？によって磨滅しており、胴部は不定方向に施文している。

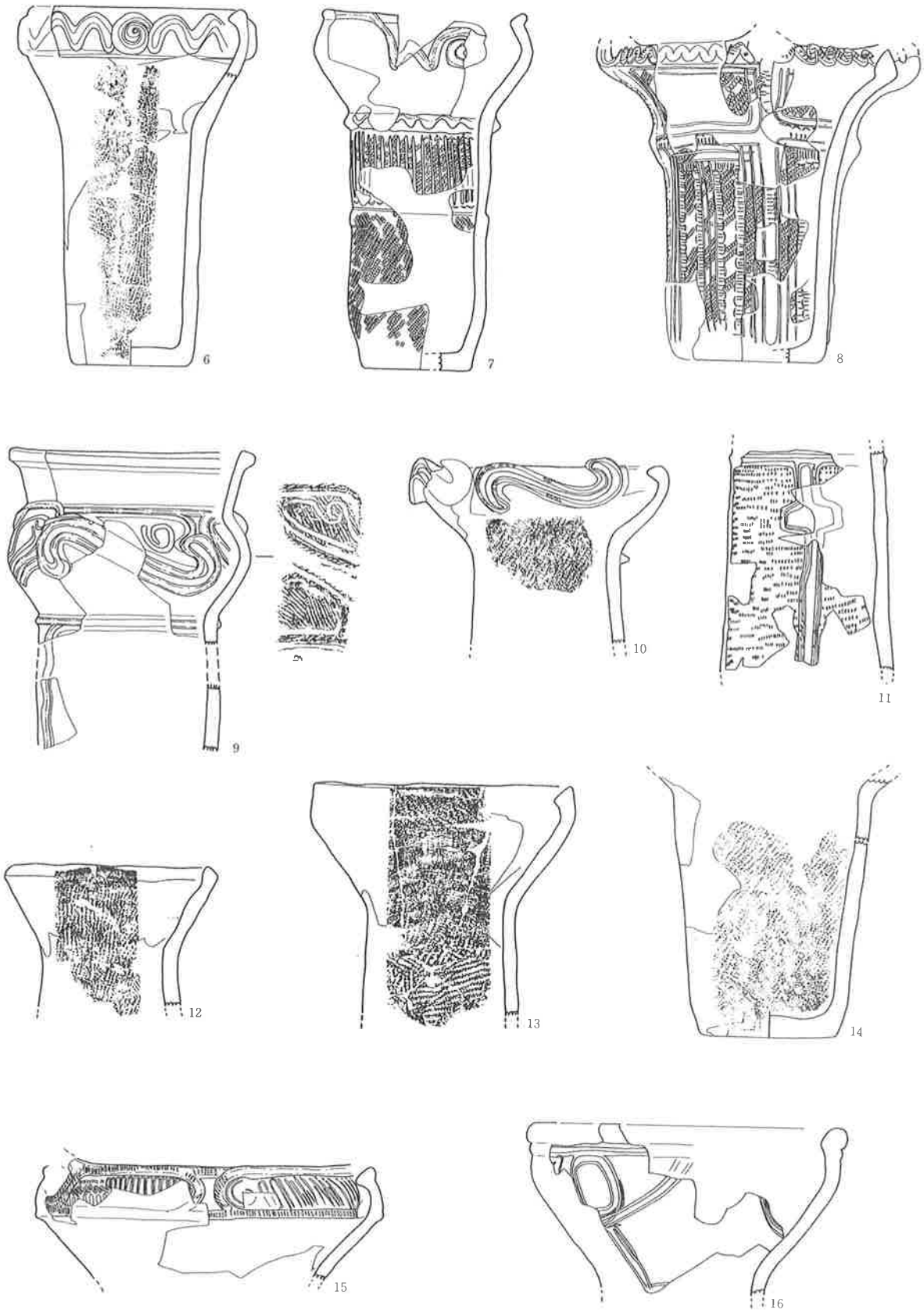
14は胴部～底部の深鉢でＲＬが縦位施文される。口縁部は立ち上がり部分だけ残存するが、12もしくは13の口縁部形状に近いと思われる。

15は頸部無文帯を有する深鉢で、口縁部には把手の付く可能性が強い。口縁部文様帯は隆帯によって楕円区画され、区画内は沈線により平行線文、渦文が施文されている。部分的にＲＬ縄文の施文される所もある。なお、隆帯上には刻み目文が施される。

16は深鉢の口縁部である。地文はＲＬ縄文で、半截竹管状工具による平行沈線で円文、弧文等を施文している。

17は無文の深鉢型土器である。器壁は厚く、石英、雲母、小礫を多量に含んでいる。器表面には粗い撫での痕が残り、堅緻ではあるが雑な作りである。

18は赤色塗彩された浅鉢型土器である。地文は無文であるが、口縁部には隆帯によって円文、弧文等の施

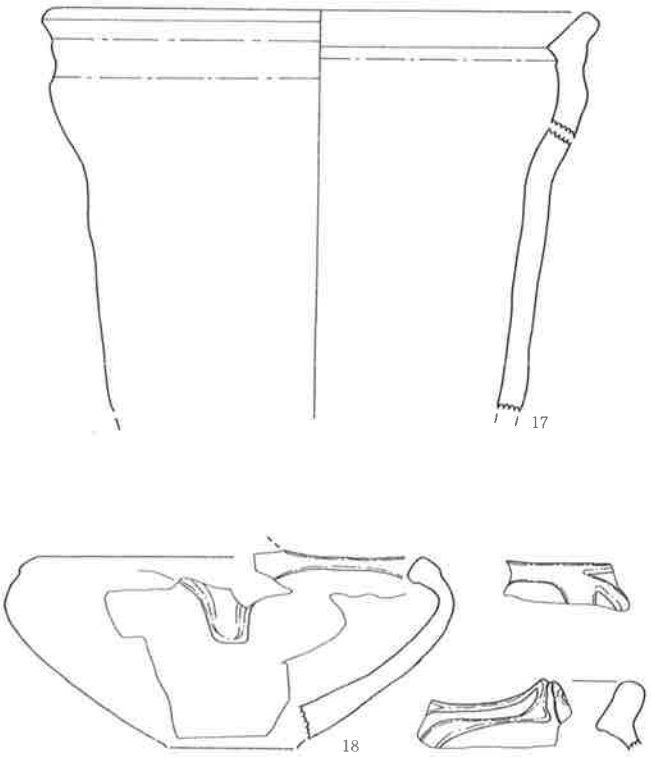


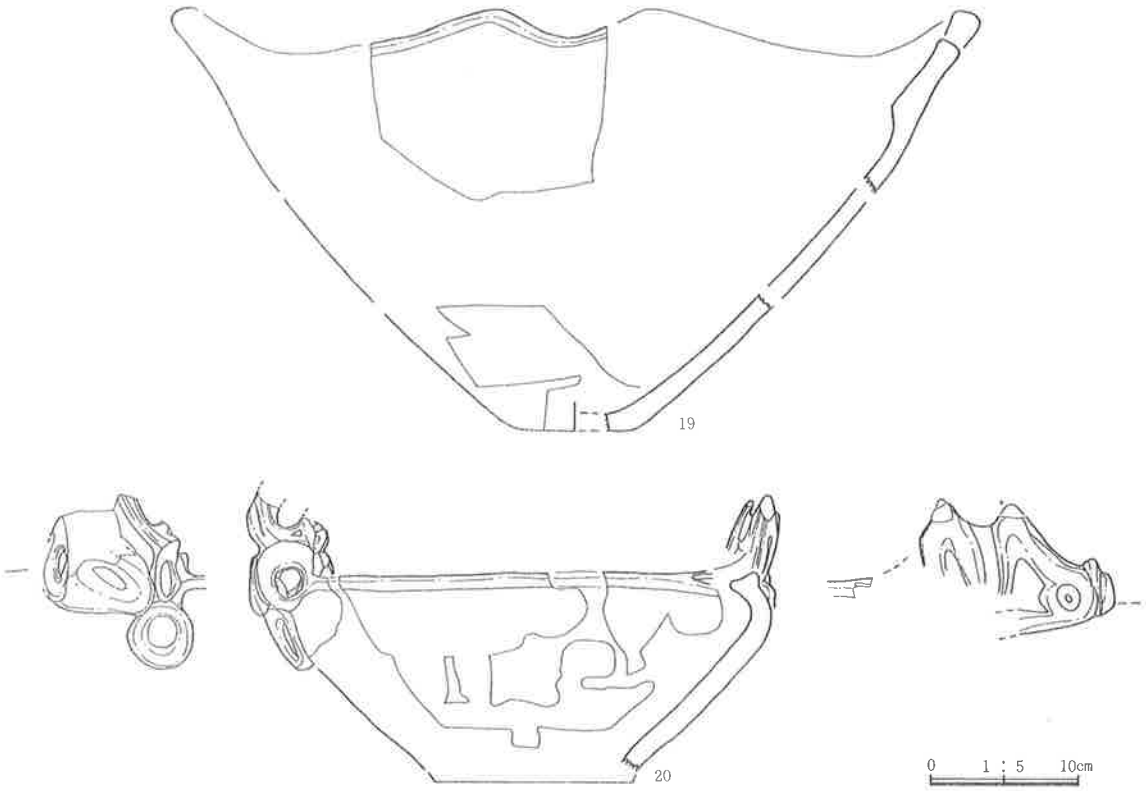
第155図　Ｊ１号住居址出土土器実測図(2)

文がされていると思われる。又、同一個体の破片に小把手の付くものがあることから、大小一対の把手が付けられていたと思われる。

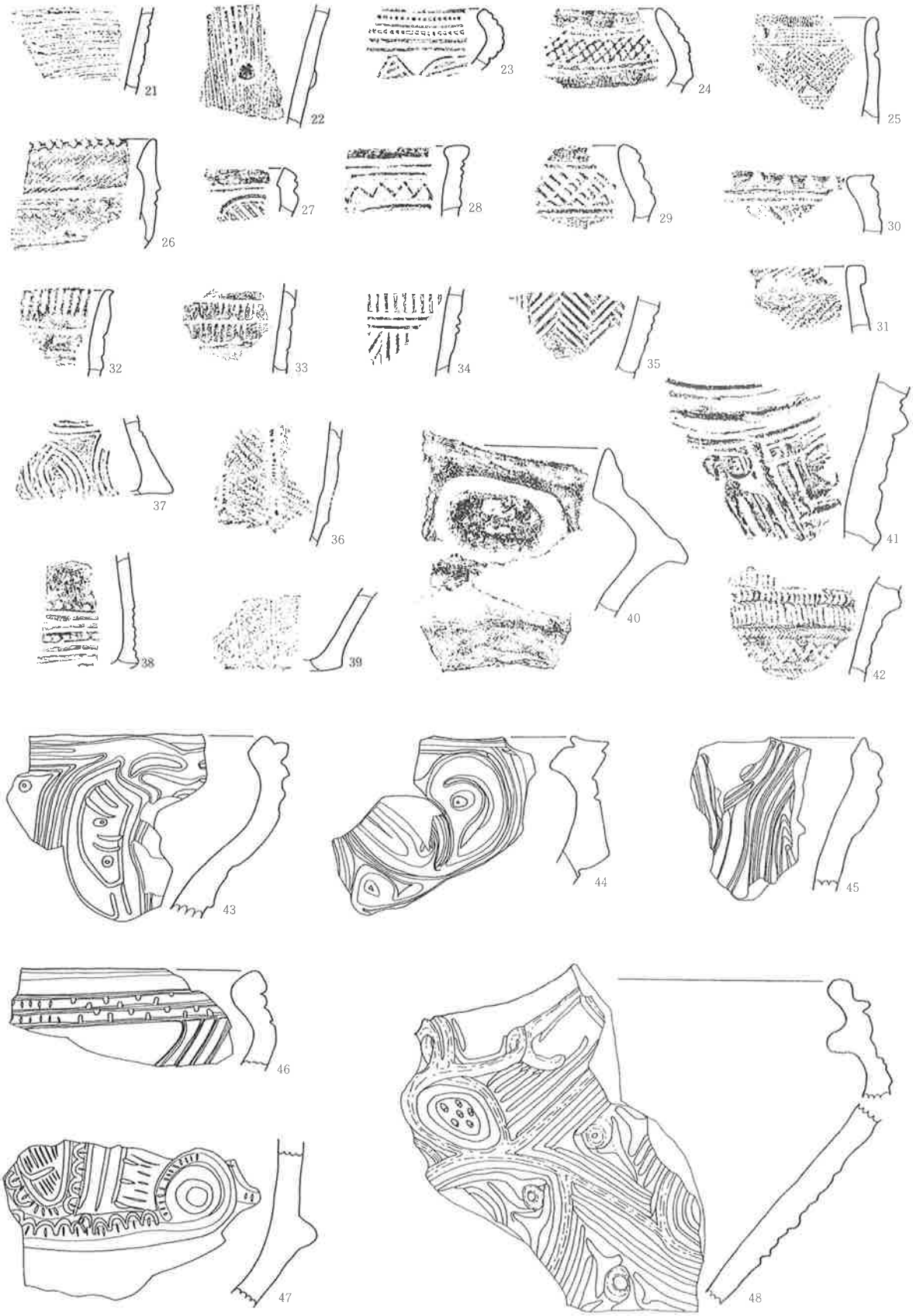
19は破片からの復元実測である。２山１単位とする４単位の波状口縁を呈する大型浅鉢と思われる。器面は内外ともに丁寧に磨かれており、茶褐色～黒色を呈する。部分的に赤色顔料の付着がみられ、塗彩されていた可能性がある。

20は１対の異形把手を有する浅鉢である。地文は無文で底部を欠失する。胎土は多量に雲母を含み、器面は火熱を受けた痕がある。把手は形象把手で鳥類の頭部と尾部を表わしていると思われる。





第156図　Ｊ１号住居址出土土器実測図(3)

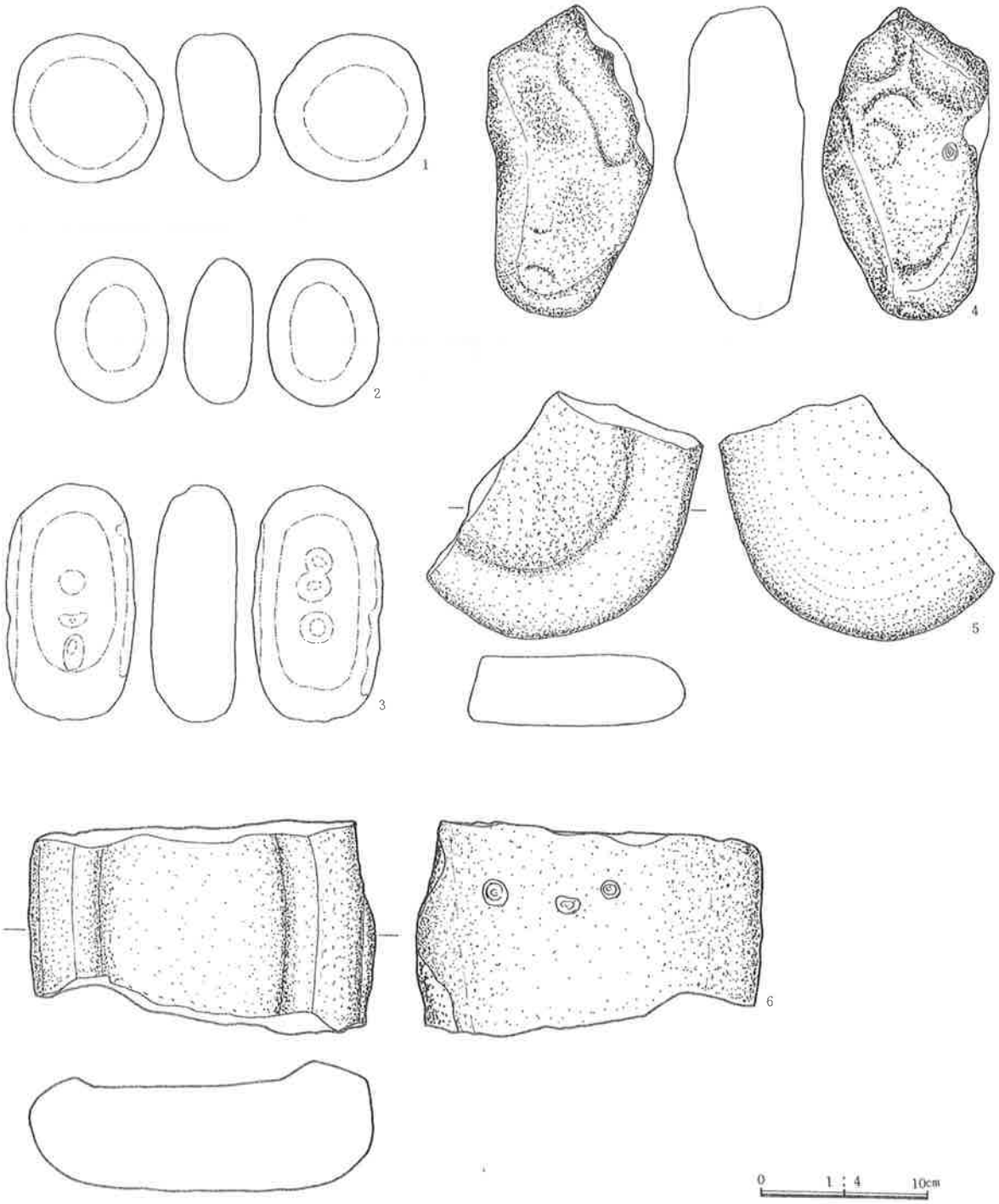


第157図　Ｊ１号住居址出土土器実測拓影図

0　1：3　10cm

Ⅳ　見眼遺跡

１～６はＪ１号住居址出土の石器である。３は多孔質の凹石で両側縁に平坦面が形成されており、表裏３ヵ所づつの集合打痕がある。１、２は磨石で磨耗痕のみが認められる。４は各面に磨耗によると思われる凹面が形成されており、砥石様の用途に用いられたものであろうか。５の石皿は後世の攪乱ピット中から出土したものである。６は張り出し部分から出土した石皿で、裏面には集合打痕が認められる。５を除く各石器の器表面には赤色顔料様の付着物が認められ、原材料のすり潰しなどの用途に用いられた可能性がある。

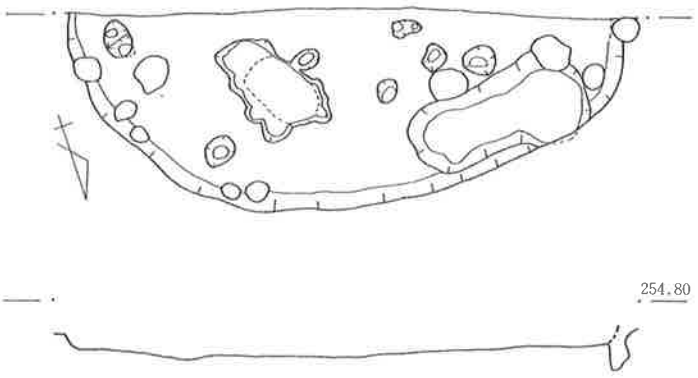


第158図　Ｊ１号住居址出土石器実測図

Ｊ２号住居址

40－27グリッドに位置する。径５ｍ強の円形を呈する住居址と思われるが、南側の過半部は未調査である。後世のピット及び耕作による攪乱も受けており余り良好な遺存状態ではない。

炉は東側に寄った位置に検出されている。80×50cm程の長方形状を呈する石囲炉であったと思われるが、石は全て抜き取られていた。



第159図　Ｊ２号住居址実測図

ピットは多数検出されているが、東端の１基を除いて浅く、掘り方も不明確な為主柱穴は判然としない。

北西壁に沿って土坑が検出されているが、住居につくか不明である。

遺物は覆土中も含めて全て破片状態の出土であり、量的にも余り多くない。炉址から深鉢の把手部分が出土している。石器は磨石、打製石斧等が出土している。

出土遺物

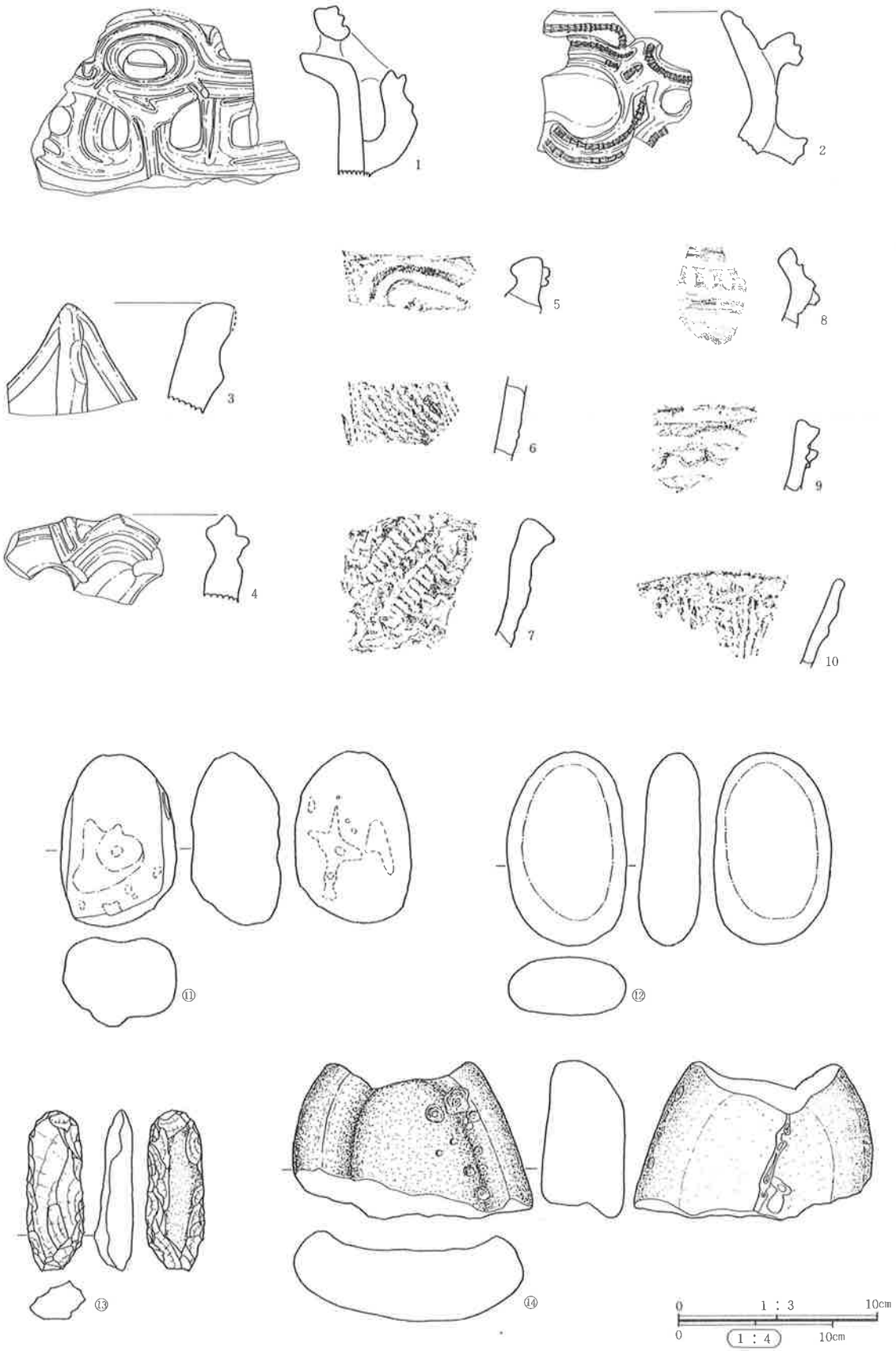
１は炉から出土した把手付深鉢の口縁部破片である。把手は比較的厚手の作りで沈線によって縁どられ、円環状の部分から橋状に隆帯が垂下する。また、把手部分の隆帯は口縁部に沿って伸びており、口縁部全体に透し彫り風の口縁部文様が付されている可能性がある。なお、把手、隆帯は器表面に地文－縄文ＲＬを施文した後に貼付されている。２も深鉢の把手部分と思われ、厚手の隆帯は２列の押引文によって施文されている。３は深鉢の口縁部で波頂下に隆帯が垂下している。胎土には金雲母を多量に含む。４は把手の一部分のみの破片で隆帯頂部に沈線が施文されている。５は口縁部に逆Ｓ字状文が貼付されている。地文は縄文ＲＬと思われる。６は深鉢の胴部破片で、垂下する平行沈線で胴部を区画し、斜位の連続刺突文で施文している。７は隆帯と２列の押引文、沈線で施文を行なっている。８は横位の隆帯による施文を基調とするが、連続刺突文も施文される。９も横位の隆帯を基調とするが、上から２番目の隆帯は押し潰されてから刺突を加えられている。10は小型土器の口縁部破片と思われ、沈線で区画し、文様構成している。

11～14は石器であるが、14の石皿は、土坑中からの出土である。他は何れも床から若干浮いた状態で出土している。

―土坑―

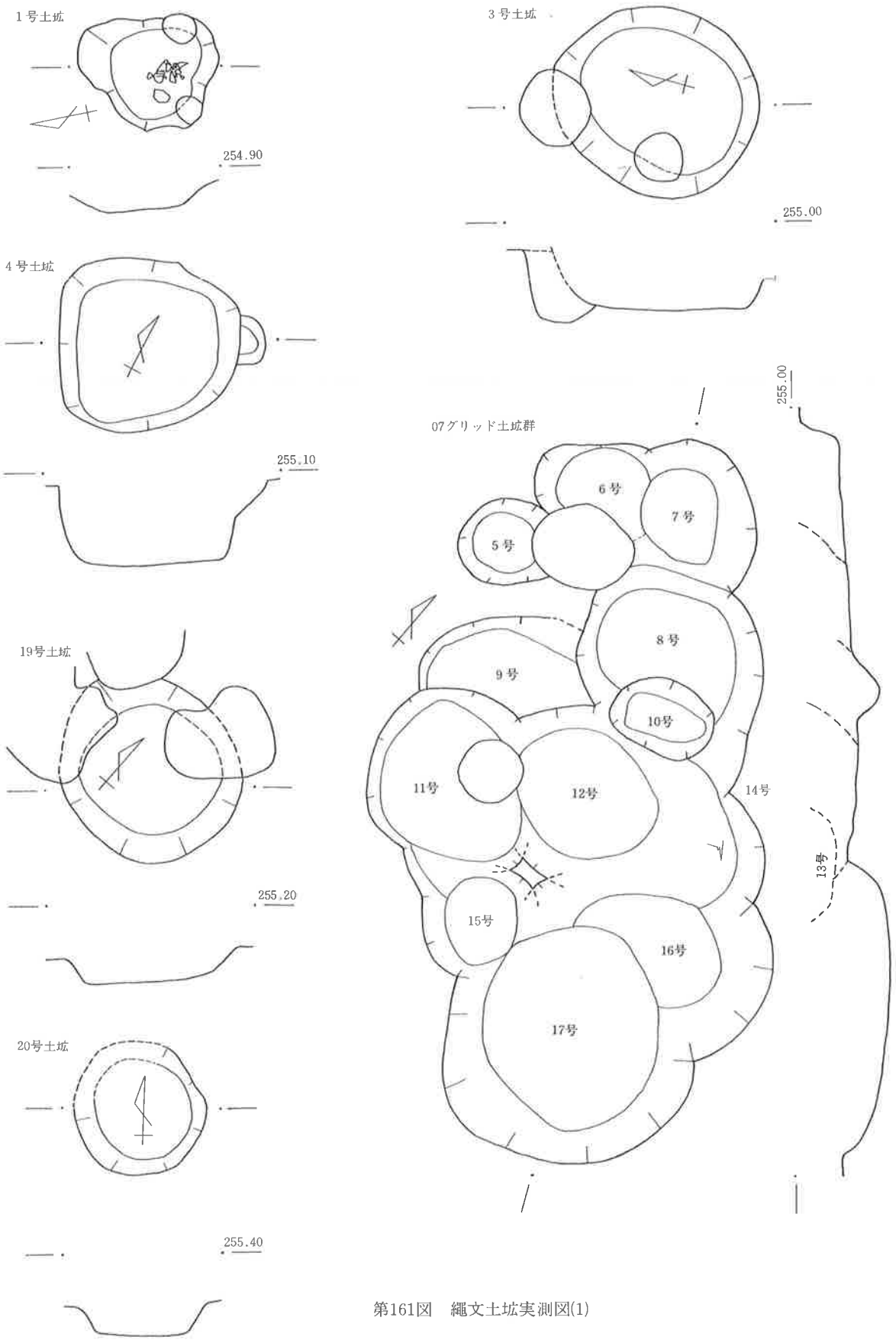
縄文時代の土坑は調査区域の東端部の東西30ｍ程の範囲に集中して検出されている。調査区域が狭いことや、後世の攪乱の為に占地傾向を明瞭に看取できないが、グループ別けできる可能性もある。

土坑の規模は径１～1.5ｍで円形を呈するものが多く、大部分の土坑から遺物が出土している。遺物の時期は包含層も含めて前期後半から後期前半に亘っているが、大半は中期後半に属し、遺構の構築時期も同様と思われる。遺物は流れ込みと思われる小破片が多く、完形、半完形に復せたものは少ない。

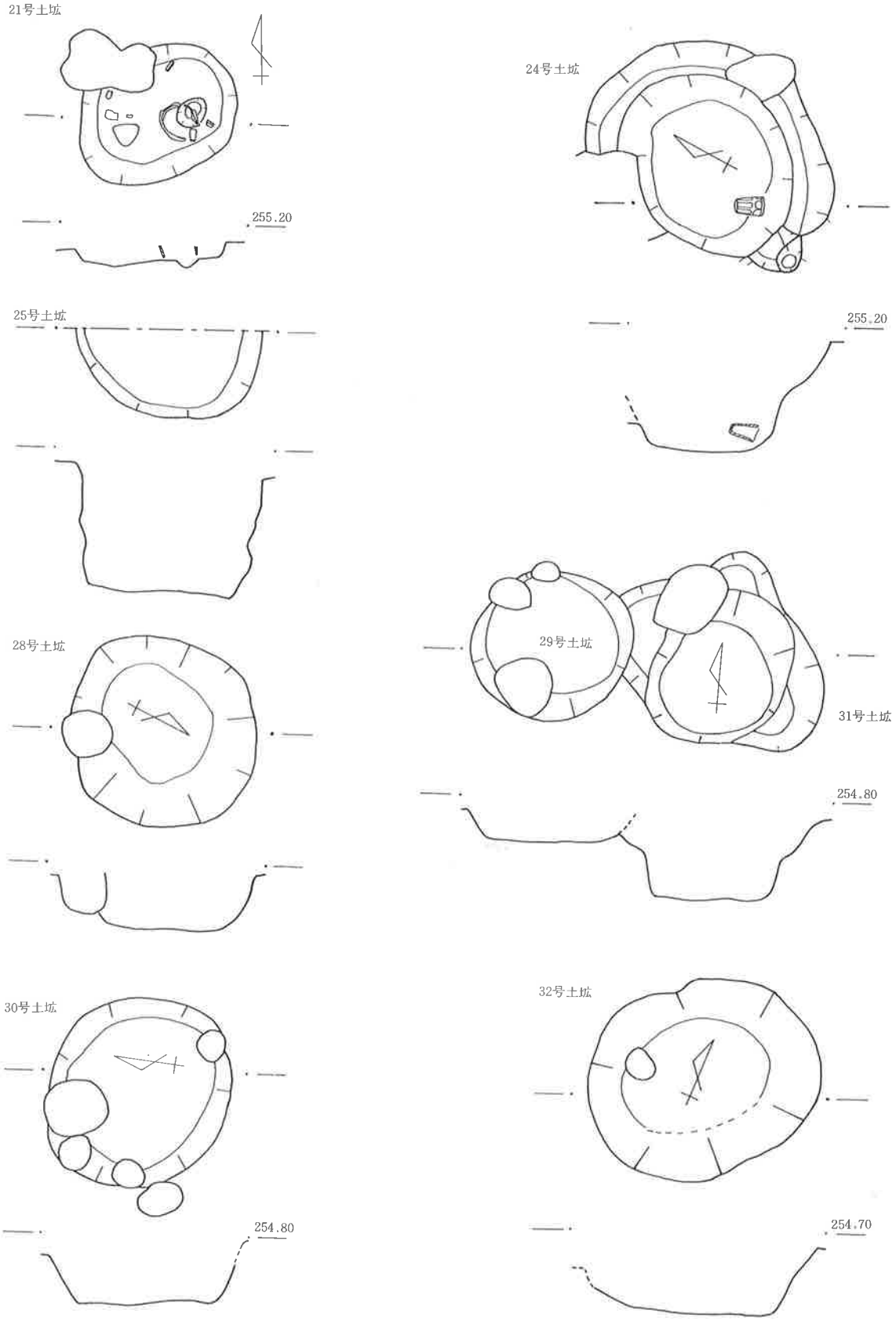


第160図　Ｊ２号住居址出土遺物

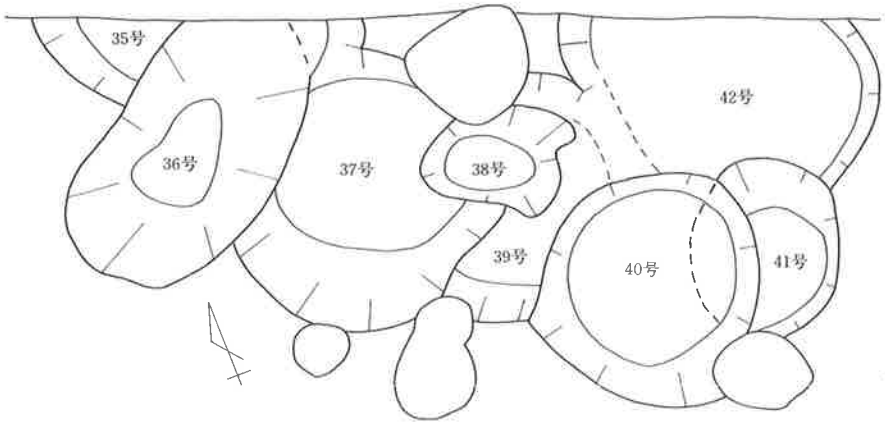
土坑番号	位置	長軸×短軸×深さ	形　状	出土遺物、出土位置		備考(重複等)	遺構図版	遺物図版
1	06G	100×80×18	不整形（円形）	半完形深鉢	底面	ピット攪乱	160	164
2	07G	300×—×38	楕円形？	土器破片少	覆土上～下位	土坑重複か？	—	164
3	07G	142×130×40	円形	大型破片、その他少。	覆土上～中位	ピット攪乱	160	—
4	16G	124×120×60	隅丸方形	ナシ			160	—
5	06G	(70)×(60)×30	円形	ナシ		ピット攪乱	160	—
6	06G	(100×70)×30	楕円形	土器片少	覆土上位	07G土坑群	160	—
7	07G	(110×95)×30	円形	土器片少	覆土上位		160	165
8	07G	(130×130)×30	円形	土器片少	覆土上～中位	各土坑の新旧	160	165
9	07G	—×—×10	楕円形？	小型深鉢、凹石	底面	関係は不明な	160	165、170
10	07G	110×—×50	楕円形	土器片多、磨製石斧。	覆土上～中位	ものが多い。	160	170
11	07G	130×120×40	円形	土器片少	覆土上～中位		160	165
12	07G	(135)×125×30	円形？	土器片少	覆土中位	7→8→10→	160	165
13	07G	—×(80)×20	——	埋甕	底面	12→13。	160	165
14	07G	—×—×30	——	土器片少	覆土上～中位	16→17→13。	160	—
15	07G	85×80×30	円形	ナシ			160	—
16	07G	180×—×35	楕円形	土器片中	覆土上～中位		160	165
17	07G	180×180×40	円形	鉢型土器、破片多。	覆土上～下位		160	165、170
18	07G	130×—×70	円形？	土器片、礫多	覆土上～中位	9号住と重複	—	164、170
19	17G	130×120×25	円形	磨石、凹石、多孔石。	覆土上～中位	ピット攪乱	160	164
20	17G	110×95×25	楕円形	土器片少	覆土上位	ピット攪乱	160	164
21	17G	105×95×15	楕円形	埋甕、礫	覆土下位	ピット攪乱	161	164
22	17G	90×75×27	円形	ナシ		南半削平	—	—
23	17G	30×—×30	——	埋甕		南半削平	—	167
24	17G	140×(130)×70	円形(2段に掘込)	小型深鉢、破片多。	覆土上～下位		161	166、170
25	17G	135×—×80	円形？	土器片多、打製石斧。	覆土上～下位	北側未調査	161	166、170
26	17G	95×—×30	円形？	ナシ		過半部削平	—	—
27	18G	195×145×40	楕円形	土器片少	覆土上～中位		—	168
28	18G	135×130×51	円形	土器片多、凹石、打製石斧、	覆土上～中位	ピット攪乱	162	167、176
							—	
29	18G	110×100×18	円形	浅鉢、有孔台形土器			162	167
				土器片多数	覆土下位、底面		—	
30	08G	130×130×50	円形	土器片多	覆土上～中位		162	168
31	18G	115×95×55	円形	土器片多	覆土上～中位		162	168
		(160×120)	(不整形)				—	
32	08G	160×140×50	楕円形	土器片少	覆土上～中位		162	—
33	18G	140×140×40	円形	土器片多	覆土上～下位		163	168、170
34	08G	160×140×50	楕円形	石鏃、石錐、小型磨製石斧			163	167、170
					覆土上～中位		—	
35	18G	174×—×30	楕円形？(未完掘)	ナシ		倒木痕か？	163	—
36	18G	166×99×60	楕円形	土器片少	覆土上位		163	169
37	18G	150×—×45	円形？	土器片少	覆土上位	37→	163	—
38	18G	(70×50)×(50)	不整形	土器片多	覆土上～下位	38→	163	—
39	18G	130×—×40		土器片少	覆土上位		163	168
40	18G	130×120×41	円形	土器片少	覆土中位	40→41	163	—
41	18G	110×—×30	円形？	土器片中、石鏃、打製石斧			163	168、170
42	18G	174×—×27	楕円形？	ナシ			163	—
43	19G	330×220×25	楕円形	土器片少	覆土上位	土坑か疑問。	—	—
44	09G	180×180×30	円形	土器片中	覆土上～中位	43と重複	—	169
45	19G	—×70×20	楕円形？	土器片少	覆土下位		—	—
46	19G	130×(110)×50	楕円形	磨石			163	170
47	19G	180×(140)×25	楕円形	土器片	覆土上位	重複	163	—
48	19G	120×100×32	楕円形	土器片	覆土上位	新旧関係不明	163	169
49	19G	60×60×35	円形	土器片少	覆土上位		163	—
50	19G	60×55×20	円形	両耳壺、土器片多。	覆土中～底面		163	169

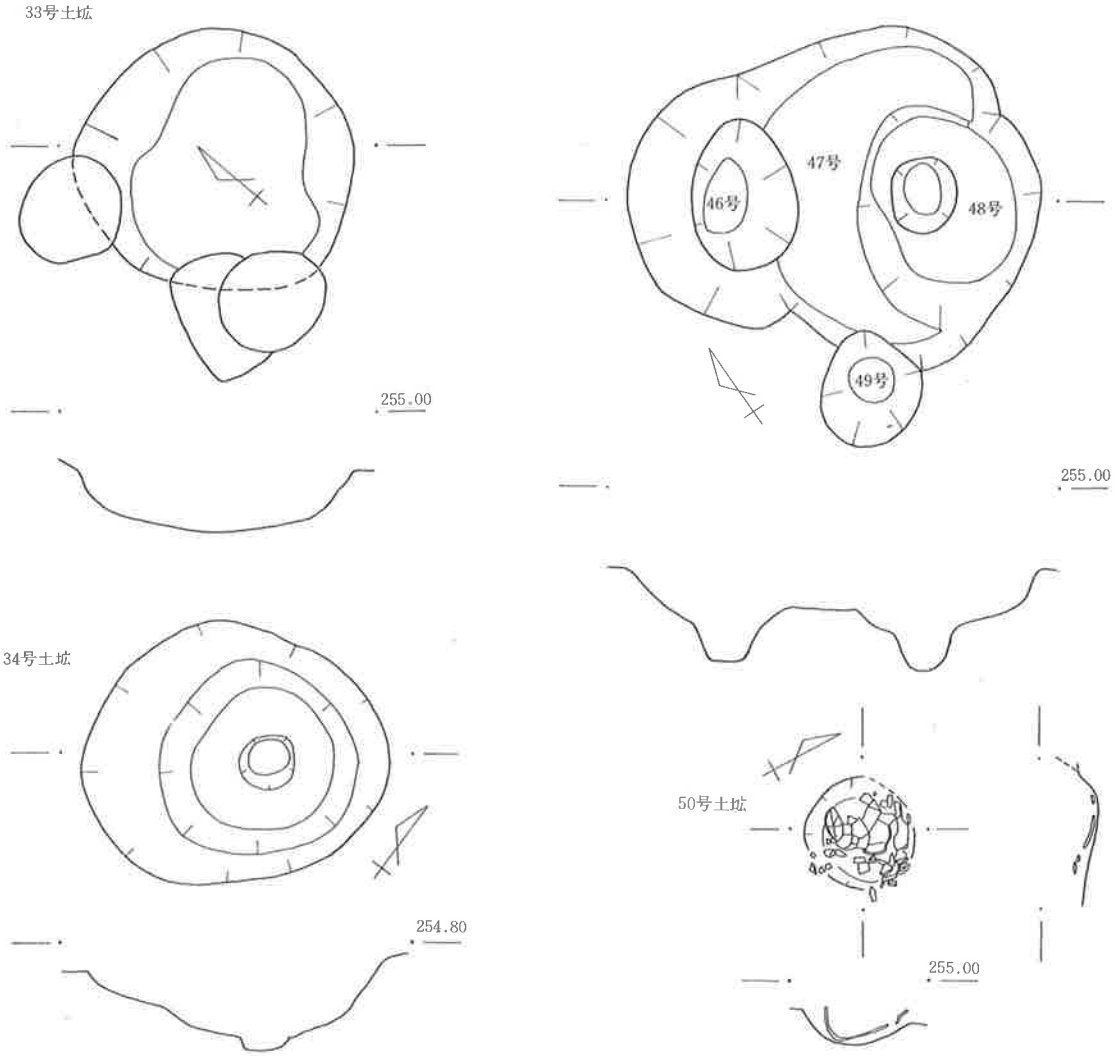


第161図　縄文土坑実測図(1)



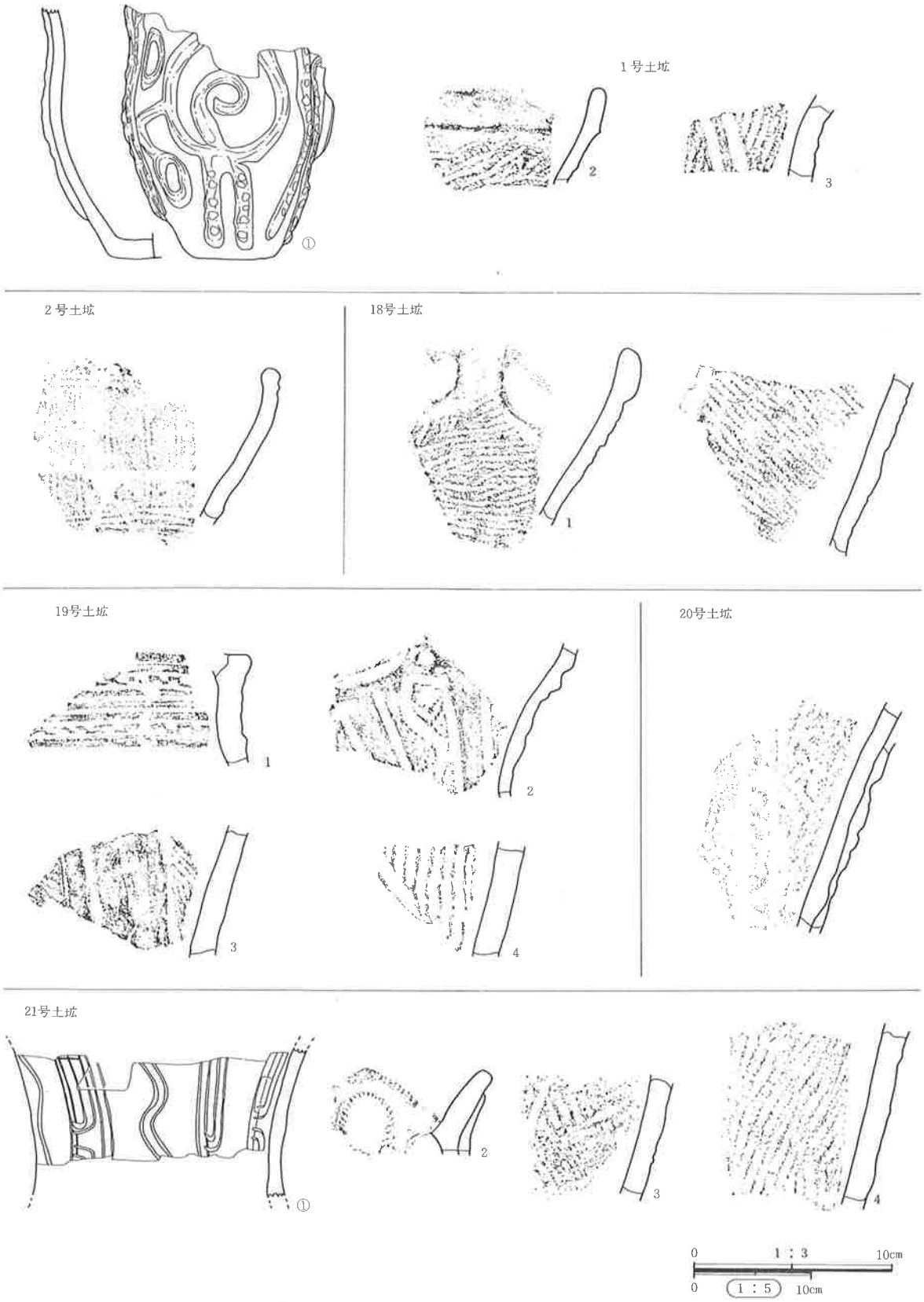
第162図　縄文土坑実測図(2)





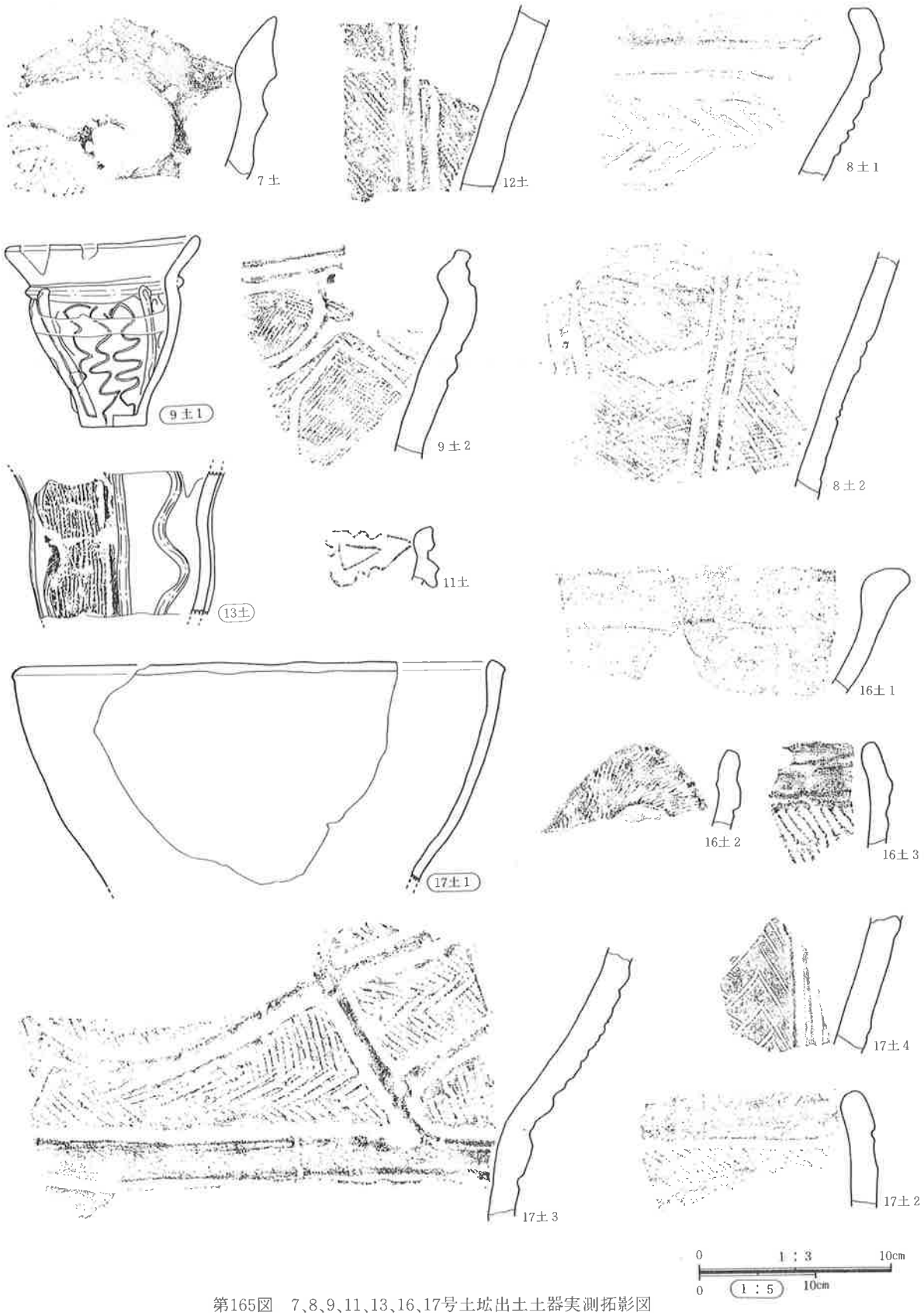
第163図　縄文土坑実測図(3)

縄文土坑出土遺物



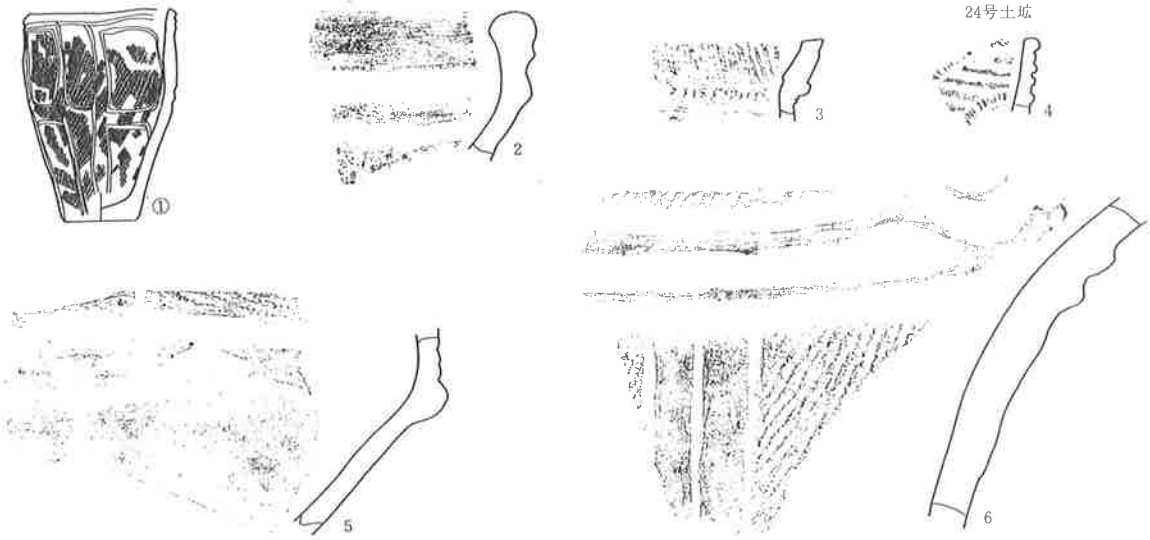
第164図　1、2、18～21号土坑出土土器実測拓影図

07グリッド土坑群出土遺物

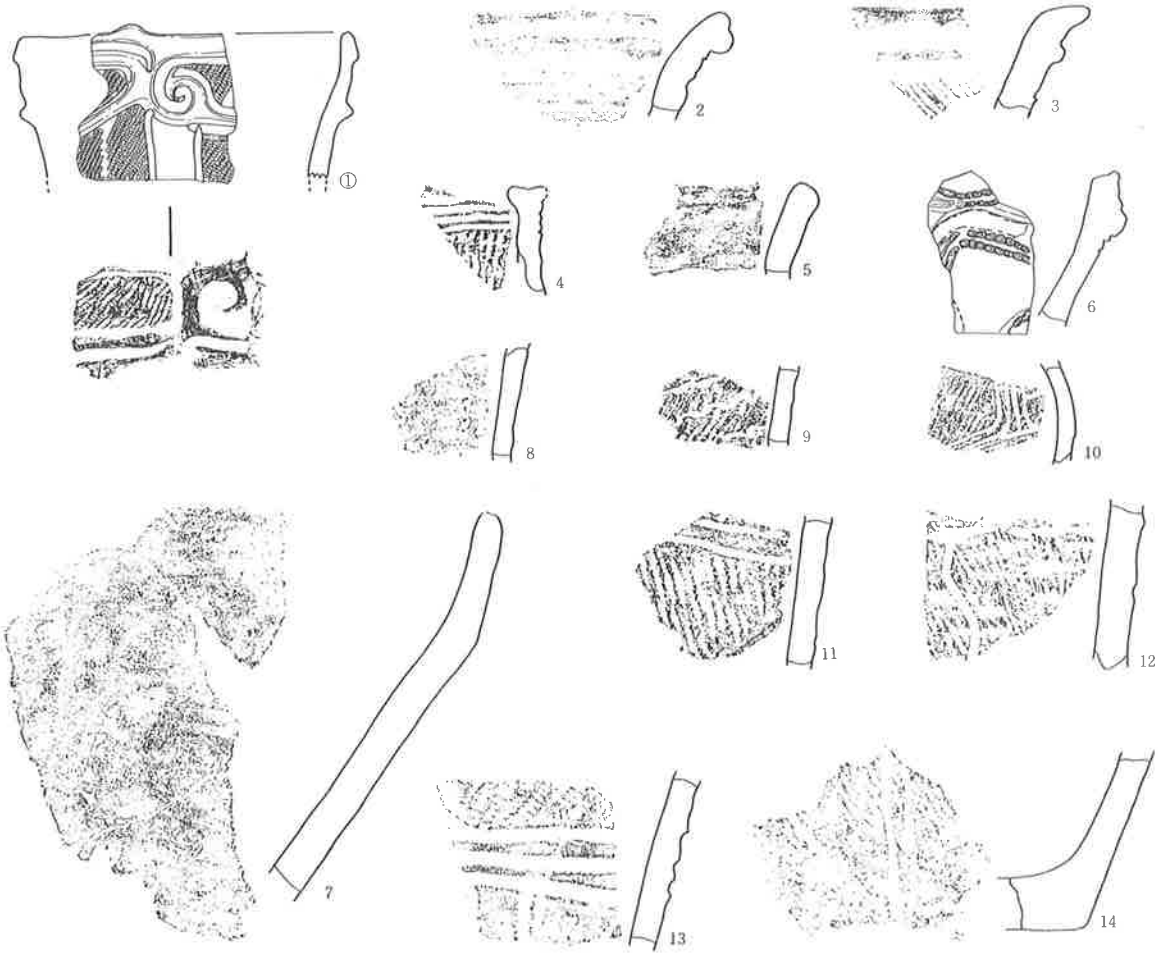


第165図　7、8、9、11、13、16、17号土坑出土土器実測拓影図

24号土坑



25号土坑



0　1：3　10cm
0　1：5　10cm

第166図　24、25号土坑出土土器実測拓影図

23号土坑

28号土坑

29号土坑

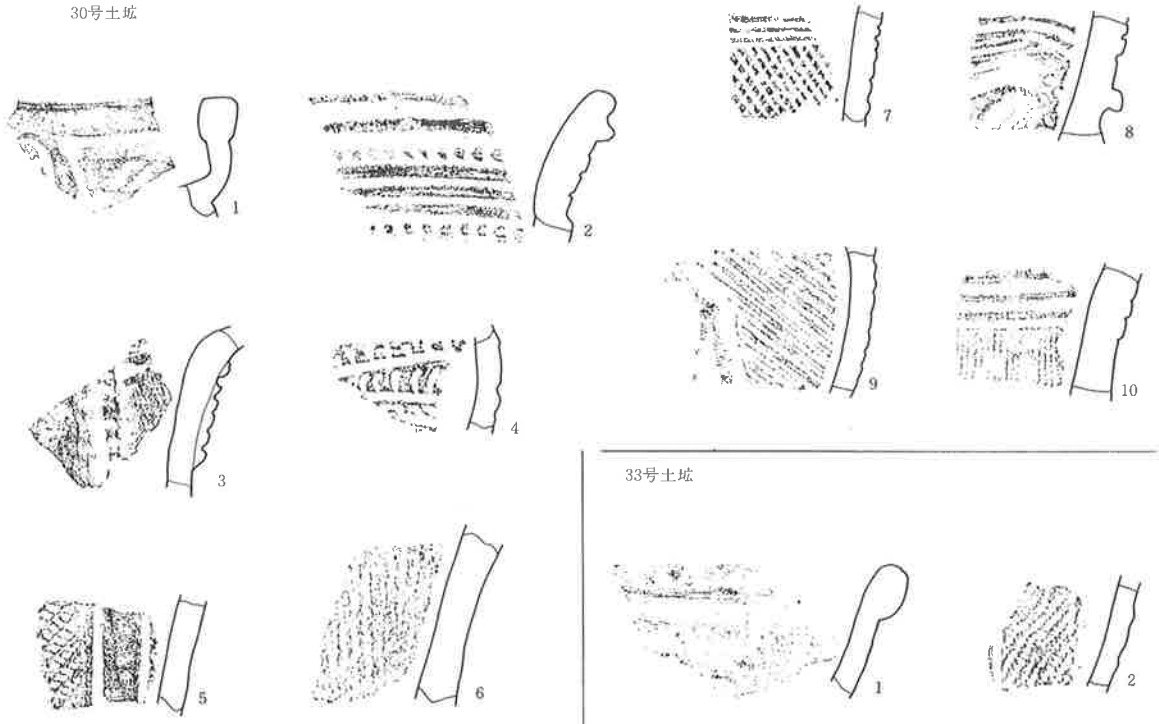
34号土坑

0　1：3　10cm

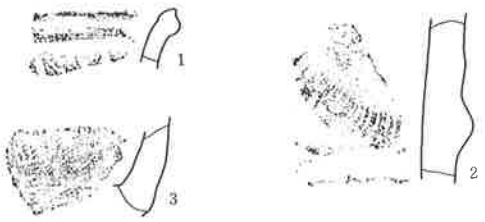
0　1：5　10cm

第167図　23、28、29、34号土坑出土土器実測拓影図

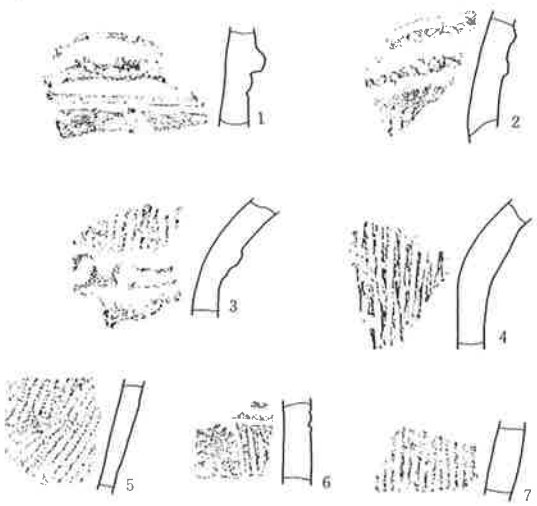
30号土坑



27号土坑

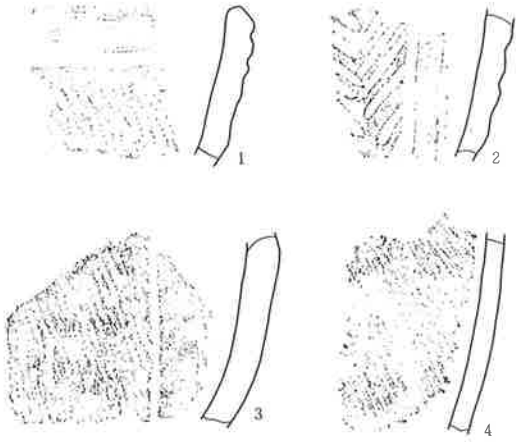


31号土坑

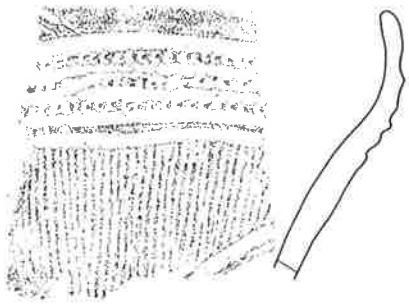


33号土坑

39号土坑



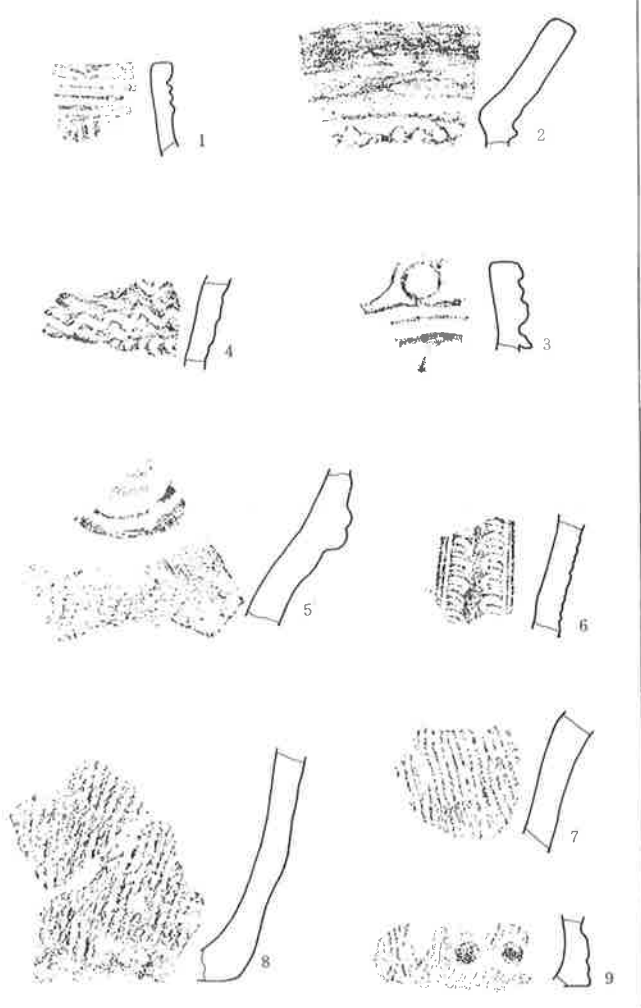
41号土坑



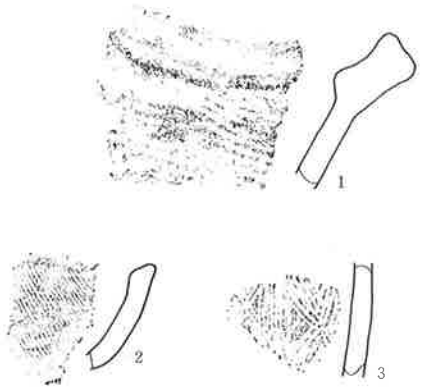
0　1：3　10cm

第168図　27、30、31、33、39、41号土坑出土土器実測拓影図

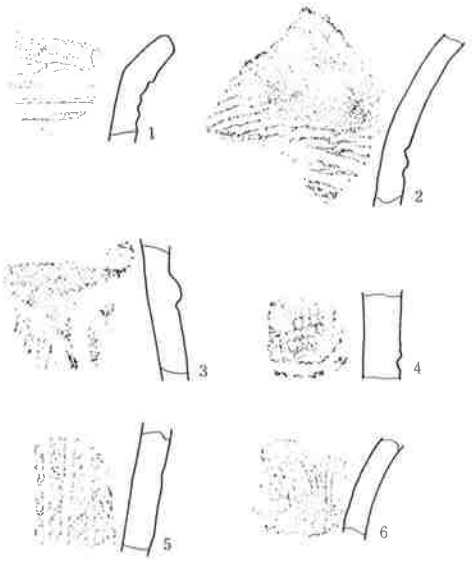
44号土坑



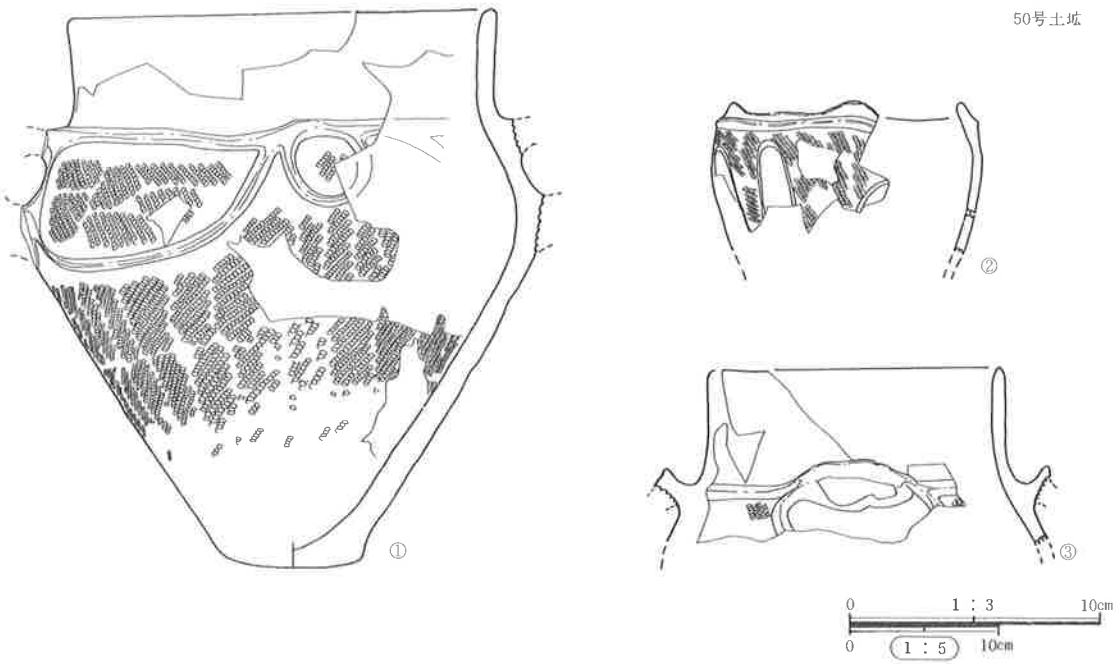
36号土坑



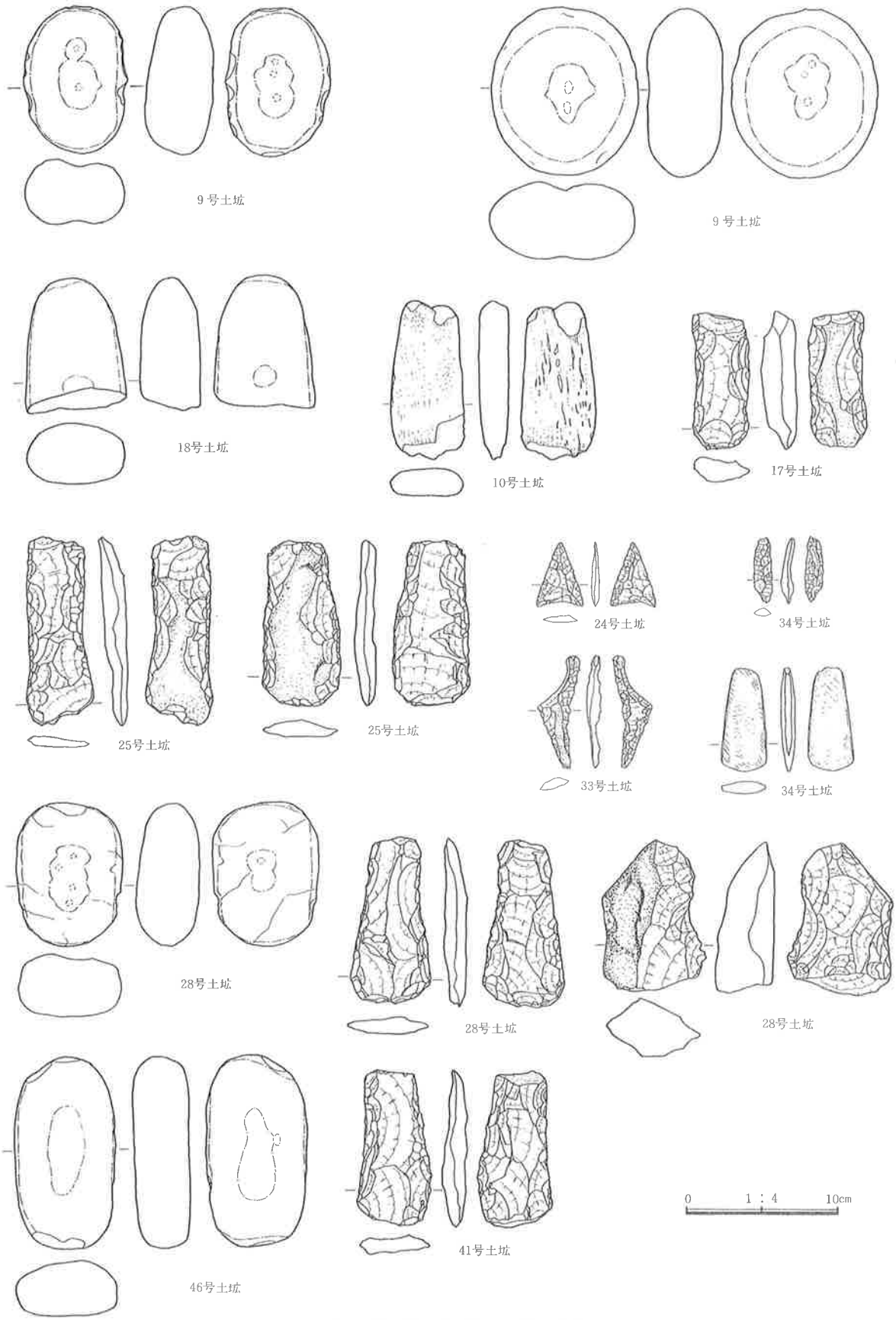
48号土坑



50号土坑



第169図　36、44、48、50号土坑出土土器実測、拓影図



第170図　縄文土坑出土石器実測図

Ⅳ　見眼遺跡

(2)　奈良・平安時代

1号住居址

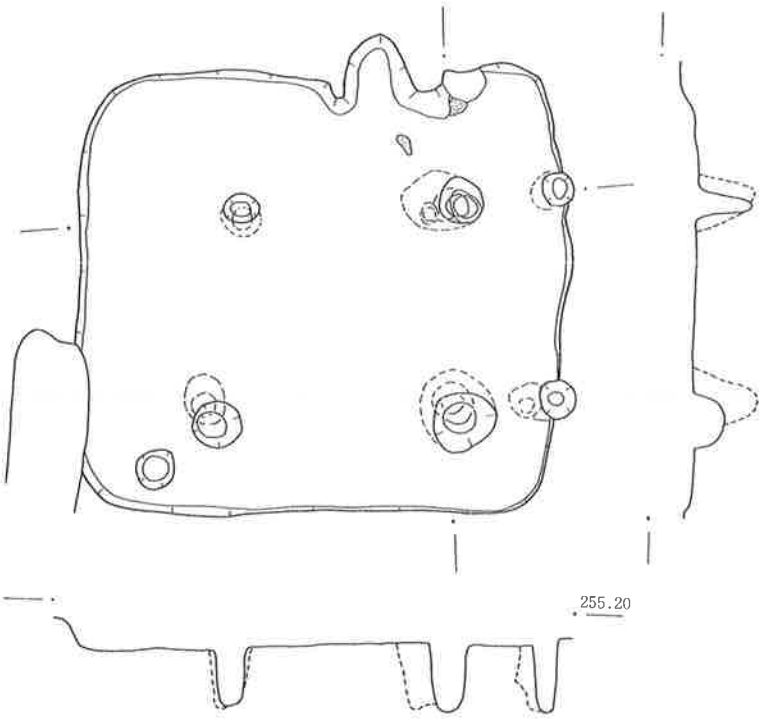
1号溝の西側、約10mに位置する。3号住が2m東に近接する。

東西4.5m、南北5.0mを測り、南北に若干長い隅丸長方形プランを有する。壁高は北壁で約30cmと浅い。

床面は平坦であるが余り踏み固められていない。

カマドは東壁の南に付設されており、短かい袖部の残存する粘土カマドである。

柱穴は6ヵ所に検出されている。南側の2本は壁柱穴である。残りの4本は、ほぼ住居址のプランと相似した位置関係を呈するが、西側の2本は一旦埋められ西側に重複して新たに浅く掘り替えを行なっている。主柱穴の規模は、掘り替えが行なわれた2本を除いて径30～40cm、深さ約60cmを測る。北西隅にも深さ約30cmのピットが検出されたが、性格は不明である。



第171図　1号住居址実測図

出土遺物は覆土中を含めて少なく、残存状態も良くないが、土師器の甕、小型甕、坏、須恵器高台付椀等が出土している。

遺構の時期は、遺構の形状、出土遺物から奈良時代と思われる。

2号住居址（遺物P

1号住の西約13m、1グリッドに位置する。

東西3.0m、南北3.2mを測り、ほぼ正方形状を呈する。壁高は約50cmを測る。

覆土中から床面にかけて多量の炭化材、焼土、灰が出土しており、焼失家屋の可能性がある。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。煙道は急角度で立ち上がり、燃焼部はわずかに掘り込まれている。

ピットは4ヵ所に検出されたが、北壁の東寄りのピットが炭化材の出土状態から主柱穴と思われる。西壁寄りのピットも柱穴の可能性があるが、他のピットの性格は判然としない。

遺物はカマドの覆土中位から須恵器蓋の破片が出土しただけである。カマド周辺の覆土中から人頭大の多数の礫が出土しており、カマド煙道部の補強材であった可能性もある。

遺構の時期は出土遺物から平安時代と思われる。

3号住居址

１号住の東２ｍに位置する。

東西4.3ｍを測り、南北1.3ｍ程の範囲を調査した。遺構の北側過半部は調査区域外であり、全体の規模、形状等は不明である。

床面は平坦であり、主柱穴と思われるピットが検出されている。

遺物は破片が少量出土しただけであるが、奈良時代の住居址と思われる。

4、5号住居址

調査区域の東端に重複して検出された。東側は道路によって削平されており、南側は宅地に伸びている。４号住の西側に５号住が重複しており、５号住が新しい。

４号住の規模は不明であるが、壁高は約50cmと深い。東西3.5ｍ、南北2.8ｍ程の範囲を調査した。

床面は凹凸が激しく、硬い。

北壁に平行して２本のピットが検出されており主柱穴と思われる。深さは何れも30cmを測る。

遺物は、土師器甕、須恵器壺等が少量出土した。

遺構の時期は出土遺物から奈良時代と思われる。

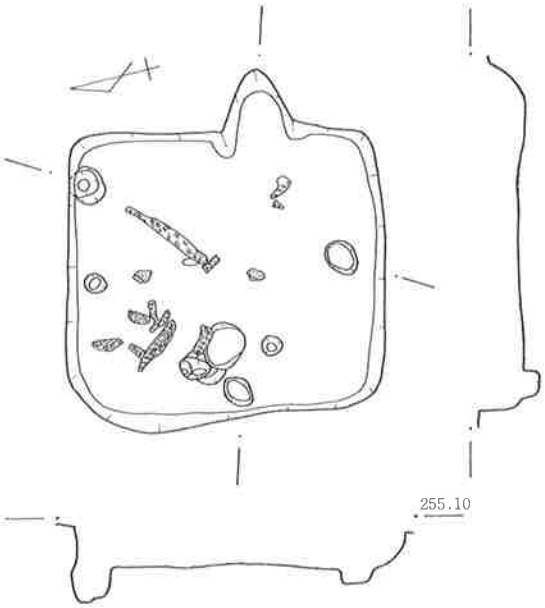
５号住居址は東西4.7ｍ程の規模を測り、北側の半分弱の調査である。壁高約50cmを測る。

カマドは粘土、炭化物、焼土等が４号住と重複する東南端に多量に検出されていることから東壁は付設されていたものと思われる。

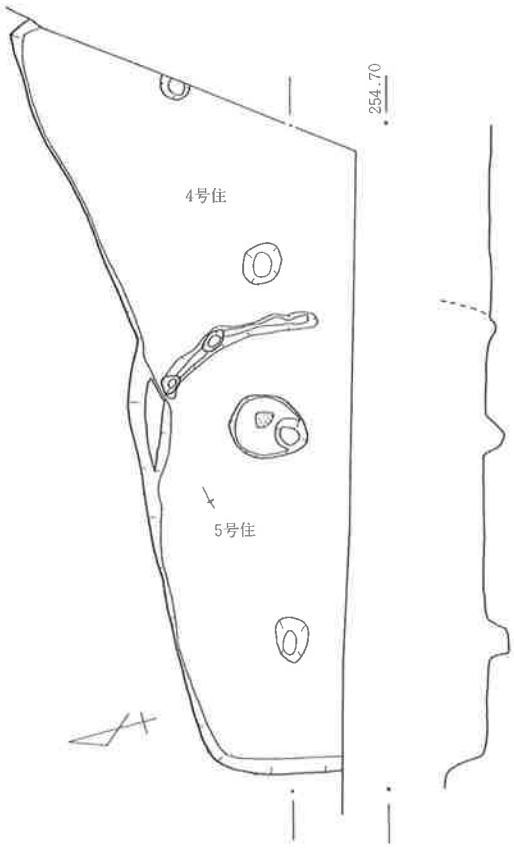
北壁にほぼ並行して２基のピットが検出されており、主柱穴と思われる。径約30cm、深さ約20cmを測る。また、東側主柱穴と重複し、深さ５cm程の浅い円形のピットが検出されており、中央に礫が据えられていたが、性格は不明である。

遺物は床面から若干浮いて土師器甕、坏、須恵器坏等が破片状態で、鉄製紡錘車がほぼ完形で出土している。覆土中からは鉄鏃、鉄釘、石製紡錘車が出土しているが、紡錘車に刻字されていることが特記される。

遺構の時期は平安時代と思われる。



第172図　２号住居址実測図



第173図　4､5号住居址実測図

6号住居址

5号住の3m西方に位置する。

東西2.6m、南北3.1mを測る小型の隅丸長方形住居址で、壁高約40cmを測る。

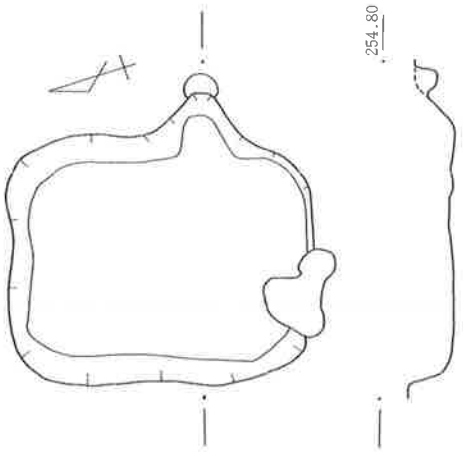
壁の立ち上がりは比較的ゆるやかで、床面は軟弱である。南壁に後世のピットが重複している。

カマドは東壁南寄りに付設されている。煙道部先端は後世のピットが重複している。煙道は急角度で立ち上がり、燃焼面は浅く掘り込まれている。

カマド以外の施設は検出されていない。

遺物は土師器甕、坏の破片が少量出土している。

遺構の時期は出土遺物から奈良時代と思われる。



第174図　6号住居址実測図

7号住居址

調査地の東北端に位置する。北側は調査区域外で、東側は現用道路となっている。

南西隅のごく一部が調査できただけで規模、形状共に不明である。遺物は覆土中から少量出土している。

遺構の時期は出土遺物から奈良時代と思われる。

8、9号住居址

6号住の西方約10mに位置する。両遺構ともに南側の半分程は調査区域外となっている。遺構検出段階では新旧関係を把えられなかったが、断面観察により8号住の方が新しいことが判明した。

8号住居址は東西2.8m、壁高約30cmを測る。壁は急角度で立ち上がるが、東壁には多数のピットが重複している。床面は軟弱で、9号住との重複部分では床面を把えられなかった。

カマドはピットにより削平された可能性があり、東壁に付設されていたものと思われる。

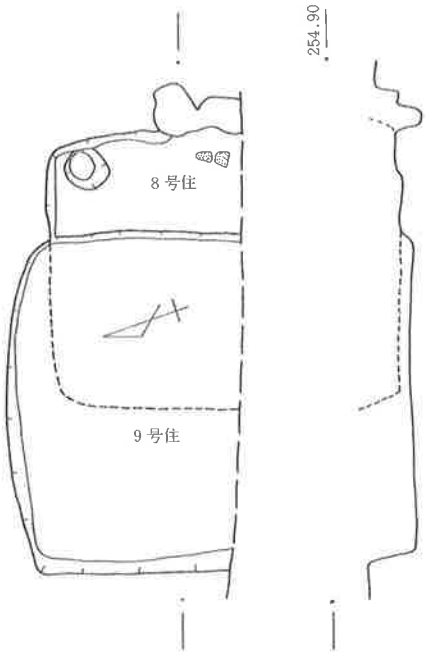
遺物は少量の土器片が出土しただけである。

9号住居址は東側半分程を8号住居址に削平されているが、床面レベルで約10cmの比高差がある為、わずかに東壁が残存している。床面は平坦で硬い。

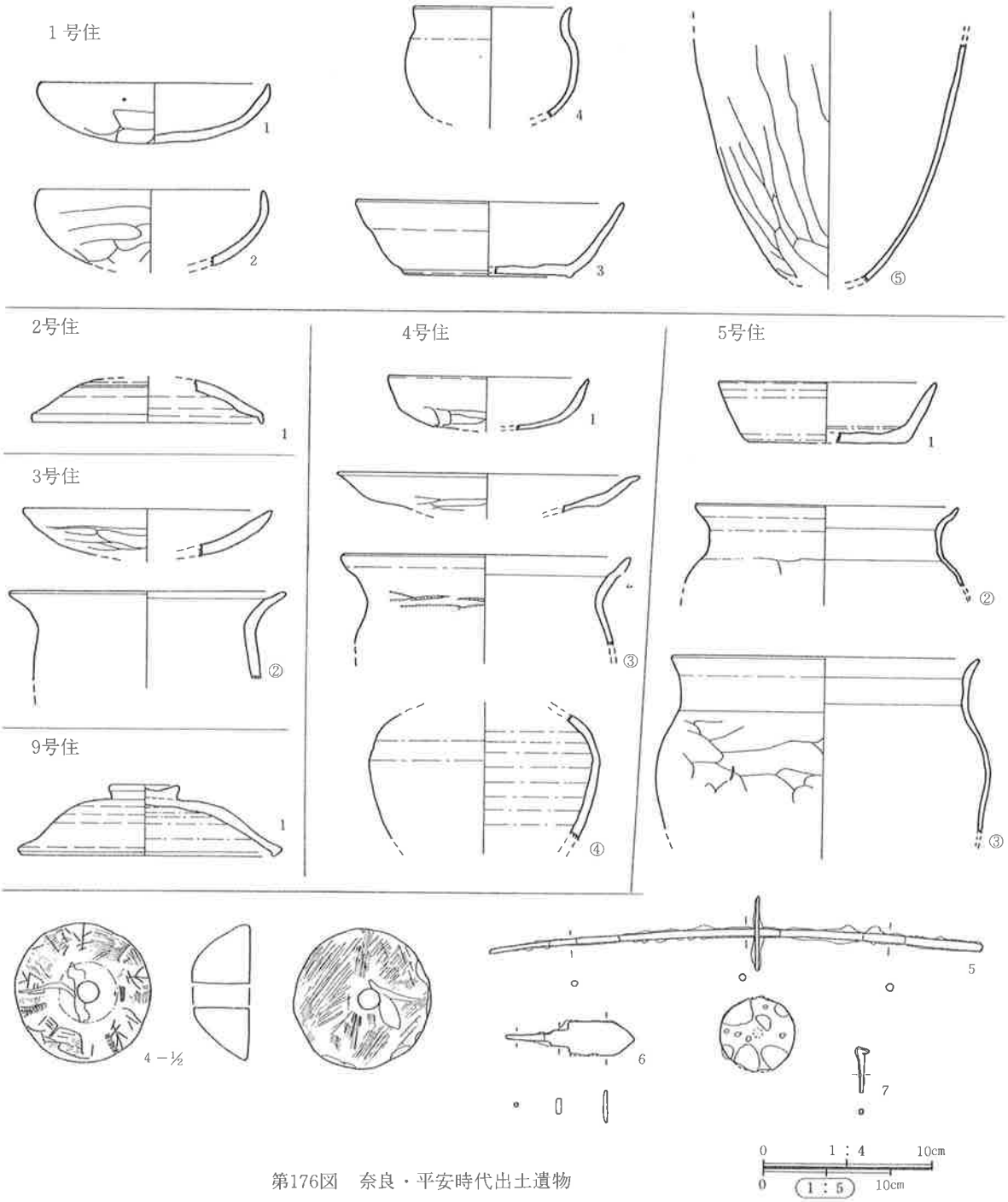
東西約3.5m、壁高約50cmを測る。

遺物は床面密着で須恵器蓋が出土している。

遺構の時期は9号住が奈良時代と思われる。



第175図　8・9号住居址実測図



第176図　奈良・平安時代出土遺物

5号住居址出土遺物

4．石製紡錘車　　フク土下層。　径4.2cm。　滑石製。　　製作、使用時の傷が多く不鮮明な部分もあるが、「見」、「利」を各々3文字づつ線刻したものと思われる。

5．鉄製紡錘車　　床上5cm。　軸長29.2cm、弾み車径4.6cm。

6．鉄鏃　　フク土。　茎部中位で直角に折れ曲がる。　現在長 7.6cm

7．鉄釘　　フク土。　現在長 2.7cm

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	胎土、色調	器　形、成・整形の特徴	備　　考
1号住						
1	坏	床　直 ¼	口：13.5 高：3.6	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	
2	坏	床　直 ⅙	口：(13.4)	砂粒、雲母、石英含む。橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	
3	埦 (須恵器)	床　直 ⅙	口：(16.0) 底：10.2 高：4.4	砂粒少量含む。 灰白色。	右回転ロクロ成形。底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリにより擬高台作り出し。部分的にナデ。 その他は全面回転ナデ。	還元炎焼成。 硬質。
4	小型甕 (台付？)	床直、(床下)土拡内。⅔	口：12.0	砂粒含む。にぶい褐色～黒褐色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(後ナデ)。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	胴部外面に黒色付着物多量。
5	長胴甕	カマド ⅓		細砂粒含む。 にぶい橙色。	**外面**：ヘラケズリ。 **内面**：ナデ。	
2号住						
1	蓋 (須恵器)	カマド ⅓	口：13.8	白色粒、黒色粒含む。灰色。	右回転ロクロ成形。天井部外面回転ヘラケズリ。 他は回転ナデ。	自然釉付着。
3号住						
1	坏	フク土 ⅙	口：(15.0)	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：ナデ。	内面荒れている。
2	長胴甕	フク土 ⅕	口：(21.0)	粗砂少量含む。 にぶい橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	
4号住						
1	坏	フク土 ⅛	口：(12.0)	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ。**内面**：ヨコナデ。	
2	坏	フク土 ⅛	口：(18.0)	粗砂含む。 にぶい橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：剝落激しく不明。	
3	長胴甕	床上3cm ⅙	口：(22.0)	砂粒多量に含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	
4	(長頸)壺 (須恵器)	床上　cm ⅓	胴：17.6	粗砂含む。 灰～青黒色。	内外面回転ナデ。外面下部に格子状タタキ目？ あるいは編みカゴの圧痕か？	還元炎焼成。 堅緻。
5号住						
1	坏	フク土 ⅙	口：(13.0)	黒色粒含む。 灰色。	回転ロクロ成形。底部切り離し技法不明。	
2	甕 (コ字口縁)	フク土 ¼	口：20.0	細砂粒含む。 橙色。	口縁部上半は内湾気味に外傾する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	
3	甕	フク土 ⅕	口：(23.4)	砂粒含む。 外面赤褐色。 内面暗赤褐色。	口縁部上半わずか外反する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	

(3)　その他の遺構

１号溝

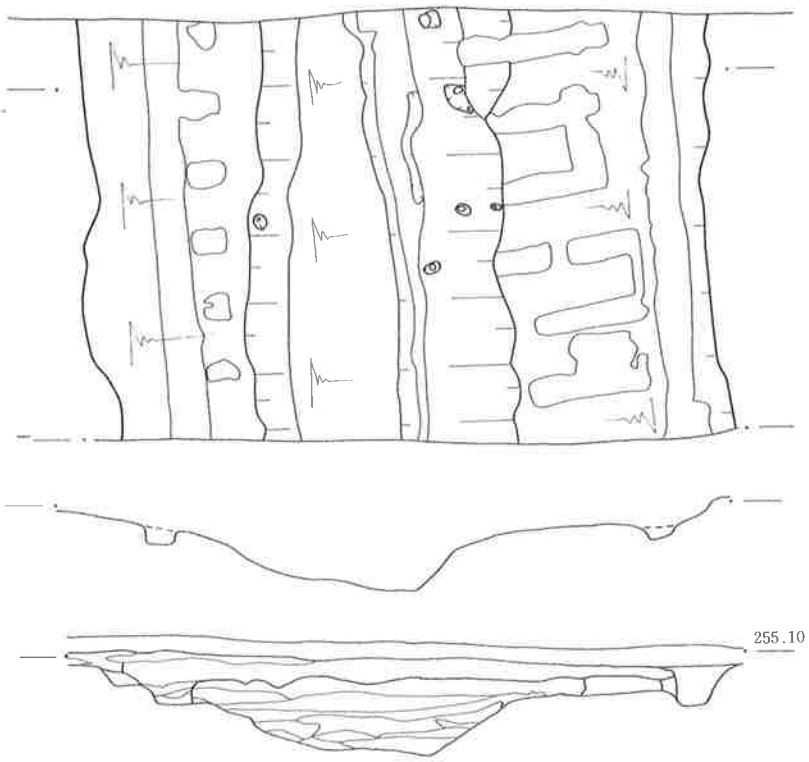
調査区のほぼ中央に位置する。ほぼ南北の走向を示し、現在の地割りにもこの溝の影響が残っている。

溝は２段に掘り込まれており、中段には耕作に関連すると思われる南北、東西方向の小溝が多数掘削されている。

検出面での上端幅約12ｍ中段での幅約5.5ｍ、下端幅約2.8ｍを測る。深さは検出面から約２ｍを測る。

東側の中段は平坦で、耕作による攪乱が特に激しい。

底面は東向きに傾斜しており、全面が床状に踏み固められていた。東端には水が流れた痕が残っている。



第177図　１号溝実測図

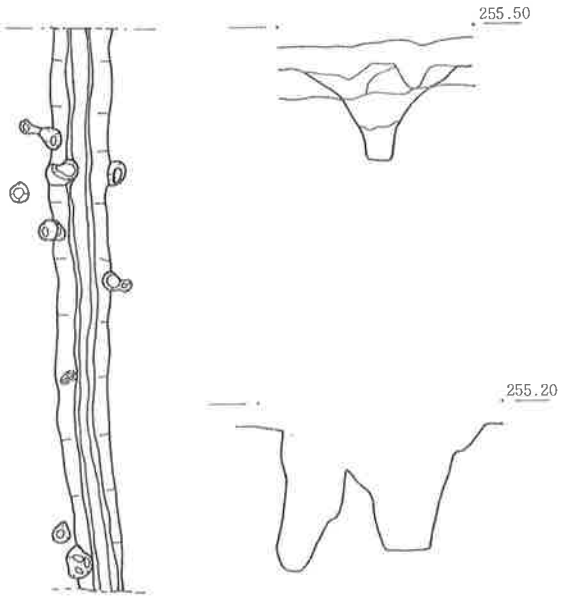
遺物は縄文時代の土器、石器が多量に出土したが、他には少量の土師器片が出土しただけで、遺構につくと思われる遺物は無かった。

長さ10ｍ程の調査であり、遺構の時期、性格共に積極的に判断する材料に欠けるが、遺構の出土状況その他から溝と言うよりも道路状遺構と思われ、現在伝えられる旧米野街道とは位置的に異なるものの、さらに古い街道址であり、時期は近世に属すると考えたい。

２号溝

調査区の西端に位置する。

ほぼ南北の走向を示し、断面形は箱薬研状を呈する。周縁に多数のピットが検出されており、関連するものと思われる。遺構につく遺物がない為時期は判然としないが、覆土、形状等から平安時代以降の構築と思われる。



第178図　２号溝実測図

4．検出された遺構と遺物（見眼遺跡Ｂ地区）

(1)　竪穴住居址

1号住居址

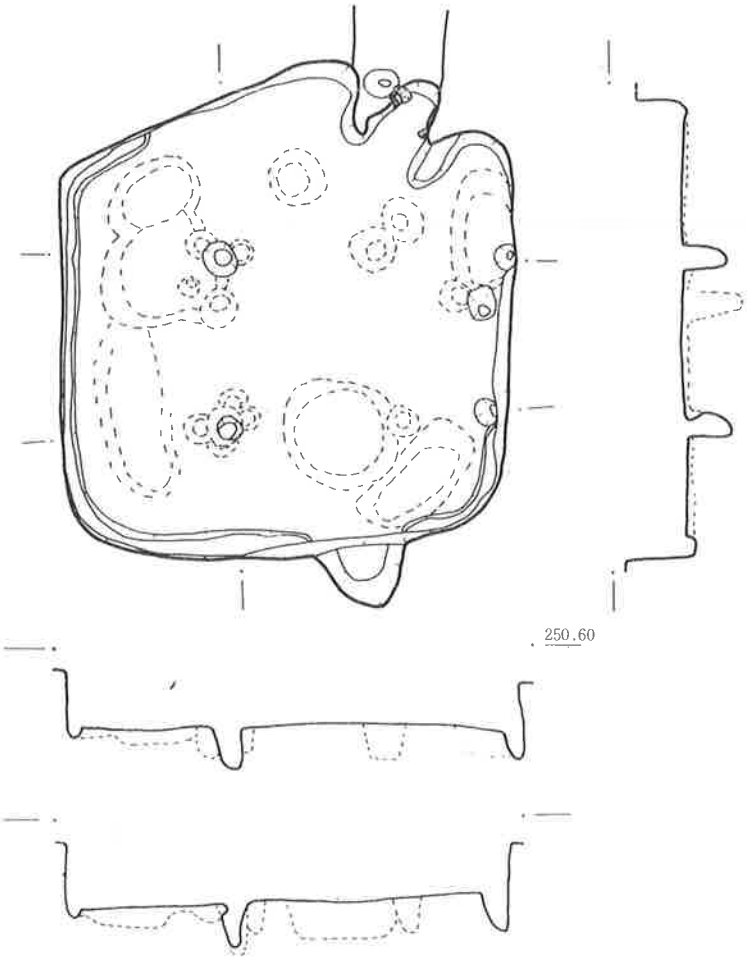
調査区の北端に位置する。

平面形状やカマドから重複住居として調査したが、建て替えもしくは拡張住居の可能性が強い。

中軸で東西 5.0m、南北4.6mを測る不正方形の住居で壁高約60cmを測る。

床は平坦であるが全体的に余り硬くない。北壁と東壁の一部、カマド部分を除く西壁から南壁にかけて浅い周溝が巡っている。

カマドは西壁南寄りと東南隅の２ヵ所に付設されているが、東南隅の方が新しい。西カマドは燃焼部の一部～煙道部の残存である。東カマドは東半部を耕作溝によって削平されているが粘土袖が残存している。又燃焼部の側壁は板状の礫や円礫で補強されている。



第179図　１号住居址実測図

主柱穴は北壁に並行して２本、南壁直下に２本が検出された。柱穴の規模は径30cm前後で、深さ約40cmを測る。床下調査の際に南壁寄りの床下から２本のピットが検出されたが、床面が軟弱だったこともあり、住居廃絶時点に柱穴として機していたか否か判然としない。又、北壁寄りの２本の主柱穴の周囲にも多数のピットが検出されており、２度以上の建て替えが行なわれた可能性もある。

床下調査の際には多数の土坑も検出されているが、南東隅に検出された長円形の１基は、覆土も住居覆土と同様な余りしまりのない、黒褐色土で、遺物も出土している為、貯蔵穴であった可能性がある。

遺物は多量に出土しているが覆土中のものが多く、又、大半は破片である。器種は土師器甕、小型台付甕坏、須恵器高台付埦、蓋、坏等が出土している。土器以外では刀子が東壁直下の床面直上から出土している。

２号住居址

13グリッドに位置する。西側は調査区域外で、調査部分の中央は耕作溝により削平されている。

南北3.2ｍで壁高約20cmを測る。カマドは東壁南寄りに付設されている。南東隅に径40cm、深さ30cm程の貯蔵穴と思われるピットが検出されている。カマド、貯蔵穴とも半分程を耕作溝により削平されている。

遺物は須恵器大甕の破片等が少量出土しただけである。遺構の時期は出土遺物から奈良時代と思われる。

３号住居址

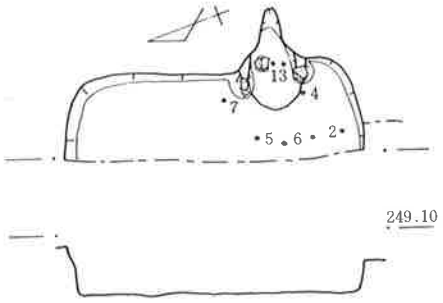
２号住の南約３ｍに位置し、東２ｍに４号住が近接する。西側の過半部は調査区域外であり全体の規模、形状等は不明である。

南北3.1ｍで壁高約40cmを測る。

カマドは東壁南寄りに付設されている。袖部が残存しており、補強材と思われる礫も遺存していた。燃焼部の中央部北寄りに支脚石が出土している。

遺物はカマドから大小２個体の坏が、袖石周辺及び、カマド前面の床面上から長胴甕が出土している。

遺構の時期は出土遺物から奈良時代と思われる。



第180図　３号住居址実測図

４号住居址

12～13グリッドにかけて位置する。平安時代の５号住が重複する。

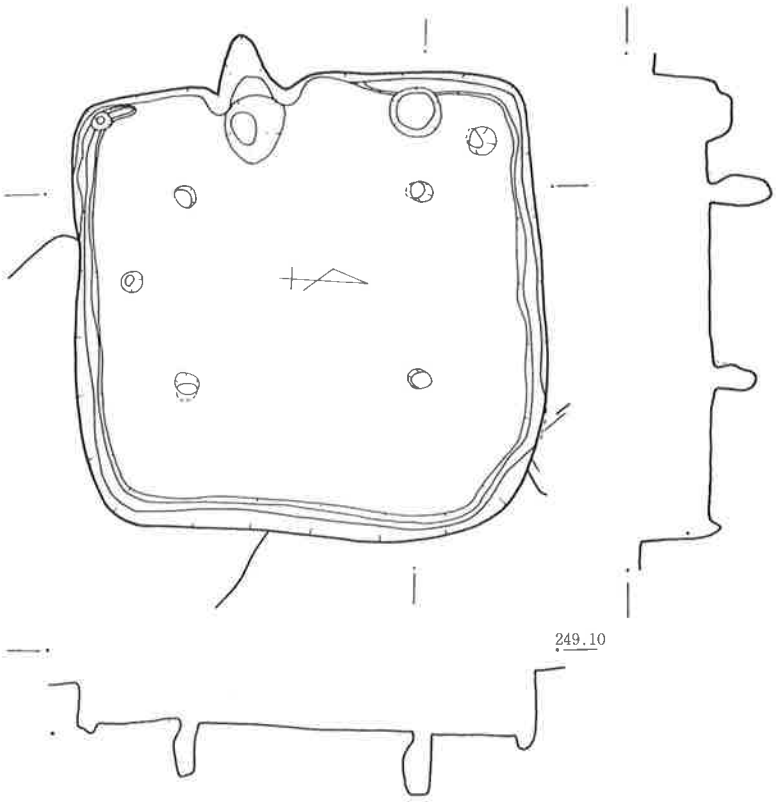
東西、南北ともに約4.8mを測る隅丸方形住居で、壁高は北壁で70cmを測る。

床は数回の貼り替えが認められ、南側が高くなっている。床面は非常に良く踏み固められている。カマド周辺を除いて壁周溝が巡っている。幅、深さとも約20cmを測る。

カマドは西壁南寄りに付設されており袖部がわずかに残存する。

主柱穴は４ヵ所に検出されており深さ約60cmを測る。

西壁沿いの北寄りに径60



第181図　４号住居址実測図

cm、深さ30cm程の円形を呈するピットがあり貯蔵穴と思われる。

遺物は比較的多量に出土しているが、残存状態は余り良くない。土師器甕、坏、須恵器蓋、坏、高台付埦等が出土している。

遺構の時期は出土遺物等から奈良時代と思われる。

5号住居址

4号住の東、南壁上に位置する。

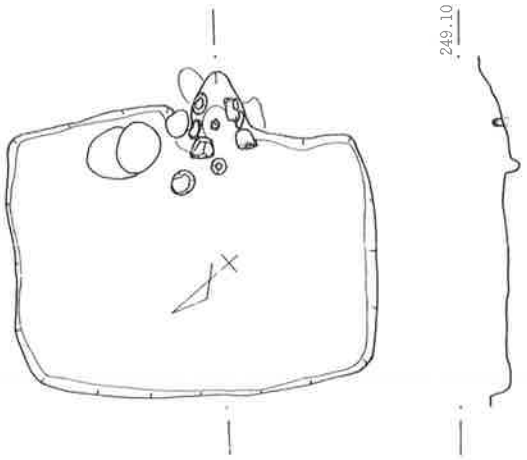
東西2.9m、南北3.6mを測る長方形住居址で壁高約20cmを測る。

床面は4号住との重複部分も含めて良く踏み固められており平坦である。

カマドは東壁南寄りに付設されているが後世の攪乱が激しい。石組カマドで支脚が残存する。

遺物はカマド内から羽釜、覆土中から鉄鏃、鉄鎌等が出土している。

遺構の時期は出土遺物から平安時代である。



第182図　5号住居址実測図

6号住居址

4号住の東約2mに位置する。東側は調査区域外であり区域内のほとんどは攪乱を受けている為に詳細は不明である。南北約4.5mを測り、残存壁高は10cm程である。遺物は少量出土しただけであるが、半完形の須恵器高台付埦が出土しており、平安時代に属すると思われる。

7号住居址

11グリッドに位置する。東側の大半は調査区域外である。南北約4.1mを測り残存壁高15cm程である。

遺物は覆土中から少量出土しただけであり、時期を判断する材料に欠けるが、奈良時代の遺構の可能性が強い。

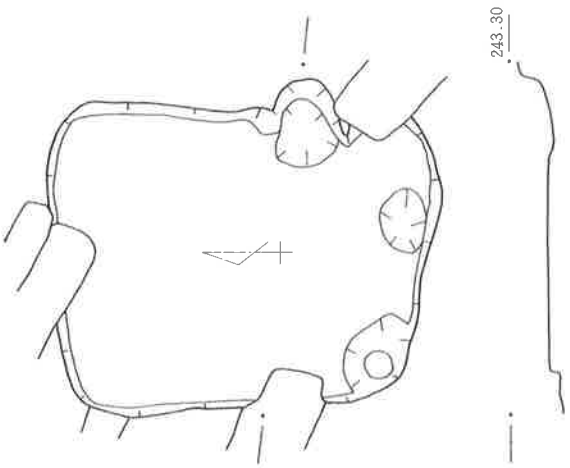
10号住居址

2号住の北約5mに位置する。

カマド周辺だけの調査であり住居の規模、形状等は不明である。

カマドは東壁に付設されている。

遺物は少量出土しただけであるが、カマドの形状等も併せて考えると奈良時代の住居址と思われる。



第183図　11号住居址実測図

11号住居址

5グリッドに位置する。12、13号住が南約6mに近接する。耕作溝による攪乱を受けている。

東西3.2m、南北4.0mを測る長方形住居で、壁高は約20cmである。

床面は平坦で良く踏み固められており、壁の立ち上がりは比較的ゆるやかである。

カマドは東壁南寄りに付設されており、短かいローム袖が残存する。燃焼部は浅く掘り窪められている。

南西隅に深さ20cmのピットが検出されており、貯蔵穴の可能性もある。

遺物はカマド周辺を中心に土師器甕、坏が出土している。

遺構の時期は出土遺物から奈良時代と思われる。

12号住居址

11号住の南西約６ｍに位置する。西側の過半部は調査区域外である。

南北約4.3mの規模を有し、壁高は北壁で約50cmを測る。カマドは東壁の南寄りに付設されており、袖部から煙道先端までの長さ約90cmを測る比較的大型の粘土カマドである。

出土遺物は少ないが、完形の須恵器坏が床面から出土している。

遺構の時期は出土遺物等から奈良時代と思われる。

13号住居址

12号住の東側約３ｍに位置する。東壁北半部は攪乱されている。

東西2.3m、南北2.7mを測る小型長方形住居で、壁高10cm前後で浅い。床面は軟弱で耕作による攪乱痕が激しい。

カマドは東壁南寄りに付設されており、燃焼部は壁外に伸びている。燃焼部はごく浅く掘り窪められている。

遺物は少量の土器片が出土しただけである。

遺構の時期は遺構形状、出土遺物から平安時代と思われる。

第184図　13号住居址実測図

14号住居址

12号住の南方７ｍに位置する。カマドと浅い貼り床が部分的に残存する。

カマドは東壁に付設されていると思われ、羽釜須恵器坏の破片が出土している。

遺構の時期は平安時代と思われる。

15号住居址

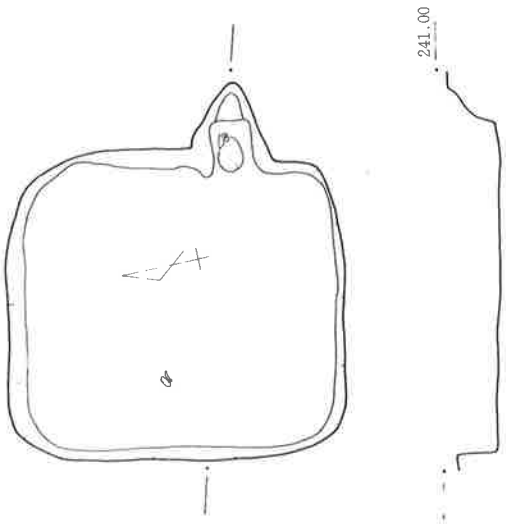
調査区の南端に位置する。

東西3.2m、南北3.4mの隅丸方形住居で残存壁高は北壁で60cmを測る。床面は平坦で軟弱である。

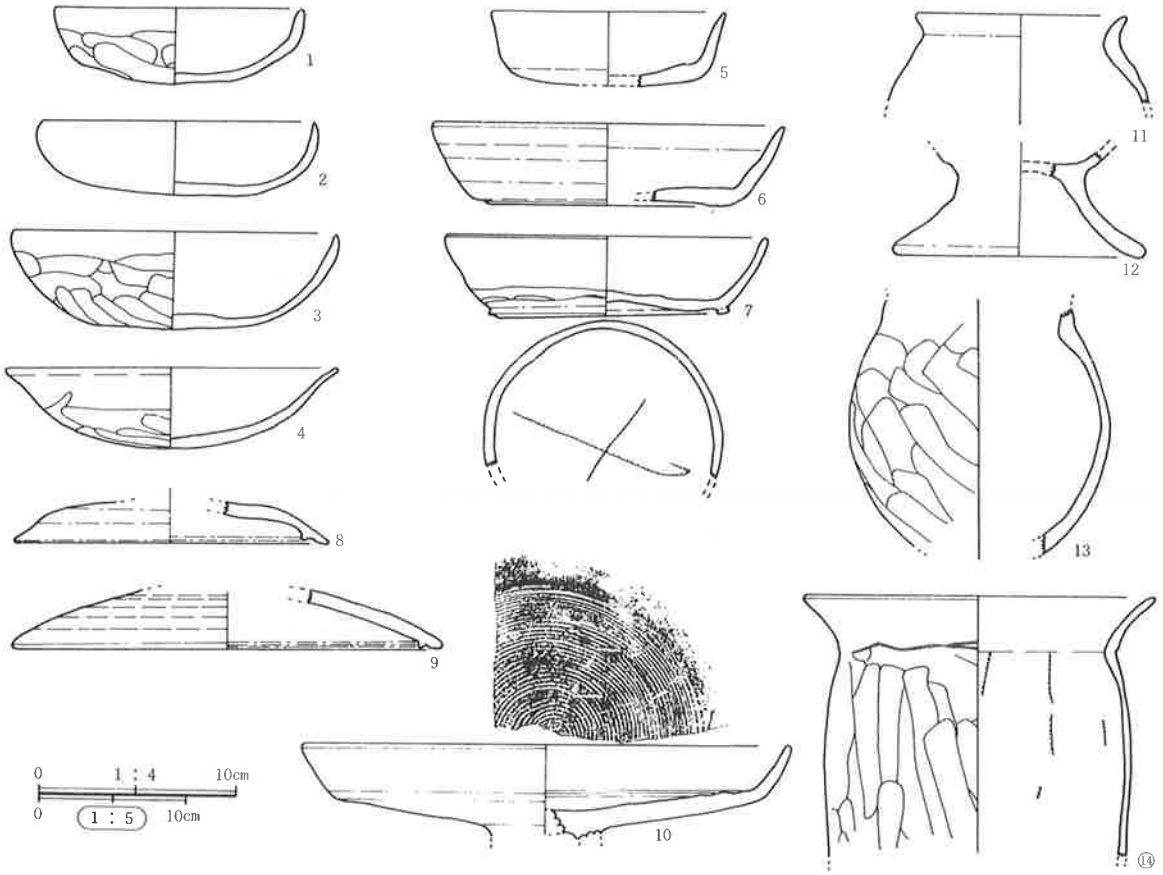
カマドは東壁南寄りに付設されており、燃焼部は方形の掘り方を有する。

遺物は覆土中も含めて少量出土しただけである。

出土遺物等から奈良時代の住居址と思われる。



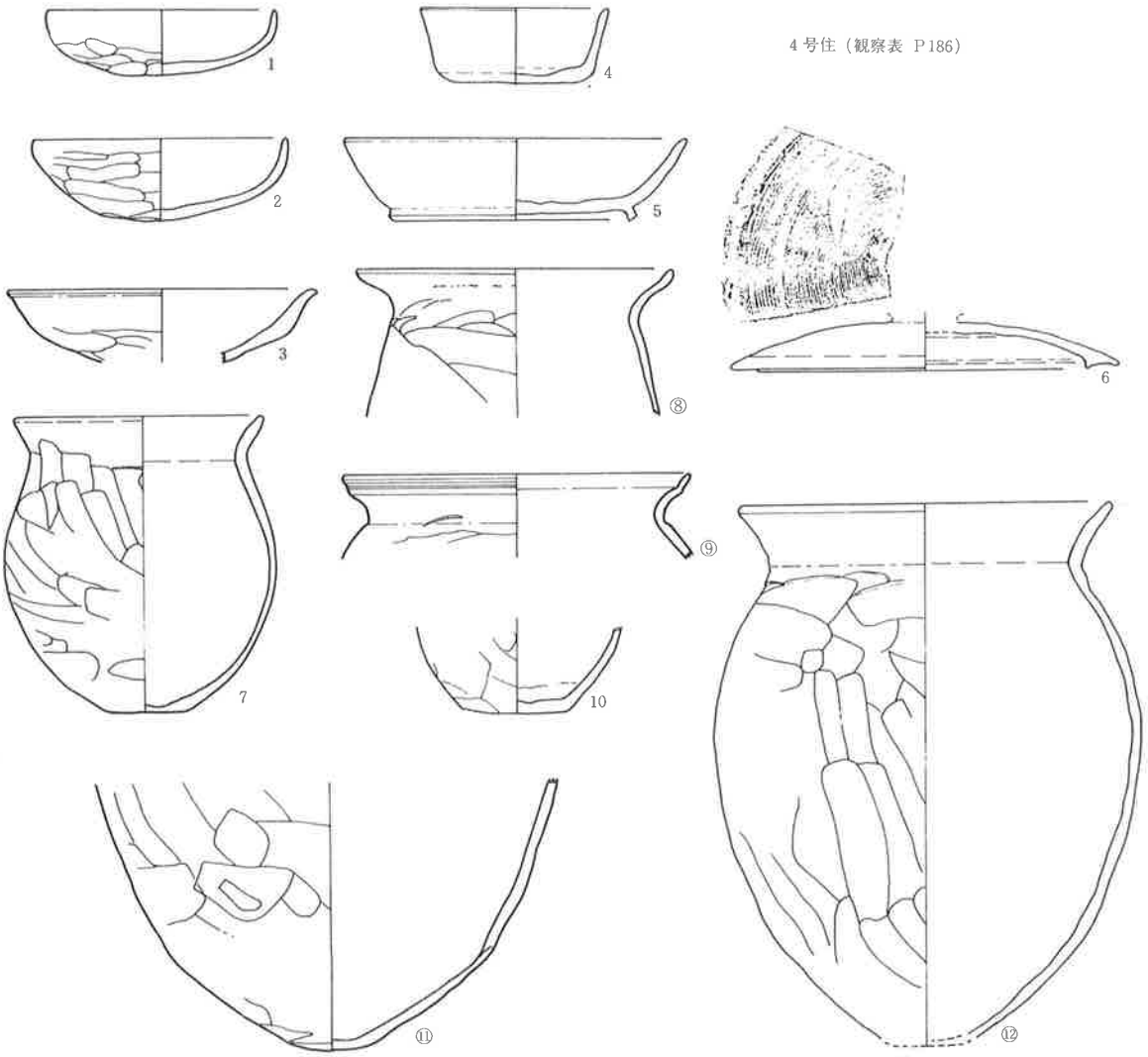
第185図　15号住居址実測図



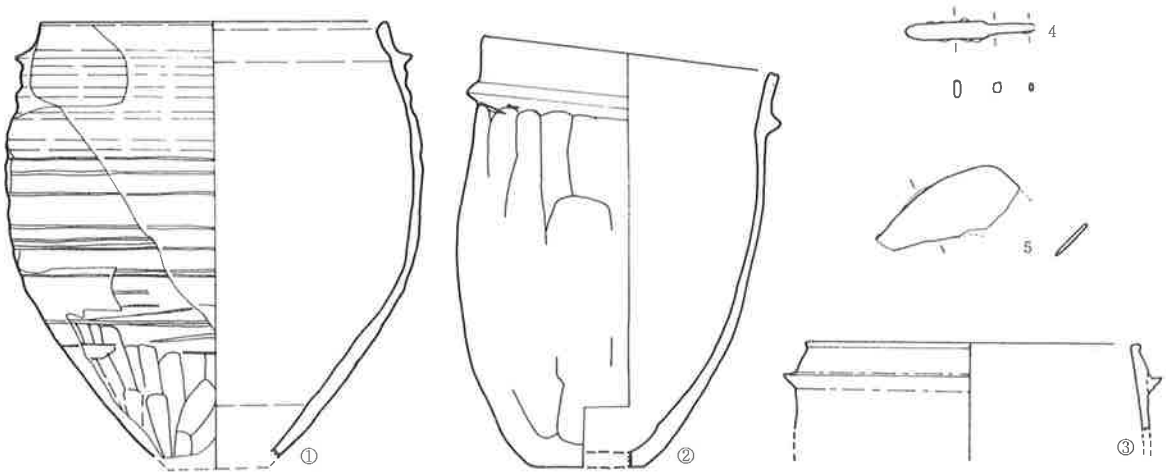
第186図　1号住居址出土遺物

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器　形、成・整 形 の 特 徴	備　　考
1号住居址（1）						
1	坏	床　直 一部欠損	口：12.6 高：3.9	粗砂、赤色粒、小礫含む。 橙色。	口縁～体部境の稜は比較的明瞭である。口縁部はほぼ直立する。　**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。**内面**：ナデ。	内面に砂粒脱痕多い。
2	坏	床　直 ¾	口：13.8 高：3.8	砂粒含む。 橙～黒褐色。	体部(底部)は比較的平坦で全体的に浅めの坏。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後底部中央を除きナデ。**内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	内面底部を除き、多量の黒色付着物（一部タール状）
3	坏	床　直 ½	口：16.6 高：5.0	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：口縁～体部ヨコナデ、底部ナデ。	
4	坏	フク土 ½	口：16.9 高：4.0	砂粒、雲母含む。 にぶい橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	内面に砂粒脱痕が多い。
5	坏 （須恵器）	床　直 ¼	口：12.0 底：10.2 高：3.8	砂粒少量含む。 灰白～灰色。	右回転ロクロ成形。底部手持ちヘラケズリ。 内、外面とも回転ナデ。　還元炎焼成。	
6	埦 （須恵器）	フク土 ⅓	口：18.6 底：12.8 高：4.2	細砂粒少量含む。 灰白色。	右回転ロクロ成形。底部回転ヘラ切り後ナデ。回転ヘラケズリにより擬高台を作り出す。 内・外面とも回転ナデ。　還元炎焼成。	還元炎焼成。

4号住（観察表 P186）



5号住（P186）



0　1：4　10cm
0　1：5　10cm

第187図　4・5号住居址出土遺物

3号住（観察表 P185）

6号住（P187）

10号住（P187）

12号住（P187）

11号住（P187）

15号住（P187）

14号住（P187）

0　1：4　10cm

0　1：5　10cm

第188図　3・6・10・11・12・14・15号住居址出土遺物

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器　形、成・整 形 の 特 徴	備　　考
1号住居址 (2)						
7	高台付埦 (須恵器)	壁面、床上10cm ⅔	口：16.5 底：12.2 高： 4.2	砂粒含む。 灰色。	右回転ロクロ成形。底部回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ。(後回転ナデ)高台貼付後接合部雑な調整。底部外面を除き回転ナデ後底部内面ナデ。	還元炎焼成。 底部外面「Ｘ」印の線刻。
8	蓋 (須恵器)	フク土 ⅛	口：16.0	粗砂含む。 灰色。	右回転ロクロ成形。**外面**：天井部中央回転ヘラケズリ、体部カキ目、口縁部回転ナデ。**内面**:回転ナデ。	還元炎焼成。
9	蓋 (須恵器)	フク土 ¼	口：22.0	細砂、黒色粒含む。灰白色。	右回転ロクロ成形。**外面**：天井部～体部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ。**内面**：回転ナデ。	半還元炎焼成。
10	(台付)盤 (須恵器)	フク土 ¼	口：25.0	粗砂、黒色粒含む。 灰色。	右回転ロクロ成形。**外面**：口縁部回転ナデ、底部(カキ目状)回転ナデ。**内面**：口縁部回転ナデ、底部カキ目。	自然釉が多量に付着。 還元炎焼成。
11	小 型 甕	フク土 ⅔	口：10.8	粗砂、長石含む。 黒褐色。	荒れていて整形不明瞭。**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ(後ナデ)。**内面**:口縁部ヨコナデ、胴部ナデ？	胴部内面に粒状炭化物付着。軟質。 全面に火を受ける。
12	台 付 甕	フク土 接合部¼ 台部　¾	裾：13.0	粗砂、長石含む。 にぶい褐色。	大きく外反する。 **外面**：縦ヘラケズリ後ナデ。裾端ヨコナデ。 **内面**：ヨコナデ。	11と同一個体と思われる。 軟質。
13	小 型 甕 (台付)	カマド ⅔	胴：13.4	細砂粒含む。 橙～褐灰色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	
14	長 胴 甕	床　直 ¼	口：23.0	細砂粒、雲母含む。橙色～にぶい橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	頸部にヘラ痕が深く残る。
3号住居址						
1	坏	カマド 完　形	口：11.9 高： 3.4	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：全面ナデ。	内外面黒色付着物。
2	坏	床　直 ほぼ完形	口：15.2 高： 5.0	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	内外面黒色付着物。
3	坏	カマド 一部欠損	口：17.8 高： 4.0	砂粒、赤色粒、雲母含む。橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	
4	長 胴 甕	カマド右袖 一部欠損	口：22.6 胴：19.5	細砂粒多量に含む。橙色～にぶい橙色。	張りのない胴部から口縁部が大きく外反する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	胴部外面から口縁部内面にかけて煤付着。
5	長 胴 甕	床　直 ほぼ完存	口：23.2 胴：20.0	砂粒、小礫、赤色粒含む。 にぶい橙～橙色。	張りのない胴部から口縁部が内湾気味に開く。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部外面中央に接合痕を残す。 少量の煤付着。
6	長 胴 甕	床　直 ほぼ完形	口：22.2 胴：20.2 底： 5.8 高：34.0	粗砂、赤色粒含む。 にぶい橙色～橙色。	頸部が強く縊れ肩部に丸味を持つ。口縁部は強く外傾する。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	胴部下端～底部に黒斑。
7	丸 胴 甕	左袖上部 口縁部⅔ 胴部　⅓	口：26.0	砂粒多量に含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器　形、成・整形の特徴	備　　考
4号住居址						
1	坏	フク土 ½	口：11.7 高：3.5	砂粒含む。 にぶい橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部周縁ユビナデ。**内面**：ヨコナデ。	底部に黒斑。
2	坏	フク土 ⅗	口：13.3 高：4.3	粗砂含む。 橙色。	体部全体に丸味があり、口縁部が短かく立つ。 **外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：ヨコナデ、ナデ。	
3	坏	フク土 ⅙	口：(16.0)	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 **内面**：ヨコナデ。	
4	坏 (須恵器)	フク土 ½	口：9.8 底：7.8 高：3.9	粗砂含む。 灰色。	回転ロクロ成形。切り離し技法不明。底部手持ちヘラケズリ、底部周縁ヘラ調整。他は内・外面回転ナデ。	還元炎焼成。
5	高台付椀 (須恵器)	フク土 ⅕	口：(17.6) 底：(12.8) 高：4.2	粗砂含む。 灰色。	回転ロクロ成形。付高台、底部回転ヘラケズリ後(回転)ナデ。他は回転ナデ。 高台端部内側は鋭角である。	還元炎焼成。
6	蓋 (須恵器)	フク土 ¼	口：20.0	粗砂少量含む。 灰色。	**外面**：カキ目。**内面**：回転ナデ。 口縁部内面に「下」の線刻。	還元炎焼成。
7	小型甕	床　直 ½	口：16.6 底：5.0 高：19.0	粗砂、赤色粒多量に含む。 暗赤褐色。	底部は小さな平底。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ、底部ナデ？。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	胴部に黒斑。
8	長胴甕	床　直 口縁部¾ 胴部一部	口：21.0	細砂粒含む。 橙色。	口縁部上半は強いヨコナデにより内湾する。口唇直下外面窪む。　**外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。**内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	
9	長胴甕	フク土 ⅓	口：23.0	砂粒含む。 橙色。	胴部は丸味を持つと思われる。口縁部は直立気味に立ち上がり強く外反する。上半は外面の強いヨコナデにより稜を経て立ち上がる。 **外面**：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。 **内面**：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁部外面中位に接合痕残す。
10	長胴甕	床　直 完　存	底：5.0	砂粒含む。 黒褐色。	**外面**：胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ後ナデ。 **内面**：ナデ。	内面全体に暗赤褐色の付着物。
11	丸胴甕	カマド底面 ¼	底：6.0	砂粒含む。 にぶい橙色。	**外面**：胴部ヘラケズリ後下部ナデ。底部ナデ。 **内面**：ナデ。	接合痕を明確に残す。
12	甕	床　直 ½	口：24.0 胴：27.4	砂粒多量に含む。 橙色。	胴部のほぼ中位に最大径を持つ。　口縁部ヨコナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面ナデ。	胴部内面は全体が黒褐色を呈す。
5号住居址 (1)						
1	羽　釜	カマド ⅙	口：22.6 胴：27.1	粗砂、赤色粒含む。赤褐色～にぶい褐色。	小さな底部から胴部が急角度で立ち上がり、上半が膨みを持つ。胴上半部の器厚は薄い。鍔は三ヵ月状で下向き。　回転ロクロ成形。 内・外面回転ナデ後胴下端部縦ヘラケズリ。	酸化炎焼成。
2	羽　釜 (須恵器)	カマド ⅗	口：19.4 底：7.5 高：28.2	粗砂、石英粒含む。灰色～にぶい橙色。	口縁部はほぼ直立する。鍔は断面三角形状を呈す。胴部は余り張らない。回転ロクロ成形。 **外面**：口縁部回転ナデ、胴部縦ヘラケズリ後ナデ。底部ナデ。**内面**：口縁部回転ナデ、胴部ナデ。	半還元炎焼成。

番号	器　種	出土位置 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器　形、成・整 形 の 特 徴	備　　考
5号住居址 (2)						
3	羽　釜 (須恵器)	カマド ⅛	口：21.6	粗砂、白色粒含む。灰色。	鍔は三カ月状で上反りする。口唇部は外面へ張り出す。　胴部外面へラケズリ、他は回転ナデ。	還元炎焼成。 器厚は薄い。
4	鉄　鉄					
5	(鉄鎌？)					
6号住居址						
1	埦 (須恵器)	フク土 ¼	口：15.2 底：7.8 高：4.6	粗砂含む。 灰色。	右回転ロクロ成形。底部回転糸切り後周縁強い回転ナデにより高台を作り出したか、薄く粘土を貼付する。	還元炎焼成。
10号住居址						
1	坏	フク土 ⅛	口：11.8	砂粒含む。 にぶい橙。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ。 **内面**：ヨコナデ。	
11号住居址						
1	坏	カマド ¼	口：13.6 高：3.2	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ、体部周縁ユビナデ。**内面**：ヨコナデ、ナデ。	
2	坏	フク土 ¼	口：12.8	砂粒含む。 橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、体部へラケズリ、体部周縁ユビナデ。**内面**：ヨコナデ。	
3	長 胴 甕	床上5cm ½	口：24.6	砂粒含む。にぶい橙～橙色。	口縁端部内面が強いヨコナデにより窪む。　口縁部ヨコナデ。胴部：外面へラケズリ、内面ナデ。	
4	長 胴 甕	カマド、床直 ⅔	底：4.4	砂粒含む。 橙色。	**外面**：胴部へラケズリ、底部へラケズリ後ナデ。 **内面**：ナデ。	胴部下端に白色の付着物。
12号住居址						
1	杯 (須恵器)	床　直 完　形	口：12.4 底：7.6 高：4.2	黒色粒多量に含む。砂粒少量。 灰色。	焼成時に黒色粒が膨張、破裂し、瘤となっている。右回転ロクロ成形。底部回転糸切り後周縁及び体部との境をへラ調整(ナデ)、他は回転ナデ。	還元炎焼成。 非常に硬質。
2	甕？	完　存	底：6.4	砂粒含む。	**外面**：胴部目の粗いハケメ、底部 **内面**：目の細いハケナデ。	
14号住居址						
1	羽　釜	カマド ⅛	口：24.4	粗砂、赤色粒含む。にぶい橙～橙色。	**外面**：口縁部ヨコナデ、鍔上面ナデ、先端ミガキ、下面　ケズリ(ミガキ？)、胴部縦へラケズリ。 **内面**：横ナデ。	酸化炎焼成。
15号住居址						
1	坏 (須恵器)	フク土 ½	口：13.4 底：8.2 高：3.9	白色粒含む。 灰色。	回転ロクロ成形。底部回転へラ切り後ナデ。他は回転ナデ。底部に成形時の荒れが目立つ。	還元炎焼成。

(2)　掘立柱建物址

以下で記述する掘立柱建物址、溝、火葬墓は方位に類似性が伺われ、時期的に多少は前後するものの、比較的近い時期に属すると思われ、一連の遺構群を構成していた可能性がある。

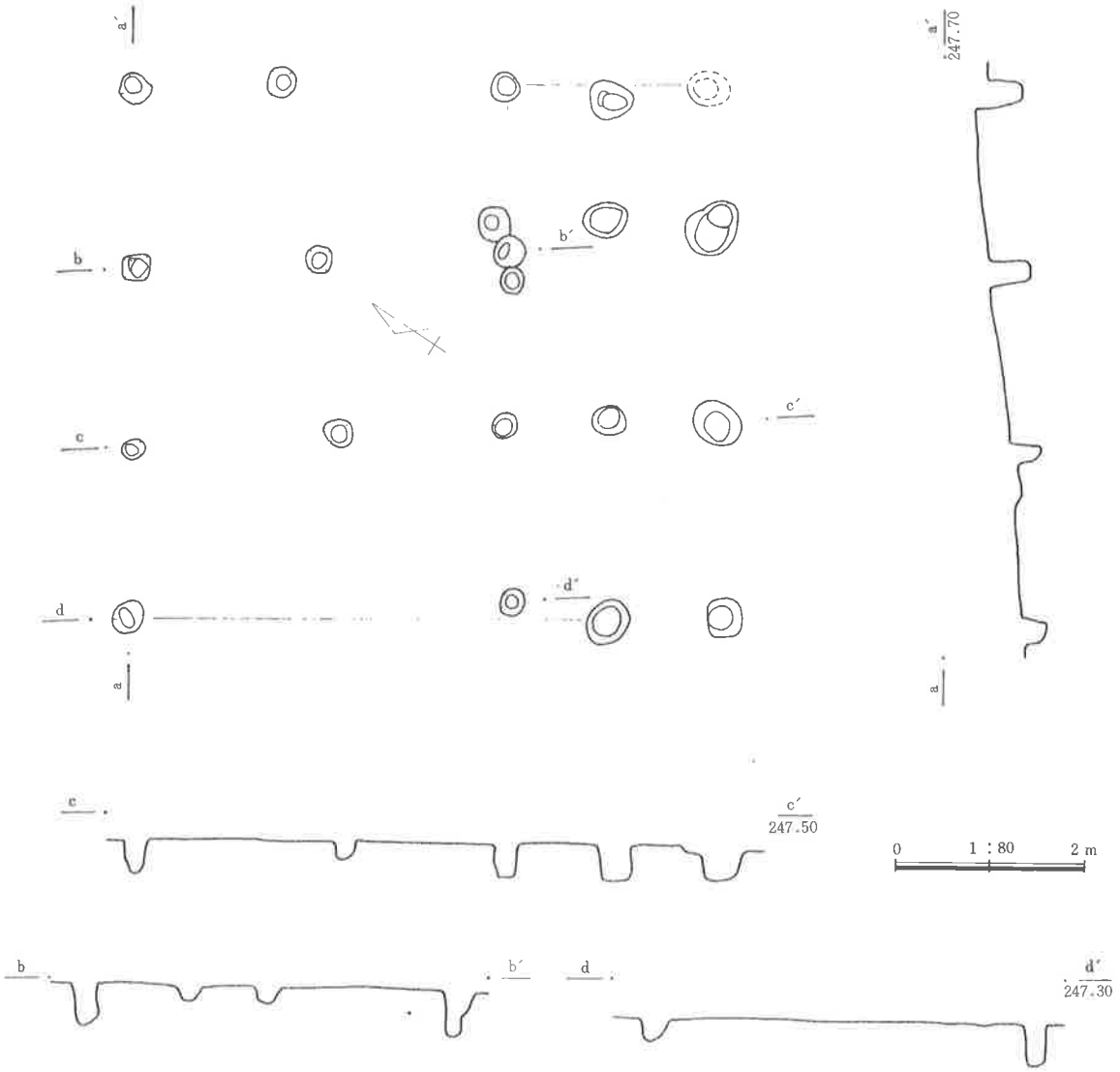
２・３号掘立は、当初、竪穴状部分を８・９号住居址として調査を行なった。

１号掘立

調査区域の中程、９グリッドに位置する。北側に２・３号掘立が近接する。

身舎部分２間×３間、4.0m×5.6mを測り、13尺×18.5尺の規模と推定される。柱穴規模は径20～30cm、深さ20～50cmを測り、円形プランを呈するものが多い。

身舎の南側には径40cm前後の柱穴列が２列検出されており、柱穴規模は異なるものの配列の状態から判断して関連する遺構と考えた。但し、一般的な庇等の配列状況と異なる為、どのような構造を呈していたか不明である。この柱穴列まで含めると、南北6.2m、20.5尺程の規模になる。



第189図　１号掘立柱建物実測図

第190図　2・3号掘立柱建物址実測図

2・3号掘立

1号掘立の北側に接して検出された。重複関係にあると思われるが新旧は不明である。又、2号溝とも重複しており、掘立の方が新しい。

2号掘立は2間×4間で4.6m×8.0mを測り、15尺×26.5尺の規模と推定される。火葬墓が北東端に重複しており、火葬墓よりも新しいと思われる。柱穴の掘り方は方形を呈するものが多く、柱痕を残すものもあった。但し、調査技術、調査期間等の関係から柱痕部のみの調査しか行なわず、掘り方部分が未調査の柱穴もあり、実測図上では規模、形状にバラツキがある。柱痕の検出された柱穴の掘り方部分の埋土には多量のロームが混入しており、固くしまっていた。

掘立の柱穴列内部には竪穴状の掘り込みがあり、底面は床状に踏み固められていた。又、東端部は溝状に掘り込まれている。竪穴部分の規模は7.4m×3.0mで、検出面からの深さ約20cmを測るが、東側が深く、西側は浅くなっている。2号溝の重複部分でも明瞭に床面を検出できた。竪穴状部分の縁辺にも柱穴列が検出されている。なお、掘立の西側にも柱穴があり庇の可能性がある。

3号掘立は東側が調査区域外となり、さらに東側へ伸びる可能性があるものの、東端で収束するとすれば2間×6間、4.1m×13.5mを測り、13.5尺×45尺の規模と推定される。柱穴の規模は2号掘立と比較すると建物規模が大きいのにもかかわらず、全体的に小規模となり、円形プランを呈するものが多い。

2号掘立と同様に竪穴状の部分が残存するが、2号溝以西は削平された為か検出されなかった。

2・3号掘立は平面上では重複しており、新旧は判然としないものの前後関係があると思われるが、竪穴状部分は一部で連続するような様相も認められ、疑問を残している。

北東端の柱穴は柱穴列上になく、2基が並んでいるが、深さから考えると南側の柱穴の可能性が強い。

(3)　溝

調査区域内に4条の溝が検出されているが、ここでは2号溝について記述したい。

2号溝は2・3号掘立と重複しており、2・3号掘立の方が新しい。上端幅1.8m、下端幅1.0m、検出面からの深さ約60cmを測る。遺物は数点の土器小片が出土しただけで遺構の時期は判然としない。

(4)　火葬墓

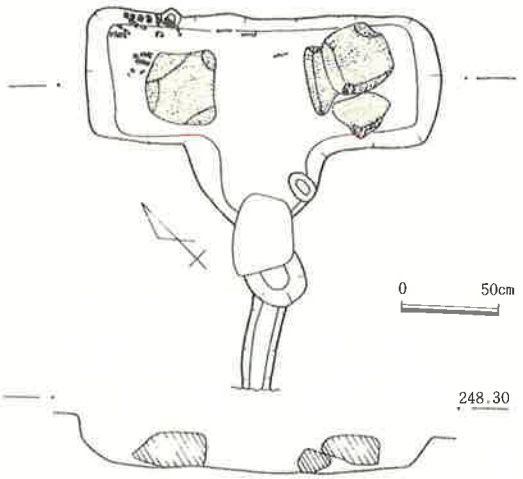
2号掘立の北東端に重複して検出された。

長軸182cm×短軸68cm、検出面からの深さ約30cmを測る長方形の掘り方の西側長辺の中央に径70cmの半円形の張り出し部分がある。

主体部の長軸の両端に30～40cmの方形を呈する扁平な石を据えており、炭化材、灰、焼土で内部が埋め尽くされていた。壁面は焼土化しており、底面からは鉄釘、骨片も出土している。

遺構の構築時期は、判断材料に欠けるが、2号掘立よりは古いと思われる。

張り出し部分の西側に2基の浅いピットと溝が検出されており、本遺構と関連する可能性もある。



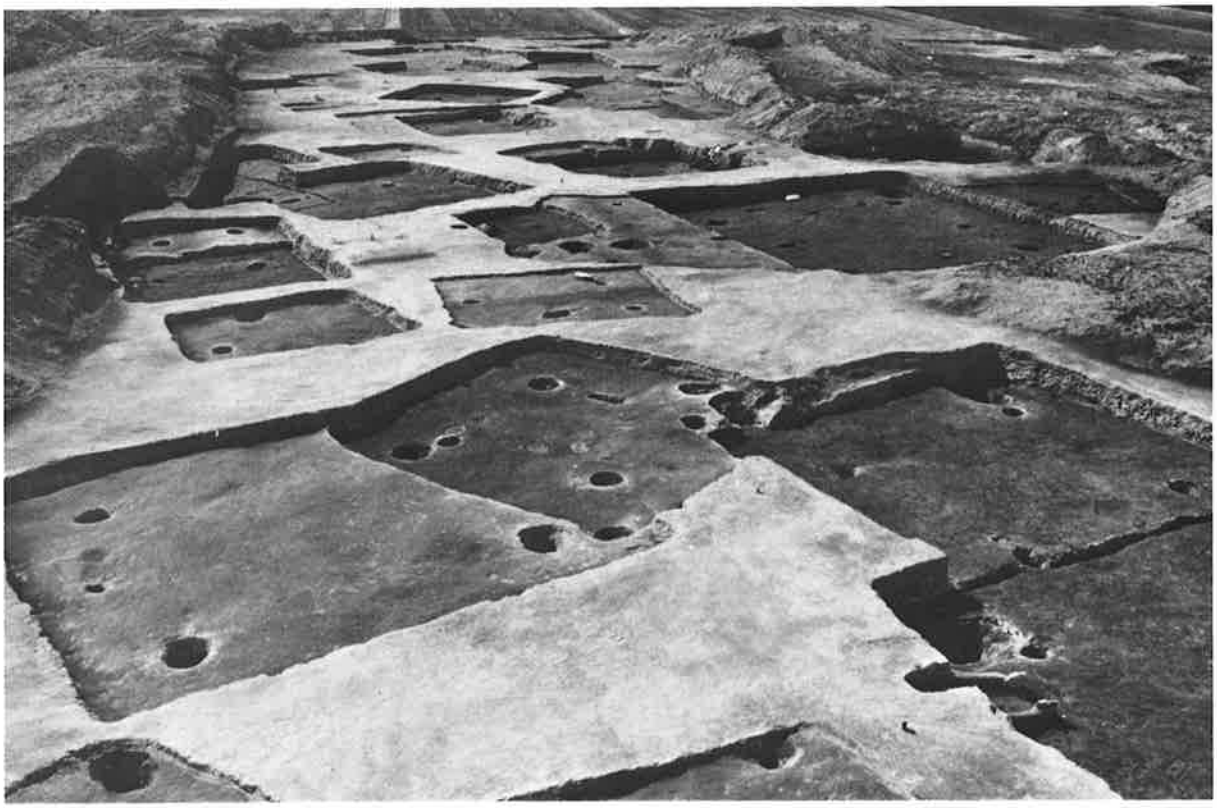
第191図　火葬墓実測図

写　真　図　版

写　真　図　版

田中田遺跡　1～25
窪谷戸遺跡　26～41
見眼遺跡　42～54

1．田中田遺跡遠景（西から）



2．田中田遺跡C区全景（北から）

1．田中田遺跡A区全景・溝（東から）

2．C区南半部遺構重複状況（北から）

3．調査地雪景色

4．J1号住居址遺物出土状態（北東から）

5．　同左　炉

1．J2号住居址全景（東から）

2．　同左　埋甕（西から）

3．J1号土坑全景（北から）

4．　同左遺物出土状態（南から）

5．J2～7号土坑全景（東から）

6．J3・4号土坑遺物出土状態（東から）

7．J5号土坑遺物出土状態全景（東から）

8．5号住居址全景（南から）

1．1号住居址全景

2．2号住居址全景

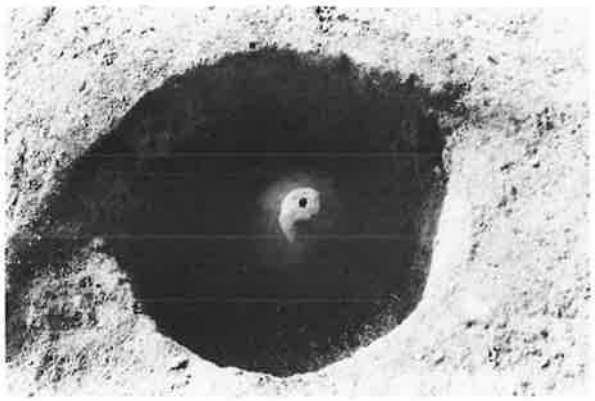
3．3号住居址全景（北から）

4．3号住居址遺物出土状態

5．4号住居址遺物出土状態全景　(西から)

6．　同左　炉

7．5号住居址全景（南から）



8．　同左貯蔵穴遺物出土状態

1．6号住居址全景（東から）

2．　同左遺物出土状態（北から）

3．7号住居址全景（北から）

4．8号住居址全景（北西から）

5．9号住居址全景（北東から）

6．10・40号住居址全景（東から）

7．11号住居址全景（西から）

8．12号住居址全景（北から）

1．13号住居址遺物出土状態全景（北から）

2．　同左、土層堆積状態（南から）

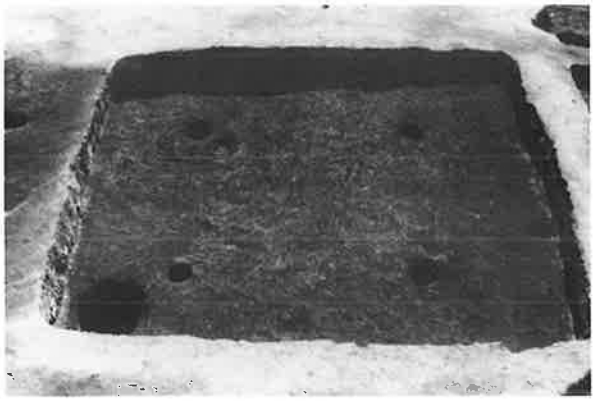
3．　同上遺物出土状態

4．　同左

5．14号住居址全景（北西から）

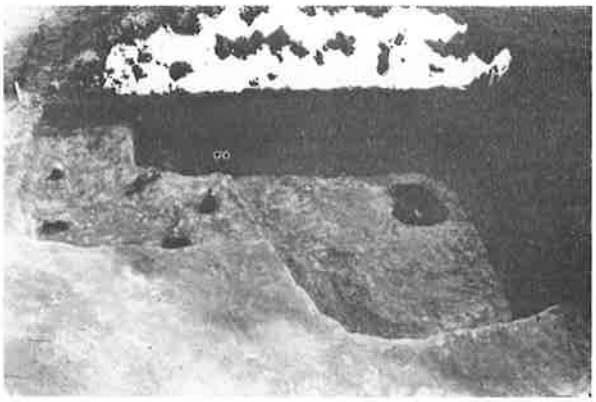
6．　同左　炉（北東から）

7．16号住居址全景（北東から）



8．17号住居址全景（北東から）

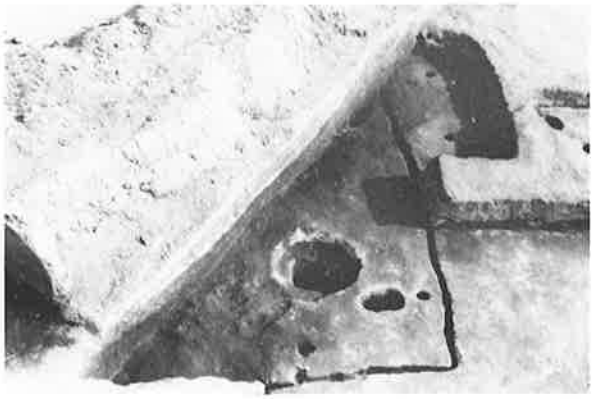
1．18号住居址全景（北から）



2．19～21号住居址全景（北から）

3．23号住居址全景（北から）

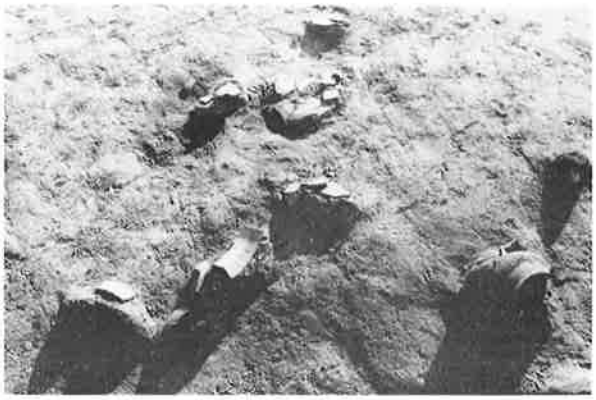
4．　同左　炉遺物出土状態（北から）



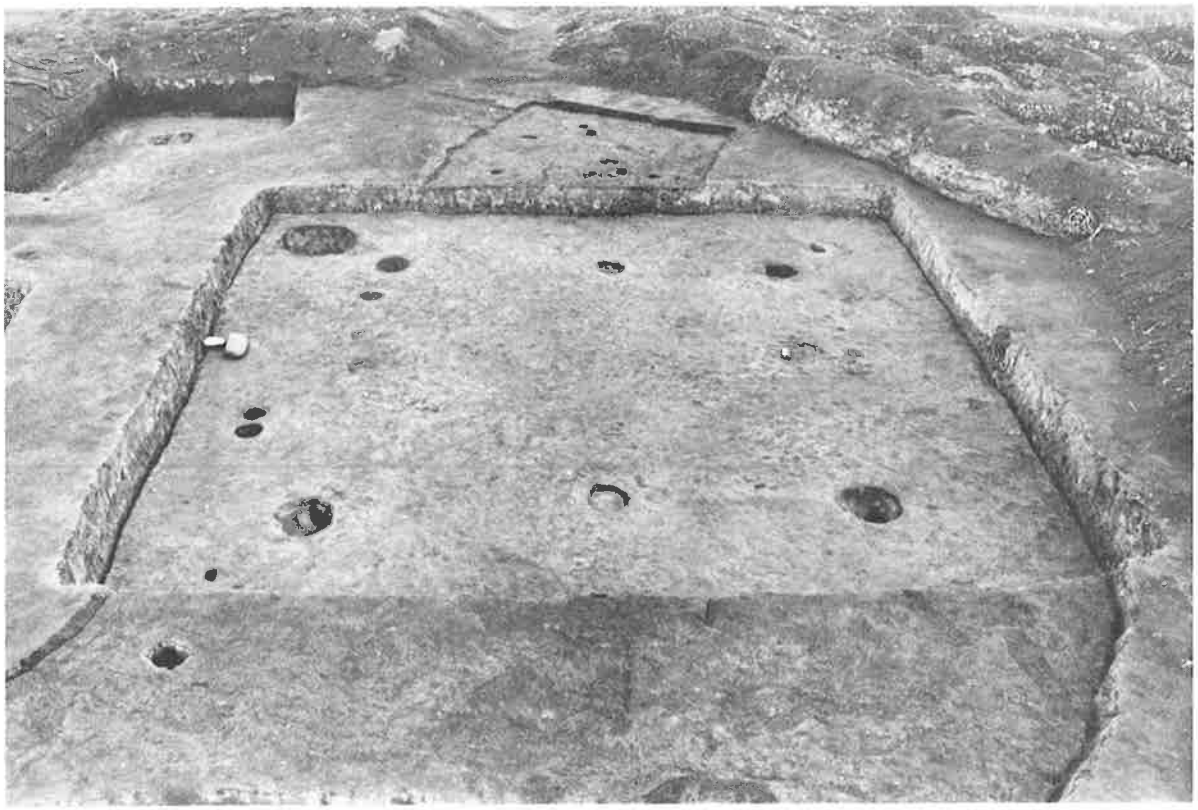
5．24・25号住居址全景（北から）

6．27号住居址全景（北から）

7．28号住居址全景（東から）



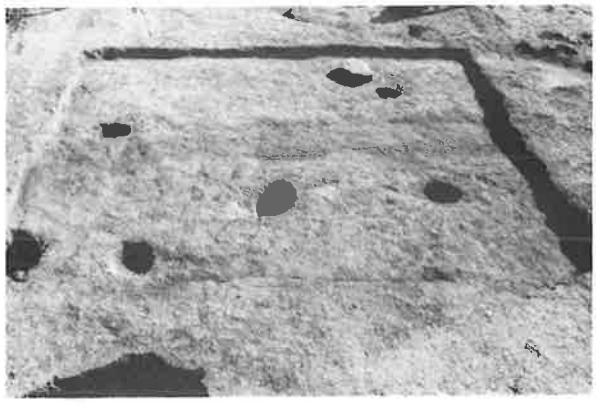
8．　同左遺物出土状態（北から）



1．26号住居址全景（東から）

2．　同上遺物出土状態（北から）

3．　同上　炉（北から）

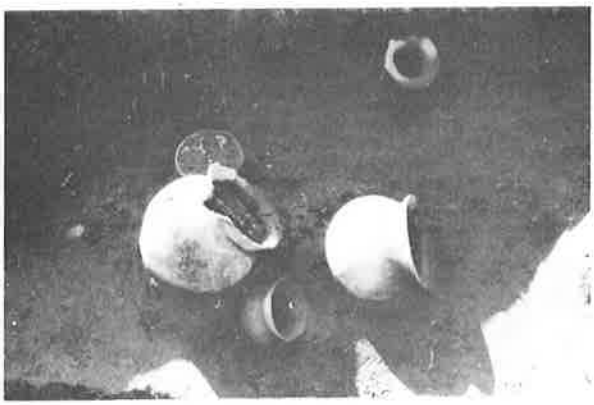


4．29号住居址全景（北から）

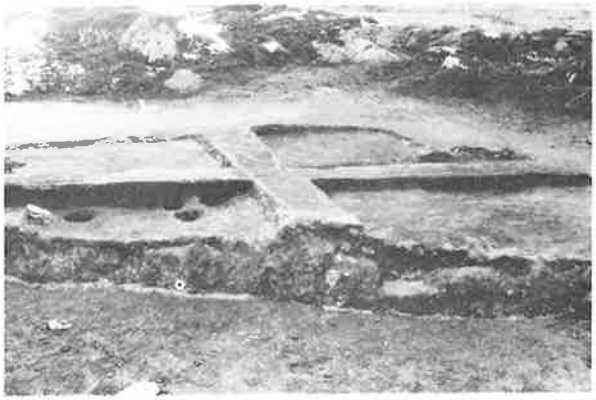
5．30号住居址全景（西から）

1．31号住居址全景（南から）

2．　同左遺物出土状態（東から）



3．　同上遺物出土状態（東から）



4．32号住居址全景（東から）

5．33・34号住居址全景（東から）

6．35・36・58号住居址全景（南東から）

7．37号住居址遺物出土状態全景（西から）

8．　同左遺物出土状態

1．38号住居址全景（北から）

2．43号住居址全景（南から）

3．39号住居址全景（西から）

4．　同左カマド（西から）

5．41号住居址全景（西から）

6．　同左カマド（西から）

7．42号住居址全景（西から）

8．　同左カマド

1．44号住居址全景（西から）

2．　同左カマド

3．45号住居址全景（西から）

4．46号住居址全景（西から）

5．47号住居址全景（西から）

6．　同左カマド（南西から）

7．48号住居址全景（西から）

8．　同左カマド

1．49・50号住居址全景（西から）

2．　同左遺物出土状態全景

3．49号住居址カマド

4．50号住居址カマド

5．52号住居址全景（東から）

6．　同左カマド前面石楽出土状態

7．54号住居址全景（西から）

8．　同左カマド

1．53A・B号・22号住居址全景（東から）

2．53A号住居址カマド

3．53A号住居址カマド

4．　同上

5．　同上

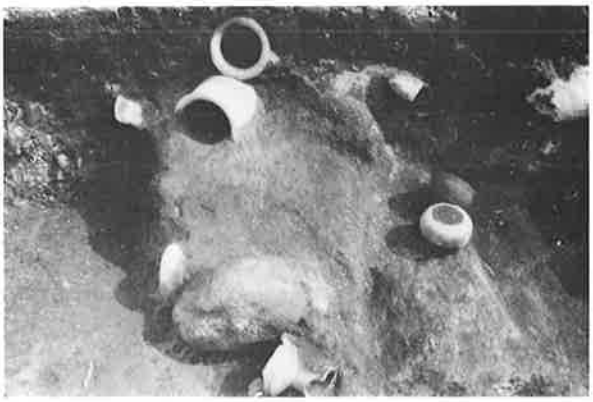
7．　同上

6．　同上

1．55号住居址全景（東から）

2．　同左カマド（西から）

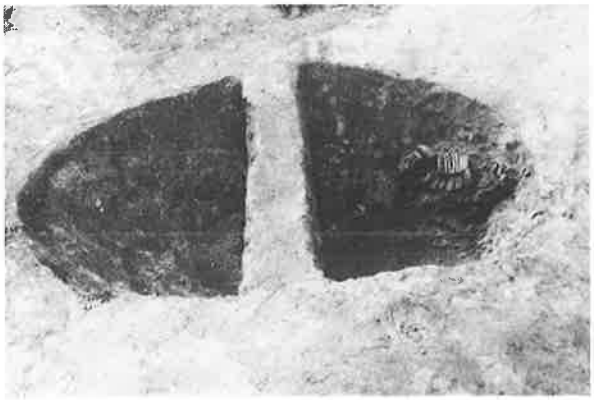
3．56Ａ・Ｂ号住全景（西から）



4．56Ａ号住居址カマド周辺遺物出土状態

5．57号住居址全景（西から）

6．　同左カマド



7．土坑墓（東から）

8．作業風景

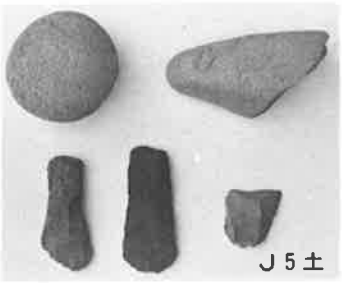
J1住3

J1住

J2住1

J1土2

J4土


J5土

J2住　J1土

J5土

J5土

J2～4土

1住1

2住1

2住3

4住2

4住3

3住1

4住4

4住6

4住5

3住3

4住8

4住11

6住3

6住9

6住6

6住10

5住1

5住2

8住1

8住3

9住1

10住2

10住1

14住2

16住1

17住1

19住2

21住1

22住1

23住1

23住2

24住1

25住1

25住2

25住3

27住1

13住 1
13住 2
13住 4
13住 6
13住 3
13住 5
13住 8
13住21
13住 9
13住10
13住 7
13住11
13住18
13住17
13住20
13住15
13住16
13住14
13住19

13住22

13住23

26住 6

26住 4

26住 3

26住 9

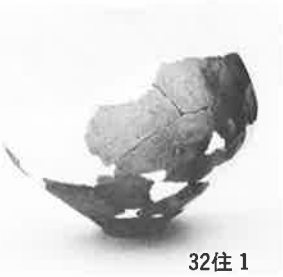
26住12

26住 2

26住 1

26住20

26住18


32住 1

34住 1

34住 6

34住 7

31住 7

31住 8

31住11

31住 9

31住10

31住12

31住 2

31住 3

31住 4

31住 5

31住 6

31住13

31住14

31住15

35住 2

35住 3

35住 4

35住 1

36住 3

36住 5

36住 6

36住 7

37住 1

37住 3

37住 4

37住10

37住11

37住12

37住13

38住 1

39住 3

39住 1

41住 5

41住 3

41住 2

41住 1

42住 3

42住 1

42住 2

42住 6

42住 7

42住 8

42住 9

42住 4

42住 5

44住 5

44住 2

44住 4

46住 1

44住 1

52住 2

44住 3

47住 2

45住 2

52住 1

49住 2

49住 3

50住 1

58住 1

53A住

53A住

53住A10

53A住

53A住

53A住

53A住

53A住

53A住

53A住

53A住

53A住

53A住

53A住

53A住13

53A住14

53A住17

54住2

54住3

57住 3

57住 2

57住 1

57住 5

57住 7

57住 6

56A住 3

56A住 1

56A住 2

56A住 4

56A住 6

56A住 7

56A住 5

56A住 8

56A住 9

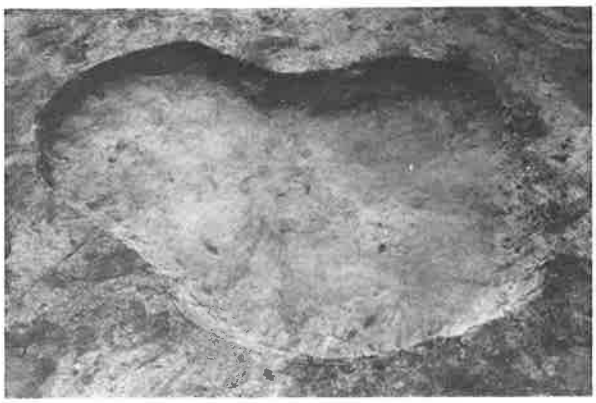
１．窪谷戸遺跡遠景（南西から）

２．窪谷戸遺跡Ａ区全景（南から）

1．窪谷戸遺跡B区全景（南から）

2．J1号住居址全景（北から）

3．J1号住居址遺物近接



4．J1・2号土坑全景（北西から）

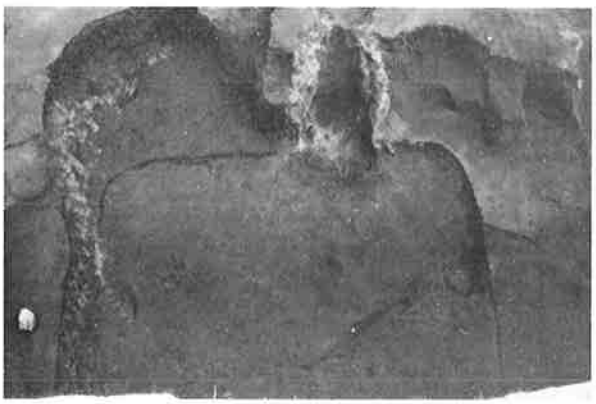
5．J1号土坑遺物近接

1．5号住居址全景（西から）

2．1号住居址全景（西から）

3．8号住居址全景（西から）

4．8号住居址カマド



5．12b号住居址全景（西から）

6．12b号住居址遺物近接

7．15号住居址遺物出土状態全景（西から）

8．15号住居址カマド

1．17号住居址遺物出土状態全景（北西から）

2．17号住居址遺物出土状態

3．19号住居址全景（西から）

4．20号住居址全景（北西から）

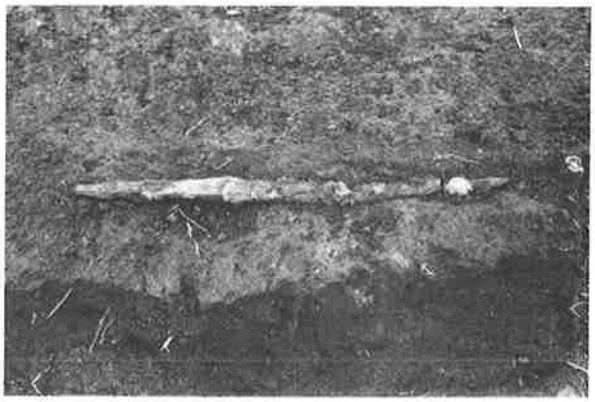
5．22号住居址全景（南西から）

6．23号住居址全景（西から）

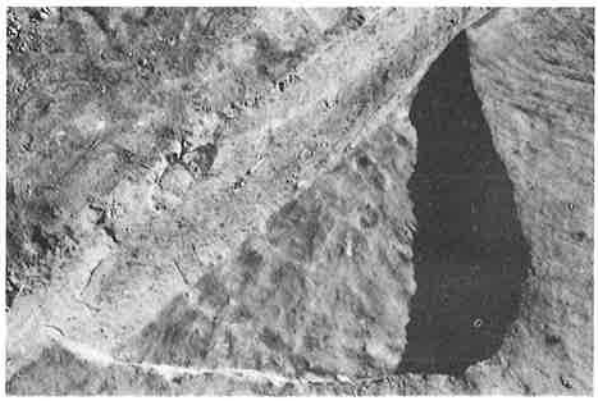
7．25号住居址遺物出土状態（西から）

8．25号住居址全景

1．26号住居址全景（西から）



2．26号住居址遺物近接



3．28号住居址（北から）

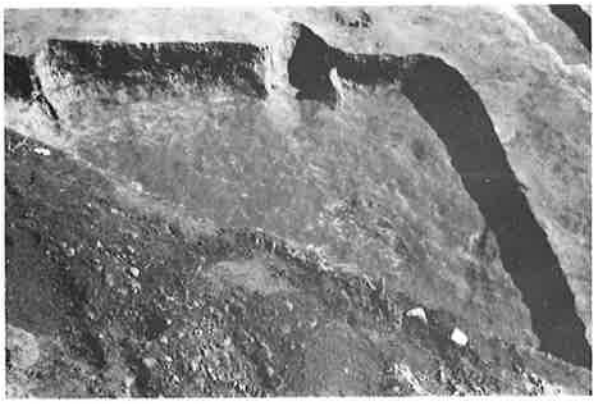
4．29号住居址遺物出土状態（西から）

5．31号住居址遺物出土状態全景（西から）

6．32号住居址（東から）

7．33b号住居址全景（西から）

8．33b号住居址遺物近接



1．34号住居址（西から）

2．35号住居址全景（西から）

3．36号住居址全景（西から）

4．36号住居址遺物近接

5．37号・38号住居址全景（西から）

6．37号住居址遺物出土状態全景（西から）

7．39号住居址全景（西から）

8．40号住居址全景（西から）

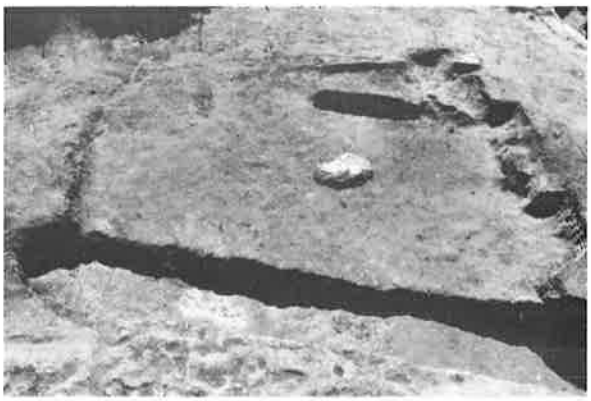
1．42号住居址全景（西から）

2．41号住居址（東から）

2．41号住居址全景（南東から）

3．43号住居址（北から）

5．46号住居址全景（西から）



6．２号住居址（北西から）

7．３号住居址全景（西から）

8．３号住居址遺物近接

1．4号住居址全景（北西から）

2．6号住居址（北から）

3．8号住居址全景北西から）

4．9号住居址全景（西から）

5．9号・10号・11号住居址カマド

6．10号住居址カマド遺物出土状態

7．11号住居址全景（西から）

8．11号住居址カマド遺物出土状態

1．12a号住居址（西から）

2．12a号・12b号・13号住重複土層

3．13号住居址全景（西から）

4．13号住居址カマドセクション

5．14号住居址全景（西から）

6．14号住居址カマド

7．16号住居址全景（西から）

8．16号住居址カマド遺物出土状態

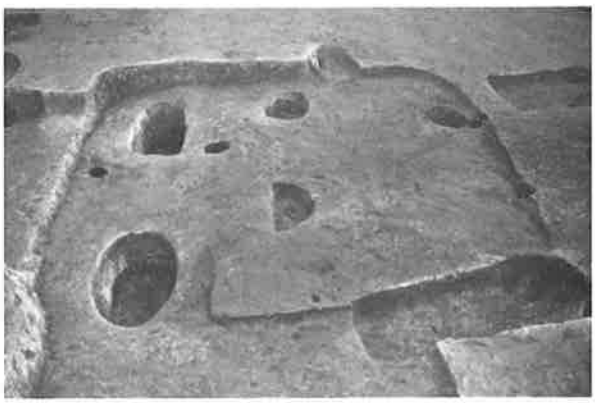
1．21号住居址全景（西から）

2．21号住居址貯蔵穴遺物出土状態

3．24号住居址全景（西から）

4．27号住居址（南東から）

5．30号住居址遺物出土状態全景（西から）



6．30号住居址全景

7．33ａ号住居址全景（西から）

8．33ａ号住居址カマド遺物出土状態

1．47号住居址全景（北から）

2．48号住居址全景（北から）

3．45号住居址（北東から）

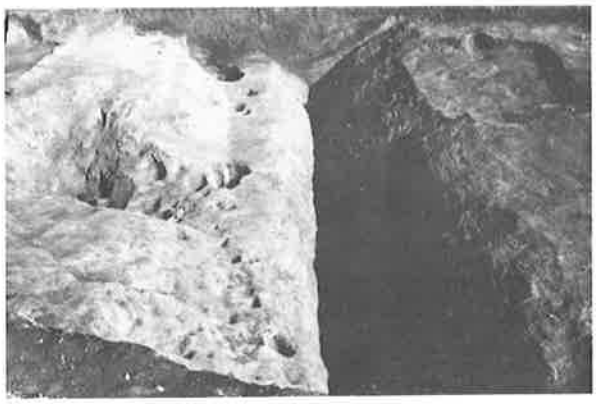
4．45号住居址全景（南から）

5．49号・50号住居址（東から）

6．49号住居址全景（北から）

7．50号住居址全景（北から）

8．2号溝（北西から）



1．5号溝

2．同左・北側落ち込み（南から）

3．6号溝（東から）

4．7号溝（北から）

5．8号溝（東から）

6．9号溝（北から）

7．10号溝（南から）

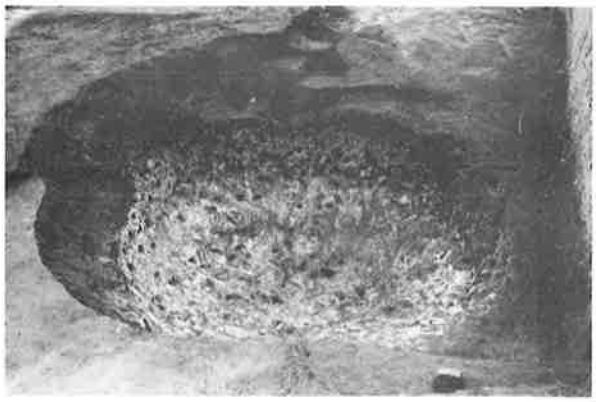
8．14号溝（南から）

1．3・4号溝

2．　同左

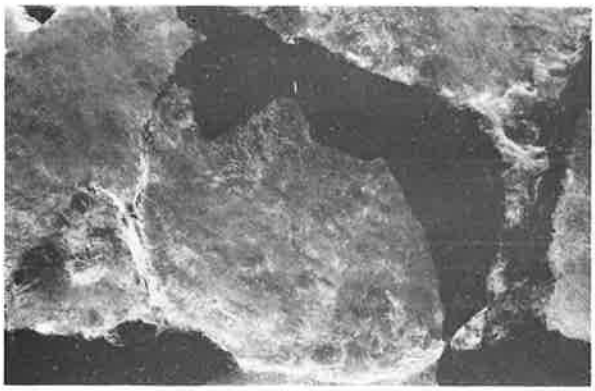
3．11・12・13号溝

4．井戸址

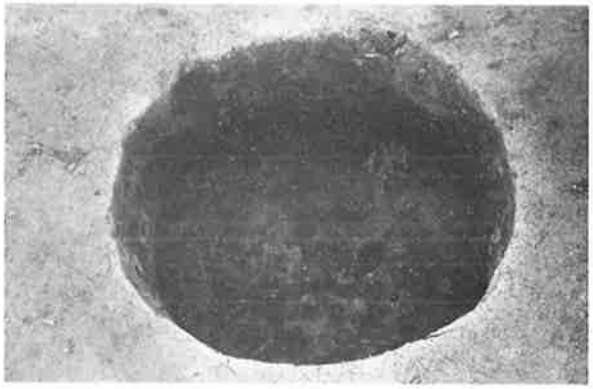


5．土坑

6．土坑



7．土坑



8．土坑

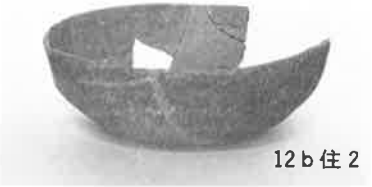
J 1 住 1

J 1 住 2

12 b 住 1

15住 1

15住 3


12 b 住 2

17住 8

17住 4

12 b 住 3

12 b 住 4

17住 7

33 b 住 1

22住 1

17住 6

26住 3

17住 5

33 b 住 2

31住 2

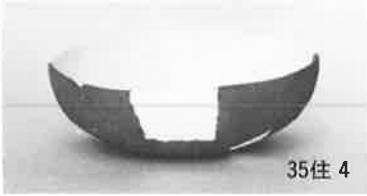
31住 1

25住 1

25住 2

25住 3

35住 1


35住 4

35住 3

35住 7

35住 2

36住 1

37住 6

37住 4

38住 3

38住 7

36住 2

3 住 2

3 住 5

3 住 7

3 住 4

3 住 3

10住 1

10住 5

10住 6

10住 3

14住 4

14住 8

14住 6

14住12

14住11

14住10

16住 1

16住 2

16住 3

16住 5

33ｂ住 1

17住 7

16住 6

16住 9

21住

24住 3

30住 3

１．見眼遺跡Ａ地区全景（西から）

２．同上東半部縄文時代遺構出土状況（西から）

３．同上東半部奈良・平安時代遺構出土状況

1．J1号住居址全景（北から）

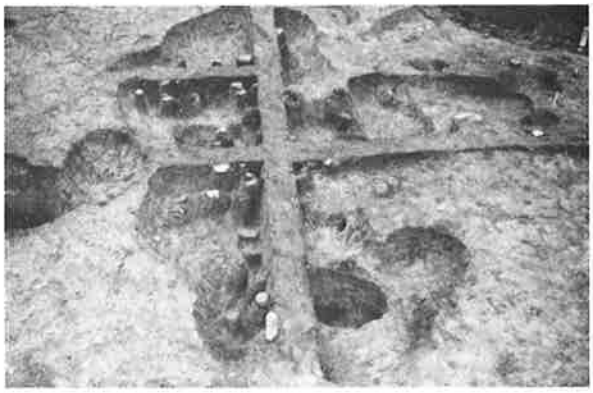
2．同左遺物出土状態

3．J2号住居址全景（北から）

4．同左　炉

5．1号土坑遺物出土状態

6．3号土拡

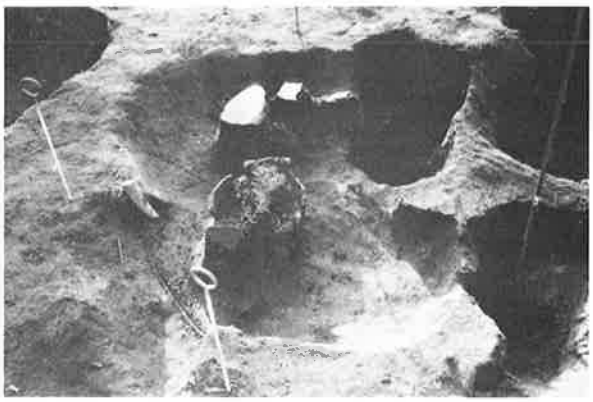

7．40－27G土拡群（北から）

8．13号土拡遺物近接

1．19号土坑

2．同左遺物出土状態

3．20号土坑遺物出土状態

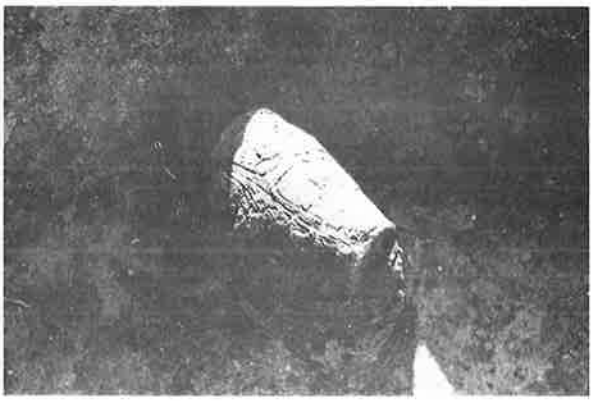


4．21号土坑

5．24号土坑

6．　同上遺物近接

7．　同上



8．　同左遺物近接

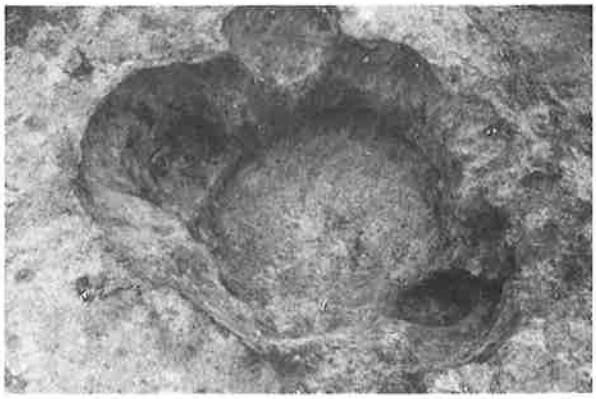
1．25号土坑セクション

2．29号土坑

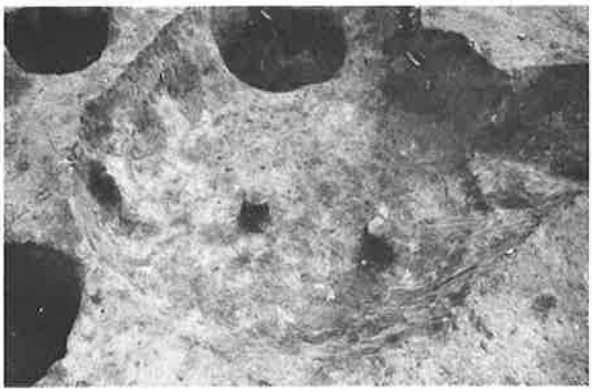
3．28号土坑

4．同左遺物出土状態

5．30号土坑



6．31号土坑



7．33号土坑

8．34号土坑

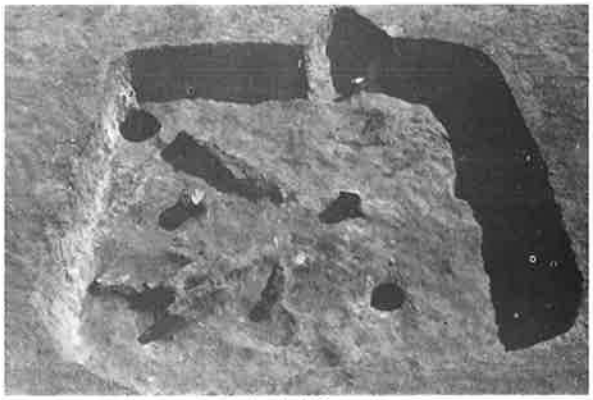
1．35～42号土坑

2．46～49号土坑

3．50号土坑

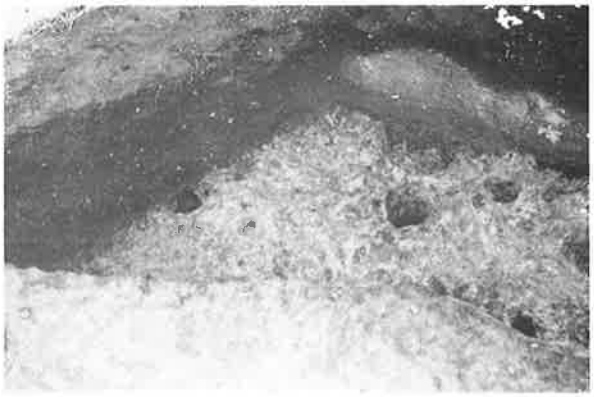
4．縄文ピット

5．1号住居址全景（西から）



6．2号住居址全景（西から）

7．3号住居址（南から）



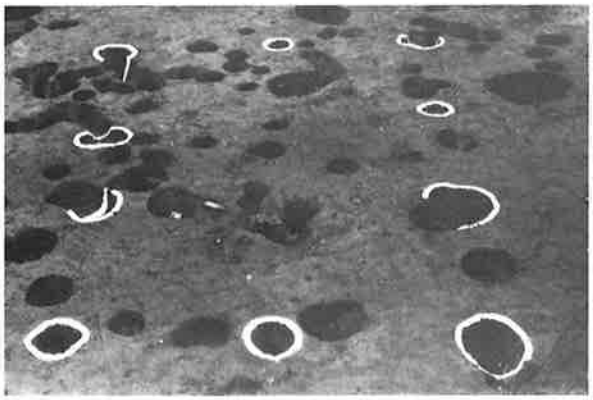
8．4号住居址（北から）

1．5号住居址（北から）

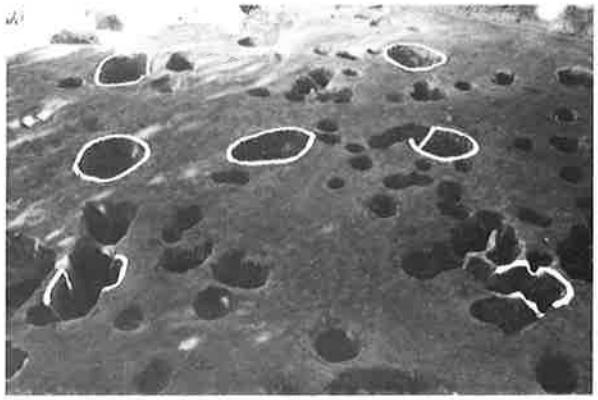
2．同左遺物近接

3．6号住居址全景（西から）

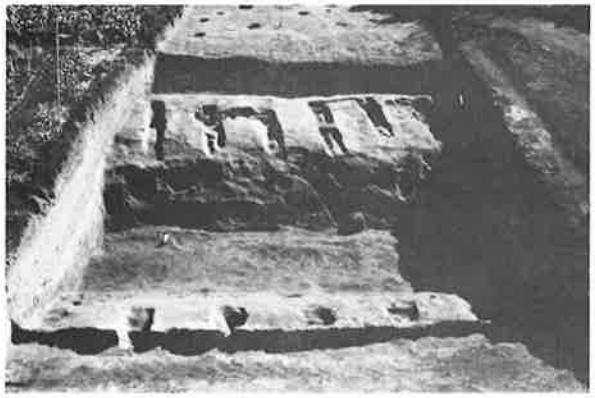
4．8・9号住居址（北から）



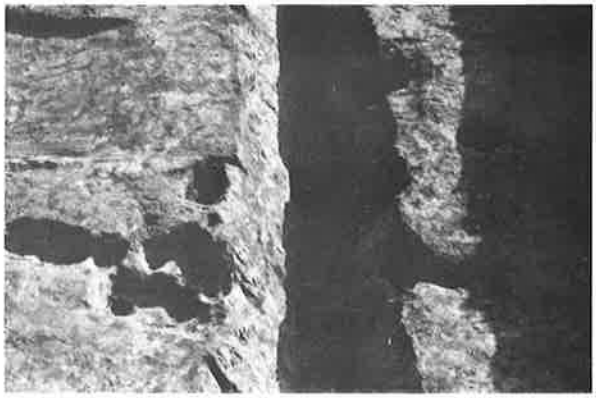
5．1号掘立柱建物址（東から）



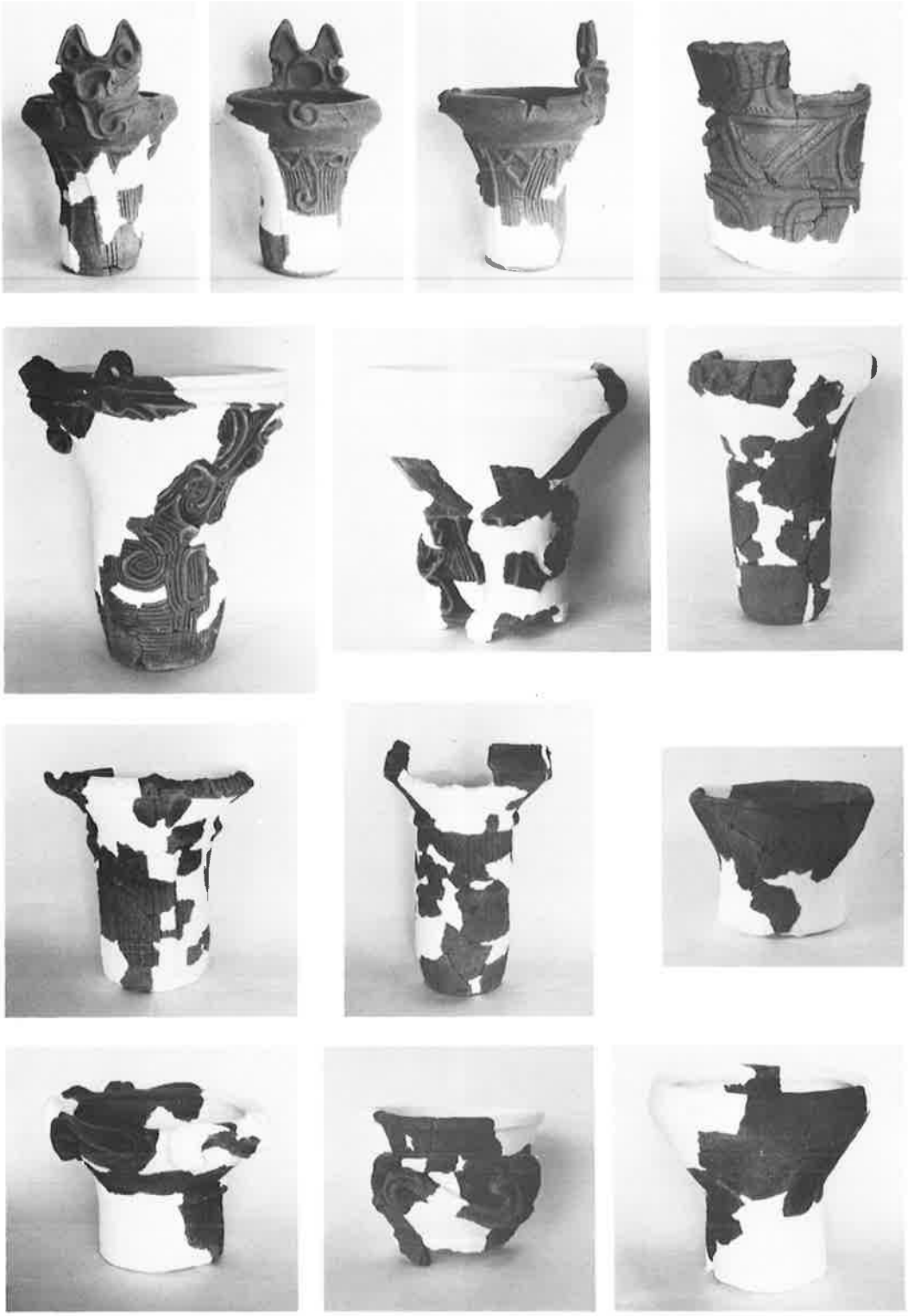
6．2号掘立柱建物址（南から）



7．1号溝（西から）



8．2号溝（北から）



Ｊ１号住居址出土遺物

J1号住

J1号住

J1号住

J1号住

J2号住

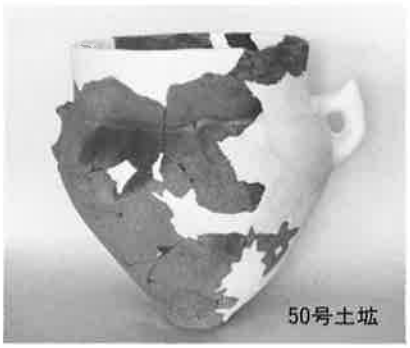
1号土坑

13号土坑

21号土坑

9号土坑

24号土坑


50号土坑

28号土拡

縄文土拡出土石器

（遺構外含む）

5号住

5号住

5号住

9号住

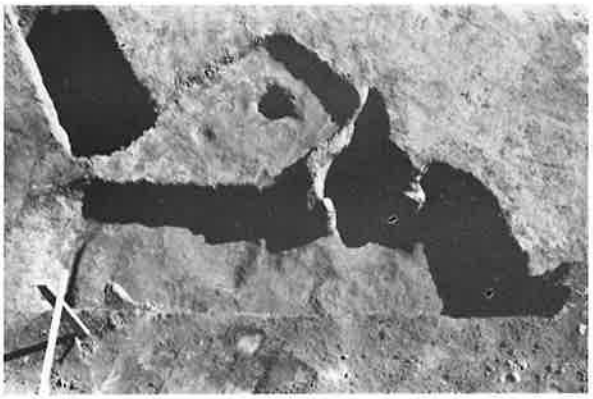
奈良・平安時代竪穴住居址出土遺物

1．見眼遺跡B地区全景（北から）

2．2号住居址（西から）

3．1号住居址全景（西から）

4．同左カマド



5．3号住居址（西から）

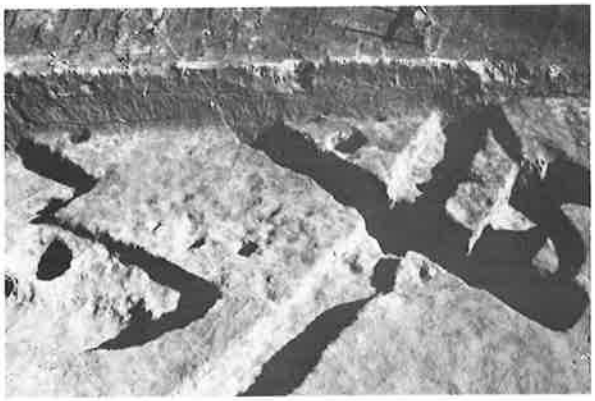
6．同左遺物出土状態

7．4号住居址全景（東から）

8．同左カマド

1．5号住居址全景

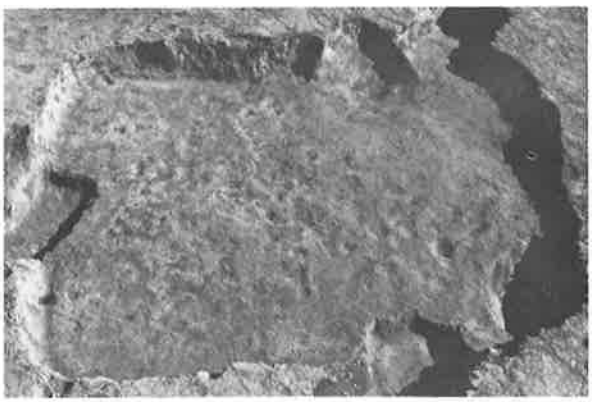
2．同左遺物出土状態



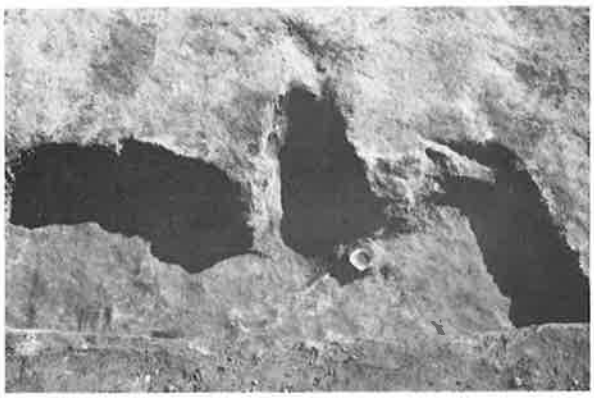
3．6号住居址（西から）

4．7号住居址（西から）

5．10号住居址（西から）



6．11号住居址（西から）

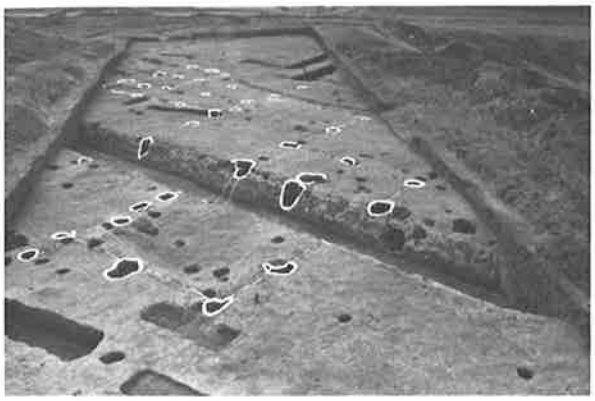


7．12号住居址（西から）

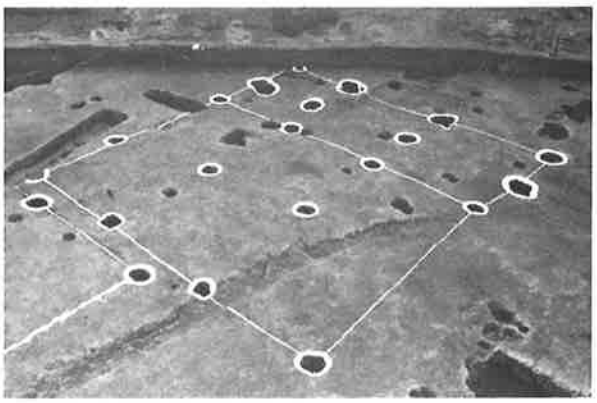
8．13号住居址全景（西から）

1．14号住居址（西から）

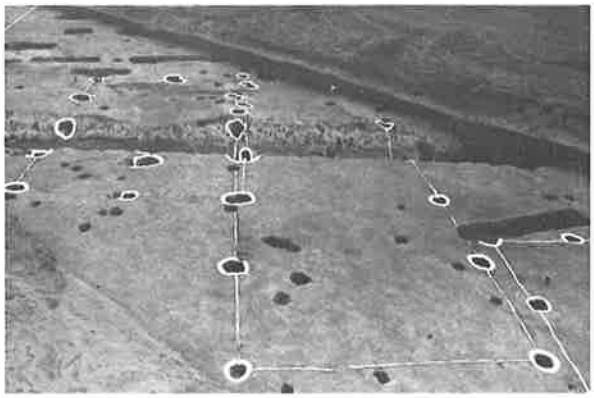
2．15号住居址全景（西から）



3．掘立群と2号溝



4．1号掘立（西から）



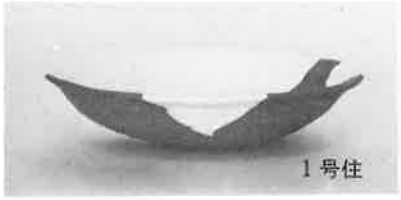
5．2・3号掘立（西から）

6．同左土間床部（北から）

7．火葬墓（東から）

8．集石土坑（北から）

ＰＬ　54
見眼遺跡Ｂ地区


1号住

12住

15住

3住

3住

3住

3住

3住

3住

5住

4住

4住

5住

火葬墓

富士見遺跡群
田中田遺跡
窪谷戸遺跡
見眼遺跡
昭和58・59年度県営圃場
整備事業富士見地区に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

昭和61年3月24日 印刷
昭和61年3月24日 発行

編集・発行／群馬県富士見村教育委員会
群馬県勢多郡富士見村大字田島866－1
電話（0272）88－6111

印刷／マツダ印刷株式会社